講義要項／シラバス

多摩大学大学院

2018 年度

February 17, 2018

科目新旧対照表

MBA

分野	2018年度	2017年度	担当教員	開講	単位数	備考
実践知考員	スーパージェネラリスト論		田坂 広志	春	2	2018年度新設
		スーパージェネラリスト				2017年度で科目廃止
実践知考員	ソーシャル・イノベーション論		田坂 広志	春	2	2018年度新設
		ソーシャル・イノベーション				2017年度で科目廃止
実践知考員	ソーシャル・アントレプレナー論		田坂 広志	秋	2	2018年度新設
		ソーシャル・アントレプレナー				2017年度で科目廃止
実践知考員	ネオ・リベラルアーツ論		田坂 広志	秋	2	2018年度新設
		ネオ・リベラルアーツ				2017年度で科目廃止
実践知考員	立志人物論	立志人物論	久恒 啓一	秋	2	
実践知考員	知識創造経営のプリンシプル	知識創造経営のプリンシプル	紺野 登	春	2	
実践知考員	シナリオプランニングワークショップ	シナリオプランニングワークショップ	紺野 登	春	2	
実践知考員	イノベーションと目的工学	イノベーションと目的工学	紺野 登	秋	2	
実践知考員	デザイン思考ワークショップ	デザイン思考ワークショップ	紺野 登	秋	2	
実践知考員	ビジネスモデルイノベーション	ビジネスモデルイノベーション	河野 龍太	春	2	
実践知考員	イノベーターのための顧客創造戦略　理論と実践技法	イノベーターのための顧客創造戦略　理論と実践技法	河野 龍太	秋	2	
実践知考員	ビジネスモデル創造特論	ビジネスモデル創造特論	河野 龍太	秋	2	
実践知考員	実践アントレプレナーシップ	実践アントレプレナーシップ	本荘 修二	春	2	
実践知考員	経営戦略概論	経営戦略概論	前川 慶一	秋	2	
実践知考員	グローバル技術経営論	グローバル技術経営論	楠田 幸久	秋	2	
実践知考員	マーケティングマネジメント概論	マーケティングマネジメント概論	河野 龍太	春	2	
実践知考員	インサイトコミュニケーション	インサイトコミュニケーション	久恒 啓一	春	2	
実践知考員	Webマーケティング戦略		土屋 有	春	2	
実践知考員		*プレミアム価値創造のブランド戦略*	*吉松 敏也*		*2*	*2018年度開講せず*
実践知考員	戦略PRマーケティング		久保山 路子	秋	2	
実践知考員	モビリティ・マーケティング	モビリティ・マーケティング	加藤 肇	春	2	
実践知考員		*サービスイノベーション*	*諏訪 良武*		*2*	*2018年度開講せず*
実践知考員	日本の流通構造とSCMのメガトレンド	日本の流通構造とSCMのメガトレンド	西田 邦生	秋	2	
実践知考員	最新ロジスティクス戦略	最新ロジスティクス戦略	角井 亮一	春	2	
実践知考員	コンタクトセンター		宮﨑 義文	秋	2	2018年度新設
実践知考員	BtoBマーケティング		徳永 朗	秋	2	2018年度新設
実践知考員	ヒューマンリソース概論I	ヒューマンリソース概論I	徳岡 晃一郎	春	2	
実践知考員	ヒューマンリソース概論II	ヒューマンリソース概論II	徳岡 晃一郎	秋	2	
実践知考員	インナーコミュニケーション	インナーコミュニケーション	徳岡 晃一郎	春	2	
実践知考員	カルチャーベースマネジメント	カルチャーベースマネジメント	徳岡 晃一郎	秋	2	
実践知考員	ストレスマネジメントと精神回復力	ストレスマネジメントと精神回復力	水木 さとみ	春	2	
実践知考員	実践組織変革	実践組織変革	浜田 正幸	秋	2	
実践知考員		*組織行動とリーダーシップ*	*須東 朋広*		*2*	*2018年度開講せず*
実践知考員		*ケーススタディ 組織を動かす変革型リーダーシップ論*	*迫川 史康*		*2*	*2018年度開講せず*
実践知考員	キャリアマネジメントとモチベーション		片岡 裕司	春	2	2018年度新設
実践知考員	実践ポジティブ心理学		三田 真美	秋	2	2018年度新設
実践知考員	ファイナンス基礎I（経営財務）	ファイナンス基礎I（経営財務）	宇佐美 洋	春	2	
実践知考員	ファイナンス基礎II（リスクマネジメント）	ファイナンス基礎II（リスクマネジメント）	宇佐美 洋	秋	2	
実践知考員	企業会計・簿記入門	企業会計・簿記入門	井村 順子	秋	2	
実践知考員		*企業分析と経営指標*	*大津 広一*		*2*	*2018年度開講せず*
実践知考員	金融論	金融論	真壁 昭夫	春	2	
実践知考員		*マネジリアル・アカウンティング*	*真壁 昭夫*		*2*	*2018年度開講せず*
実践知考員	M&A戦略と実践企業ファイナンス		中岡 英隆	春	2	
実践知考員	夢をかなえる実践リスクマネジメント		樋渡 淳二	秋	2	
実践知考員	*ファイナンスイノベーション基礎*		*小野里 光博*		*2*	*2018年度新設　2018年度開講せず*
実践知考員		実践ファインナンス数学				2017年度で科目廃止
実践知考員	法の経済分析入門		宇佐美 洋	春	2	2018年度新設
実践知考員		経営基盤のための法と経済学				2017年度で科目廃止
実践知考員	組織と戦略の経済学		宇佐美 洋	秋	2	2018年度新設
実践知考員		経営法務とガバナンス				2017年度で科目廃止
実践知考員	中小企業の価値創造と事業承継		藤本 江里子	春	2	2018年度新設
実践知考員	データドリブンの戦略構築		栗山 実	秋	2	2018年度新設
実践知考員		ビジネスデータ分析と戦略策定				*2017年度で科目廃止*
実践知考員	クリティカルシンキング	クリティカルシンキング	柏木 吉基	秋	2	
実践知考員	サービスサイエンス	サービスサイエンス	中野 未知子	秋	2	
実践知考員	データビジネス活用（課題解決モデリング）	データビジネス活用（課題解決モデリング）	志賀 敏宏	秋	2	
実践知考員	ビジネスデータ活用実践(事業提案)	ビジネスデータ活用実践(事業提案)	佐藤 洋行	秋	2	
実践知考員	集中ゼミ(統計検定)	集中ゼミ(統計検定)	今泉 忠	春	2	
実践知考員	データサイエンスマインド		前田 英志	春	2	2018年度新設
実践知考員	デジタルトランスフォーメーションの実践知		森 祐之	春	2	2018年度新設
実践知考員	暗黙知として理解するAI		鈴木 至	秋	2	2018年度新設
実践知考員	データ活用入門		今泉 忠	春	2	2018年度新設
実践知考員	マーケティングリサーチ		豊田 裕貴	春	2	2018年度新設
実践知考員	統計的データ分析入門		久保田 貴文	春	2	2018年度新設

分野	2018年度	2017年度	担当教員	開講	単位数	備考
最新ビジネス実践知	医療介護業界の未来		真野　俊樹	春	2	2018年度新設
最新ビジネス実践知		ヘルスケアと介護の現状と未来を考える				2017年度で科目廃止
最新ビジネス実践知	医療介護領域のマネジメント		真野　俊樹	秋	2	2018年度新設
最新ビジネス実践知		ヘルスケアと介護業界の最新のマネジメント				2017年度で科目廃止
最新ビジネス実践知	医療介護マネジメントの実践知を学ぶ		真野　俊樹	秋	2	2018年度新設
最新ビジネス実践知		医療介護領域の実践知を学ぶ				2017年度で科目廃止
最新ビジネス実践知	異業種間のコミュニケーション術		白井　雅弓	秋	2	2018年度新設
最新ビジネス実践知	高齢社会のまちづくり	高齢社会のまちづくり	川井　真	春	2	
最新ビジネス実践知	医療介護経営と会計		長　英一郎	春	2	
最新ビジネス実践知		*医療介護の成長戦略*	*末松　清一*		*2*	*2018年度開講せず*
最新ビジネス実践知	アジアビジネス戦略とグローバル共創		佐藤　勝彦	秋	2	2018年度新設
最新ビジネス実践知		知のグローバル共創				2017年度で科目廃止
最新ビジネス実践知	Business Communication for Global Leaders	Business Communication for Global Leaders	Mark Austin	春	2	
最新ビジネス実践知	世界潮流と企業戦略	世界潮流と企業戦略	金 美徳	春	2	
最新ビジネス実践知	日本企業の中国ビジネス	日本企業の中国ビジネス	徐 向東	春	2	
最新ビジネス実践知	Business in Globalized India – The Japan Perspective	Business in Globalized India – The Japan Perspective	Aniruddha Mallik	秋	2	
最新ビジネス実践知	非営利法人のファイナンス	非営利法人のファイナンス	堀内　勉	春	2	
最新ビジネス実践知		*ソーシャルビジネス演習*	*田中　勇一*		*2*	*2018年度開講せず*
最新ビジネス実践知	トライセクターリーダー論	トライセクターリーダー論	金野　索一	春	2	
最新ビジネス実践知	実践を通して学ぶソーシャルビジネス		宮城　治男	秋	2	
最新ビジネス実践知	実践事業創造	実践事業創造	亀井　省吾	春	2	
最新ビジネス実践知		*ベンチャー企業論*	*濱田　隆道*		*2*	*2018年度開講せず*
最新ビジネス実践知	ベンチャーCFO養成講座		新村　和大	秋	2	2018年度新設
最新ビジネス実践知	社会的インパクト投資		小林　立明	秋	2	2018年度新設
最新ビジネス実践知	最新テクノロジーとAIの世界	最新テクノロジーとAIの世界	金野　索一	春	2	
最新ビジネス実践知	ITビジネス原理と先端戦略	ITビジネス原理と先端戦略	金野　索一	秋	2	
最新ビジネス実践知		*先端ITマーケティングイノベーション*	*橋本　大也*		*2*	*2018年度開講せず*
最新ビジネス実践知	IT・AIビジネス創出演習		金野　索一	秋	2	
最新ビジネス実践知		ITビジネス創出演習				2017年度で科目廃止
最新ビジネス実践知	プロジェクトマネジメントの基本と応用	プロジェクトマネジメントの基本と応用	中分　毅	春	2	
最新ビジネス実践知		*日本のモノづくり経営*	*柿内　幸夫*		*2*	*2018年度開講せず*
最新ビジネス実践知	社会課題起点のルール形成戦略	社会課題起点のルール形成戦略	國分　俊史	春	2	RSPコースより分野変更
最新ビジネス実践知	経済連携協定(FTA・EPA)と経営戦略	経済連携協定(FTA・EPA)と経営戦略	羽生田　慶介	春	2	RSPコースより分野変更
最新ビジネス実践知	ルール形成産業構造論	ルール形成産業構造論	羽生田　慶介	秋	2	RSPコースより分野変更
最新ビジネス実践知	安全保障経済政策論I	安全保障経済政策論I	井形彬(國分俊史)	春	2	RSPコースより分野変更
最新ビジネス実践知	安全保障経済政策論II	安全保障経済政策論II	井形彬(國分俊史)	秋	2	RSPコースより分野変更
最新ビジネス実践知	ルール形成戦略研究所特別講義	ルール形成戦略研究所特別講義	ルール形成戦略研究所	春	2	RSPコースより分野変更
最新ビジネス実践知	ルール形成のためのメディア戦略	ルール形成のためのメディア戦略1	岡田　宏記	秋	2	RSPコースより分野変更
最新ビジネス実践知	議員事務所でのインターンシップ	議員事務所でのインターンシップ	國分俊史/ルール形成戦略研究所	春秋	2	RSPコースより分野変更
最新ビジネス実践知	ルール形成戦略研究所でのインターンシップ	ルール形成戦略研究所でのインターンシップ	國分　俊史	春秋	2	RSPコースより分野変更
教養基盤	ビジネス実践知探究	ビジネス実践知探究	佐藤　勝彦	春	2	
教養基盤	問題解決学I	問題解決学I	下井　直毅	春	2	
教養基盤	問題解決学II	問題解決学II	下井　直毅	秋	2	
教養基盤	社会工学研究会(寺島実郎学長主宰インターゼミ)	社会工学研究会(寺島実郎学長主宰インターゼミ)	金　美徳	春秋	2	
教養基盤	フィールドスタディ	フィールドスタディ	金 美徳	春秋	2	
教養基盤	論文演習　宇佐美洋【FP資格必修】	論文演習　宇佐美洋	宇佐美 洋	春秋	2	
教養基盤	論文演習　河野龍太	論文演習　河野龍太	河野 龍太	春秋	2	
教養基盤	論文演習　紺野登	論文演習　紺野登	紺野 登	春秋	2	
教養基盤	論文演習　田坂広志	論文演習　田坂広志	田坂 広志	春秋	2	
教養基盤	論文演習　徳岡晃一郎	論文演習　徳岡晃一郎	徳岡 晃一郎	春秋	2	
教養基盤	論文演習　バートル【留学生対象】	論文演習　バートル【留学生対象】	巴特尔(バートル)	春秋	2	
教養基盤	論文演習　真野俊樹	論文演習　真野俊樹	真野 俊樹	春秋	2	
教養基盤	論文演習　國分俊史	論文演習　國分俊史	國分　俊史	春秋	2	
教養基盤	論文演習　今泉忠・久保田貴文		今泉忠・久保田貴文	春秋	2	
教養基盤		論文指導【DSB】				2017年度で科目廃止
教養基盤	【留学生対象】留学生の為の日本経済・経営基礎	【留学生対象】留学生の為の日本経済・経営基礎	佐藤 勝彦	春秋	1	
教養基盤	【留学生対象】ビジネスジャパニーズI	【留学生対象】ビジネスジャパニーズI	蔵ヲ　礼佳	春	1	担当者変更
教養基盤	【留学生対象】ビジネスジャパニーズII	【留学生対象】ビジネスジャパニーズII	蔵ヲ　礼佳	秋	1	担当者変更

目　次（フィールド別）

MBA開講科目一覧

実践知考具/志

科目名	担当教員	開講	単位数	ページ
スーパージェネラリスト論	田坂　広志	春	2	1
ソーシャル・イノベーション論	田坂　広志	春	2	3
ソーシャル・アントレプレナー論	田坂　広志	秋	2	5
ネオ・リベラルアーツ論	田坂　広志	秋	2	7
立志人物論	久恒　啓一	秋	2	9

実践知考具/イノベーション

科目名	担当教員	開講	単位数	ページ
知識創造経営のプリンシプル	紺野　登	春	2	11
シナリオプランニングワークショップ	紺野　登	春	2	13
イノベーションと目的工学	紺野　登	秋	2	15
デザイン思考ワークショップ	紺野　登	秋	2	17
ビジネスモデルイノベーション	河野　龍太	春	2	19
イノベーターのための顧客創造戦略　理論と実践技法	河野　龍太	秋	2	21
ビジネスモデル創造特論	河野　龍太	秋	2	23
実践アントレプレナーシップ	本荘　修二	春	2	25
経営戦略概論	前川　慶一	秋	2	27
グローバル技術経営論	楠田　幸久	秋	2	29

実践知考具/顧客創造

科目名	担当教員	開講	単位数	ページ
マーケティングマネジメント概論	河野　龍太	春	2	31
インサイトコミュニケーション	久恒　啓一	春	2	33
Webマーケティング戦略	土屋　有	春	2	35
戦略PRマーケティング	久保山　路子	秋	2	37
モビリティ・マーケティング	加藤　肇	春	2	39
日本の流通構造とSCMのメガトレンド	西田　邦生	秋	2	41
最新ロジスティクス戦略	角井　亮一	春	2	43
コンタクトセンター	宮﨑　義文	秋	2	45
BtoBマーケティング	徳永　朗	秋	2	47

実践知考具/リーダーシップと人事

科目名	担当教員	開講	単位数	ページ
ヒューマンリソース概論I	徳岡　晃一郎	春	2	49
ヒューマンリソース概論II	徳岡　晃一郎	秋	2	51
インナーコミュニケーション	徳岡　晃一郎	春	2	53
カルチャーベースマネジメント	徳岡　晃一郎	秋	2	55
ストレスマネジメントと精神回復力	水木　さとみ	春	2	57
実践組織変革	浜田　正幸	秋	2	59
キャリアマネジメントとモチベーション	片岡　裕司	春	2	61
実践ポジティブ心理学	三田　真美	秋	2	63

実践知考具/ファイナンス&ガバナンス

科目名	担当教員	開講	単位数	ページ
ファイナンス基礎I(経営財務)	宇佐美　洋	春	2	65
ファイナンス基礎II(リスクマネジメント)	宇佐美　洋	秋	2	67
企業会計・簿記入門	井村　順子	秋	2	69
金融論	真壁　昭夫	春	2	73
M&A戦略と実践企業ファイナンス	中岡　英隆	春	2	75
夢をかなえる実践リスクマネジメント	樋渡　淳二	秋	2	77
法の経済分析入門	宇佐美　洋	春	2	79
組織と戦略の経済学	宇佐美　洋	秋	2	81
中小企業の価値創造と事業承継	藤本　江里子	春	2	83

実践知考具/デジタル経営

科目名	担当教員	開講	単位数	ページ
データドリブンの戦略構築	栗山　実	秋	2	85
クリティカルシンキング	柏木　吉基	秋	2	87
サービスサイエンス	中野　未知子	秋	2	89
データビジネス活用(課題解決モデリング)	志賀　敏宏	秋	2	91
ビジネスデータ活用実践(事業提案)	佐藤　洋行	秋	2	93
集中ゼミ(統計検定)	今泉　忠	春	2	95
データサイエンスマインド	前田　英志	春	2	97
デジタルトランスフォーメーションの実践知	森　祐之	春	2	99
暗黙知として理解するAI	鈴木　至	秋	2	101
データ活用入門	今泉　忠	春	2	103
マーケティングリサーチ	豊田　裕貴	春	2	105
統計的データ分析入門	久保田　貴文	春	2	107

最新ビジネス実践知/ヘルスケア

科目名	担当教員	開講	単位数	ページ
医療介護業界の未来	真野　俊樹	春	2	109
医療介護領域のマネジメント	真野　俊樹	秋	2	111
医療介護マネジメントの実践知を学ぶ	真野　俊樹	秋	2	113
異業種間のコミュニケーション術	白井　雅弓	秋	2	115
高齢社会のまちづくり	川井　真	春	2	117
医療介護経営と会計	長　英一郎	春	2	119

最新ビジネス実践知/アジアビジネス戦略

科目名	担当教員	開講	単位数	ページ
アジアビジネス戦略とグローバル共創	佐藤　勝彦	秋	2	121
Business Communication for Global Leaders	Mark Austin	春	2	123
世界潮流と企業戦略	金　美徳	春	2	125
日本企業の中国ビジネス	徐　向東	春	2	127
Business in Globalized India – The Japan Perspective	Aniruddha Mallik	秋	2	129

最新ビジネス実践知/ソーシャルインパクトビジネス

科目名	担当教員	開講	単位数	ページ
非営利法人のファイナンス	堀内　勉	春	2	131
トライセクターリーダー論	金野　索一	春	2	133
実践を通して学ぶソーシャルビジネス	宮城　治男	秋	2	135
実践事業創造	亀井　省吾	春	2	137
ベンチャーCFO養成講座	新村　和大	秋	2	139
社会的インパクト投資	小林　立明	秋	2	141

最新ビジネス実践知/テクノロジーイノベーション

科目名	担当教員	開講	単位数	ページ
最新テクノロジーとAIの世界	金野　索一	春	2	143
ITビジネス原理と先端戦略	金野　索一	秋	2	145
IT・AIビジネス創出演習	金野　索一	秋	2	147
プロジェクトマネジメントの基本と応用	中分　毅	春	2	149

最新ビジネス実践知/ルール形成戦略

科目名	担当教員	開講	単位数	ページ
社会課題起点のルール形成戦略	國分　俊史	春	2	153
経済連携協定（FTA・EPA）と経営戦略	羽生田　慶介	春	2	155
ルール形成産業構造論	羽生田　慶介	秋	2	157
安全保障経済政策論I	井形　彬（國分　俊史）	春	2	159
安全保障経済政策論II	井形　彬（國分　俊史）	秋	2	161
ルール形成戦略研究所特別講義	ルール形成戦略研究所	春	2	163
ルール形成のためのメディア戦略	岡田　宏記	秋	2	165
議員事務所でのインターンシップ	國分　俊史/ルール形成戦略研究所	春秋	2	167
ルール形成戦略研究所でのインターンシップ	國分　俊史	春秋	2	168

教養基盤

科目名	担当教員	開講	単位数	ページ
ビジネス実践知探究	佐藤　勝彦	春	2	169
問題解決学I	下井　直毅	春	2	171
問題解決学II	下井　直毅	秋	2	173
社会工学研究会（寺島実郎学長主宰インターゼミ）	金　美徳	春秋	各2	175
フィールドスタディ	金　美徳	春秋	各2	178
論文演習　宇佐美洋【FP資格必修】	宇佐美　洋	春秋	各2	179
論文演習　河野龍太	河野　龍太	春秋	各2	183
論文演習　紺野登	紺野　登	春秋	各2	185
論文演習　田坂広志	田坂　広志	春秋	各2	187
論文演習　徳岡晃一郎	徳岡　晃一郎	春秋	各2	189
論文演習　バートル【留学生対象】	巴特尔（バートル）	春秋	各2	191
論文演習　真野俊樹	真野　俊樹	春秋	各2	193
論文演習　國分俊史	國分　俊史	春秋	各2	195
論文演習Ⅰ　今泉忠・久保田貴文	今泉　忠・久保田　貴文	春	2	197
論文演習Ⅱ　久保田貴文・今泉忠	久保田　貴文・今泉　忠	秋	2	199
【留学生対象】留学生の為の日本経済・経営基礎	佐藤　勝彦	春秋	各1	201
【留学生対象】ビジネスジャパニーズI	藏ヲ　礼佳	春	1	203
【留学生対象】ビジネスジャパニーズII	藏ヲ　礼佳	秋	1	205

目　次（担当教員あいうえお順）

MBA開講科目一覧

	科目名	担当教員（あいうえお順）	開講	単位数	ページ
1	安全保障経済政策論I	井形　彬（國分　俊史）	春	2	159
2	安全保障経済政策論II	井形　彬（國分　俊史）	秋	2	161
3	集中ゼミ（統計検定）	今泉　忠	春	2	95
4	データ活用入門	今泉　忠	春	2	103
5	論文演習Ⅰ　今泉忠・久保田貴文	今泉　忠・久保田　貴文	春	2	197
6	企業会計・簿記入門	井村 順子	秋	2	69
7	ファイナンス基礎I（経営財務）	宇佐美　洋	春	2	65
8	ファイナンス基礎II（リスクマネジメント）	宇佐美　洋	秋	2	67
9	法の経済分析入門	宇佐美　洋	春	2	79
10	組織と戦略の経済学	宇佐美　洋	秋	2	81
11	論文演習　宇佐美洋【FP資格必修】	宇佐美　洋	春秋	各2	179
12	ルール形成のためのメディア戦略	岡田　宏記	秋	2	165
13	医療介護経営と会計	長　英一郎	春	2	119
14	Business Communication for Global Leaders	Mark Austin	春	2	123
15	モビリティ・マーケティング	加藤　肇	春	2	39
16	最新ロジスティクス戦略	角井　亮一	春	2	43
17	クリティカルシンキング	柏木　吉基	秋	2	87
18	キャリアマネジメントとモチベーション	片岡　裕司	春	2	61
19	実践事業創造	亀井　省吾	春	2	137
20	高齢社会のまちづくり	川井　真	春	2	117
21	世界潮流と企業戦略	金　美徳	春	2	125
22	社会工学研究会（寺島実郎学長主宰インターゼミ）	金　美徳	春秋	各2	175
23	フィールドスタディ	金　美徳	春秋	各2	178
24	統計的データ分析入門	久保田　貴文	春	2	107
25	論文演習Ⅱ　久保田貴文・今泉忠	久保田　貴文・今泉　忠	秋	2	199
26	戦略PRマーケティング	久保山 路子	秋	2	37
27	【留学生対象】ビジネスジャパニーズI	藏夛　礼佳	春	1	203
28	【留学生対象】ビジネスジャパニーズII	藏夛　礼佳	秋	1	205
29	グローバル技術経営論	楠田　幸久	秋	2	29
30	データドリブンの戦略構築	栗山　実	秋	2	85
31	マーケティングマネジメント概論	河野　龍太	春	2	31
32	ビジネスモデルイノベーション	河野　龍太	春	2	19
33	イノベーターのための顧客創造戦略　理論と実践技法	河野　龍太	秋	2	21
34	ビジネスモデル創造特論	河野　龍太	秋	2	23
35	論文演習　河野龍太	河野　龍太	春秋	各2	183
36	社会課題起点のルール形成戦略	國分　俊史	春	2	153
37	議員事務所でのインターンシップ	國分　俊史/ルール形成戦略研究所	春秋	2	167
38	ルール形成戦略研究所でのインターンシップ	國分　俊史	春秋	2	168
39	論文演習　國分俊史	國分　俊史	春秋	各2	195
40	社会的インパクト投資	小林　立明	秋	2	141
41	知識創造経営のプリンシプル	紺野　登	春	2	11
42	シナリオプランニングワークショップ	紺野　登	春	2	13
43	イノベーションと目的工学	紺野　登	秋	2	15
44	デザイン思考ワークショップ	紺野　登	秋	2	17
45	論文演習　紺野登	紺野　登	春秋	各2	185
46	トライセクターリーダー論	金野　索一	春	2	133
47	最新テクノロジーとAIの世界	金野　索一	春	2	143
48	ITビジネス原理と先端戦略	金野　索一	秋	2	145
49	IT・AIビジネス創出演習	金野　索一	秋	2	147
50	ビジネスデータ活用実践（事業提案）	佐藤　洋行	秋	2	93

	科目名	担当教員(あいうえお順)	開講	単位数	ページ
51	アジアビジネス戦略とグローバル共創	佐藤　勝彦	秋	2	121
52	ビジネス実践知探究	佐藤　勝彦	春	2	169
53	【留学生対象】留学生の為の日本経済・経営基礎	佐藤　勝彦	春秋	各1	201
54	データビジネス活用(課題解決モデリング)	志賀　敏宏	秋	2	91
55	問題解決学I	下井　直毅	春	2	171
56	問題解決学II	下井　直毅	秋	2	173
57	日本企業の中国ビジネス	徐　向東	春	2	127
58	異業種間のコミュニケーション術	白井　雅弓	秋	2	115
59	ベンチャーCFO養成講座	新村　和大	秋	2	139
60	暗黙知として理解するAI	鈴木　至	秋	2	101
61	スーパージェネラリスト論	田坂　広志	春	2	1
62	ソーシャル・イノベーション論	田坂　広志	春	2	3
63	ソーシャル・アントレプレナー論	田坂　広志	秋	2	5
64	ネオ・リベラルアーツ論	田坂　広志	秋	2	7
65	論文演習　田坂広志	田坂　広志	春秋	各2	187
66	Webマーケティング戦略	土屋 有	春	2	35
67	BtoBマーケティング	徳永　朗	秋	2	47
68	ヒューマンリソース概論I	徳岡　晃一郎	春	2	49
69	ヒューマンリソース概論II	徳岡　晃一郎	秋	2	51
70	インナーコミュニケーション	徳岡　晃一郎	春	2	53
71	カルチャーベースマネジメント	徳岡　晃一郎	秋	2	55
72	論文演習　徳岡晃一郎	徳岡　晃一郎	春秋	各2	189
73	マーケティングリサーチ	豊田　裕貴	春	2	105
74	M&A戦略と実践企業ファイナンス	中岡　英隆	春	2	75
75	サービスサイエンス	中野　未知子	秋	2	89
76	プロジェクトマネジメントの基本と応用	中分　毅	春	2	149
77	日本の流通構造とSCMのメガトレンド	西田 邦生	秋	2	41
78	経済連携協定(FTA・EPA)と経営戦略	羽生田　慶介	春	2	155
79	ルール形成産業構造論	羽生田　慶介	秋	2	157
80	実践組織変革	浜田　正幸	秋	2	59
81	論文演習　バートル【留学生対象】	巴特尔(バートル)	春秋	各2	191
82	立志人物論	久恒　啓一	秋	2	9
83	インサイトコミュニケーション	久恒　啓一	春	2	33
84	夢をかなえる実践リスクマネジメント	樋渡　淳二	秋	2	77
85	中小企業の価値創造と事業承継	藤本　江里子	春	2	83
86	非営利法人のファイナンス	堀内　勉	春	2	131
87	実践アントレプレナーシップ	本荘 修二	春	2	25
88	経営戦略概論	前川 慶一	秋	2	27
89	データサイエンスマインド	前田　英志	春	2	97
90	金融論	真壁 昭夫	春	2	73
91	医療介護業界の未来	真野　俊樹	春	2	109
92	医療介護領域のマネジメント	真野　俊樹	秋	2	111
93	医療介護マネジメントの実践知を学ぶ	真野　俊樹	秋	2	113
94	論文演習　真野俊樹	真野　俊樹	春秋	各2	193
95	Business in Globalized India – The Japan Perspective	Aniruddha Mallik	秋	2	129
96	ストレスマネジメントと精神回復力	水木 さとみ	春	2	57
97	実践ポジティブ心理学	三田　真美	秋	2	63
98	実践を通して学ぶソーシャルビジネス	宮城　治男	秋	2	135
99	コンタクトセンター	宮﨑　義文	秋	2	45
100	デジタルトランスフォーメーションの実践知	森　祐之	春	2	99
101	ルール形成戦略研究所特別講義	ルール形成戦略研究所	春	2	163

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	スーパー・ジェネラリスト論		
サブタイトル/Sub Title	いかにして、垂直統合した知性を身につけるか		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Super Generalist		
教員/Instructor	田坂広志	E-mail	tasaka@hiroshitasaka.jp
科目群/Course Classification	実践知考具／志	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course	
経営者や起業家、マネジャーやリーダーとして、目の前の現実を変革することのできる「変革の知性」を身につける	
到達目標/Course Goals	
思想、ビジョン、志、戦略、戦術、技術、人間力という「７つの知性」を垂直統合して身につける	

授業形態 /Form of Class	講義と質疑、ＭＬでの体験交流	学外学習 /Off-Campus Learning	無し
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	教科書『知性を磨く』の熟読		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可	
第 1 講	
概要	「思想」のレベルの知性について
事前、事後学習ポイント	『知性を磨く』の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する
詳細	「思想」のレベルの知性を磨く方法と、その知性を支える人格のマネジメントを語る
第 2 講	
概要	「ビジョン」のレベルの知性について
事前、事後学習ポイント	『知性を磨く』の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する
詳細	「ビジョン」のレベルの知性を磨く方法と、その知性を支える人格のマネジメントを語る
第 3 講	
概要	「志」のレベルの知性について
事前、事後学習ポイント	『知性を磨く』の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する
詳細	「志」のレベルの知性を磨く方法と、その知性を支える人格のマネジメントを語る
第 4 講	
概要	「戦略」のレベルの知性について
事前、事後学習ポイント	『知性を磨く』の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する
詳細	「戦略」のレベルの知性を磨く方法と、その知性を支える人格のマネジメントを語る
第 5 講	
概要	「戦術」のレベルの知性について
事前、事後学習ポイント	『知性を磨く』の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する
詳細	「戦術」のレベルの知性を磨く方法と、その知性を支える人格のマネジメントを語る
第 6 講	
概要	「技術」のレベルの知性について
事前、事後学習ポイント	『知性を磨く』の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する
詳細	「技術」のレベルの知性を磨く方法と、その知性を支える人格のマネジメントを語る
第 7 講	
概要	「人間力」のレベルの知性について
事前、事後学習ポイント	『知性を磨く』の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する
詳細	「人間力」のレベルの知性を磨く方法と、その知性を支える人格のマネジメントを語る

第 8 講	
概要	「多重人格」のマネジメント
事前、事後学習ポイント	『知性を磨く』の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する
詳細	「多様な才能」を開花させるための「多重人格のマネジメント」について語る
教科書 /Textbook	『知性を磨く － 「スーパージェネラリスト」の時代』（田坂広志著：光文社新書）
指定図書 /Course Readings	『人は、誰もが「多重人格」 － 誰も語らなかった「才能開花の技法」』（田坂広志著：光文社新書）
参考文献・参考 URL /Reference List	ダイヤモンドオンライン「７つの知性を磨く田坂塾」の連載記事
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席率（４０％）受講姿勢（２０％）質疑内容（２０％）所感内容（２０％）
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： 優（100～80 点）	出席率良い＋受講姿勢良い＋質疑内容良い＋所感内容良い
評価： 良（79～70 点）	出席率良い＋受講姿勢良い＋質疑内容普通＋所感内容普通
評価： 可（69～60 点）	出席率良い＋受講姿勢普通＋質疑内容普通＋所感内容普通
評価：不可（59 点～）	出席率悪い＋受講姿勢普通＋質疑内容普通＋所感内容普通
留意点 /Additional Information	春学期に開講する「ソーシャル・イノベーション論」を同時に受講することが条件 単に「書物」を通じた「知識」を学ぶ講義ではなく、自身の「体験」の振り返りから「智恵」を掴む講義であり、真剣勝負で 3 時間の講義に参加する姿勢が求められる

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	ソーシャル・イノベーション論		
サブタイトル/Sub Title	いかにして、社会変革を為し遂げるか		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Social Innovation		
教員/Instructor	田坂広志	E-mail	tasaka@hiroshitasaka.jp
科目群/Course Classification	実践知考具／志	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course
社会イノベーターとして、この社会を変革するための思想、ビジョン、志、戦略、戦術、技術、人間力について学ぶ
到達目標/Course Goals
社会の変革に取り組むイノベーターとして、その変革に必要な「７つの知性」を垂直統合して身につける

授業形態 /Form of Class	講義と質疑、ＭＬでの体験交流	学外学習 /Off-Campus Learning	無し
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	教科書『知性を磨く』の熟読		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可	
第 1 講	
概要	社会イノベーターの「思想」について
事前、事後学習ポイント	『知性を磨く』の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する
詳細	社会イノベーターが社会変革に取り組むために、いかなる「思想」が求められるかを語る
第 2 講	
概要	社会イノベーターの「ビジョン」について
事前、事後学習ポイント	『知性を磨く』の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する
詳細	社会イノベーターが社会変革に取り組むために、いかなる「ﾋﾞｼﾞｮﾝ」が求められるか語る
第 3 講	
概要	社会イノベーターの「志」について
事前、事後学習ポイント	『知性を磨く』の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する
詳細	社会イノベーターが社会変革に取り組むために、いかなる「志」が求められるかを語る
第 4 講	
概要	社会イノベーターの「戦略」について
事前、事後学習ポイント	『知性を磨く』の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する
詳細	社会イノベーターが社会変革に取り組むために、いかなる「戦略」が求められるかを語る
第 5 講	
概要	社会イノベーターの「戦術」について
事前、事後学習ポイント	『知性を磨く』の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する
詳細	社会イノベーターが社会変革に取り組むために、いかなる「戦術」が求められるかを語る
第 6 講	
概要	社会イノベーターの「技術」について
事前、事後学習ポイント	『知性を磨く』の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する
詳細	社会イノベーターが社会変革に取り組むために、いかなる「技術」が求められるかを語る
第 7 講	
概要	社会イノベーターの「人間力」について
事前、事後学習ポイント	『知性を磨く』の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する
詳細	社会イノベーターが社会変革に取り組むために、いかなる「人間力」が求められるか語る

第 8 講	
概要	社会イノベーターの「７つの知性」の垂直統合について
事前、事後学習ポイント	『知性を磨く』の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する
詳細	社会イノベーターは、いかにして「７つの知性」の垂直統合を行うかを語る
教科書 /Textbook	『知性を磨く － 「スーパージェネラリスト」の時代』（田坂広志著：光文社新書）
指定図書 /Course Readings	『人は、誰もが「多重人格」 － 誰も語らなかった「才能開花の技法」』（田坂広志著：光文社新書）
参考文献・参考 URL /Reference List	ダイヤモンドオンライン「７つの知性を磨く田坂塾」の連載記事
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席率（４０％）受講姿勢（２０％）質疑内容（２０％）所感内容（２０％）
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： 優（100～80 点）	出席率良い＋受講姿勢良い＋質疑内容良い＋所感内容良い
評価： 良（79～70 点）	出席率良い＋受講姿勢良い＋質疑内容普通＋所感内容普通
評価： 可（69～60 点）	出席率良い＋受講姿勢普通＋質疑内容普通＋所感内容普通
評価：不可（59 点～）	出席率悪い＋受講姿勢普通＋質疑内容普通＋所感内容普通
留意点 /Additional Information	春学期に開講する「スーパー・ジェネラリスト論」を同時に受講することが条件 単に「書物」を通じた「知識」を学ぶ講義ではなく、自身の「体験」の振り返りから「智恵」を掴む講義であり、真剣勝負で 3 時間の講義に参加する姿勢が求められる

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	ソーシャル・アントレプレナー論		
サブタイトル/Sub Title	いかにして、社会起業家として歩むか		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Social Entrepreneur		
教員/Instructor	田坂広志	E-mail	tasaka@hiroshitasaka.jp
科目群/Course Classification	実践知考具／志	単位数/Credits	2

授業形態 /Form of Class	講義と質疑、ＭＬでの体験交流	学外学習 /Off-Campus Learning	無し
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	教科書『これから働き方はどう変わるのか』の熟読		

講義目的/Aim of Course	
社会起業家としての生き方・働き方の「７つの心得」を身につける	
到達目標/Course Goals	
社会起業家の「７つの心得」、「立志」「成長」「共感」「革新」「創発」「信念」「伝承」の実践方法について語る	
講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可	
第 1 講	
概要	社会起業家の「立志」について
事前、事後学習ポイント	教科書の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する
詳細	社会起業家の第１の心得、「立志」とは何か？　その実践方法について語る
第 2 講	
概要	社会起業家の「成長」について
事前、事後学習ポイント	教科書の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する
詳細	社会起業家の第２の心得、「成長」とは何か？　その実践方法について語る
第 3 講	
概要	社会起業家の「共感」について
事前、事後学習ポイント	教科書の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する
詳細	社会起業家の第３の心得、「共感」とは何か？　その実践方法について語る
第 4 講	
概要	社会起業家の「革新」について
事前、事後学習ポイント	教科書の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する
詳細	社会起業家の第４の心得、「革新」とは何か？　その実践方法について語る
第 5 講	
概要	社会起業家の「創発」について
事前、事後学習ポイント	教科書の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する
詳細	社会起業家の第５の心得、「創発」とは何か？　その実践方法について語る
第 6 講	
概要	社会起業家の「信念」について
事前、事後学習ポイント	教科書の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する
詳細	社会起業家の第６の心得、「信念」とは何か？　その実践方法について語る
第 7 講	
概要	社会起業家の「伝承」について
事前、事後学習ポイント	教科書の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する
詳細	社会起業家の第７の心得、「伝承」とは何か？　その実践方法について語る

第 8 講	
概要	21 世紀の社会起業家について
事前、事後学習ポイント	教科書の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する
詳細	なぜ、21 世紀には、すべての働く人々が「社会起業家」になっていくのかを語る
教科書 /Textbook	『これから働き方はどう変わるのか』（田坂広志著：ダイヤモンド社）
指定図書 /Course Readings	『仕事の思想』（田坂広志著：ＰＨＰ文庫）
参考文献・参考 URL /Reference List	ダイヤモンドオンライン「７つの知性を磨く田坂塾」の連載記事
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席率（４０％）受講姿勢（２０％）質疑内容（２０％）所感内容（２０％）
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	出席率良い＋受講姿勢良い＋質疑内容良い＋所感内容良い
評価：　良（79～70 点）	出席率良い＋受講姿勢良い＋質疑内容普通＋所感内容普通
評価：　可（69～60 点）	出席率良い＋受講姿勢普通＋質疑内容普通＋所感内容普通
評価：不可（59 点～）	出席率悪い＋受講姿勢普通＋質疑内容普通＋所感内容普通
留意点 /Additional Information	秋学期に開講する「ネオ・リベラルアーツ」を同時に受講することが条件 単に「書物」を通じた「知識」を学ぶ講義ではなく、自身の「体験」の振り返りから「智恵」を掴む講義であり、真剣勝負で 3 時間の講義に参加する姿勢が求められる

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	ネオ・リベラルアーツ論		
サブタイトル/Sub Title	いかにして、２１世紀の教養を身につけるか		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Neo Liberal Arts		
教員/Instructor	田坂広志	E-mail	tasaka@hiroshitasaka.jp
科目群/Course Classification	実践知考具／志	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course
「言語的な知識」ではなく「身体的な智恵」としての教養を学ぶことにより、21 世紀の「変革の知性」を身につける
到達目標/Course Goals
書物や文献で学ぶ「知識」としての教養ではなく、経験と体験から掴む「智恵」としての教養を身につける

授業形態 /Form of Class	講義と質疑、ＭＬでの体験交流	学外学習 /Off-Campus Learning	無し
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	教科書『知性を磨く』の熟読		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可	
第 1 講	
概要	「変革の知性」について
事前、事後学習ポイント	教科書の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する
詳細	２１世紀に求められる「変革の知性」とは何か？　いかにして、それを掴むかを語る
第 2 講	
概要	「知性」と「知能」について
事前、事後学習ポイント	教科書の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する
詳細	「知性」と「知能」の違いとは何か？なぜ、その二つを区別しなければならないかを語る
第 3 講	
概要	「知性」と「知識」について
事前、事後学習ポイント	教科書の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する
詳細	「知性」と「知識」の違いとは何か？なぜ、その二つを区別しなければならないかを語る
第 4 講	
概要	「知性」と「専門性」について
事前、事後学習ポイント	教科書の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する
詳細	「知性」と「専門性」の違いとは何か？なぜその二つを区別しなければならないかを語る
第 5 講	
概要	「知の生態系」について
事前、事後学習ポイント	教科書の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する
詳細	なぜ、「知の貯蔵庫」ではなく、「知の生態系」が重要かについて語る
第 6 講	
概要	「７つの知性」について
事前、事後学習ポイント	教科書の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する
詳細	なぜ、思想、ビジョン、志、戦略、戦術、技術、人間力の垂直統合が必要かを語る
第 7 講	
概要	知の「３つの病」について
事前、事後学習ポイント	教科書の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する
詳細	「知と知の分離」「知と行の分離」「知と情の分離」という「３つの病」について語る

第 8 講	
概要	「人間観」と「人間力」について
事前、事後学習ポイント	教科書の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する
詳細	なぜ、「人間観」と「人間力」が、21 世紀に最も重要なリベラルアーツになるのかを語る
教科書 /Textbook	『知性を磨く － 「スーパージェネラリスト」の時代』（田坂広志著：光文社新書）
指定図書 /Course Readings	『まず、世界観を変えよ』（田坂広志著：英治出版）
参考文献・参考 URL /Reference List	ダイヤモンドオンライン「７つの知性を磨く田坂塾」の連載記事
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席率（４０％）受講姿勢（２０％）質疑内容（２０％）所感内容（２０％）
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	出席率良い＋受講姿勢良い＋質疑内容良い＋所感内容良い
評価：　良（79～70 点）	出席率良い＋受講姿勢良い＋質疑内容普通＋所感内容普通
評価：　可（69～60 点）	出席率良い＋受講姿勢普通＋質疑内容普通＋所感内容普通
評価：不可（59 点～）	出席率悪い＋受講姿勢普通＋質疑内容普通＋所感内容普通
留意点 /Additional Information	秋学期に開講する「ソーシャル・アントレプレナー」を同時に受講することが条件 単に「書物」を通じた「知識」を学ぶ講義ではなく、自身の「体験」の振り返りから「智恵」を掴む講義であり、真剣勝負で 3 時間の講義に参加する姿勢が求められる

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	立志人物論		
サブタイトル/Sub Title	知の再武装へ向けてライフマネジメントを考える		
英文科目名/Course Title(Eng.)	立志人物論(Ambitious Person Theory)		
教員/Instructor	久恒啓一	E-mail	hisatune@gmail.com
科目群/Course Classification	実践知考具/志	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

全国の人物記念館 800 館を巡った経験と資料を題材に、時代認識と世界認識を深めるために、近代日本を作った明治期を中心とするわが国の志を実現した偉人の生涯を知る。７つの切り口（仰ぎ見る師匠の存在、敵との切磋・友との拓磨、持続する志、怒涛の仕事量、修養・鍛錬・研鑽、飛翔する構想力、日本への回帰）を用いて今日の産業社会で生きるための実践知を身につけることで、知の再武装へ向けたライフマネジメント力を磨く。

到達目標/Course Goals

実践的教養と志を合うする戦略性と突破力を身につける。具体的には、自身のロールモデルを発見し、最終レポートとしてパワーポイントを用いて「私の人生鳥瞰図」を作成し、自らの知の再武装についての論考をまとめあげるまでになる。

授業形態 /Form of Class	講義・グループディスカッション・グループワーク・プレゼンテーション・双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	有（人物記念館を訪問）
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	予習：次回に取り上げる予定の偉人について自分なりに調べておくこと。 復習：まとめと考察をフェイスブックへ書き込む。紹介した人物に関する本を読む。		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	講義「近代日本のわが国の偉人たちの志と生涯から学ぶ」（総論）
事前、事後学習ポイント	事後学習：まとめと考察のフェイスブックへの書き込み。
詳細	立志人物論の位置づけ：「本物の条件」７つの共通項－仰ぎ見る師匠の存在、敵との切磋・友との琢磨、持続する志、怒濤の仕事量、修養･鍛錬･研鑽、飛翔する構想力、日本への回帰－を紹介。 共通項を探るグループワーク、及び全体プレゼンテーションとディスカッションを行う。
第 2 講	
概要	講義「仰ぎ見る師匠の存在」
事前、事後学習ポイント	事前学習：取りあげる予定の偉人について、自分なりに調べておく。 事後学習：まとめと考察のフェイスブックへの書き込み。
詳細	多くの偉人には、師匠や尊敬する人物が存在する。 （吉田松陰・高杉晋作・福沢諭吉・北里柴三郎・小泉信三・岡倉天心・横山大観） 共通項を探るグループワーク、及び全体プレゼンテーションとディスカッションを行う。
第 3 講	
概要	講義「敵との切磋、友との拓磨」
事前、事後学習ポイント	事前学習：取りあげる予定の偉人について、自分なりに調べておく。 事後学習：まとめと考察のフェイスブックへの書き込み。
詳細	大きな仕事を成し遂げた人物には、ライバルや友人の存在がある。 （志賀直哉・武者小路実篤・正岡子規・夏目漱石・秋山真之・西田幾太郎　岡本太郎・ピカソ・三島由紀夫・川端康成・大鵬・柏戸・イチロー・松井秀喜・ビルゲイツ・スティーブジョブズ） 共通項を探るグループワーク、及び全体プレゼンテーションとディスカッションを行う。
第 4 講	
概要	講義「持続する志」
事前、事後学習ポイント	事前学習：取りあげる予定の偉人について、自分なりに調べておく。 事後学習：まとめと考察のフェイスブックへの書き込み。
詳細	「志」は、社会の不条理をただすことに、自らの能力と技術を最大限に発揮した職業（仕事）を通じて貢献することであると定義する。 （牧野富太郎・大山康晴・池波正太郎・原敬・村野四郎・佐藤一斎・市川房江・羽仁もと子・宮城まり子・藤沢周平・徳富蘇峰）

	共通項を探るグループワーク、及び全体プレゼンテーションとディスカッションを行う。
第 5 講	
概要	講義「怒涛の仕事量」
事前、事後学習ポイント	事前学習：取りあげる予定の偉人について、自分なりに調べておく。 事後学習：まとめと考察のフェイスブックへの書き込み。
詳細	偉人の生涯をみると、ものすごい仕事量をこなしている人が多い。量をこなすことによって、次第に力量が磨かれていき、後世に名を残すようなことを成し遂げる。 （寺山修司・手塚治虫・石ノ森章太郎・藤子不二雄・赤塚不二夫） （樋口一葉・与謝野晶子・白洲正子・高野悦子・石井桃子・向田邦子・緒方貞子） 共通項を探るグループワーク、及び全体プレゼンテーションとディスカッションを行う。
第 6 講	
概要	講義「修養・鍛錬・研鑽」
事前、事後学習ポイント	事前学習：取りあげる予定の偉人について、自分なりに調べておく。 事後学習：まとめと考察のフェイスブックへの書き込み。
詳細	自分最大の教育者は誰か？それは自分自身だ。修養のためには、心構えや仕掛けを自分自身でつくらなければならない。 （安岡正篤・新渡戸稲造・二宮尊徳・野口英世・サトウハチロー・本多静六・朝倉文夫） 共通項を探るグループワーク、及び全体プレゼンテーションとディスカッションを行う。
第 7 講	
概要	講義「飛翔する構想力」
事前、事後学習ポイント	事前学習：取りあげる予定の偉人について、自分なりに調べておく。 事後学習：まとめと考察のフェイスブックへの書き込み。
詳細	発想と計画を結びつけるのが構想力。大きな絵を描ける、広い視野を持ち、別の領域とつなぎ飛翔する構想力が求められる。 （後藤新平・水戸光圀・宮脇俊三・辻村寿三郎・嘉納治五郎・松下幸之助・棟方志功） 共通項を探るグループワーク、及び全体プレゼンテーションとディスカッションを行う。
第 8 講	
概要	講義「日本への回帰」
事前、事後学習ポイント	事前学習：人物モデルについて、自分なりに調べておく。 事後学習：まとめと考察のフェイスブックへの書き込み。
詳細	日本とは何か、日本人とは何者か、というアイデンティティの問題にぶつかり、改めて日本を見つめ直す「日本への回帰」が起こる。 （司馬遼太郎・梅棹忠夫・東山魁夷・柳田國男・岡倉天心・小野道風・柳宗悦・古賀政男） 共通項を探るグループワーク、及び全体プレゼンテーションとディスカッションを行う。
教科書 /Textbook	毎回資料を配付
指定図書 /Course Readings	「遅咲き偉人伝―人生後半に輝いた日本人」（ＰＨＰ・久恒啓一） 「偉人の命日 366 名言集」（日本地域社会研究所・久恒啓一）
参考文献・参考 URL /Reference List	久恒啓一の著作　：http://www.hisatune.net/html/02-kenkyuu/tyosaku/index.htm 久恒啓一図解 Web：http://www.hisatune.net
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席率 50%／講義議論参画度 25%／最終レポート 25%　以上 3 点の総合評価 立志人物論 2018 のフェイスブックにおいて、評価のコメントを返す。
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	授業内での議論への参画度が高く、プレゼンも極めてレベルが高い。
評価：　良（79～70 点）	授業内での議論に積極的に参加ししている。
評価：　可（69～60 点）	授業内での議論への参加ができている。
評価：不可（59 点～）	出席不良。授業への取り組みが芳しくない。
留意点 /Additional Information	≪読む・書く＋聴く・話す≫コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので議論には積極的に参画すること 毎回実習を行うなかで力をつけていくので、毎回の出席が望ましい。

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	知識創造経営のプリンシプル		
サブタイトル/Sub Title	知識経済社会の企業・経営・戦略・組織		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Principles of Knowledge Creating Management		
教員/Instructor	紺野　登	E-mail	konno-n@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具／イノベーション	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

企業価値の主要な源泉は物的な有形資源（モノ）から人々の無形の知識に移行している。それに沿って、大きく経営学も変化している。本講では知識創造経営という「理念型」から出発して、戦略論、組織論、リーダーシップ論等、毎回テーマを追いながら、経営全体を「知」で切って考える。

到達目標/Course Goals

知識社会・経済の経営を理解するための基本的な考え方としての＜知識創造理論＞をもとに、とくにイノベーションを念頭に置いた戦略・組織などについての経営モデルを提示する。それらをてがかりに、個々人の経験を材料としながら、これからの経営のあり方を自分なりに理解し、創造し、綜合していく。

授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	講義内容への自己の関心の確認と指定図書の熟読		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	知識創造経営のすすめ
事前、事後学習ポイント	「知識経済社会」の観点から経営、事業、組織、個人のあり方を理解する
詳細	知識経営とその背景:知識社会、知識経済、分析から創造への経営の転換 知識ベース理論に向けて：知識とは何か
第 2 講	
概要	知識創造理論
事前、事後学習ポイント	知識創造経営を理論的観点から理解する
詳細	暗黙知と形式知、「SECI（知識創造）モデル」、知識創造とイノベーション
第 3 講	
概要	知識経営企業事例研究（1）
事前、事後学習ポイント	企業事例を通じて知識創造経営を理解する グループディスカッション、双方向
詳細	知識創造企業事例及び対話
第 4 講	
概要	「戦略論」と知識経営
事前、事後学習ポイント	戦略論の系譜の中で知識創造経営を把握する
詳細	知識経営の「ルート・メタファー」について論じる
第 5 講	
概要	「知識資産」の戦略
事前、事後学習ポイント	知識の生み出す経済的価値について理解する
詳細	知識資産とは、知識で富を生み出すとは
第 6 講	
概要	「場」の経営
事前、事後学習ポイント	知識創造における場の意味合いを理解する
詳細	「場」とは何か---暗黙知、文脈、言語 「場」の組織と経営
第 7 講	

概要	知識経営実践事例研究（2）
事前、事後学習ポイント	企業事例を通じて知識創造経営を理解する
詳細	各自の事例企業研究を共有、知識リーダーシップ（賢慮）の事例 グループディスカッション、双方向
第 8 講	
概要	総括の対話
事前、事後学習ポイント	これまでの総括、振り返りを行う
詳細	全講を通じて理解したことを基に発展的議論を行う グループディスカッション、双方向
教科書 /Textbook	野中郁次郎、紺野登（2012）『知識創造経営のプリンシプル』東洋経済新報社（指定図書）
指定図書 /Course Readings	野中郁次郎、紺野登（1999）『知識経営のすすめ』ちくま新書
参考文献・参考 URL /Reference List	無し
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席率 50%／講義議論参画度 20%／最終レポート 30%　3 点の総合評価
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	出席数が十分、グループワークへの積極的参加、事後レポートの内容が優れている
評価：　良（79～70 点）	出席数が十分、グループワークへの積極的参加、事後レポートが良い
評価：　可（69～60 点）	出席数が十分、グループワークへの積極的参加、事後レポートが普通
評価：不可（59 点～）	出席不良、グループワークへの参加が消極的、事後レポートがない
留意点 /Additional Information	《読む･書く＋聴く･話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので議論には積極的に参画すること 「ナレッジマネジメント」（知識管理）という用語も使用しますが、所謂ＩＴをベースにしたナレッジマネジメントシステムが主テーマではありません。

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	シナリオプランニングワークショップ		
サブタイトル/Sub Title	創造的対話の手法と可能主義の戦略形成としてのシナリオプランニング		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Methodology of Scenario Planning: Strategy on Possibilism		
教員/Instructor	紺野　登	E-mail	konno-n@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具／イノベーション	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

知識創造」とは本質的に未来に向けた創造、イノベーションである。イノベーションとは未来へのビジョンのもとに不確実で複雑な環境の中で「可能主義」的に生きることである。それは未来について「構える」のでなく、未来に向けて判断，変容させることである。本講では未来研究に関する研究と、ワークショップによるシナリオプランニングの実践的演習をともに行うことで「可能主義（非決定論的）の戦略」について考える。

到達目標/Course Goals

知識創造の観点から従来からあるシナリオプランニングを、不確実・複雑な環境における思考法、未来視点での対話の方法として再発見し、その背景を考え、体験する場（集中プログラム）を通じて習得する。

授業形態 /Form of Class	集中ワークショップ：講義、グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	講義内容への自己の関心の確認と指定図書の熟読		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	オリエンテーション
事前、事後学習ポイント	イノベーション経済、未来への視座。可能主義の戦略の系譜
詳細	シナリオプランニングの背景、由来、経緯など、導入的な講義
第 2 講	
概要	シナリオプランニング技法について
事前、事後学習ポイント	シナリオプランニングの基本ステップについて予習ししておくこと
詳細	シナリオプランニングの基本ステップとその方法論的意味合いを理解する
第 3 講	
概要	シナリオプランニング事例
事前、事後学習ポイント	具体的事例からシナリオプランニングの活用イメージを理解する
詳細	複数企業事例のシナリオマトリックス、その背景、活用を説明し、対話する
第 4 講	
概要	シナリオプランニング演習（1）
事前、事後学習ポイント	ワークショップ形式で課題を設定しシナリオプランニング演習を行う
詳細	テーマ設定の方法、スキャンニング、シナリオマトリックス策定
第 5 講	
概要	シナリオプランニング演習（2）
事前、事後学習ポイント	ワークショップ形式で課題を設定しシナリオプランニング演習を行う
詳細	シナリオロジック、ストーリー作成
第 6 講	
概要	シナリオプランニング演習（3）
事前、事後学習ポイント	ワークショップ形式で課題を設定しシナリオプランニング演習を行う
詳細	初期的兆候、シナリオの意味合い、戦略オプション
第 7 講	
概要	未来の哲学：経営における未来の意味合い

事前、事後学習ポイント	現状のシナリオプランニングについての限界と今後の発展、活用のあり方
詳細	「備え／構え」の受動的シナリオから能動的、対話型のシナリオプランニングへ
第 8 講	
概要	総括、討議
事前、事後学習ポイント	これまでの全講義を基により深い理解を進める
詳細	各自のレポーティングの過程での学び、観点を共有する対話
教科書 /Textbook	紺野登（2010）『ビジネスのためのデザイン思考』東洋経済新報社（指定図書）
指定図書 /Course Readings	なし
参考文献・参考 URL /Reference List	オグルビー,J.、紺野登、野中郁次郎(2005)《知識創造としてのシナリオ　PART 1　シナリオ・プランニングのベーシックス&PART 2 シナリオ・マインドのすすめ》Think！2005 SPR. SUM　No.13&14【配布する】
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席率 60%／講義議論参画度 20%／最終レポート 20%　3 点の総合評価
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	出席数が十分、グループワークへの積極的参加、事後レポートの内容が優れている
評価：　良（79～70 点）	出席数が十分、グループワークへの積極的参加、事後レポートが良い
評価：　可（69～60 点）	出席数が十分、グループワークへの積極的参加、事後レポートが普通
評価：不可（59 点～）	出席不良、グループワークへの参加が消極的、事後レポートがない
留意点 /Additional Information	《読む･書く＋聴く･話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので議論、演習には積極的に参画すること 集中グループワーク（計 3 日）であるため欠席は避けられたし

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	イノベーションと目的工学		
サブタイトル/Sub Title	賢慮とイノベーション経営		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Innovation and “Purpose Engineering”		
教員/Instructor	紺野　登	E-mail	konno-n@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具／イノベーション	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

２１世紀の経営は、社会イノベーションなどが重視され、社会性や人間志向を強めている。そこでは、主観的なものである「目的」をいかに経営に取り込むかが課題となっている。ではどのような経営がありえるのだろうか？「善い目的」とは何か、「目的と手段の選択・判断」はいかにあるべきかを「目的工学」という視点から考える。

到達目標/Course Goals

「目的工学」とは善い目的に基づく経営(Management On Purpose)、および社会、企業、個々人の目的を調整して成果を生み出すための経営(Management Of Purposes)からなる、イノベーションのための実践知(practical wisdom)である。本講では、目的に関する基本的議論と実践のためのモデルを学ぼうとする。

授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	講義内容への自己の関心の確認と指定図書の熟読		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	２１世紀は目的の時代
事前、事後学習ポイント	「目的」というキーワードから経営、イノベーション、社会／経済の現状を考察する
詳細	目的が重視されてきた由来、契機、なぜ目的が現代の経営において重要になってきたのか
第 2 講	
概要	アリストテレスの目的論
事前、事後学習ポイント	目的論(teleology)の原点であるアリストテレスの哲学から目的の本質を理解する
詳細	アリストテレスの四原因説、目的論的世界観、実践的三段論法
第 3 講	
概要	企業のイノベーションと目的
事前、事後学習ポイント	目的と経営、目的工学の実践
詳細	目的と目標の違い、企業の目的とその効用
第 4 講	
概要	個の思いと目的
事前、事後学習ポイント	個々人の目的について考える
詳細	グループディスカッション、双方向 個々人の目的と企業、社会の目的をどのように調整するのか：「私は学生に、もし人生の目的とは何かを考える時間を持てば、きっとそれを学校にいる間に発見した最も重要なこととして思い出すだろうと言っています。もし彼らがそれを見い出さなければ、舵もない船でただ人生の荒波に翻弄されてしまうことになるでしょう。」（クレイトン・クリステンセン）
第 5 講	
概要	目的工学（１）目的に基づく手段の判断
事前、事後学習ポイント	よい目的はいかに生み出せるのか、目的の創出／判断と手段選択のメカニズム
詳細	目的工学に基づく目的と手段の関係性を考える（演習　グループディスカッション、双方向）
第 6 講	
概要	目的工学（２）目的群の調整（事例）
事前、事後学習ポイント	いかに目的を媒介にプロジェクトマネジメントを実践するか
詳細	目的工学に基づく大目的／中目的／小目的の関係性を考る（演習　グループディスカッショ

	ン、双方向）
第 7 講	
概要	目的工学とソーシャルイノベーション
事前、事後学習ポイント	社会的なイノベーションにおける目的工学的な視点と実践
詳細	社会的イノベーションの事例を通じて Theory Of Change と目的工学を対比的に理解する
第 8 講	
概要	総括の対話、グループディスカッション、双方向
事前、事後学習ポイント	これまでの全講義を基により深い理解を進める
詳細	各自のレポーティングの過程での学び、観点を共有する対話
教科書 /Textbook	紺野登(2013)『利益や売上げばかり考える人は、なぜ失敗してしまうのか（目的工学)』（ダイヤモンド社）
指定図書 /Course Readings	なし
参考文献・参考 URL /Reference List	なし
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席率 50%／講義議論参画度 20%／最終レポート 30%　3 点の総合評価
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	出席数が十分、グループワークへの積極的参加、事後レポートの内容が優れている
評価：　良（79～70 点）	出席数が十分、グループワークへの積極的参加、事後レポートが良い
評価：　可（69～60 点）	出席数が十分、グループワークへの積極的参加、事後レポートが普通
評価：不可（59 点～）	出席不良、グループワークへの参加が消極的、事後レポートがない
留意点 /Additional Information	《読む･書く＋聴く･話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので議論、演習には積極的に参画すること 集中グループワーク（計 3 日）であるため欠席は避けられたし

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	デザイン思考ワークショップ		
サブタイトル/Sub Title	質的研究方法論と実践ワークショップ		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Design Thinking Workshop—Qualitative Research Methodologies in Action		
教員/Instructor	紺野　登	E-mail	konno-n@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具／イノベーション	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course
業種・職種を問わず、これからのリーダーにとって不可欠な「デザイン思考」の理論と実践を学ぶ。
到達目標/Course Goals
近年世界中の経営大学院などでもデザイン思考のプログラムが増えている。イノベーション経営への潮流ともに、組織横断的な構想力・実践力が要請されているためである。それは机上の学習では得られない。本講ではエスノグラフィーや GTA など質的研究方法論、コンセプトの構築、プロトタイピングといったデザイン思考の基本を集中ワークショップで綜合的に身につけることを狙いとする。

授業形態 /Form of Class	集中ワークショップ：講義、グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション	学外学習 /Off-Campus Learning	フィールドワーク
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	講義内容への自己の関心の確認と指定図書の熟読		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可	
第 1 講	
概要	デザイン思考への誘い
事前、事後学習ポイント	デザイン思考に関する概略を書籍などを通じて学んでおくこと
詳細	知識創造の観点からデザイン思考を理解する
第 2 講	
概要	フィールドワーク演習(1)
事前、事後学習ポイント	フィールドワークを通じてデザイン思考の実践的理解を行う
詳細	エスノグラフィー、GTA(Grounded Theory Approach)等文献研究などの紹介
第 3 講	
概要	質的研究方法論
事前、事後学習ポイント	質的研究方法論についての文献学習（持続して輪読を行う）
詳細	コンセプトデザインの方法論および質的研究方法論(Qualitative Research Methodologies)概論、などについて学ぶ
第 4 講	
概要	フィールドワーク演習(2)
事前、事後学習ポイント	特定の課題に沿って、グループワークを行う
詳細	観察（Observation）あるいは共同化の方法
第 5 講	
概要	フィールドワーク演習(3)
事前、事後学習ポイント	特定の課題に沿って、グループワークを行う：前回の復習、作業の継続
詳細	概念化(Ideation) あるいは表出化の方法
第 6 講	
概要	フィールドワーク演習(4)
事前、事後学習ポイント	特定の課題に沿って、グループワークを行う：前回の復習、作業の継続
詳細	プロトタイピング(prototyping)／ストーリーテリング(storytelling)あるいは連結化／内面化の方法
第 7 講	

概要	企業のイノベーションとデザイン思考
事前、事後学習ポイント	ケースを読んでおくこと
詳細	具体的企業事例からデザイン思考がイノベーションにいかに活用され得るかを考える
第 8 講	
概要	総括の対話
事前、事後学習ポイント	これまでの全講義を基により深い理解を進める
詳細	各自のレポーティングの過程での学び、観点を共有する対話、輪読の発表、デザイン思考の次なる発展とは
教科書 /Textbook	紺野登（2010）『ビジネスのためのデザイン思考』東洋経済新報社（指定図書）
指定図書 /Course Readings	フリック,U.（2002）『質的研究入門―「人間の科学」のための方法論』春秋社（指定図書） グレイザー,B.G.,A.L.シュトラウス（1996）『データ対話型理論の発見』新曜社（指定図書）
参考文献・参考 URL /Reference List	http://www.foresight.ext.hitachi.co.jp/_ct/17011227
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席率 60%／講義議論参画度 20%／最終レポート 20%　　3 点の総合評価
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	出席数が十分、グループワークへの積極的参加、事後レポートの内容が優れている
評価：　良（79～70 点）	出席数が十分、グループワークへの積極的参加、事後レポートが良い
評価：　可（69～60 点）	出席数が十分、グループワークへの積極的参加、事後レポートが普通
評価：不可（59 点～）	出席不良、グループワークへの参加が消極的、事後レポートがない
留意点 /Additional Information	《読む･書く＋聴く･話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので議論には積極的に参画すること 講義の合間に文献輪読作業あり。ワークショップ形式ゆえ継続出席を重視。集中グループワーク（計 3 日）であるため欠席は避けられたし

講義年度/Year	2018 年	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	ビジネスモデル・イノベーション		
サブタイトル/Sub Title	持続的競争優位が終焉を向かえた時代の新たな戦略アプローチと実践手法		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Business Model Innovation		
教員/Instructor	河野　龍太	E-mail	kono-r@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具/イノベーション	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

アップル、アマゾン、ユニクロを例としてあげるまでもなく、現代の勝ち組企業に共通しているのが、【ビジネスモデルの差別化】に成功していることです。ビジネスモデルとは、事業の持続的成長を可能にする戦略メカニズムのこと。現代の経営においては商品・サービス単体レベルでの差別化が難しさを増しており、ビジネスモデルによる差別化が重要になっています。本講義では、ビジネスモデルに対する本質的理解を深めながら、世界の一流企業が採用し経営の現場で実践するビジネスモデル構築手法を学び、受講者自らが関わる事業のビジネスモデルをイノベーションするための戦略的視座と問題解決力を錬成することを講義の目的とします。

到達目標/Course Goals

ビジネスモデルのセオリーとケースについて具体的に理解する。ビジネスモデルキャンバスを実践絵的に使えるようになる。当大学院のディプロマポリシーとも呼応し経営の現場で論理的に考え戦略変革のリーダーシップを発揮する知的基盤を養う。

授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	課題図書、指定論文の予習。指定時にレポートの提出。		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	ビジネスモデルとは何か
事前、事後学習ポイント	ビジネスモデルが経営上注目される背景、事業環境を理解する
詳細	ビジネスモデルが経営上注目される背景、事業環境について、特に「一時的競争優位」が前提となる現代の経営環境について考察する。講義で取り上げる理論や方法論を受講生各自の経験や所属組織の現実課題に当てはめて考察を促す形式の個人及びグループワーク、クラスディスカッションを随時行う。
第 2 講	
概要	イノベーションの共通言語とビジネスモデルの可視化
事前、事後学習ポイント	イノベーションの共通言語の重要性について理解する。ビジネスモデルキャンバスの構成要素と基本的な使い方を理解する。
詳細	現代の経営においてビジネスモデル・イノベーションの重要性が増す中でイノベーションの共通言語がなぜ重要なのかについて考察する。イノベーションの共通言語として普及するビジネスモデルキャンパスの使い方を理解し自社のビジネスモデルをビジネスモデルキャンバスで実際に可視化する個人演習及びグループワークを行い、随時クラスディスカッションを交える。
第 3 講	
概要	ビジネスモデル・イノベーションの着眼点
事前、事後学習ポイント	ビジネスモデル・イノベーションを構想する上での重要な着眼点を理解する。
詳細	ビジネスモデル・イノベーションを構想する上での重要な着眼点として 7 つのポイントを学ぶ。自社のビジネスモデルの強みや弱み、課題などを評価する。講義で取り上げる理論や方法論を受講生各自の経験や所属組織の現実課題に当てはめて考察を促す形式の個人及びグループワーク、クラスディスカッションを随時行う。
第 4 講	
概要	顧客視点での価値創造（1）
事前、事後学習ポイント	顧客視点での価値創造の方法論を学ぶ。ジョブアプローチについて理解する。バリュー・プロポジション・キャンバスの基本を学ぶ。
詳細	顧客視点での価値創造の方法論を学ぶ。顧客が本当に欲しているニーズを理解する方法としてジョブアプローチについて考察する。バリュー・プロポジション・キャンバスの内容と各構成要素を理解し自社の事業に当てはめて基本的な使い方を習得する。講義で取り上げる理論や方法論を受講生各自の経験や所属組織の現実課題に当てはめて考察を促す形式の個人及びグループワーク、クラスディスカッションを随時行う。

第 5 講	
概要	顧客視点での価値創造（2）
事前、事後学習ポイント	顧客視点での価値創造のケースを理解する。デザイン思考について理解する。
詳細	顧客視点での価値創造の具体的なケース分析を通じてプル型のイノベーションのポイントを考察する。顧客の側に立って問題を発見し解決アイデアの選択肢を広げ試行錯誤から方向性を見出す実践的スキルとしてデザイン思考について理解する。随時グループワーク、クラスディスカッションを交えて参加型講義を行う。
第 6 講	
概要	リーンスタートアップと仮説検証（1）
事前、事後学習ポイント	リーンスタートアップと仮説検証の基本を理解する
詳細	リーンスタートアップ、顧客開発モデル、MVP などについて理解する。ビジネスモデルの仮説についての仮説検証方法について理解する。講義で取り上げる理論や方法論を受講生各自の経験や所属組織の現実課題に当てはめて考察を促す形式の個人及びグループワーク、クラスディスカッションを随時行う。
第 7 講	
概要	リーンスタートアップと仮説検証（2）
事前、事後学習ポイント	リーンスタートアップと仮説検証の実践方法を理解する
詳細	リーンスタートアップ、顧客開発モデル、MVP などについて理解する。ビジネスモデルの仮説についての仮説検証方法について理解する。講義で取り上げる理論や方法論を受講生各自の経験や所属組織の現実課題に当てはめて考察を促す形式の個人及びグループワーク、クラスディスカッションを随時行う。
第 8 講	
概要	まとめ
事前、事後学習ポイント	ビジネスモデル・イノベーションに関するこれまでの講義の全体を振り返る
詳細	講義の全体を振り返り、ビジネスモデル・イノベーションの取り組みを自社内でいかに実践するかについて考察する。各自の組織の事例や個人の経験による自主的意見の発言とクラス内での知見交換を奨励しクラスディスカッションを行う。
教科書 /Textbook	なし
指定図書 /Course Readings	「ビジネスモデル・ジェネレーション」　アレックス・オスターワルダー、イヴ・ピニュール著、翔泳社
参考文献・参考 URL /Reference List	「バリュー・プロポジションデザイン」アレックス・オスターワルダー、イヴ・ピニュール他著、翔泳社、「イノベーションへの解」クレイトン・クリステンセン他、翔泳社
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席（40%）、グループワーク、クラスディカッションへの貢献(30%)、修了課題レポート(30%)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	講義に 7 回以上出席。講義の内容をマスターし自らの事業課題に十分に応用できるスキルを習得し実際に自分自身のビジネスの現実の事業課題に活用した。課題レポートにおいて講義で取り上げた知識、スキルを適切に活用しかつ自ら独自の優れた考察を行なっている。
評価：　良（79～70 点）	講義に最低 5 回以上出席。講義の内容を理解し、講義で学習したセオリーやフレームワーク、ツールを自分自身のビジネスの現実の事業課題に活用できる。課題レポートにおいて講義で取り上げた知識、スキルを適用し考察を行なっている。
評価：　可（69～60 点）	講義に最低 5 回以上出席。講義内容の基本を理解している。実務で応用できる基礎的なスキルは身につけているが、現実的な問題解決をするには理解不十分な点が見受けられる。クラス発言はあるが少ない。レポートは提出されているが講義で学んだ内容が十分生かされているとは評価できない点が見受けられる。
評価：不可（59 点～）	講義の出席が半分以下（4 回以下）。講義の参加時の発言および修了レポート内容から判断して講義の全体的内容を理解が水準に達していない。修了課題レポートを未提出。
留意点 /Additional Information	当講義の理解と応用を促進する上で関係の深い「マーケティング・マネジメント概論」を当講義の履修前もしくは履修中あるいは履修後に受講することを推奨する。

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	イノベーターのための顧客創造戦略 理論と実践技法		
サブタイトル/Sub Title	市場創造と事業変革のロジックと実践方法を学ぶ		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Customer Creation Strategies in Theory and Practice for Innovators.		
教員/Instructor	河野 龍太	E-mail	kono-r@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具/イノベーション	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

アップルのスティーブ・ジョブズやアマゾンのジェフ・ベゾスといった傑出したイノベーターは単なるアイデアや感性、直観の人ではない。ハーバード大のクリステンセン氏のイノベーション理論などを研究して自らの事業構想に生かす、セオリーと実践の両方に精通したイノベーション・マスター（達人）として知られている。世界を変える巨大な功績を残している人がその天賦の才能やセンス以外に何を志向しているかは留意しておきたい。即効性のあるノウハウなど表層的なものを追い求める風潮が否めない中でセオリーやロジックを軽視する人は危ういと言えよう。イノベーションを志す者にとって、市場変革と顧客創造のための代表的な戦略、セオリー、ツールを理解し習得することは助けとなる。この講義では現代の重要なイノベーション戦略、セオリー、それらを実践するためのツールを取り上げ、ケースと演習を交えて実践的に習得を図る。

到達目標/Course Goals

市場変革と顧客創造戦略の理論、ツール、実践的スキルの習得。当大学院のディプロマポリシーとも呼応し経営の現場で論理的に考え戦略変革のリーダーシップを発揮する知的基盤を養う。

授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	講義内容の咀嚼と指定図書、資料の熟読		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	顧客の真のニーズを理解する：ジョブメソッド基本
事前、事後学習ポイント	顧ジョブメッソドの基本的考え方、理論を理解する
詳細	顧客創造戦略において顧客の真のニーズを理解することは極めて重要である。このための有効な理論がハーバード大学のクリステンセン教授が提唱する Jobs to be done という理論である。JTBD について理解を深め演習を通じて実践に応用できるスキルを養う。
第 2 講	
概要	顧客の真のニーズを理解する：ジョブメソッド応用
事前、事後学習ポイント	ジョブメッソドの応用方法を理解する
詳細	顧客創造戦略において顧客の真のニーズを理解することは極めて重要である。このための有効な理論がハーバード大学のクリステンセン教授が提唱する Jobs to be done という理論である。JTBD について理解を深め演習を通じて実践に応用できるスキルを養う。
第 3 講	
概要	破壊的イノベーションを理解する
事前、事後学習ポイント	破壊的イノベーション理論を理解する
詳細	破壊的イノベーション理論はインテルのアンディ・グローブ会長が戦略転換に応用するなど有用性が高いイノベーションセオリーである。破壊的イノベーション理論の基本と本質を理解する。さらにクラスディスカッションを交え、双方向かつ主体的に認識を深める。
第 4 講	
概要	ブルーオーシャン戦略を理解する
事前、事後学習ポイント	ブルーオーシャン戦略の理論とその実践に関する各種フレームワークを理解する
詳細	イノベーション戦略論としてブルーオーシャン戦略の基本と応用を理解する。クラスディスカッションを交え、双方向かつ主体的に認識を深める。
第 5 講	
概要	ビジネスモデルキャンバスを理解する
事前、事後学習ポイント	ビジネスモデルキャンバスの基本と応用方法を理解する
詳細	ビジネスモデルをデザインするための画期的なツールとして世界中に普及しているビジネスモデルキャンバスについて基本と実践での応用方法を学ぶ。演習とクラスディスカッショ

	ンを交え、双方向かつ主体的に認識を深める。
第 6 講	
概要	バリュープロポジションキャンバスを理解する
事前、事後学習ポイント	バリュープロポジションキャンバスの基本と応用方法を理解する
詳細	ビジネスモデルキャンバスと合わせて使うプラグインツール、バリュープロポジションキャンバスについて基本と実践での応用方法を学ぶ。演習とクラスディスカッションを交え、双方向かつ主体的に認識を深める。
第 7 講	
概要	アトリビュート分析と消費チェーン分析を理解する
事前、事後学習ポイント	アトリビュート分析と消費チェーン分析の論理と実践方法について理解する
詳細	競合に対してユニークな顧客価値をデザインする上でアトリビュート分析と消費チェーン分析は有効なヒントを与える。これら分析手法について演習とクラスディスカッションを交え、双方向かつ主体的に認識を深める。
第 8 講	
概要	まとめとディスカッション
事前、事後学習ポイント	イノベーターのための顧客創造戦略の全体像と要諦を理解する。
詳細	イノベーターのための顧客創造戦略について改めてクラスディスカッションを交えながら振り返り理解を深める。
教科書 /Textbook	なし
指定図書 /Course Readings	「イノベーションのジレンマ」、「イノベーションの解」、「ブルーオーシャン戦略」など
参考文献・参考 URL /Reference List	講義の進展状況に応じて適宜クラス内で実施
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席（40%）、グループワーク、クラスディカッションへの貢献(30%)、修了課題レポート(30%)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： 優（100～80 点）	講義に 7 回以上出席。講義の内容をマスターし自らの事業課題に十分に応用できるスキルを習得し実際に自分自身のビジネスの現実の事業課題に活用した。課題レポートにおいて講義で取り上げた知識、スキルを適切に活用しかつ自ら独自の優れた考察を行なっている。
評価： 良（79～70 点）	義に最低 5 回以上出席。講義の内容を理解し、講義で学習したセオリーやフレームワーク、ツールを自分自身のビジネスの現実の事業課題に活用できる。課題レポートにおいて講義で取り上げた知識、スキルを適用し考察を行なっている。
評価： 可（69～60 点）	講義に最低 5 回以上出席。講義内容の基本を理解している。実務で応用できる基礎的なスキルは身につけているが、現実的な問題解決をするには理解不十分な点が見受けられる。クラス発言はあるが少ない。レポートは提出されているが講義で学んだ内容が十分生かされているとは評価できない点が見受けられる。
評価：不可（59 点～）	講義の出席が半分以下（4 回以下）。講義の参加時の発言および修了レポート内容から判断して講義の全体的内容を理解が水準に達していない。修了課題レポートを未提出。
留意点 /Additional Information	クラスでの発表やディスカッションなどに積極的に参加しクラス全体の学びの向上に貢献すること。

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	ビジネスモデル創造特論		
サブタイトル/Sub Title			
英文科目名/Course Title(Eng.)	Business Model Generation in Practice		
教員/Instructor	河野　龍太	E-mail	kono-r@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具/イノベーション	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

リーンスタートアップや顧客開発などの手法に代表される仮説検証型の事業創造の実践技法を習得する。講義期間を通じて、新しいビジネスアイデアを発想し仮説検証を通じて具体化し、それらのプロセスを受講生各自がプレゼンテーションする。対象者は、新事業開発のアイデアを持った経営者および経営者相当、起業家志望者、インントレプレナー（組織内起業家、新規事業開発担当）など。特に優秀な受講者は、世界的な起業プランコンテスト、ジャパン・ビジネスモデル・コンペティションのセミファイナルへ推薦する。

到達目標/Course Goals

自らが関与する新事業、既存事業のビジネスモデ構想を仮説検証を通じて実際のビジネスとして具体化を目指す。当大学院のディプロマポリシーとも呼応し経営の現場で論理的に考え戦略変革のリーダーシップを発揮する知的基盤を養う。

授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	講義内でのフィードバックに基づいた調査、課題図書、指定論文の予習。		

講義概要/Course Description　全 8 講　第 1 講～第 7 講は各 180 分　第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	講義の概要と進行の説明。メンバー各自の相互理解とビジネスの構想の共有。
事前、事後学習ポイント	ビジネスモデル創造の基本を理解する。ビジネスモデル・キャンバスなどの基本ツールを理解する。
詳細	リーンスタートアップに代表される仮説検証型の事業創造の手法によって新たに事業を構築する手法の基本を学ぶ。メンバー相互の構想や目標について共有する。
第 2 講	
概要	参加メンバー各自の構想のプレゼンテーションとディスカッション
事前、事後学習ポイント	リーンスタートアップ型のビジネスモデルのデザイン法、仮説検証の方法、事業具体化の方法を実践を通じて理解する
詳細	メンバー各自の新事業や既存事業における構想やアイデアについてプレゼンテーションを行う。教員とメンバーのフィードバックとクラスディスカッションを通じて、アイデアのブラッシュアップ、構想の練り直し、顧客価値のデザイン、顧客が抱える問題点の検証、競合との差別化の方向性、それら仮説検証の方法などについて検討を行う。
第 3 講	
概要	前講に同じ
事前、事後学習ポイント	前講に同じ
詳細	前講に同じ
第 4 講	
概要	前講に同じ
事前、事後学習ポイント	前講に同じ
詳細	前講に同じ
第 5 講	
概要	前講に同じ
事前、事後学習ポイント	前講に同じ
詳細	前講に同じ
第 6 講	
概要	前講に同じ

事前、事後学習ポイント	前講に同じ
詳細	前講に同じ
第 7 講	
概要	前講に同じ
事前、事後学習ポイント	前講に同じ
詳細	前講に同じ
第 8 講	
概要	前講に同じ
事前、事後学習ポイント	前講に同じ
詳細	前講に同じ
教科書 /Textbook	なし
指定図書 /Course Readings	「バリュー・プロポジション・デザイン」アレックス・オスターワルダー、イヴ・ピニュール他著、翔泳社（教科書）
参考文献・参考 URL /Reference List	「リーンスタートアップ」エリック・リース著（教科書）、日経 BP、「ビジネスモデル・ジェネレーション」アレックス・オスターワルダー、イヴ・ピニュール著、翔泳社、「競争優位の終焉」リタ・マグレイス著、日本経済新聞出版社
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席（40%）、プレゼンテーション（40%）、クラスディスカションへの貢献（20%）
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： 優（100～80 点）	講義に出席し、講義内のプレゼンやディスカッションへの貢献が優れている。講義の合間で行う個人の調査や仮説検証の実践活動がスピーディーで量、質ともに優れている。
評価： 良（79～70 点）	上記同様のポイントについて良いと評価できる。
評価： 可（69～60 点）	上記同様のポイントについて普通と評価できる。
評価：不可（59 点～）	出席が不十分。プレゼンや講義内でのディスカッションへ参加が消極的で不十分。
留意点 /Additional Information	クラスでのプレゼンテーションやディスカッションなどに積極的に参加しクラス全体の学びの向上に貢献すること。

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	実践アントレプレナーシップ		
サブタイトル/Sub Title	事業創造の理論と演習		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Entrepreneurial Management		
教員/Instructor	本荘 修二	E-mail	shuji@honjo.biz
科目群/Course Classification	実践知考具／イノベーション	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

ベンチャー企業、大企業の新事業（新製品・サービス、事業転換を含む）など事業創造のための基礎としての知識、技術、思考法を学ぶ。アイデアなどシーズ（種）づくり、そこから実行に値する事業案に練り上げるための力を養う。対象は、起業家、社内起業家からチーム･メンバー、投資家、支援者まで事業創造に関わる、あるいはそれを志す人。

到達目標/Course Goals

講義と文献による理論的バックボーン習得とともに、新事業の立案や既存事業への戦略的代替案の策定を試み、受講生による発表とディスカッションなど実践的な演習を行い（ゲスト講義を含む）、事業創造の実践力を養う。併せて、自己の経営スタイルと着眼点、発想の再確認と進化を促す。

授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション グループワーク、 プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし（仮説検証は学外を含む）
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	講義内容の復習と指定文献の独修、演習の準備（新事業の立案、仮説の構築と検証、グループワーク、プレゼンテーション作成・練習）		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	アントレプレナーシップ概論
事前、事後学習ポイント	事業創造とは何か、事業創造を実現する人材と関係者、事業創造の学習法
詳細	新事業とイノベーション、起業人材、ベンチャーのコミュニティなどのアントレプレナーシップ実践のための基礎知識を整理し、双方向の議論を行う。 宿題：ゲスト講義以外に、第 6 講までの講義を一人一回以上、講義レポートとして提出する。
第 2 講	
概要	事業創造の技術
事前、事後学習ポイント	事業機会特定、リーン・スタートアップ、新事業マーケティング、事業転換
詳細	事業機会の特定（Opportunity Recognition）について講義とともに双方向の議論を行う。これを踏まえて、リーン･スタートアップの方法論と新事業マーケティングについて学習する。さらに、事例を交えて既存事業の転換について双方向の議論を行う。 宿題：グループ演習のテーマの提案。
第 3 講	
概要	新事業のモデリング
事前、事後学習ポイント	ビジネスモデル、事業評価 グループ演習 I
詳細	各種ツールとともにビジネスモデルづくり、そして事業評価について学び、双方向の議論を行う。 また、グループ演習の班分けを行い、各班でグループディスカッションし、テーマ設定、プレゼンテーションへの準備などのグループワークを行う。 宿題：第 5 講でのプレゼンテーションに向けて、各班はグループワークで準備する。
第 4 講	
概要	個人演習 I、ゲスト講義
事前、事後学習ポイント	個人演習の準備 ゲスト講義
詳細	個人の研究課題として立案したテーマのショート・プレゼンテーションと双方向の議論ならびに全員参加のグループディスカッションを行う（事前に発表準備、事後にテーマ練り上げ・練り直し）。 ゲスト講義（経営者・新事業マネジャーによる）は、双方向の質疑応答も行う（事前に質問準備、事後に学びの整理）。 宿題：妥当となったテーマは、事業コンセプトに発展させ、仮説の構築と検証に着手する。

	宿題：ゲスト講義レポートを全員提出する。
第 5 講	
概要	グループ演習 II、起業の方法論
事前、事後学習ポイント	グループ演習発表 ビジネスプラニング、実践新事業マーケティング
詳細	グループ演習のテーマについて、各班がプレゼンテーションし、双方向の議論ならびに全員参加のグループディスカッションを行う。グループ演習では、異なる経験・専門性を持つメンバーとのグループワークを通して、自己に閉じないアイデアの発展のさせ方や視点の持ち方、他力をいかに活用するか、といった事業創造のスキル獲得を図る。 新事業におけるビジネスプラニングについて、そして起業のための実践的なマーケティングについて学び、切り口や視点の持ち方について双方向に議論する。
第 6 講	
概要	個人演習 II、起業のファイナンス
事前、事後学習ポイント	個人演習の準備 ベンチャーキャピタルとファイナンス
詳細	個人の研究課題（事業案）のプレゼンテーションを実施し、中間レビューを双方向の議論ならびに全員参加のグループディスカッションで行う。なお、発表内容を問うものでなく、最終プレゼンテーションに向けて事業案を練り上げることをねらう。したがって、他の受講者の事業案の改善・転換や発展への貢献が期待される。 また、ベンチャーキャピタルと起業のファイナンスについて学び、双方向に議論を行う。 宿題：事業案を練り上げ、仮説の構築と検証を進め、改善・転換（Pivot）する。
第 7 講	
概要	個人演習 IIIa
事前、事後学習ポイント	個人演習最終プレゼンテーションの準備
詳細	個人の研究課題（事業案）の最終プレゼンテーションと双方向の議論ならびに全員参加のグループディスカッションを行う。プレゼンの内容とともに、それに至る事業案の改善や転換（Pivot）ならびに仮説検証についても考察し、議論する。
第 8 講	
概要	個人演習 IIIb、総括
事前、事後学習ポイント	個人演習最終プレゼンテーションの準備、本講座トータルのおさらい
詳細	個人の研究課題（事業案）の最終プレゼンテーションと双方向の議論ならびに全員参加のグループディスカッションを行う。プレゼンの内容とともに、それに至る事業案の改善や転換（Pivot）ならびに仮説検証についても考察し、議論する。 また、講義全体を振り返っての総括を行う。
教科書/Textbook	なし。適宜、講義資料を配布する。
指定図書 /Course Readings	オンライン連載『インキュベーションの虚と実』 http://diamond.jp/category/s-incubation （読む箇所を指定）
参考文献・参考 URL /Reference List	「成功するビジネスプラン」伊藤良二著、「Running Lean ―実践リーンスタートアップ」アッシュ・マウリャ著、「なぜ新規事業は成功しないのか―「仮説のマネジメント」の理論と実践」大江建著。また、必要に応じて追加の参考文献を紹介。
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席(25％)、授業での議論参加ならびに貢献度(25％)、講義レポート（10％)、グループ演習(10％)、個人演習（30％）
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： 優（100～80 点）	事業創造の理論を理解し、授業での参加・貢献、演習の内容が充実している。
評価： 良（79～70 点）	授業での参加・貢献、演習の内容が、おおむね良好である。
評価： 可（69～60 点）	授業での参加・貢献、演習の内容が、最低限の水準を満たしている。
評価：不可（59 点～）	出席不良で、授業での参加・貢献、演習の内容が不十分。
留意点 /Additional Information	メーリングリスト（あるいは Facebook グループ）で継続的にコミュニケーションを行う（講義レポートのフィードバックを含む)。なお、受講者の特性に応じて講義内容は調整を試みる。

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	経営戦略概論		
サブタイトル/Sub Title	経営戦略策定と意思決定		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Outline of Business strategy building		
教員/Instructor	前川　慶一	E-mail	maekawa-k@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具/イノベーション	単位数/Credits	2

授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション　グループワーク、プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	講義・ケーススタディのポイントを理解するための復習とケーススタディの予習		

講義目的/Aim of Course

厳しい競争環境の中で、一企業が自社の持つコンピテンスに基づいてリソースの制約の中ですべての領域でリーダーになって高い利益を享受することは難しく、それゆえ企業は戦略を持ってリソースを重点配分していくことが求められる。本講座では戦略策定にあたって考えるべきこと、戦略策定手法、経営における意思決定の意味を理解しながら、いかに経営戦略や商品戦略を策定し、実行していくか、自ら考えながら学んでいただく。

到達目標/Course Goals

経営戦略策定の手法・それぞれの手法に適した使い方を、実践知、効果的に情報収集・分析できる能力と併せて習得することを通じて、適切に課題を設定し、戦略を策定できる資質を身につける

講義概要/Course Description　全 8 講　第 1 講～第 7 講は各 180 分　第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	概論
事前、事後学習ポイント	事後：戦略策定ツールの習得
詳細	経営戦略の構造と戦略策定ツール（講義）、 企業分析のケーススタディ（グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、双方向論議）
第 2 講	
概要	戦略策定法と実習（1）
事前、事後学習ポイント	事後：プロダクトポートフォーリオマネジメント・競争戦略の考え方・活用領域・手法の理解、及び次回に論議するケースの学習
詳細	PLC 理論と PPM=プロダクトポートフォーリオマネジメント（講義）、 PPM ケーススタディ（グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、双方向論議）、 M.ポーターの競争戦略（講義）、
第 3 講	
概要	戦略策定法と実習（2）
事前、事後学習ポイント	事前：ケーススタディ（競争戦略）の学習、 事後：学習した各戦略の考え方・活用領域・ポイントの理解
詳細	ブルーオーシャン戦略（講義）、ランチェスター戦略（講義）、P.コトラーの業界地位別戦略（講義）、 競争戦略の視点からのケーススタディ（グループディスカッション　グループワーク、プレゼンテーション、双方向論議）
第 4 講	
概要	経営の意思決定
事前、事後学習ポイント	事後：経営の意思決定プロセスのポイントの理解
詳細	戦略検討・決定のプロセスと手法、不確実性の中での意思決定（講義）、 キャッシュフロー基礎のケーススタディ（双方向論議）
第 5 講	
概要	全社戦略（多角化、合従連衡）、ケーススタディ　経営戦略分析
事前、事後学習ポイント	事前：配布したケースの分析、意見のまとめ 事後：事業拡大を考える際の適切な方策の理解

詳細	不連続な事業拡大を狙う方策としての多角化・M&A・アライアンス戦略（講義)、事前学習した企業戦略と経営課題の分析（グループディスカッション　グループワーク、プレゼンテーション、双方向論議）
第 6 講	
概要	機能別戦略、地域戦略の策定
事前、事後学習ポイント	事前：第 4 講で提示するキャッシュフロー検討に基づく複数の生産工順案の評価に基づく生産戦略検討 事後：機能別戦略策定にあたってのポイントの理解
詳細	機能別戦略(技術戦略、開発戦略、生産戦略、購買戦略)、地域戦略策定のポイント 生産戦略のケーススタディ（グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、双方向論議）
第 7 講	
概要	商品戦略の策定
事前、事後学習ポイント	事後：STP マーケティングの習得、および商品戦略策定に当たって考えるべきポイントの理解
詳細	マーケティングの基礎知識、商品戦略策定プロセス（主にプロダクトポートフォーリオ）及び手法 セグメンテーションのケーススタディ（グループディスカッション、双方向論議）
第 8 講	
概要	まとめ
事前、事後学習ポイント	事後：自社・個人の課題への活用の可能性の検討
詳細	第 1 講～第 7 講のポイントのまとめ
教科書 /Textbook	なし。適宜、講義資料を配布する。
指定図書 /Course Readings	特になし。
参考文献・参考 URL /Reference List	各回の講義資料に記載。
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席（40%)、授業中の議論参加（30%)、修了レポート（30%) 修了レポートについてはメールにてフィードバックを行う
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	出席率が高く、かつ授業・グループディスカッションに積極的に参画して発言し、かつ修了論文に自らの考えに基づく戦略的視点が見られる
評価：　良（79～70 点）	2/3 以上出席に加えて、授業・グループディスカッションに積極的に参画して発言、または修了論文に自ら考えた戦略的視点が見られる
評価：　可（69～60 点）	2/3 以上出席しているが、修了論文に戦略的な視点があまり見られない
評価：不可（59 点～）	2/3 未満の出席、または修了レポート未提出
留意点 /Additional Information	財務、マーケティングの基礎知識を有していると理解しやすい部分があります

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	グローバル技術経営論		
サブタイトル/Sub Title	グローバル視点でのイノベーション・マネージメントおよび定石論		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Global Management of Technology		
教員/Instructor	楠田 幸久	E-mail	kusuda@tama.sc.jp
科目群/Course Classification	実践知考具/イノベーション	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

近年グローバル化、IT 化、製品のデジタル化が著しく進み、産業・製品の構造が大きく変わった。過去、日本が得意であった「インテグレーション（すり合わせ)」から「モジュラー（組み合わせ)」技術・製品・ビジネスモデルへシフトし、日本の製造業全体の凋落が起こってしまった。だが、世界市場の観点でみると、技術・製品・ビジネスモデルのイノベーションは益々重要になり、新しいコンセプトの産業が次々に興り、変革・発展し続けている。

本講義では、このようにグローバル視点での技術・ビジネスモデルの変革がなされつつある現状を踏まえ、その基本的な考え方である「グローバル経営論」「イノベーション論」「研究開発論」を整理する。これらの中からいわゆる「定石」ともいうべき本質的考え方をピックアップする。本講義ではこの「定石」を説明し、実際例について議論することで理解してもらう。また及びしたゲストによる業界例の紹介、受講者自身のプロダクトに関するディスカッションによって、受講者各位に理解を深めてもらう。

到達目標/Course Goals

グローバル企業経営、製品戦略の基礎、イノベーションの考え方、ビジネスモデルの重要性等について学び、これらを「定石」として学生自身のプロダクト戦略に活用できることを目標とする。

授業形態 /Form of Class	講義、ゲストプレゼンテーション、ディスカッション&プレゼンテーション	学外学習 /Off-Campus Learning	なし。
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	講義内容の整理、指定図書、指定課題の準備（プレゼンテーション準備）		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	オリエンテーション。
事前、事後学習ポイント	本講義の全体像の説明。グローバル化、デジタル・モジュラー化、オープン化の概論。グローバル化の大潮流。
詳細	本講義の全体像を説明する。主としてグローバル経営論、プロダクト論、イノベーション論の概要を説明し、本講義の全体像を把握する。 課題①：受講者各位に課題を出し、第 4 講にてプレゼンテーションを行ってもらう。
第 2 講	
概要	グローバル経営論
事前、事後学習ポイント	グローバル経営論の基礎、「I-R フレームワーク」「トランスナショナル経営論」。
詳細	グローバルに展開する企業の考え方について整理する。主としてトランスナショナル経営論とその基礎である I-R フレームワークを説明する。現実の企業事例について討議する。 ゲストプレゼンテーション①及びディスカッション。
第 3 講	
概要	プロダクト論
事前、事後学習ポイント	製品のアーキテクチャー論、「モジュラー」と「インテグラル」論。
詳細	最も有名なプロダクトのアーキテクチャー論を説明する。これは「組み合わせ」と「擦り合わせ」技術論とも呼ばれ、日本の製造業の強みを説明する理論であり、その概要を説明し、受講者各位の製品についてのディスカッションを行う。 ゲストプレゼンテーション②及びディスカッション。
第 4 講	
概要	イノベーション論 1
事前、事後学習ポイント	クリステンセンの「イノベーションのジレンマ」、製品のライフサイクル・イノベーション論。キャズム論。
詳細	製品の下克上を説明したクリステンセンの破壊的イノベーション論、生まれてから死ぬまでの経緯とイノベーションについてのライフサイクルイノベーションを中心に説明し、具体的事例についてディスカッションを行う。。

	課題①の発表：第１項で出した課題について受講者のプレゼンテーション及びディスカッション。
第 5 講	
概要	イノベーション論２
事前、事後学習ポイント	「オープンイノベーション」と「クローズドイノベーション」。
詳細	イノベーションの加速のための「オープン」、自らの強みを作り込むための「クローズ」。これらのイノベーション論の説明と、どうバランスを取りながらどのように進めて行くべきかについてディスカッションする。 ゲストプレゼンテーション③およびディスカッション。
第 6 講	
概要	研究開発論
事前、事後学習ポイント	研究開発から事業化までの道のり。「死の谷」、「魔の川」、「ダーウィンの海」。
詳細	MOT（技術経営論）で一般的に言われる研究開発から事業化までの道のりについて説明する。この考え方は企業の研究開発の根幹になっているものであり、新商品、新技術の研究開発の進め方、考え方、問題点について整理する。具体的事例に関するディスカッション。 課題②　最終講義の際に報告する課題のテーマを提示する。 ゲストプレゼンテーション④及びディスカッション。
第 7 講	
概要	アジアの市場動向
事前、事後学習ポイント	中国・アジア市場の現状と今後。
詳細	日本にとって重要なアジア市場の現状と今後について紹介する。アジア市場で実際に仕事されているゲストをお呼びし、現実に起こっている事等を紹介して頂き、ディスカッションを行う。 ゲストプレゼンテーション⑤及びディスカッション。
第 8 講	
概要	本講義のまとめ（ビジネスモデルの定石）、院生各位のレポート発表。
事前、事後学習ポイント	本講義のまとめ(イノベーションにおける定石とは)を行い、第６講の際に示した課題②についての院生各位のレポート発表及びディスカッションを行う。
詳細	
教科書 /Textbook	なし。毎回講義資料を配布する。
指定図書 /Course Readings	浅川和宏「グローバル経営入門」（日本経済新聞社） 延岡健太郎「MOT 技術経営入門」（日本経済新聞社）
参考文献・参考 URL /Reference List	クレイトン・クリステンセン　「イノベーションのジレンマ」（翔泳社） ジェフリー・ムーア　「ライフサイクル　イノベーション」（翔泳社） ヘンリー・チェスブロー　「OPEN　INNOVATION」（産能大出版部）
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席(40%)、授業内での積極的議論参加(30%)、課題プレゼンテーションの内容(30%)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	イノベーション論を良く理解し、討論およびプレゼンテーションが優れている。
評価：　良（79～70 点）	授業内議論及び課題プレゼンテーションの内容が良い。
評価：　可（69～60 点）	授業内議論及び課題プレゼンテーションの内容が不十分。
評価：不可（59 点～）	出席不良、授業内議論及び課題プレゼンテーションの内容が不十分。
留意点 /Additional Information	プロダクトのイノベーションを中心にその「定石」となる考え方を整理し、各位が自らの業務に役立てることができることを目標とする。 ゲストをお呼びするが、その内容、日程については変更の可能性がある。

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	マーケティング・マネジメント概論		
サブタイトル/Sub Title			
英文科目名/Course Title(Eng.)	Marketing Management		
教員/Instructor	河野 龍太	E-mail	kono-r@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具/顧客創造	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

マネジメントの父である故ドラッカー博士はあらゆる組織に必須の最も重要な2つの機能としてマーケティングとイノベーションをあげた。激しい競争と市場の成熟化が進む今日において、顧客を創造し事業を成長に導く経営戦略のカギとしてマーケティング戦略の重要性はさらに増している。本講義では、21 世紀の経営環境に適応するための新しいコンセプトも織り込みながら、現代におけるマーケティング・マネジメントの基本と本質を理解し、実際の問題解決に応用できる実践的な知識とスキルの修得を目指す。

到達目標/Course Goals

マーケティング・マネジメントの基本理論と実際の問題解決に応用できる実践的な知識、スキルの習得。当大学院のディプロマポリシーとも呼応し経営の現場で論理的に考え戦略変革のリーダーシップを発揮する知的基盤を養う。

授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	講義内容の咀嚼と指定図書、資料の熟読		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	顧客視点の経営戦略の論理
事前、事後学習ポイント	マーケティングの経営における目的と役割
詳細	経営におけるマーケティングの本質について理解を深める。21 世紀において市場が成熟化する中で差別化が容易ではなくなっている。供給者サイドの論理ではなく顧客側の視点で価値を考えて商品サービスをデザインすることが一層重要になっている。今日の企業経営におけるマーケティングの本質的役割や意義をセオリー、事例を元にクラスディスカッションをしながら双方向かつ主体的に認識を深める。
第 2 講	
概要	事業環境を認識する
事前、事後学習ポイント	事業環境分析の論理、基本的なフレームワークと実践的な分析方法を学ぶ
詳細	マーケティング戦略を構築する上では、マクロ経済、市場、政治や社会動向、競合動向、テクノロジーなど事業環境における様々な事実に基づいた客観的認識を持つことが欠かせない。事業環境分析の方法、基本的フレームワークを理解し分析から戦略的洞察の導き方までを事例分析とクラスディスカッションを交えながら双方向かつ主体的に認識を深める。
第 3 講	
概要	顧客を深く理解する
事前、事後学習ポイント	顧客を深く理解することの戦略的な意義を学びその実践方法を習得する
詳細	顧客視点での価値創造のポイントは、顧客を深く理解することにある。マーケティング戦略の起点が顧客への深い理解にあることを認識した上で、どうすれば顧客への深い理解や洞察を得ることができるのかをセオリー及び具体的な経営の事例を元に考察する。さらにクラスディスカッションを交え、双方向かつ主体的に認識を深める。
第 4 講	
概要	マーケティングの基幹戦略をデザインする（1）
事前、事後学習ポイント	セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニングの要諦について理解する
詳細	マーケティング戦略の根幹であるセグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング、コンセプトデザインについて理解を深める。STP 戦略の基本セオリーを学び具体的な経営の事例を交えながらクラスディスカッションを行い、その本質と戦略構築の実践方法について双方向かつ主体的に理解をする。
第 5 講	
概要	マーケティングの基幹戦略をデザインする（2）

事前、事後学習ポイント	セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニングの要諦について理解する
詳細	マーケティング戦略の根幹であるセグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング、コンセプトデザインについて理解を深める。STP 戦略の基本セオリーを学び具体的な経営の事例を交えながらクラスディスカッションを行いその本質と戦略構築の実践方法について理解をする。
第 6 講	
概要	統合的マーケティング戦略のデザインと実施
事前、事後学習ポイント	STP 戦略を 4P に落とし込み統合的にマーケティングを実行する方法を理解する
詳細	STP やコンセプトに代表されるマーケティング戦略の基幹的な方針を相互に一貫性のある形で組み上げ 4 P（商品、価格、流通、プロモーション）の各具体的施策に落とし込んで実行する。このような戦略デザインから戦術への具体化と実行、成果の診断とフィードバックまでのマーケティング戦略の全体サイクルについて理解する。顧客価値を創造する上でサービスの役割重要になっている。サービスのマーケティングの基本についても学ぶ。
第 7 講	
概要	顧客価値を維持発展させる
事前、事後学習ポイント	ブランド戦略の論理と実践方法について理解する
詳細	マーケティング・マネジメントの発展的目的としてブランド戦略について理解をする。ブランドエクイティ論に代表されるように今日の企業経営においてブランド・マネジメントは極めて重要な役割を担っている。企業経営におけるブランド・マネジメントの本質について考察し、ブランド戦略を構築するための基本セオリー、フレームワーク、実践的方法について、事例とクラスディスカッションを交えて理解を深める。これらテーマについて各種事例を随時に交えながらクラスディスカッションを行う。
第 8 講	
概要	顧客視点の経営戦略の課題と実践：まとめとディスカッション
事前、事後学習ポイント	これまでの講義を振り返りマーケティング・マネジメントの全体像と要諦を理解する
詳細	顧客起点の経営戦略を具体化する上で要となるマーケティング戦略は、市場が成熟化し競争がグローバルレベルでますます激化する現代の企業経営において重要性が増している。本講義で取り上げたマーケティング・マネジメントの基本的なコンセプトと本質について改めてクラスディスカッションを交えながら振り返り理解を深める。
教科書 /Textbook	「マーケティング」恩蔵直人著、日経文庫
指定図書 /Course Readings	「マーケティング」恩蔵直人著、日経文庫
参考文献・参考 URL /Reference List	「コトラーの戦略的マーケティング」フィリップ・コトラー著、ダイヤモンド社、「USJ を劇的に変えた、たった一つの考え方　成功を引き寄せるマーケティング入門」森岡 毅著、角川書店
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席（40%）、グループワーク、クラスディスカッションへの貢献(30%)、修了課題レポート(30%)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	講義に 7 回以上出席。講義の内容をマスターし自らの事業課題に十分に応用できるスキルを習得し実際に自分自身のビジネスの現実の事業課題に活用した。課題レポートにおいて講義で取り上げた知識、スキルを適切に活用しかつ自ら独自の優れた考察を行なっている。
評価：　良（79～70 点）	講義に最低 5 回以上出席。講義の内容を理解し、講義で学習したセオリーやフレームワーク、ツールを自分自身のビジネスの現実の事業課題に活用できる。課題レポートにおいて講義で取り上げた知識、スキルを適用し考察を行なっている。
評価：　可（69～60 点）	講義に最低 5 回以上出席。講義内容の基本を理解している。実務で応用できる基礎的なスキルは身につけているが、現実的な問題解決をするには理解不十分な点が見受けられる。クラス発言はあるが少ない。レポートは提出されているが講義で学んだ内容が十分生かされているとは評価できない点が見受けられる。
評価：不可（59 点～）	講義の出席が半分以下（4 回以下）。講義の参加時の発言および修了レポート内容から判断して講義の全体的内容の理解が水準に達していない。修了課題レポートを未提出。
留意点 /Additional Information	クラスでの発表やディスカッションなどに積極的に参加しクラス全体の学びの向上に貢献すること。

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	インサイトコミュニケーション		
サブタイトル/Sub Title	図解コミュニケーション力を身につけ洞察力を磨く		
英文科目名/Course Title(Eng.)	インサイトコミュニケーション(Insight Communication)		
教員/Instructor	久恒啓一	E-mail	hisatune@gmail.com
科目群/Course Classification	実践知考具/顧客創造	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

文章と箇条書きを中心とするコミュニケーションの欠如と混乱を克服する「図解コミュニケーション」の考え方と技術を学ぶ。時代認識と世界認識を題材に、ビジネスの現場で生起する様々の問題を解決する論理的思考力と洞察力を、実践を通じて身に付け、知の再武装のための武器を身につける。

到達目標/Course Goals

時代認識と世界認識に対する深い理解と実践的教養を身につける。具体的には、新聞の社説や「日本の論点」（文藝春秋）の論文などを 1 枚の図解として表現できるまでになる。

授業形態 /Form of Class	講義・グループディスカッション・グループワーク・プレゼンテーション・双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	無
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	復習：まとめと感想のフェイスブックへの書き込み。制作した図解の修正作業。		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講　図解コミュニケーション概論	
概要	図解コミュニケーションの理論を学ぶ
事前、事後学習ポイント	事後学習：まとめと感想のフェイスブックへの書き込み。制作した図解の修正。
詳細	文章と箇条書きの問題点。図解思考の有効性。具体例の提示。 マルと矢印の使い方。
第 2 講　私の仕事	
概要	受講者自身の仕事を題材に、図解の技術を学ぶ。
事前、事後学習ポイント	事後学習：まとめと感想のフェイスブックへの書き込み。制作した図解の修正。
詳細	各人が取り組んでいる仕事を図解で表現する実習。 個人作業。グループディスカッション。全体発表と講評。
第 3 講　政治	
概要	主要 4 紙・新聞の政治記事を図解しグループディスカッション、プレゼン。
事前、事後学習ポイント	事後学習：まとめと感想のフェイスブックへの書き込み。制作した図解の修正。
詳細	割り当てられた政治記事を図解で理解し表現する。 各人の個人作業。グループでのプレゼンと議論。全体発表と講評。
第 4 講　経済	
概要	主要 4 紙の経済記事を図解し、グループディスカッション、プレゼンテーション。
事前、事後学習ポイント	事後学習：
詳細	割り当てられた経済記事を図解で理解し表現する。 個人ワーク、グループプレゼン、ディスカッション。全体発表。
第 5 講　図解文章法	
概要	図解を用いた修士論文の書き方講座。
事前、事後学習ポイント	事後学習：まとめと感想のフェイスブックへの書き込み。制作した図解の修正。
詳細	図解で論文全体の構想と関係を把握する。 完成した図解を見ながら文章化する作業を体験する。
第 6 講　文化	
概要	日本文化に関する資料を題材に図解に取り組み、プレゼンテーション。
事前、事後学習ポイント	事後学習：まとめと感想のフェイスブックへの書き込み。制作した図解の修正。
詳細	割り当てられた日本文化に関する記事を題材に図解で表現する。 個人ワーク、グループプレゼン、ディスカッション。全体発表。
第 7 講　選挙公約	

概要	選挙に際し、政党の綱領・公約を図解し、プレゼンと議論。
事前、事後学習ポイント	事後学習：まとめと感想のフェイスブックへの書き込み。制作した図解の修正。
詳細	割り当てられた選挙公約を題材に図解で表現する。 個人ワーク、グループプレゼン、ディスカッション。全体発表。
第 8 講　日本の論点	
概要	「日本の論点」（文春）を題材に図解、プレゼン、議論。
事前、事後学習ポイント	事後学習：まとめと感想のフェイスブックへの書き込み。制作した図解の修正。
詳細	割り当てられた小論文を理解しながら図解で表現する。 個人ワーク。グループワーク。全体発表。
教科書 /Textbook	毎回資料を配付
指定図書 /Course Readings	「図で考える人は仕事ができる」（日本経済新聞出版社）
参考文献・参考 URL /Reference List	久恒啓一の著作 久恒啓一図解 Web：http://www.hisatune.net
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席率 50%／講義議論参画度 25%／最終レポート 25%　3 点の総合評価 インサイトコミュニケーション 2018 のフェイスブックにおいて、評価のコメントを返す。
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	授業内での議論への参画度が高く、プレゼンも極めてレベルが高い。
評価：　良（79～70 点）	授業内での議論に積極的に参加している。
評価：　可（69～60 点）	授業内での議論への参加ができている。
評価：不可（59 点～）	出席不良。授業への取り組みが芳しくない。
留意点 /Additional Information	≪読む・書く＋聴く・話す≫コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので議論には積極的に参画すること。 毎回実習を行うなかで力をつけていくので、毎回の出席が望ましい。

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	Web マーケティング戦略		
サブタイトル/Sub Title	実践的ウェブビジネスのアプローチ		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Web Marketing		
教員/Instructor	土屋有	E-mail	happy@cc.miyazaki-u.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具/顧客創造	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

受講生の担当事業及び企業戦略をウェブマーケティングの視点から構想、構築する力を身につける。ウェブマーケティングの本質を理解し、事業成功のための要諦の理解と実現性の高い事業計画をたてるための実践理論および実現力を習得する。

到達目標/Course Goals

顧客視点を持ちながら、技術革新とライフスタイルの変化を事業機会（危機回避）にどのように活かすべきかがマーケティング担当者及び経営判断をするべき立場の者は求められている。本講義では、スピード感をもって変化するマーケットへの対処法について具体的な実践的な力を限られた時間で獲得する。ウェブマーケティング基礎からモデルケースとなるウェブビジネスを展開する企業の担当者をゲストに迎え、ケーススタディを元にしたディスカッション形式で学ぶ。講義後半では事業担当者がぶつかる壁とその対処法を身に付ける。また、受講生自らの事業についてウェブマーケティングを活用した事業企画の最終発表とフィードバックを行う。

授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション、プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	現時点で予定なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	講義でのプレゼンテーションの資料作成、資料・図書の熟読、調査、まとめ。		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	オリエンテーション／ウェブマーケティングの歴史と生態系
事前、事後学習ポイント	自社内、市場環境においての分析
詳細	受講生、教員のオリエンテーション、Web マーケティングの変遷
第 2 講	
概要	ウェブマーケティングの活用変遷／KPI マネジメント
事前、事後学習ポイント	自社における KPI マネジメントについての確認と構造化
詳細	ゲストを招いての KPI マネジメントについての事例とディスカッション
第 3 講	
概要	ウェブマーケティング基礎１：EC 事業
事前、事後学習ポイント	個人として法人としての EC 利活用事例についての確認
詳細	電子商取引の変遷からみる Web マーケティングの変化事例とディスカッション
第 4 講	
概要	ウェブマーケティング基礎２：プラットフォーム事業
事前、事後学習ポイント	第３講後半で提示される課題についての準備
詳細	この１０年において特に変化しているプラットフォーム型ビジネス事例とディスカッション
第 5 講	
概要	ウェブマーケティング基礎３：ソーシャルネットワーク・メディア事業
事前、事後学習ポイント	第４講後半で提示される課題についての準備
詳細	日常において活用されるようになっているソーシャルネットワーク・メディアの構造と活用モデルについて事例分析とディスカッション
第 6 講	
概要	ウェブマーケティング実践事例と事業計画
事前、事後学習ポイント	ゲストについての事前情報収集とケース分析

詳細	Web ビジネス業界を中心としたベンチャーキャピタリストを招いての講義とディスカッション
第 7 講	
概要	受講者の事業におけるウェブマーケティング活用企画の発表
事前、事後学習ポイント	自社事業におけるウェブマーケティングを活用した改善施策についてのプレゼンテーション準備
詳細	講義受講生によるプレゼンテーションとフィードバック、ディスカッション
第 8 講	
概要	発表内容補足、講義振り返り
事前、事後学習ポイント	第 7 講の補足と確認
詳細	発表者向けのフィードバックと講義振り返り
教科書 /Textbook	なし。適宜資料配布。
指定図書 /Course Readings	講義において提示。
参考文献・参考 URL /Reference List	参考図書：中澤功著『体系 ダイレクトマーケティング』ダイヤモンド社 2005 年、橋本大也ほか共著『新・データベースメディア戦略。オープン DB とユーザーの関係が最強のメディアを育てる』インプレスジャパン社 2008 年、中山淳雄著『ソーシャルゲームだけがなぜ儲かるのか』PHP ビジネス新書 2012 年、グロービス経営大学院『グロービス MBA マーケティング』ダイヤモンド社 2009 年
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席（30%）、授業内での議論参加（40%）、プレゼン内容（30%）
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： 優（100～80 点）	Web マーケティング戦略活用に意欲があり、議論・プレゼン内容が優れている。
評価： 良（79～70 点）	Web マーケティング戦略活用に意欲があり、議論・プレゼン内容が良い程度。
評価： 可（69～60 点）	Web マーケティング戦略活用に意欲があり、議論・プレゼン内容が平均程度。
評価：不可（59 点～）	出席不良で、議論・プレゼン愛用に課題が多い。
留意点 /Additional Information	**受講時点で具体的な問題意識を持っていることを前提としている科目です。**

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	戦略ＰＲマーケティング		
サブタイトル/Sub Title	戦略ＰＲの概念の理解と応用		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Strategic Public Relations Marketing		
教員/Instructor	久保山路子	E-mail	michi_michiko_1003@yahoo.co.jp
科目群/Course Classification	実践知考具／顧客創造	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

マーケティングにおけるコミュニケーションのパフォーマンスを最大化するために「ＰＲの戦略的な活用」について学びます。概念理解、ワークショップによる体感学習を経て、ＰＲの設計や応用を体得できることを目的とします。

到達目標/Course Goals

広告と広報（ブランドＰＲ）の役割機能を理解し、「戦略ＰＲの設計」を読み解く力をつけます。メディア目線、視聴者目線を意識したコミュニケーションスキルを学び、ご自身の業務や将来ビジョンに活かす応用力獲得を目指します。

授業形態 /Form of Class	講義、ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ、ｸﾞﾙｰﾌﾟﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ、ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	あり（1 講義） 詳細は別途提示
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	講義時のプレゼン資料作成、事例や資料の読込み		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	オリエンテーション
事前、事後学習ポイント	事後学習：　講義ポイントの復習、理解
詳細	①　受講生・教員の自己紹介とオリエンテーション　②ＰＲの概念理解を深める事例学習
第 2 講	
概要	広告と広報の役割機能を理解する
事前、事後学習ポイント	事前学習：好きな広告、優れた広報をひとつ探す
詳細	①　マーケティングにおける広告と広報の役割機能　②広報の力、おもしろみ
第 3 講	
概要	新機軸を創る広報戦略
事前、事後学習ポイント	事前学習：あらかじめ指定する商品（またはサービス）について理解してくる
詳細	①　新機軸とは　②　戦略ＰＲの設計　③　広告との連携
第 4 講	
概要	所属カテゴリーから、ダントツへ突破する戦略ＰＲ
事前、事後学習ポイント	該当事例の探索　（自分なりに解釈し、理解の土壌を準備する）
詳細	①　突破する力と仕掛け　②価格弾性値を越える価値
第 5 講	
概要	社会価値の底上げ
事前、事後学習ポイント	事前学習：　商品パフォーマンスの価値、社会価値　を考える
詳細	①　社会価値について　②　共感、リスペクト　③　ユーザー評価、ノンユーザー評価
第 6 講	
概要	戦略ＰＲの設計
事前、事後学習ポイント	戦略ＰＲの題材検討
詳細	①　設計図の立案　②　実装の要件　③　ワークショップ
第 7 講	
概要	戦略ＰＲの応用
事前、事後学習ポイント	自身の仕事への応用、活用を考える
詳細	①　テーマ選定　②　プレゼン　③　双方向ディスカッション

第 8 講	
概要	課外学習　＜実施のタイミングは受講生と相談の上、決定＞
事前、事後学習ポイント	＊別途案内
詳細	＊別途案内
教科書 /Textbook	なし
指定図書 /Course Readings	適時に示す
参考文献・参考 URL /Reference List	適時に示す
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席率 40％／授業内議論・グループワーク参加 30％／プレゼン内容 30％
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	戦略ＰＲの概念理解が深く、議論・プレゼン内容が優れている／応用力が獲得できた
評価：　良（79～70 点）	戦略ＰＲの概念理解ができ、議論・プレゼン内容が良い／応用について理解できた
評価：　可（69～60 点）	戦略ＰＲの概念理解がほぼでき、議論・プレゼン内容が平均程度
評価：不可（59 点～）	出席不良で、議論・プレゼン内容に不足が多い
留意点 /Additional Information	なし

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	モビリティ・マーケティング		
サブタイトル/Sub Title	移動空間に生きる、都市型生活者の攻略法		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Mobility Marketing		
教員/Instructor	加藤肇	E-mail	Kato-h@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具／顧客創造	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

駅ナカ、駅ビル、駅直結のショッピングセンターなど。これまで移動（通過）するだけだった駅や駅周辺エリアが商業施設に生まれ変わり、都市特有のマーケットとして急激な拡大を遂げている。モビリティマーケットと名付けたこの移動空間上のマーケットついて、規模や消費動向、背景にあるユニークな消費者インサイト（深層心理）などを理解するとともに、その攻略法であるモビリティマーケティングを、講義とグループワークを通じて体得する。

到達目標/Course Goals

ディプロマポリシーでの『実践知』『情報収集能力と分析能力』の取得を達成するために、消費者インサイト（深層心理）の発見法、移動者マーケティング、O2O（online to offline）、モバイルマーケティング、仕掛学など、モビリティマーケティングを推進する上で有効な最新のソリューション（≒実践知）をマスターする。合わせて、これらのソリューションを活用し移動空間上のマーケット活性化に向けたモビリティマーケティングのプランニングを実践する。

授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション	学外学習 /Off-Campus Learning	無し
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	講義内容の理解促進のための簡単なフィールドワーク、講義内容の整理、参考図書の閲覧、提案書作成など		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	モビリティマーケティングの意義
事前、事後学習ポイント	都市の変化を学び、モビリティマーケティングの意義を理解する
詳細	今、なぜモビリティマーケティングなのか。戦前、戦後の首都圏の都市変化を学び、そこからモビリティマーケケットという新しい市場が生まれた背景を理解する。また、今後の都市や社会の変化を考察し、当該マーケットの可能性について意見交換する。 課題：各自のモビリティマーケットでの消費実態をレポートし、第 2 講の冒頭で発表。
第 2 講	
概要	モビリティマーケットの消費特徴とインサイト
事前、事後学習ポイント	特有のインサイトや行動パターンなど、モビリティマーケットの本質を理解する
詳細	定量調査を通じて発見したモビリティマーケットの消費特徴を把握。その上でビジュアル刺激法や行動観察調査等、注目を集める調査法から解き明かされたインサイトについて探求しモビリティマーケットの本質を理解。また、実際にインサイト発見法を取得する。 課題：各自、駅ナカ、駅ビルを訪問し店舗の特徴やそこでの消費の実態を観察する。
第 3 講	
概要	駅ナカ、駅ビルのビジネスモデル
事前、事後学習ポイント	駅ナカ、駅ビルならではのビジネスモデルやコミュニケーションを理解する
詳細	モビリティマーケット特有の消費を上手く取り込む駅ナカ、駅ビルのビジネスモデルについて詳しく把握する。なぜ、駅ナカは成功したのか。駅ビル躍進の背景にどんな店舗作りやマーケティング上の工夫があるのか。モビリティマーケットに存在する商業施設の真の成功要因を理解する。また、駅ナカ、駅ビルイノベーションアイデア開発にチャレンジする。
第 4 講	
概要	モビリティマーケティングのソリューション
事前、事後学習ポイント	モビリティマーケティングを推進する友好なソリューションを理解する
詳細	モビリティマーケティングを推進するための様々なソリューションを理解する。移動者マーケティング、O2O（online to offline）、モバイルマーケティング、仕掛学などの理解を深めると同時に、これらを活用したプランニングのフレームワークを学ぶ。また、移動者マーケティングのプランニングにチャレンジする。
第 5 講	
概要	デジタルマーケティングの現状と実践

事前、事後学習ポイント	スマートフォンアプリのアイデア開発を体験し理解する
詳細	急激に進化し、また拡大するデジタルマーケティングの現状を理解する。モビリティマーケットと相性の良いスマートフォンのアプリ開発法についてその理論を学ぶとともに、実際にアプリのアイデア開発のプランニングにチャレンジする。 ※第 5 講は特別講義として、デジタルマーケティングの専門家をお招きする予定。
第 6 講	
概要	モビリティマーケティング実践ワークショップ①
事前、事後学習ポイント	消費者インサイトを発掘する
詳細	グループワークを通じて、モビリティマーケティングのプランニングを体験する。マーケティング課題に対して、ターゲット規定→インサイト発掘→プロポジション（アイデア提案）→コミュニケーション開発の順で進めていく。ワークショップ①では、ターゲットの規定とインサイト発掘を中心に行う。
第 7 講	
概要	モビリティマーケティング実践ワークショップ②
事前、事後学習ポイント	インサイトに基づくプロポジション（アイデア提案）をマスターする
詳細	引き続きグループワークを通じて、モビリティマーケティングのプランニングを体験する。ワークショップ②では、抽出したインサイトに基づく効果的なプロポジション（アイデア提案）とターゲットに確実に伝わる効果的なコミュニケーション開発を進め、プレゼンテーションにむけた提案書の作成に取り掛かる。
第 8 講	
概要	モビリティマーケティング実践ワークショップ③
事前、事後学習ポイント	モビリティマーケティングのソリューションを反芻し再確認する
詳細	これまでのグループワークを通じて導き出されたインサイト、プロポジション（アイデア提案）、コミュニケーションについて提案書を基にグループごとにプレゼンテーションする。各チームのアイデアにつき意見交換を進め相互に評価。最後に、モビリティマーケティングの未来像など議論し終了。
教科書 /Textbook	無し。適宜、講義資料を配布する。
指定図書 /Course Readings	無し。
参考文献・参考 URL /Reference List	「移動者マーケティング」加藤肇、他著、日経ＢＰ社 「仕掛学」松村真宏著、東洋経済新報社
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	出席（30%）、授業内での議論参加（30%）、プレゼンテーション内容（40%）
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： 優（100～80 点）	モビリティマーケティングを理解し、授業内での議論、提案内容が優れている。
評価： 良（79～70 点）	授業内での議論、プレゼンテーション内容が良い。
評価： 可（69～60 点）	授業内での議論、プレゼンテーション内容が普通。
評価：不可（59 点～）	出席不良で、授業内の議論、プレゼンテーション内容が不十分。
留意点 /Additional Information	なし。

講義年度/Year	2018 年	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	日本の流通構造とサプライチェーン・マネジメントのメガトレンド		
サブタイトル/Sub Title	流通構造の形成過程を理解し、今後のメガトレンドを考える		
英文科目名/Course Title(Eng.)	The deistribution structure and mega-trend of Supplychain management		
教員/Instructor	西田邦生	E-mail	k.nishida@kpost.kokubu.co.jp
科目群/Course Classification	実践知考具/顧客創造	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

ライフラインともいえる流通構造は様々な要件で成り立っています。長い歴史や制度の中で形成されたベーシックな構造に、国内外の政治・経済や生活者のニーズ、商品の需給関係、あるいは流通技術やｅコマース等の技術革新が複合して流通構造が形成され変化します。これらの要件や変化の本質を深く理解し、より広い視野で実践的な思考をする能力を磨き、ひいては確固としたイノベーターシップを実践するための知のバックボーンを育成することを目指します。

到達目標/Course Goals

①流通の歴史と流通構造の変化を通じて歴史観に裏付けされた実践的な教養と②将来の様々な問題を本質からとらえる態度を身に着けること。③強い気持ちで革新を行うイノベーターシップはどのようなマインドや組織の中で磨かれるかを理解すること④講義の様々なデータを通じて原資料や適切なデータでモノを考える情報収集能力と分析能力の重要性を理解すること。

授業形態/Form of Class	講義を主体に、随時グループディスカッションを行う	学外学習/Off-Campus Learning	有り（受講生の当該土曜日の午後の授業の予定で変更もあります）
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	事前に配布する講義資料による予習		

講義概要/Course Description　全 8 講　第 1 講～第 7 講は各 180 分　第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	１．オリエンテーション　２．日本の流通構造の特徴
事前、事後学習ポイント	当日配布する資料をよく理解する。とくに日本の製・配・販３層の流通構造の理解
詳細	①受講生・教員の自己紹介とオリエンテーション　②日本の流通構造の特徴とサプライチェーンマネジメントの歴史と変遷について講義し、その構造の功罪をディスカッション
第 2 講	
概要	スーパーマケット出現以降の日本流通の変革について
事前、事後学習ポイント	ＥＯＳ発注による店舗オペレーションとＰＯＳ分析によるマーケティングについて理解する。
詳細	①第二次世界大戦後の日本流通の３つの変革期とその内容を講義 ②８０年代におけるチェーンストアのシステム化の影響についてディスカッション
第 3 講	
概要	業態別小売業の現状と課題
事前、事後学習ポイント	①業態の変化の本質を理解 ②チェーンストア理論の限界と今後の組織運営のあり方
詳細	①小売業の業態区分の解説と近年における業態の崩壊とその課題について分析 ②本部主導のＰＤＣＡを基盤としたチェーンストア理論の限界と今後の価値創造型の組織運営のあり方について講義。その後グループディスカッション
第 4 講	
概要	物流センター視察（各受講生の土曜午後の履修実態によって変更する場合があります）
事前、事後学習ポイント	物流センターのオペレーションとシステム、マテハン機器の実状を学ぶ
詳細	東京近郊の消費財の物流センターを視察。また現場にて消費財の物流センターの概要と設備・運営のポイントについて講義・質疑応答を行う。
第 5 講	
概要	日本の流通の歴史　（江戸～明治中期）

事前、事後学習ポイント	①江戸期の流通形成の背景と必然性を理解 ②明治維新によるの流通の変化の要因とその担い手について学ぶ
詳細	①江戸の政治体制と密接に結びついて発展した江戸・大坂間の流通の成長過程を講義 ②２７０年の長期にわたる閉ざされた太平の世の中で造り込まれた「拡大されたクローズドシステム」がその後の日本の流通に及ぼした影響を講義し、ディスカッションで考察。
第 6 講	
概要	１．日本の流通の歴史（明治末～戦後）　２．欧米、アジア諸国の流通構造
事前、事後学習ポイント	①明治以降の流通の担い手の変化を把握　②諸外国と日本の流通構造の違いを理解
詳細	①明治中期以降の流通の変化と担い手について解説するとともに、戦中から戦後の統制経済が日本に及ぼした影響について事例を挙げて講義する。 ②欧米、中国、アセアン諸国の流通を日本と比較して解説する。
第 7 講	
概要	ネットビジネスの出現により２元化するサプライチェーン
事前、事後学習ポイント	①　オムニチャネルの本質の理解　②ラストワンマイルの課題　③ｅコマースの将来展望
詳細	①i-phone が登場して以来の消費行動の変化とリアルとネットの流通構造の２元化の状況をアマゾン、楽天、ＺＯＺＯタウン、メルカリを中心に解説。 ②ヤマトの宅配便の綻びに象徴されるラストワンマイルの行き詰まりについて業界を俯瞰して解説し、解決策を討議する。 ③e コマース化率を諸外国と比較・考察しながら日本のｅコマースの将来を展望する。
第 8 講	
概要	サプライチェーンのメガトレンド
事前、事後学習ポイント	①　第７講の内容をよく理解して授業に臨む　②メガトレンドを総合的に理解
詳細	国際的な３つのメガトレンドを解説し、ＩＣＴ、ＡＩ化に向かうトレンドの中にあって、どのようにイノベーターシップを発揮すべきか、またその方向性をどうとるべきかについて、具体的な流通関連の事象を交えながら考える。
教科書 /Textbook	なし。　講義（土曜日）３日前の水曜日にメールで講義資料を配布。
指定図書 /Course Readings	「ロジスティクス・イノベーション」高橋輝夫＋ネオロジスティクス共同研究会　白桃書房　第６章　卸の経営と日本型サプライチェーン・マネジメントへの道　（西田邦生著）
参考文献・参考 URL /Reference List	「第四の消費」三浦展　朝日出版 講談社日本の歴史１９「文明としての江戸システム」鬼頭宏　講談社
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席（５０％）　授業での議論・グループワーク（３０％）レポート内容（２０％）
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	流通構造と今後のトレンドについて理解し、授業に積極的に参加、レポートも優れている
評価：　良（79～70 点）	流通構造について理解し、授業での議論参加、レポートも一定の水準にある
評価：　可（69～60 点）	流通構造について理解し、レポートの内容が可
評価：不可（59 点～）	出席不良で、授業の議論参加及びレポート内容が不十分
留意点 /Additional Information	提出レポートはメールでフィードバックするとともに私の小論文を配布します。

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	最新ロジスティクス戦略		
サブタイトル/Sub Title	アマゾン、ザラ、ニトリなどの物流戦略を研究する		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Super Logistics Strategies		
教員/Instructor	角井　亮一	E-mail	rio@e-logit.com
科目群/Course Classification	実践知考具/顧客創造	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course			
戦略物流（ロジスティクス）をベースに、成長ビジネスモデルを構築させている事例を学び、理解、研究し、『イノベーターシップ』を養成する。			
到達目標/Course Goals			
多くの最新事例を学んでもらうと同時に、日々の生活の中で物流を意識してもらい、物流視点での『問題解決』ができるようになってもらうのが最終目的。			
授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション、プレゼンテーション、事前課題、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	ネット通販での購入体験や生活の中で発見した物流工程の情報整理、指定図書の熟読		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可	
第 1 講	
概要	戦略物流の基本を学ぶ①（物流思考）
事前、事後学習ポイント	指定書籍の熟読
詳細	物流思考と戦略物流思考の２つの考え方の中の１つ、「物流思考」を理解する。また、日常の中でどんな物流が存在しているのかに気づけるようにする。発表重視のディスカッションを実施。 宿題①：ネット通販で書籍を買う体験（２社以上）の比較・発表する（１回のみ） 宿題②：日常生活で気づいた物流工程を情報整理し、それを発表する（毎回）
第 2 講	
概要	ファーストフードなどから学ぶ物流効率化
事前、事後学習ポイント	日常で、どこでどんな物流があるのかを観察。指定書籍の熟読
詳細	ファーストフードのお店での、物流を発見・解説。店内オペレーション、食材調達などを物流視点で考える。発言重視のディスカッションを実施。 宿題①を数人が発表し、宿題②を全員が発表
第 3 講	
概要	戦略物流の基本を学ぶ②（戦略物流思考） 物流が、どう商品の売上アップに繋がるか？　どう企業力アップにつながるか？
事前、事後学習ポイント	前回のファーストフードでの物流のヒントから、日常で店舗観測。指定書籍の熟読
詳細	「戦略物流思考」を理解する。アマゾンやアリババが、なぜ物流を重視するのか、企業がどう物流で成長するのかを事例から理解する。発言重視のディスカッションを実施。 宿題①を数人が発表し、宿題②を全員が発表
第 4 講	
概要	消費者行動の変化、流通の変化、ロジスティクスの変化 「流通が物流を変える」
事前、事後学習ポイント	物流で成長している会社を、文献（インターネット、雑誌、書籍など）で研究。 指定書籍の熟読
詳細	個人商店→総合スーパー・百貨店→専門店（カテゴリーキラー）→ネット通販→オムニチャネルという、流通の進化における、物流の進化を学ぶ。なぜ進化することになったかの背景を学ぶ。発言重視のディスカッションを実施。 宿題①を数人が発表し、宿題②を全員が発表
第 5 講	
概要	国内ネット通販企業の物流競争 Amazon 対楽天、Yahoo!&アスクル
事前、事後学習ポイント	買い物で訪問した店舗の物流を詳しく観察。写真でも報告と提出。指定書籍の熟読
詳細	国内のネット通販の競争を物流視点で整理し、「なぜ物流に強い会社が、ネット通販でも強いのか」を理論的に理解する。発言重視のディスカッションを実施。

	宿題①を数人が発表し、宿題②を全員が発表
第 6 講	
概要	ラストワンマイルが勝負の宅配ビジネスとロジスティクス セブン&アイグループのオムニ 7、カクヤス、宅弁ビジネス、ネットスーパー、UberEATS
事前、事後学習ポイント	ネット通販での購入体験を、比較。物流の違いを理解する。指定書籍の熟読
詳細	なんとなく理解している宅配ビジネスを、整理建てて理解する。また競争ポイントの理解を深める。発言重視のディスカッションを実施。 宿題①を数人が発表し、宿題②を全員が発表
第 7 講	
概要	米国オムニチャネル事例と最新物流ビジネス事例の紹介 米国流通事例、ネット＆リアルの競争、アマゾンの対抗戦略、UBER、Instacart、Curbside、Google Express
事前、事後学習ポイント	宅配を体験。授業中に宅配を注文して、実体験する。指定書籍の熟読
詳細	オムニチャネルはサプライチェーンだという本質を理解する。新しく生まれている物流ビジネスを知ってもらう。発言重視のディスカッションを実施。 宿題①を数人が発表し、宿題②を全員が発表
第 8 講	
概要	成長企業のサプライチェーンを学ぶ 事例研究「ザラ、ニトリ、アイリスオーヤマ」
事前、事後学習ポイント	世界展開する 3 社を事前にインターネット、雑誌、書籍などで研究。指定書籍の熟読
詳細	ザラ、ニトリ、アイリスオーヤマなどの物流戦略を学び、成長する企業の物流戦略の共通項を討論する。発言重視のディスカッションを実施。 宿題①を数人が発表し、宿題②を全員が発表
教科書 /Textbook	特になし。テキストは、GoogleDrive より後日ダウンロード
指定図書 /Course Readings	「物流がわかる」（日本経済新聞社）
参考文献・参考 URL /Reference List	「アマゾンと物流大戦争」（NHK 出版）、「オムニチャネル戦略」（日本経済新聞社）、 「図解 基本からよくわかる物流のしくみ」（日本実業出版社）
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席率 50%／講義議論参画度 20%／発言と発表の内容 30％
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： 優（100～80 点）	7 回以上以上の出席。毎回発言。毎回の宿題と発表内容が熟考されている
評価： 良（79～70 点）	6 回以上の出席。毎回発言。毎回の宿題に新規性があり的確である
評価： 可（69～60 点）	6 回以上の出席（2 回までの欠席）。毎回発言。毎回宿題の事前提出
評価：不可（59 点～）	3 回以上の欠席（5 回以下の出席）、または、発言が不十分
留意点 /Additional Information	なし

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	コンタクトセンター		
サブタイトル/Sub Title	顧客接点としてのコンタクトセンターを経営に活かす		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Innovation through Contact Center Transformation		
教員/Instructor	宮﨑　義文	E-mail	miyay@ep-next.com
科目群/Course Classification	実践知考具/顧客創造	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

コンタクトセンターの顧客接点は、企業にとってお客様とのビジネスの最前線である。顧客接点は、お客様を知るだけでなく、企業改革の起点にもなる。顧客接点は電話からメール、WEB へと変化しスマートフォンの普及でさらに広がりを見せており、企業にとっての重要性が増している。ただし、これまでコンタクトセンターは経営層から過小評価されてきたケースもあり十分には活用されてこなかった。コンタクトセンターをどう活用していくべきかを理解することは、これから経営を担う人材にとって必須知識である。本講義では、コンタクトセンターの基礎を学んだ上で、事例研究を通じてコンタクトセンターの企業経営への活用方法を実践的に習得する。また、我が国が直面している労働人口の減少や急速に進む人工知能(AI)等の高度テクノロジーは、コンタクトセンターに大きな影響を与え始めている。このような時代認識のもと、本講義では人工知能と人のそれぞれが得意とする領域を理解した上で、人工知能の活用についても学ぶ。

到達目標/Course Goals

企業の経営やマネジメントに関わる人材に必要な顧客接点に関する実践知を獲得し、演習により顧客接点としてのコンタクトセンターを企業経営に活かす基礎的な実践能力を獲得することを目標とする。

授業形態 /Form of Class	講義、発見学習、グループディスカション、グループワーク、プレゼンテーション、双方向コミュニケーション	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	講義に先だって調査した内容や検討した内容のレポート作成、講義で学んだ手法を使った分析結果や講義後に考察した内容のレポート作成し提出		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	コンタクトセンターの基礎
事前、事後学習ポイント	自社のコンタクトセンターあるいは、他社のコンタクトセンターのサービス機能を調査する。さらに、利用者に扮して、そのサービスを実体験し、その経験をレポートする。
詳細	コンタクトセンターの基礎を学習する。コンタクトセンターとは何かを定義し、顧客接点としてのコンタクトセンター機能を分析し、コンタクトセンターのサービスの全体像を理解する。経営の視点でコンタクセンターの投資目的、その目的達成に向けたコンタクトセンターの役割、具体的な実現手段を理解する。コンタクトセンターのステークホルダーや構成要素（プロセス、システム、人材等）を理解する。
第 2 講	
概要	経営に貢献するコンタクトセンターの事例研究
事前、事後学習ポイント	事前学習で調べたコンタクトセンターを経営の視点から投資目的と役割・実現手段を分析し、レポートする。
詳細	コンタクトセンターを中心とした企業改革の実例から改革に不可欠な要素について発見学習する。どんな課題に対して、どんなポリシーで改革を進めてきたか？改革で乗り越えなければならない課題は何か？いかにしてそれを乗り越えてきたか？具体事例を通して解き明かしていく。（実務者の講話を聴いて、双方向のディスカッションを通じて考える形をとる）
第 3 講	
概要	コンタクトセンターのサービス分析
事前、事後学習ポイント	コンタクトセンターを活用した企業改革の事例から、改革に必要不可欠な要素をリストアップする。改革に向けて、それらを具体的にどう組み立てたらいいかを検討し、レポートする。
詳細	コンタクトセンターのサービス分析の手法を学習する。サービス分析に必要なサービスプロセスの分解、お客様満足度に大きく関与するお客様の事前期待の分類、事前期待によるお客様のセグメンテーション、サービスのコスト構造について学習する。お客様・経営・従業員にとってのサービスの価値は何かを議論し、コンタクトセンターのサービス価値を考える。
第 4 講	
概要	コンタクトセンターの経営への活用方法 I
事前、事後学習ポイント	コンタクトセンターの分析手法を利用して、事前学習で調査したコンタクトセンターのサービスプロセスを分解する。また、お客様の事前期待は何か？事前期待でお客様をセグメンテーションする。コンタクトセンターのサービスの価値は何かを考え、レポートする。
詳細	コンタクトセンターの活用方法、コンタクトセンターの評価方法を実践知として習得する。 経験価値提供型 I（お客様の負担を徹底的に低減することで、お客様の経験価値向上と売上/経費率の改善を図るモデル）、経験価値提供型 II（お客様の心に響くサービス提供により高付加価値化と差別化を

	図るモデル)、マーケティング型（顧客の声：VOC を活用し、お客様のニーズ把握や製品・サービスの改善に役立てるモデル）の３つの活用モデルについて事例を交えて学習し、実践知として習得する。
第 5 講	
概要	コンタクトセンターの経営への活用方法Ⅱ
事前、事後学習ポイント	事前学習で調べたコンタクトセンターについてコンタクトセンターの経営への活用方法を検討し、レポートする。
詳細	セールス領域での活用モデルとして、セールス支援型（チャネル特性に合せたチャネル最適化を図る活用モデル)、ダイレクトセールス型（顧客の事前期待によるセグメンテーションに合わせたプロセス最適化を図る活用モデル）の２つの活用モデルについて事例を交え、企業経営への活用方法、評価方法について実践知として習得する。また、プロセスマネジメント型（コンタクトセンターによる情報の集中化と複数プロセスの集中コントロールとによりプロセス全体最適化を図る活用モデル）のモデルについて、保守サービスを事例に企業経営への活用方法、評価方法について実践知として習得する。
第 6 講	
概要	人材育成への活用と人工知能の活用
事前、事後学習ポイント	「人材育成への活用」と「人工知能の活用」を事前学習で調べたコンタクトセンターについて検討し、レポートする。
詳細	コンタクトセンターを顧客対応の経験の場と捉え、お客様志向の人材育成を加速させるモデルについて、事例を交えて学ぶ。現在、人工知能と呼ばれているものを分類し、人が得意とする領域と人工知能が得意とする領域を理解し、事例を交えてコンタクトセンターへの人工知能の活用効果と留意点を学ぶ。これまで学習してきたコンタクトセンターモデルへの人工知能の活用を議論し、人工知能を用いたイノベーションの可能性について展望する。
第 7 講	
概要	演習Ⅰ：自社の経営課題とコンタクトセンターの活用
事前、事後学習ポイント	自社の経営課題は何かを中期計画や各種分析から把握する。経営課題に対して、現状のコンタクトセンターがどのような役割を担って、どのような経営貢献を果たしているかを分析し、レポートする。（自社にコンタクトセンターがない場合には、教材として事例を使用）
詳細	事前学習で分析した自社の経営課題とコンタクトセンターの現状から、現状の問題点・課題を抽出する。経営課題へのコンタクトセンター活用のあるべき姿を描き、改革ポイントを抽出する。実際にどのように改革していくか実行計画を策定し、これらを第 8 講でプレゼンテーションする。（この間、グループでのディスカションを有効活用する）
第 8 講	
概要	演習Ⅱ：コンタクトセンターを活かした改革
事前、事後学習ポイント	第 7 講で策定した改革計画をプレゼンテーションし、フィードバックを受ける。
詳細	自社の経営課題に対してコンタクトセンターを活かした改革施策を策定し、実現に結び付けていく改革計画をプレゼンテーションする。プレゼンテーションのフィードバックやグループディスカションを通じて改革計画をブラッシュアップし、最終レポートとして提出する。
教科書/Textbook	適宜資料を配布する。
指定図書/Course Readings	情報処理学会　ディジタルプラクティス論文誌　コンタクトセンター特集号　２０１１年７月号「進化を続けるコンタクトセンター」、２０１４年１月号「経営に貢献するコンタクトセンター」、　２０１７年４月号（予定）「価値を創造するコンタクトセンター」
参考文献・参考 URL /Reference List	「顧客はサービスを買っている」諏訪良武著、ダイヤモンド社、「サービスの価値を高めて豊かになる」諏訪良武著、リックテレコム社
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席（40%)、授業内での議論参加(30%)、プレゼンテーション内容とレポート（30%)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	コンタクトセンターを経営に活用して成果を出し、授業内での議論参加やプレゼンテーション内容が優れており、到達目標に十分達している。
評価：　良（79～70 点）	授業内での議論参加やプレゼンテーション内容が良く、到達目標に達している。
評価：　可（69～60 点）	授業内での議論参加やプレゼンテーション内容が普通で、到達目標にほぼ達している。
評価：不可（59 点～）	出席不良で、授業内での議論参加やプレゼンテーション内容が不十分で、目標に達せず。
留意点 /Additional Information	特になし

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	BtoB マーケティング		
サブタイトル/Sub Title	価値を起点に、マーケティングの力で新しい時代の BtoB 事業を育む		
英文科目名/Course Title(Eng.)	BtoB business marketing		
教員/Instructor	徳永　朗	E-mail	akira19toku12@gmail.com
科目群/Course Classification	実践知考具/顧客創造	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

まず BtoB 事業の本質・特性を踏まえた、固有のマーケティングの考え方や勘所を学びます。そしてそれを踏まえ、イノベーション経営やデジタル事業変革などの今日的なビジネス環境変化、対応すべき課題をどう捉え、事業・製品および企業レベルでの戦略的なマーケティングの計画・実践にどう反映させるかに関わる知の体得を目的とします。事例と理論にもとづき、受講者が自らの職務・関心に即して考えを巡らせ、課題設定、解決案策定に取り組めるよう授業を構成します。

到達目標/Course Goals

マーケティングに関わる基本的な「情報収集能力と分析能力」を基盤に、ビジネスの変化の本質に関わる「時代認識と世界認識」に立って「イノベーターシップ」を発揮すべく、受講者が自ら問を立て、解を導くためナレッジやスキルとしての「実践知」を習得することを目標とします。顧客・社会の視点で、価値を起点に発想する習慣を身につけることは、そのための基本姿勢と位置づけます。

授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション、プレゼンテーション	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	講義内容からの気づきや示唆を整理するミニレポート作成と、一部の回では教科書の事前熟読を求めます。		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	オリエンテーション、BtoB マーケティングの考え方
事前、事後学習ポイント	次回への宿題：今回の講義内容を自分事として考察するミニレポート作成、教科書の次回講義関連部分の熟読
詳細	①受講者の学び・業務・関心の確認、②講義の全体設計、③BtoB ビジネスの特性と課題、④マーケティング戦略・施策設計の基本的考え方
第 2 講	
概要	顧客・市場理解にもとづく戦略立案と STP
事前、事後学習ポイント	次回への宿題：今回の講義内容を自分事として考察するミニレポート作成、教科書の次回講義関連部分の熟読
詳細	①顧客理解のアプローチ、②BtoB における市場セグメンテーションとターゲット戦略、③営業とマーケティングの関係性、〇前回講義に関するミニレポートの発表・議論・フィードバック
第 3 講	
概要	BtoB ブランディング、企業ブランドコミュニケーション
事前、事後学習ポイント	次回への宿題：今回の講義内容を自分事として考察するミニレポート作成、次回講義でのプレゼンテーション作成
詳細	①BtoB 事業におけるブランドの意義・効果、②強いブランドの創出のアプローチ、③技術・イノベーションの持続的活用、④企業ブランドコミュニケーションの目的と事例、〇前回講義に関するレポートの発表・議論・フィードバック
第 4 講	
概要	各部門・各機能へのマーケティング発想の展開
事前、事後学習ポイント	次回への宿題：今回の講義での議論・コメントを反映した中間レポート作成
詳細	①受講者の各人の着眼点・問題意識の提起、②意見交換と体験共有、③価値起点・顧客発想について、〇前回講義に関するレポートの発表・議論・フィードバック
第 5 講	
概要	デジタル事業変革に伴うエコシステム形成の捉え方
事前、事後学習ポイント	次回への宿題：今回の講義内容を自分事として考察するミニレポート作成
詳細	①事業変革の実情とマーケティングへのインパクト、②欧米先進企業の事例、③パートナーとの関係構築の考え方、〇前回講義に関するレポートの発表・議論・フィードバック
第 6 講	

概要	事業のサービス化の捉え方
事前、事後学習ポイント	次回への宿題：今回の講義内容を自分事として考察するミニレポート作成
詳細	①事業のサービス化の諸相、②サービス化の意義と課題、③サービス化に対応するマーケティングの考え方、〇前回講義に関するレポートの発表・議論・フィードバック
第 7 講	
概要	経営レベルで考える BtoB マーケティング
事前、事後学習ポイント	次回への宿題：今回の講義内容を自分事として考察するミニレポート作成、最終レポートのテーマ検討
詳細	①グローバル化への視点、②社会との関係性への視点、③インナーへの視点、〇前回講義に関するレポートの発表・議論・フィードバック
第 8 講	
概要	まとめ、最終レポートに向けた討議
事前、事後学習ポイント	事後学習：最終レポートの作成
詳細	①全体のまとめ、②データマーケティングと情報活用、③最終レポート作成に向けた討議＝個々人の学びの共有、〇前回講義に関するレポートの発表・議論・フィードバック
教科書 /Textbook	余田拓郎（2011）『ＢｔｏＢマーケティング』東洋経済新報社 余田拓郎、首藤明敏（2013）『実践　ＢｔｏＢマーケティング』東洋経済新報社
指定図書 /Course Readings	余田拓郎、首藤明敏（2006）『ＢｔｏＢブランディング』日本経済新聞出版社
参考文献・参考 URL /Reference List	高嶋克義（1998）『生産財の取引戦略』千倉書房 今村英明（2005）『法人営業「力」を鍛える』東洋経済新報社 南知恵子、西岡健一（2014）『サービスイノベーション』有斐閣 余田拓郎（2016）『BtoB 事業のための成分ブランディング』中央経済社 黒岩健一郎、水越康介(2012)『マーケティングをつかむ』　有斐閣 各回の内容に即して適宜紹介します。
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席(20％)、授業での討議・発表(40％)、中間・最終レポート内容(40％)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	事業環境や経営戦略の様々な論点に沿って、適切な課題設定や解決策立案ができる。
評価：　良（79～70 点）	BtoB 事業の本質・特性に即したマーケティングを理解し、実践的かつ今日的な課題認識をもつことができる。
評価：　可（69～60 点）	BtoB 事業の本質・特性と、それに即したマーケティングの姿勢と考え方を理解できる。
評価：不可（59 点～）	出席が一定水準に足らず、発表やクラスの議論への参画度合いに問題がある。
留意点 /Additional Information	マーケティングに関わる基本的な知識は有することが望ましいです。 昨今、「BtoB マーケティング」との簡略的な呼称が一般化しているデータマーケティングの手法や、デジタル化に対応する仕組みの構築を主に扱うものではありません。より広い視点で、マーケティング戦略、マネジリアルマーケティングの視点を研ぎ澄ますための講義です。

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	ヒューマンリソース概論Ⅰ		
サブタイトル/Sub Title	知識創造型企業の人事戦略		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Human resources strategy of knowledge-creating company Ⅰ		
教員/Instructor	徳岡 晃一郎	E-mail	tokuoka@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具/リーダーシップと人事	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

変化とスピードの時代を迎えて、企業にはイノベーションやグローバル化、ダイバーシティを軸にした成長戦略を実現するダイナミックな経営が求められている。その一方で、社内のモチベーションや求心力は危機に瀕している。この壁を乗り越えるには、社員の成長と企業の成長を両輪とした成果主義中心の人事戦略を再構築しなくてはならない。そのような新たな人事のあり方を知識経営の文脈の中で検討し、知識創造型企業への転換にどのように人事が貢献できるのか、経営戦略を実行に移すための鍵となる人事戦略の基本および知識経営時代の新しい人事戦略について理論と事例を基に考える。

到達目標/Course Goals

知識創造型企業への転換に向けて徹底した議論と自社の課題の分析を通じて、ディプロマポリシーでの「実践知」を身に着け、経営戦略を実行に移すための人事戦略を理解し、自社内の環境に落とし込む「志を全うする戦略性と突破力」を達成することを目標とする。

授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション グループワーク、ディベート、 プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	講義内容の整理と指定図書の熟読		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	人事戦略の基礎 1
事前、事後学習ポイント	人事管理の目的、主な領域と課題、これまでの主な人事戦略のフレームワーク
詳細	伝統的な人事管理や、雇用管理、人間関係管理、労使関係管理を学ぶ。また、人事部の役割、人事の在り方、課題を学ぶとともに、グループディスカッションで、人事の役割を再認識する。 宿題：自社の人事組織について調べ、パワーポイントでまとめてくること。 第 8 講までに全員が発表する。
第 2 講	
概要	人事戦略の基礎 2
事前、事後学習ポイント	経営戦略論と人事戦略の関係、知識創造と人事戦略の関係
詳細	IBR model による戦略スタイルと人事戦略、戦略スタイルと人材マネジメント手法の学習。7S モデルによる人事機能の学習。知識創造のプロセス（SECI）の学習。 また、グループワークにより動機づけについて学習し、発表する。 第 1 講で出された宿題のプレゼンテーション①。
第 3 講	
概要	知識創造企業のための切り口：人事機能を別の角度から見てみる 1
事前、事後学習ポイント	評価制度:これまでの評価制度の概要（年功制と成果主義）と功罪。なぜ知が創造されなくなったのか？
詳細	日本の人事制度（職能資格制度）の功罪及び問題点について学ぶとともに、知識創造の観点から日本の人事制度を対照し、違いを明らかにする。 第 1 講で出された宿題のプレゼンテーション②。
第 4 講	
概要	知識創造企業のための切り口：人事機能を別の角度から見てみる 2
事前、事後学習ポイント	職能資格制度の課題と知識創造
詳細	引き続き、日本の人事制度（職能資格制度）の功罪及び問題点について学ぶとともに、知識創造の観点から日本の人事制度を対照し、違いを明らかにする。 2 回にわたる講義を踏まえ、知識創造の観点から見た日本の人事制度について、グループディスカッションをしてもらう。 第 1 講で出された宿題のプレゼンテーション③。
第 5 講	

概要	知識創造企業のための切り口：人事機能を別の角度から見てみる 3
事前、事後学習ポイント	成果主義の課題と知識創造
詳細	成果主義のしくみを抑え、その功罪及び問題点、疑問点について解説する。 そのことを踏まえ、自分たちの現状に照らして、成果主義の問題点をグループディスカッションし、まとめ、発表する。 第 1 講で出された宿題のプレゼンテーション④。
第 6 講	
概要	知識創造企業のための切り口：人事機能を別の角度から見てみる 4
事前、事後学習ポイント	コンピテンシーの新たな潮流
詳細	コンピテンシーの概念を理解し、その功罪及び問題点について解説する。 また、コンピテンシーの新しい役割をもとに、新評価基準の構成を学んだ後、「自分の大事にするコンピテンシー」を作成し、発表、討議する。 第 1 講で出された宿題のプレゼンテーション⑤。
第 7 講	
概要	知識創造企業の人事部の実践事例検討
事前、事後学習ポイント	ゲストスピーカーセッション：知識創造を実践している企業の人事部長を招いて
詳細	知識創造を実践している企業の人事部長を招いての講義。 講義後は、ゲストスピーカーと院生によるセッション（双方向）を行い、現場を理解する。 第 1 講で出された宿題のプレゼンテーション⑥。
第 8 講	
概要	知識創造型人事部のまとめ
事前、事後学習ポイント	知識創造型人事部とはどうあるべきか
詳細	第 1 講から 7 講までの視点を踏まえて、知識創造企業を構築していく上での人事部の役割とその推進の諸条件について、グループディスカッションする。 第 1 講で出された宿題のプレゼンテーション⑦。
教科書 /Textbook	なし。適宜、講義資料を配布する。
指定図書 /Course Readings	「MBB：思いのマネジメント」一條和生、徳岡晃一郎、野中郁次郎著、東洋経済新報社
参考文献・参考 URL /Reference List	「人事異動」徳岡晃一郎著、新潮社 「AI x ビッグデータ人事を変える」福原正大、徳岡晃一郎著、朝日新聞社
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席(40％)、授業内での議論参加(30％)、プレゼンテーション内容(30％)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： 優（100～80 点）	人事戦略を理解し、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が優れている。
評価： 良（79～70 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が良い。
評価： 可（69～60 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が普通。
評価：不可（59 点～）	出席不良で、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が不十分。
留意点 /Additional Information	秋学期に開講するヒューマンリソース概論 II を受講するには、ヒューマンリソース概論 I の単位修得が必須となる。

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	ヒューマンリソース概論 II		
サブタイトル/Sub Title	知識創造型企業の人事戦略		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Human resources strategy of knowledge-creating company II		
教員/Instructor	徳岡 晃一郎	E-mail	tokuoka@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具/リーダーシップと人事	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

変化とスピードの時代を迎えて、企業にはイノベーションやグローバル化、ダイバーシティを軸にした成長戦略を実現するダイナミックな経営が求められている。その一方で、社内のモチベーションや求心力は危機に瀕している。この壁を乗り越えるには、社員の成長と企業の成長を両輪とした成果主義中心の人事戦略を再構築しなくてはならない。ヒューマンリソース概論 I に続き、そのような新たな人事のあり方を知識経営の文脈の中で検討し、新しい人事の役割を、MBB（Management by Belief）を中心に議論する。

到達目標/Course Goals

知識創造型企業への転換に向けて、経営戦略を実行に移すための最新の人事戦略である MBB を理解し、ディプロマポリシーにある「イノベーターシップ」を発揮でき、「志を全うする戦略性」を身に着け、自社内での人事改革を行えるだけの決意と「知の再武装」を目標とする。

授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション グループワーク、ディベート、 プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	講義内容の整理と指定図書の熟読		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	ポスト成果主義の MBB
事前、事後学習ポイント	新しい資本主義と知識経営
詳細	春学期開講のヒューマンリソース概論 I の振り返りを行い、春学期の学習内容を確認する。それを踏まえ、MBO 思考の問題をあげながら、新しい人事の型である MBB を学ぶ。 宿題：自社の人事評価制度の課題をパワーポイントでまとめてくること。 第 8 講までに全員が発表する。
第 2 講	
概要	ポスト成果主義の MBB とシャドーワーク
事前、事後学習ポイント	成果主義を超える人事
詳細	第 1 講に続き、MBB について学ぶ。MBB を促進するシャドーワークを学習し、自身のシャドーワーク経験について語り合ったのち、社内で促進する方法をグループディスカッションする。 第 1 講で出された宿題のプレゼンテーション①。
第 3 講	
概要	MBB（Management by Belief）概論 1
事前、事後学習ポイント	「思い」のマネジメント－個人－
詳細	MBB が個人にもたらす価値－仕事の喜び、自己表現－について解説し、ビジョンを持つことや未来を切り開く思考の重要性を理解する。 その後、講義を踏まえた内容をグループディスカッションにて共有し、まとめ、発表する。 第 1 講で出された宿題のプレゼンテーション②。
第 4 講	
概要	MBB（Management by Belief）概論 2
事前、事後学習ポイント	「思い」のマネジメント－経営－
詳細	MBB が経営にもたらす価値－高い志、知の創造と共有－について解説し、「思い」をベースに動く MBB 経営の枠組みを理解する。 その後、講義を踏まえた内容を自社に落とし込み、グループディスカッションし、発表する。 第 1 講で出された宿題のプレゼンテーション③。

第 5 講	
概要	MBB を実践するためのガイド 1
事前、事後学習ポイント	セルフコーチング演習
詳細	「思いのピラミッド」を作る基礎となる、「思い」を持つための重要性について、著名なリーダーを題材に開設する。 その後、セルフコーチング演習を行い、グループワーク（グループコーチング）を行う。 第 1 講で出された宿題のプレゼンテーション④。
第 6 講	
概要	MBB を実践するためのガイド 2
事前、事後学習ポイント	「思い」のピラミッド演習、「しみじみ感」を持たせる思い
詳細	「思い」の 7 段階レベルを学んだ後、思いのピラミッド（ビジョン、背景、ストーリー、壁・しがらみ、突破するポリシー・具体策）の構造を解説する。 その後、自身の「思いのピラミッド」を各自作成し、グループディスカッションにて確認する。 第 1 講で出された宿題のプレゼンテーション⑤。
第 7 講	
概要	MBB 実践企業の人事部の実践事例検討
事前、事後学習ポイント	ゲストスピーカーセッション：MBB を実践している企業の人事部長を招いて
詳細	MBB を実践している企業の人事部長を招いての講義。 講義後は、ゲストスピーカーと院生によるセッション（双方向）を行い、現場を理解する。 第 1 講で出された宿題のプレゼンテーション⑥。
第 8 講	
概要	知識創造型人事部のまとめ
事前、事後学習ポイント	知識創造型人事部とはどうあるべきか
詳細	第 1 講から 7 講までの視点を踏まえて、知識創造企業を構築していく上での人事部の役割とその推進の諸条件について、グループディスカッションする。 第 1 講で出された宿題のプレゼンテーション⑦。
教科書 /Textbook	なし。適宜、講義資料を配布する。
指定図書 /Course Readings	「MBB：思いのマネジメント実践ハンドブック」徳岡晃一郎、舞田竜宣著、東洋経済新報社。「イノベーターシップ」徳岡晃一郎著、東洋経済新報社「シャドーワーク」一條和生、徳岡晃一郎著、東洋経済新報社
参考文献・参考 URL /Reference List	「MBB：思いのマネジメント」一條和生、徳岡晃一郎、野中郁次郎著、東洋経済新報社
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席(40％)、授業内での議論参加(30％)、プレゼンテーション内容(30％)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： 優（100～80 点）	人事戦略、MBB を理解し、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が優れている。
評価： 良（79～70 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が良い。
評価： 可（69～60 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が普通。
評価：不可（59 点～）	出席不良で、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が不十分。
留意点 /Additional Information	ヒューマンリソース概論 II を受講するには、ヒューマンリソース概論 I の単位修得が必須となる。

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	インナーコミュニケーション		
サブタイトル/Sub Title	組織変革を進めるチェンジマネジメントコミュニケーション		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Internal communication strategy		
教員/Instructor	徳岡 晃一郎	E-mail	tokuoka@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具/リーダーシップと人事	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

変化とスピードの時代を迎えて、企業はイノベーションや戦略の転換、M＆Aやリストラなどさまざまな変革を迫られているが、社員の意識がついてこないために失敗する例は枚挙に暇がない。社員を的確に動機づけ、変革へ向けて意識改革を行い、行動に駆り立てるか。その成否を握る社内コミュニケーションのあり方について事例を基に研究する。

到達目標/Course Goals

社内コミュニケーションのあり方を理解し、ディプロマポリシーにある「実践知」と「実践的教養」を身に着け、自社内の環境に落とし込んで「イノベーターシップ」を発揮してみなを巻き込む優れたリーダーとして実践できることを目標とする。

授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション グループワーク、ディベート、 プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	講義内容の整理と指定図書の熟読		

講義概要/Course Description　全 8 講　第 1 講～第 7 講は各 180 分　第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	社内コミュニケーションの基礎(1)
事前、事後学習ポイント	社内コミュニケーションの目的、主な領域と課題
詳細	社内コミュニケーションのあり方、目的を学ぶとともに、その必要性について解説する。 また、グループディスカッションで、社内コミュニケーションの役割を再認識する。 宿題：自社の社内コミュニケーションについて、第 1 講の講義内容を踏まえ、パワーポイントでまとめてくること。第 8 講までに全員が発表する。
第 2 講	
概要	社内コミュニケーションの基礎(2)
事前、事後学習ポイント	社内コミュニケーションのフレームワーク
詳細	第 1 講に続き、社内コミュニケーションの様々な手法を学ぶとともに、その具体例について解説する。また、社内におけるコミュニケーションの重要性を学び、リーダーの役割についてグループディスカッションする。 第 1 講で出された宿題のプレゼンテーション①。
第 3 講	
概要	社内コミュニケーションの基礎(3)
事前、事後学習ポイント	コーポレートコミュニケーション戦略と社内コミュニケーション
詳細	第 1 講、第 2 講に続き、社内コミュニケーションの実践事例を学ぶとともに、よくある問題点について解説する。また、社外コミュニケーション戦略を学び、現実の問題についてソリューションを考え、グループディスカッションする。 第 1 講で出された宿題のプレゼンテーション②。
第 4 講	
概要	コミュニケーションスキル(1)
事前、事後学習ポイント	モチベーションを高める場づくりのコミュニケーションスキル演習
詳細	コミュニケーション力の 3 つの柱、「発信力」、「受信力」、「質問力」について、演習を中心に、個人でのワーク及びグループワークを多めに設けて学ぶ。 第 1 講で出された宿題のプレゼンテーション③。
第 5 講	
概要	コミュニケーションスキル(2)
事前、事後学習ポイント	変革を推進するチェンジマネジメントコミュニケーション戦略

詳細	思考の型（インプット→セルフコーチング→マイポリシー）について、演習を中心に、個人でのワーク及びグループワークを多めに設けて学ぶ。 第 1 講で出された宿題のプレゼンテーション④。
第 6 講	
概要	リーダーシップコミュニケーション(1)
事前、事後学習ポイント	コミュニティ開拓者
詳細	リーダーの役割とリーダーシップ・コミュニケーションについて学ぶ。コミュニティ構築者としてのリーダーの役割について学ぶ。個人ワーク後、グループディスカッションにて「自分の理解」を深める。 第 1 講で出された宿題のプレゼンテーション⑤。
第 7 講	
概要	リーダーシップコミュニケーション(2)
事前、事後学習ポイント	針路設定者
詳細	ナビゲーター（針路設定者）の役割と重要性について解説する。履修者数によっては、教員と院生によるセッション（双方向）を行い、講義内容の理解を深める。 第 1 講で出された宿題のプレゼンテーション⑥。
第 8 講	
概要	リーダーシップコミュニケーション(3)
事前、事後学習ポイント	変革の仕掛け人
詳細	組織の活性化を促す変革の仕掛け人（批評者、扇動者、学習推進者、イノベーション・コーチ）について学ぶ。 それぞれの役割について、グループディスカッションをし、自社内に落とし込んで考えてみる。
教科書 /Textbook	なし。適宜、講義資料を配布する。
指定図書 /Course Readings	「リーダーシップ･コミュニケーション」ロバート･メイ、アラン・エイカーソン、徳岡晃一郎訳、ダイヤモンド社 （初回講義で注文を受けます）
参考文献・参考 URL /Reference List	「ミドルの対話型勉強法」徳岡晃一郎、ダイヤモンド社 「世界の知で創る」野中郁次郎、徳岡晃一郎著、東洋経済新報社 「本気の集団を作るチームコーチングの技術」徳岡晃一郎著、ダイヤモンド社
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席(40％)、授業内での議論参加(30％)、プレゼンテーション内容(30％)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： 優（100～80 点）	社内コミュニケーション、リーダーシップコミュニケーションの在り方を理解し、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が優れている。
評価： 良（79～70 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が良い。
評価： 可（69～60 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が普通。
評価：不可（59 点～）	出席不良で、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が不十分。
留意点 /Additional Information	なし

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	カルチャーベースマネジメント		
サブタイトル/Sub Title	知識創造の企業文化戦略		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Corporate Culture Management		
教員/Instructor	徳岡 晃一郎	E-mail	tokuoka@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具/リーダーシップと人事	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

強欲、株主価値至上主義などが問われ、新たな資本主義のあり様が模索されるなか、これまでの論理分析主体の左脳経営の時代は終わりを告げ、真に豊かなイノベーションを求めて人のつながりや組織的知識創造が重要になってきている。そのカギは自律的行動を促す濃密な企業文化だ。一人ひとりが、共通善に向けたよりよい成長を志向する価値観を共有する企業文化がないところによい戦略は描けない。イノベーションの時代の企業文化の価値とマネジメント手法について考える。

到達目標/Course Goals

企業文化が戦略の成功や企業の成長にもたらす効果について理解し、ディプロマポリシーにある「実践的教養」として社員のエンゲージメントを高める手法を身に着け、「イノベーターシップ」を発揮して、「志を全うする突破力」を自社内で実践できることを目標とする。

授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション グループワーク、ディベート、 プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	講義内容の整理と指定図書の熟読		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	企業文化とは何か
事前、事後学習ポイント	企業文化と経営戦略
詳細	企業文化及び組織文化について学ぶとともに、経営戦略スタイルと人事戦略の視点から考察する。 また、グループディスカッションで、日本企業と米国企業の文化違いを再認識する。 宿題：指定した企業の企業文化と組織文化について調べ、パワーポイントでまとめてくること。第 8 講までに全員が発表する。
第 2 講	
概要	企業文化のマネジメント 1
事前、事後学習ポイント	マネジメントスタイル診断
詳細	第 1 講に続き、企業文化及び組織文化について学ぶとともに、経営戦略スタイルと人事戦略の視点から考察する。 授業後半はマネジメントスタイル診断を行い、個人の特性と組織のカルチャーの関係について、グループディスカッションする。 第 1 講で出された宿題のプレゼンテーション①。
第 3 講	
概要	スターバックスの企業文化戦略 1
事前、事後学習ポイント	スターバックスからのゲストとの共同セッション
詳細	スターバックスの方を招いての講義。（1 回目） 講義後は、ゲストスピーカーと院生によるセッション（双方向）を行い、現場を理解する。 第 1 講で出された宿題のプレゼンテーション②。
第 4 講	
概要	スターバックスの企業文化戦略 2
事前、事後学習ポイント	スターバックスからのゲストとの共同セッション
詳細	スターバックスの方を招いての講義。（2 回目） 講義後は、ゲストスピーカーと院生によるセッション（双方向）を行い、現場を理解する。 第 1 講で出された宿題のプレゼンテーション③。
第 5 講	

概要	マイクロソフトの企業文化戦略
事前、事後学習ポイント	マイクロソフトからのゲストとの共同セッション
詳細	マイクロソフトの方を招いての講義。 講義後は、ゲストスピーカーと院生によるセッション（双方向）を行い、現場を理解する。 第 1 講で出された宿題のプレゼンテーション④。
第 6 講	
概要	ポルシェの企業文化戦略
事前、事後学習ポイント	ポルシェからのゲストとの共同セッション
詳細	ポルシェの方を招いての講義。（2 回目） 講義後は、ゲストスピーカーと院生によるセッション（双方向）を行い、現場を理解する。 第 1 講で出された宿題のプレゼンテーション⑤。
第 7 講	
概要	企業文化のマネジメント 2
事前、事後学習ポイント	社内風土
詳細	企業文化のマネジメントにおける社内のそれぞれのポジションの役割を学び、社内の風土と風土改革、チェンジマネジメントについて考察する。 また、人事戦略の位置づけについてグループディスカッションする。 第 1 講で出された宿題のプレゼンテーション⑥。
第 8 講	
概要	企業文化とグローバル化
事前、事後学習ポイント	日本の企業文化はどう変わるべきか
詳細	ソーシャルビジネスの流れについて学び、「思い」を語り、文化を創るリーダーとチーフカルチャーオフィサーの役割を考える。 イノベーターシップ・コンピテンシーを各自行い、結果についてグループディスカッションする。 第 1 講で出された宿題のプレゼンテーション⑦。
教科書 /Textbook	なし。適宜、講義資料を配布する。
指定図書 /Course Readings	「スターバックス成功物語」ハワード・シュルツ著、大川修二他訳、日経 BP 社 「スターバックス再生物語」ハワード・シュルツ著、月沢李歌子、徳間書店
参考文献・参考 URL /Reference List	「ハードシングス」ベン・ホロウィッツ著、小澤隆生訳、日経 BP 社
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席(40％)、授業内での議論参加(30％)、プレゼンテーション内容(30％)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： 優（100～80 点）	企業文化が戦略の成功や企業の成長にもたらす効果について理解し、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が優れている。
評価： 良（79～70 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が良い。
評価： 可（69～60 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が普通。
評価：不可（59 点～）	出席不良で、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が不十分。
留意点 /Additional Information	ゲストは秋学期開始前に変更になる可能性があります。

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	ストレスマネジメントと精神回復力		
サブタイトル/Sub Title	心身医学・行動科学的観点からみたストレスマネジメントと意識改革		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Stress Management and Resilience		
教員/Instructor	水木さとみ	E-mail	smizuki@mhi-inc.jp
科目群/Course Classification	実践知考具/リーダーシップと人事	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

心理・社会的ストレスは身体に影響を及ぼし、様々な症状を誘発することは医学的にも明らかになっている。仕事をしていく上で、予期せぬ出来事やハプニングに遭遇しながらも高い目的に向かって進まなくてはならない。逆境の中、自己のもつ能力を最大限に発揮する手段にストレスマネジメントがある。本講座は、心理学・行動科学、さらに心身医学を交え、ストレスマネジメントと精神回復力を養うノウハウを実践的に習得すると共に、組織力向上を目指し、部下のメンタルヘルスにも触れる。労働契約法第５条安全配慮義務に位置づける予見可能性では、部下の変化や不調をいかに速やかに感知できるかが問われ、リスクマネジメントの流れを変える。それは、部下を守り、自身を守り、そして会社を守ることを意味する。より良い組織づくりに向けて、是非、職場のストレスマネジメントに役立てていただきたい。

到達目標/Course Goals

ストレスが招く身体化に関する知識を身につけ、職場における様々なハードルに立ち向かうために、ディプロマポリシーでの実践知と知の再武装を達成するために、上記目的に資する問題解決に向けた手法を実践する。

授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション グループワーク、プレゼンテーション 双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	講義内容から、自らをとり巻く環境、自社内の環境における活用法を明確に描く		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	心理・社会的ストレスが招く身体化のメカニズム　～思考と感情が身体に与える影響～
事前、事後学習ポイント	身体化のメカニズムを理解した上で、ストレスマネジメントの意義を知る
詳細	適度なストレスは良い刺激となり自己成長を促すが、過度なストレスは身体に影響を与え、疾患を招くことが知られている。ストレスマネジメントの意義を理解し、メンタルヘルスへの正しい認識と意識を高める。ストレスが招く身体化のメカニズムを知り、自らの体験や職場の社員の体験を振り返り、グループディスカッションを通して気づきを得る。
第 2 講	
概要	心理学・行動科学的観点からみる他者理解　～対人関係ストレスをミニマムにするには～
事前、事後学習ポイント	他者を主観で判断するのはなく、科学的根拠に基づき、他者理解を深める手法を学ぶ
詳細	対話なくして仕事は成立しない。しかし残念ながら、職場における対人関係に悩む社員は少なくない。厚生労働省が実施する健康調査によると、ストレス要因の上位には、毎回“職場の人間関係問題”が挙がる。本講座では、対人関係ストレスをミニマムにし、良好な対人関係を構築するために、心理学・行動科学に基づき他者理解を深める。ケースを交えグループディスカッション、ロールプレイングを通して新たなコミュニケーション術を習得する。 宿題：可能な限り、職場で生じた対人関係問題に触れ、心理パターンを分析、行動理由を探り、関係性の改善に向けたアプローチを考える。発表者を募り、第 3 講でケースを発表、事例検討を行う。
第 3 講	
概要	逆境に立ち向かうストレスマネジメント　～自己効力感 レジリエンスを交えて～
事前、事後学習ポイント	自己効力感・レジリエンスの意味を理解し、行動拡大・行動成長を目指す
詳細	第 2 講の課題：発表者による事例検討会。 古くから“病は気から”ということわざがある。今や医学的、科学的にもその根拠は実証されている。逆境の中、困難な状況にあっても克服する人、過酷な状況にも左右されず良い結果をもたらす人がいる。そうした心理状態と精神回復力に焦点を当てる。米国心理学会では、こうした力は、誰もが学習する可能性があり発展させることができるとした。理論、手法に合わせて、自身が大学病院にてストレス性疾患の患者に向けて実施した独自のリラクセーション法を紹介する。自律神経系のバランスを整え、平常心を養う手段として、ストレスマネジメントの一環として導入されたい。
第 4 講	

概要	組織強化と育成　～ラポールとモチベーション、フロー心理を交えて～
事前、事後学習ポイント	ロジャーズが提唱するカウンセリングの基本姿勢と行動特性を考慮したモチベーション
詳細	部下の育成にあたって信頼関係なくしては語れない。相手の印象を決定づける情報とは、言葉よりもむしろ、言葉以外からなるノンバーバル・コミュニケーションが大きな割合を占めることが知られている。本講座では、心理学を交えた面談法と行動科学を交え行動特性を考慮したモチベーションを紹介する。ケースを挙げ、グループワークを通して発表。
第 5 講	
概要	マインドアップと行動変容　～行動変容ステージからみる意識改革～
事前、事後学習ポイント	部下の心理を読み、行動変容ステージからみたアプローチを検討する
詳細	本講義では、部下の自己成長に向けた適切なアプローチを考える。部下は行動するべき意味を理解していないため実行しないのか、あるいは頭の中では理解しているものの、実行するに至らないのか。部下の行動理由、心理、抱える問題を理解し、行動変容ステージからアプローチ法を検討する。ケースを交えたグループディスカッション、問題解決へと導く（発表）。
第 6 講	
概要	現代社会におけるストレス性疾患　～早期発見と適切なとり組み～
事前、事後学習ポイント	早期発見、部下の変化や不調を迅速に感知するための観察法および面談法を習得する
詳細	ストレス社会を背景に、企業では社員のストレスチェックやメンタルヘルス研修の実地など、様々な取り組みがなされている。安全配慮義務に示す予見可能性は、メンタルヘルスの流れを変える早期発見の重要な位置づけとなる。部下の些細な変化や不調を迅速に感知する観察法および面談法を紹介すると同時に、状態に合わせた適切な対応を学ぶ。ケースを交えグループディスカッションを通して検討し、発表する。
第 7 講	
概要	精神的な問題を抱える社員の対応法　～社員を救うメンタルサポート～
事前、事後学習ポイント	情緒的支援の有効性を理解し、適切な判断と対応を学ぶ
詳細	失業者を対象に、情緒的支援の有無と疾患率や死亡率に関して、研究者らが調査したところ、明らかに相関が認められたことが報告された。このことは、周囲の精神的なサポートは非常に有効であることを意味づけている。本講座では、事例を通して、支援が有効なケースと専門家にリファーしなくてはならないケースの見極め方を紹介し、適切な支援法について紹介する。職場の休職者や復職者の支援にも、是非、活用していただきたい。
第 8 講	
概要	本講座のフィードバックと新たなとり組み ～本講座を通して何を学んだか？　今後の活かし方を考える～
事前、事後学習ポイント	学びをどのように活かしていくのか、自社に向けた新たな対策とは
詳細	全講座を通して学んだこと、気づきを得たことなどをシェアし、各自が今後の活かし方を発表する　　宿題：最終レポート
教科書/Textbook	なし。　適宜、講義資料を配布する。
指定図書 /Course Readings	「不安・うつは必ず治る」山田和夫著　勉誠出版 「MBB：思いのマネジメント」一條和生　徳岡晃一郎　中野郁次郎著　東洋経済新報社
参考文献・参考 URL /Reference List	日経 BP 社ヒューマンキャピタル Online　　水木さとみ 「ストレスマネジメントのすすめ」「やさしい心理学から学ぶストレスマネジメント実践法」
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席（40%）　授業内での議論参加（30%）　レポート内容（30%）
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	出席率が良好。問題意識をもち積極的な議論参加、発表内容・レポート内容が優れている。
評価：　良（79～70 点）	授業内での議論参加と発表内容・レポート内容が良い。
評価：　可（69～60 点）	授業内での議論参加と発表内容・レポート内容が普通。
評価：不可（59 点～）	出席率が不良。授業内での議論参加と発表内容・レポート内容が不十分である。
留意点 /Additional Information	評価方法にあるレポートに関しては、メールでフィードバックを行う

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	実践組織変革		
サブタイトル/Sub Title	組織変革のリーダーシップと技術（知考具）		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Organizational Change		
教員/Instructor	浜田 正幸	E-mail	hamada-m@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具 /リーダーシップと人事	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course			
① 組織論・組織マネジメント・組織イノベーションに関する基本的な知識と理論・モデルを習得する。② 組織変革に関する論文を読み込む事によって、経営学・組織論の研究方法を習得する。			
到達目標/Course Goals			
いかなる組織についても、その現状を客観的に分析することができる（実践知考具）。組織改革の方向性（ビジョン）を提示し、戦略的に改革することができる（イノベーターシップ）。			
授業形態 /Form of Class	講義、プレゼンテーション、グループワーク、グループディスカッション	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	資料・参考書籍の精読・整理。プレゼンテーション資料作成		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可	
第 1 講	
概要	オリエンテーション。事例研究 1。
事前、事後学習ポイント	組織論、リーダーシップ論に関する代表的な文献を入手する。
詳細	講義の進め方。事例研究の方法について説明。
第 2 講	
概要	事例研究
事前、事後学習ポイント	事例研究に関する資料作成とプレゼンの準備。課題論文の精読。
詳細	組織変革トピックス 1。事例研究 2, 3。
第 3 講	
概要	事例研究
事前、事後学習ポイント	事例研究に関する資料作成とプレゼンの準備。課題論文の精読。
詳細	組織変革トピックス 2。事例研究 4, 5。
第 4 講	
概要	事例研究
事前、事後学習ポイント	事例研究に関する資料作成とプレゼンの準備。課題論文の精読。
詳細	組織変革トピックス 3。事例研究 6, 7。
第 5 講	
概要	事例研究
事前、事後学習ポイント	事例研究に関する資料作成とプレゼンの準備。課題論文の精読。
詳細	組織変革トピックス 4。事例研究 8, 9。
第 6 講	
概要	事例研究
事前、事後学習ポイント	事例研究に関する資料作成とプレゼンの準備。課題論文の精読。
詳細	組織変革トピックス 5。事例研究 10, 11。
第 7 講	
概要	事例研究
事前、事後学習ポイント	事例研究に関する資料作成とプレゼンの準備。課題論文の精読。

詳細	組織変革トピックス 6。事例研究 12, 13。
第 8 講	
概要	事例研究。総括。
事前、事後学習ポイント	事例研究に関する資料作成とプレゼンの準備。課題論文の精読。
詳細	組織変革トピックス 7。事例研究 14。全体のまとめ。
教科書 /Textbook	なし
指定図書 /Course Readings	なし
参考文献・参考 URL /Reference List	ジェームズ・C・コリンズ他（1995). ビジョナリーカンパニー 日経 BP 出版センター ロバート・キーガン他（2013). なぜ人と組織は変われないのか 英治出版 ロバート・キーガン他（2017). なぜ弱さを見せあえる組織が強いのか 英治出版
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	事例発表・課題提出（50%）平常点・議論への参加（50%）
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： 優（100～80 点）	事例発表・課題提出並びに平常点・議論への参加が優れている場合。
評価： 良（79～70 点）	事例発表・課題提出並びに平常点・議論への参加が良い場合。
評価： 可（69～60 点）	到達目標 60%。発表・議論の参加が平均程度。
評価：不可（59 点～）	欠席が多い。事例発表・課題提出がない。議論への参加が著しく低い場合。
留意点 /Additional Information	事例研究について濃密なディスカッションを行うので、クラスディスカッションに積極的に参加することができ、知的なバトルに対する耐性を有していること。

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	キャリアマネジメントとモチベーション		
サブタイトル/Sub Title	人生 100 年時代を生きるキャリア創造戦略		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Career Management & Motivation		
教員/Instructor	片岡　裕司	E-mail	kataoka@fkpractice.jp
科目群/Course Classification	実践知考具/ リーダーシップと人事	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

本講義の目的は、院生の今後のキャリアマネジメントに重要な指針を提供するとともに、企業内のキャリアパスの在り方、またそれをベースとしたモチベーション戦略に根本的な変革が迫られていることを理解することにある。ロンドンビジネススクールのリンダ・グラットンは、著書「ライフシフト」において、2050 年までに日本の 100 歳以上の人口は 100 万人を突破し、2007 年日本で生まれた子供の 50%が 107 年以上生きると予測した。年金財政の破綻から近い将来定年は 70～75 歳まで引き上げられるとも言われている。一方、日本の定年制はグローバル＆ダイバーシティ経営の観点からは、極めて特異で、且つ非合理的な年齢による差別的制度という指摘もある。

このような時代を迎えるにあたり、個人としてのキャリアマネジメントと、企業としてのモチベーション戦略の在り方は、その前提となる価値観から根本的に転換する必要があるが、多くのビジネスパーソンや企業は延長線上での思考から脱却することができていない。本講義では、新たな時代に向かってのキャリアマネジメントとモチベーション戦略がどうあるべきか。そこに向けて個人レベルと企業レベルで何を変革してかなければならないか、について考察を深める。

到達目標/Course Goals

個人、企業を取り巻く未来のキャリアのあり方について、正しい時代認識と世界認識を醸成する。また、個人レベル、企業レベルでキャリアマネジメント、モチベーション戦略をどう転換していくかについて知の再武装を行い、その上で、具体的な院生同士のキャリアのあり方についても検討し、実践知を強化する。

授業形態 /Form of Class	講義、プレゼンテーション グループディスカッション	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	講義内容の整理と指定図書の熟読 講義でのプレゼンテーション資料準備		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	モチベーション理論の基礎 1 ＆組織と個人を取り巻く環境変化
事前、事後学習ポイント	モチベーション理論の原点、変遷を理解する 組織と個人を取り巻く環境変化を理解する
詳細	モチベーション理論の変遷を紐解く。特に、テイラーの合理的経済人モデルとメイヨーの社会人モデルについて考え、グループディスカッションを行う。 組織と個人を取り巻く環境変化を理解し、正しい時代認識と世界認識を醸成する。 今後の課題についてもグループディスカッションを行う　宿題：自社、もしくは事例ケースの組織、人事諸制度についてキャリアとモチベーションの観点から調べ、パワーポイントでまとめる。また第 7 講までに全員が発表する。
第 2 講	
概要	モチベーション理論の基礎 2
事前、事後学習ポイント	モチベーション理論の変遷からこれからのあるべき姿について考える
詳細	ダニエル・ピンク「モチベーション 3.0」（講談社）に基づき、企業レベル、個人レベルの課題を抽出し、モチベーション戦略の今後についてグループワークにより意見をまとめ、発表する。第 1 講で出された宿題のプレゼンテーション①。
第 3 講	
概要	キャリア理論の基礎 1
事前、事後学習ポイント	キャリア理論の変遷をたどり、キャリアマネジメントの課題を検討する
詳細	高橋俊介「21 世紀のキャリア論」（東洋経済）の課題設定に基づき、キャリアマネジメントの課題についてグループワークにより意見をまとめ、発表する。第 1 講で出された宿題のプレゼンテーション②。
第 4 講	
概要	キャリア理論の基礎 2
事前、事後学習ポイント	キャリアマネジメントの課題について個の人生設計という視点から考える

詳細	キャリアマネジメントについて、個人の幸福、ウェルビーイングという観点から更に掘り下げて考えていく。リンダ・グラットン他「ライフシフト」（東洋経済）の問題提起からグループディスカッションを行い、様々な視点について議論を行う。 第 1 講で出された宿題のプレゼンテーション③。
第 5 講	
概要	キャリアマネジメントの課題
事前、事後学習ポイント	今後の日本企業が抱えるキャリアマネジメントの課題を理解する
詳細	伝統的な日本企業のキャリアマネジメントとキャリアパスの現状と、少子高齢化が生み出す環境課題を抽出し、根本的な課題が何かを検討する。またグループディスカッション通じ、多様な意見をまとめ、発表する。 第 1 講で出された宿題のプレゼンテーション④。
第 6 講	
概要	キャリアディベロップメントについて考える
事前、事後学習ポイント	自分自身のキャリアについて改めて考えを深める
詳細	ケース学習を通じキャリアディベロップメントについて内省と対話を通じて深めていく。また院生自身の今後のキャリアについて内省と対話を通じ深めていく。第 1 講で出された宿題のプレゼンテーション⑤。
第 7 講	
概要	キャリアマネジメントとモチベーション戦略の未来
事前、事後学習ポイント	今日的な課題をまとめ、今後の指針を明確化する
詳細	キャリアマネジメントとモチベーション戦略についての課題を深堀し、個人と組織の変革をいかにして実現していくかを考える事を通じ実践知を養う。また、各自の意見からも学び、グループワークを行い発表する。 第 1 講で出された宿題のプレゼンテーション⑥。 宿題：上記グループディスカッションを踏まえ、自分の考えを第 8 講までにまとめてくる
第 8 講	
概要	キャリアマネジメントとモチベーション戦略のまとめ
事前、事後学習ポイント	個と組織は今後どうあるべきか
詳細	第 1 講から 7 講までの視点を踏まえて、個人のキャリアマネジメントと企業のモチベーション戦略について、グループワークを行い発表する。
教科書 /Textbook	なし。適宜、講義資料を配布する。
指定図書 /Course Readings	Daniel H・Pink（2010）「モチベーション 3.0」（講談社） 高橋俊介(2012)「21 世紀のキャリア論」（東洋経済） Lynda Gratton　Andrew Scott（2016）「ライフシフト」（東洋経済）
参考文献・参考 URL /Reference List	大久保幸夫（2010）「日本型キャリアデザインの方法」（日本経団連出版） 片岡裕司（2016）「何とかしたいベテラン社員がイキイキ動き出すマネジメント」（日本経済新聞出版）
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席(40％)、授業内での議論参加(30％)、プレゼンテーション内容(30％)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	テーマ課題を明確に理解し、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が優れている。
評価：　良（79～70 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が良い。
評価：　可（69～60 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が普通。
評価：不可（59 点～）	出席不良で、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が不十分。
留意点 /Additional Information	特になし

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	実践ポジティブ心理学		
サブタイトル/Sub Title	個人・組織のウェルビーイング（幸せ感）を高める方法		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Practice of Positive Pshycology		
教員/Instructor	三田真美	E-mail	qhronicles@gmail.com
科目群/Course Classification	実践知考具/リーダーシップと人事	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

新しい心理学の分野であるポジティブ心理学について、その学際的な背景から様々な応用範囲までを概論します。健康な人の精神状態に焦点をあてるポジティブ心理学は、人間にとって本当の幸せとは何かを追求するものです。本講座を踏まえ、自身の成長促進ならびに組織の課題解決の手がかりとして、日頃から活用いただくことを目的としています。

到達目標/Course Goals

ディプロマポリシーでの「実践的教養」と「実践知」を習得いただくために、①理論を踏まえて、ポジティブ心理学の各種エクササイズ（ポジティブ介入）を習得しながら、何らかの自己変容を体感する、②各自が所属する組織、場の課題解決において、ポジティブ心理学の応用可能性を考え、具体的な介入計画を立て、さらなる実践につなげていただきます。

授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	講義のまとめ、指定する文献の熟読。宿題ミニレポート（実践）の作成、プレゼン準備。		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	ポジティブ心理学とは何か―「幸せの 5 条件」
事前、事後学習ポイント	ポジティブ心理学の目的と位置付けを知る
詳細	ポジティブ心理学の成り立ち、学問的位置づけから、その主たる考え方、用語について概説する。ポジティブ心理学の実践において重要な役割を果たすエクササイズをいくつか紹介し、簡単なエクササイズの実践を課題として課す。
第 2 講	
概要	快・不快・ポジティブな感情・経験から人生の満足度を考える
事前、事後学習ポイント	興味のある文献を読み、ポジティブ心理学の基礎的な考え方を把握し、エクササイズを実践してみる
詳細	１ヶ月の振り返りから始める。ピークエンド理論やフレドリクソン「拡張―形成理論」などポジティブな感情にまつわる主要理論や人生の満足度にまつわる重要尺度について学び、ポジティブ感情とウェルビーイングの関係について理解を深める。宿題：簡単なエクササイズの実践を課す。
第 3 講	
概要	自分と組織の「強み」を意識する―キャラクターストレングス
事前、事後学習ポイント	興味のある文献を読み、より内省的にポジティブ心理学を捉えつつ、エクササイズを実践してみる
詳細	１ヶ月の振り返りから始める。幸福感を高める上で重視される「強み（キャラクターストレングス）」について理解を深める。強みを測定する幾つかの手法について学び、自身の強みも測定する。強みを認識し、組織において個々人の強みの活かし方についても考える。宿題：簡単なエクササイズの実践を課す。
第 4 講	
概要	レジリエンスとマインドセット―ストレスと成長、達成の深い関係
事前、事後学習ポイント	興味のある文献を読み、ポジティブ心理学の応用可能性について考える
詳細	１ヶ月の振り返りから始める。ストレスマネジメントにおいても注目されるレジリエンス（再起する力）は、ポジティブ心理学においても多方面で研究され、様々な介入方法が開発されている。レジリエンスについて、互いの体験も共有しながら、ポジティブ介入によるレジリエンストレーニング、リーダーシップと「成長マインドセット」について考える。宿題：簡単なエクササイズの実践を課す。

第 5 講	
概要	フローと意志力、意味―ポジティブは創造の始まり
事前、事後学習ポイント	興味のある文献を読み、ポジティブ心理学の応用可能性について考える
詳細	1 ヶ月の振り返りから始める。没頭が深い高揚感につながることを説いた「フロー理論」を手掛かりに、創造性とポジティビティの関係について各自の体験も共有しながら考える。フロー状態につなげるために求められる「意志」「意味」についても考える。宿題：簡単なエクササイズの実践を課す。
第 6 講	
概要	ポジティブな人間関係――「情けは人のためならず」を科学する
事前、事後学習ポイント	興味のある文献を読み、ポジティブ心理学の応用可能性について考える
詳細	1 ヶ月の振り返りから始める。誰しも独りでは幸せにはなれない。ポジティブ心理学においてもとりわけ「対人関係（アザー・ピープルマター）」は重視される。よりよい人間関係について「積極的−建設的反応」などを例に考え、利他的な行為の効用に関する科学的なエビデンスについても触れる。宿題：簡単なエクササイズの実践を課す。
第 7 講	
概要	ポジティブな職場づくり―熱い組織、冷たい組織
事前、事後学習ポイント	興味のある文献を読み、ポジティブ心理学の組織への応用可能性について考える
詳細	1 ヶ月の振り返りから始める。 1 講から 6 講で得たポジティブ心理学の知見を踏まえ、幸せな職場について議論する。ポジティブな組織変革の事例紹介も交える予定。宿題：簡単なエクササイズの実践を課す。
第 8 講	
概要	幸せのために何を残すべきか？――ポジティブ心理学からポジティブ・コンピューティングへ
事前、事後学習ポイント	最終レポートをまとめる
詳細	ポジティブ心理学をゲームやセンサリングにも応用する「ポジティブ・コンピューティング」の可能性について触れ、これからの AI 全盛時代にあって個人や組織に幸せをもたらすものについて議論しながらイメージを共有し、各自にとってのウェルビーイングを考え、最終レポートとしてまとめる。
教科書 /Textbook	適宜、指示し、資料を配布します。
指定図書 /Course Readings	「ポジティブ心理学の挑戦 “幸福”から“持続的幸福”へ」マーティン・セリグマン著（ディスカヴァー・トゥエンティワン）
参考文献・参考 URL /Reference List	「マインドセット “やればできる！”の研究」キャロル・ドゥエック著（草思社）、日経ビジネスオンライン「ハーバード発、ポジティブ心理学最前線」 http://business.nikkeibp.co.jp/article/report/20111129/224648/
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席（40%） 授業内での議論参加（30%） レポート内容（30%）
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： 優（100～80 点）	出席率が良好。問題意識をもち積極的な議論参加、発表内容・レポート内容が優れている。
評価： 良（79～70 点）	授業内での議論参加と発表内容・レポート内容が良い。
評価： 可（69～60 点）	授業内での議論参加と発表内容・レポート内容が普通。
評価：不可（59 点～）	出席率が不良。授業内での議論参加と発表内容・レポート内容が不十分である。
留意点 /Additional Information	なし

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	ファイナンス基礎１（経営財務）【ＦＰ資格必修】		
サブタイトル/Sub Title	ファイナンス（企業金融）の基礎を学ぶ		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Corporate Finance I		
教員/Instructor	宇佐美　洋	E-mail	usami@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考員／ ファイナンス&ガバナンス	単位数/Credits	2

授業形態 /Form of Class	講義、発見学習、グループディスカッション、プレゼンテーション、ディベート、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	取引現場フィールドワーク
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	テキスト、指定図書での予習・復習により、基礎を確認して着実に身につけることが必要です。		

講義目的/Aim of Course

企業金融に関する「問題発見とその解決」のアプローチを学びます。現在価値、ポートフォリオ理論、投資、資本調達、資本構成など、ファイナンスの幅広い基礎知識に習熟します。

到達目標/Course Goals

ディプロマポリシーでの「知の再武装」を達成するために、企業金融や財務分析の背景にある基礎知識や重要な概念を丁寧に説明します。また、金融、財務、会計、事業評価、リスクマネジメントの「仕組み」の把握にも重点おいて学びます。

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	パーソナルファイナンスとコーポレートファイナンス 会社と財務諸表分析入門
事前、事後学習ポイント	教科書まえがきおよび第１章と２章に目を通して予習、演習問題による復習
詳細	①　企業の４形態、企業の所有と支配 ②　株式市場 ③　財務諸表入門（貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書）
第 2 講	
概要	無裁定価格と財務意思決定 意思決定の評価法、貨幣の時間的価値
事前、事後学習ポイント	教科書第３章および４章に目を通して予習、演習問題による復習
詳細	①　裁定と一物一価の法則　リスクの価格、取引費用と裁定 ②　お金の時間的価値、キャッシュフロー流列 ③　現在価値、将来価値
第 3 講	
概要	利子率、投資の意思決定法 利子率の表示と調整、決定要素、現在価値法ほか
事前、事後学習ポイント	教科書第５章および６章に目を通して予習、演習問題による復習
詳細	①　利子率の決定要素、リスクおよび税金 ②　資本の機会費用 ③　ＮＰＶと独立したプロジェクト ④　内部収益率法　回収機関法
第 4 講	
概要	資本予算の基礎、債券評価 利益の予測、フリーキャッシュフロー、債券価格および利回り、イールドカーブ
事前、事後学習ポイント	教科書第７章および８章に目を通して予習、演習問題による復習
詳細	①　収益と費用の推定、増分利益予測、 ②　サンクコスト ③　債券価格の動的変化　イールドカーブと裁定取引
第 5 講	
概要	株式評価 資本市場のリスクの価格付け、情報と株価
事前、事後学習ポイント	教科書第９章および１０章に目を通して予習、演習問題による復習

詳細	① 配当割引モデルの適用 ② 総還元モデル、フリーキャッシュフローモデル ③ リスクとリターン ④ システマティックリスク
第 6 講	
概要	最適ポートフォリオの選択と資本資産評価モデル、資本コストの推定 ポートフォリオの期待収益率、無リスク預金と借入、資本資産評価モデル
事前、事後学習ポイント	教科書第１１章および１２章に目を通して予習、演習問題による復習
詳細	① ポートフォリオの期待収益率、無リスク預金と借入 ② 資本資産評価モデル、 ③ リスクプレミアムの決定、ベータの推定
第 7 講	
概要	投資行動と資本市場の効率性 市場の効率性
事前、事後学習ポイント	教科書第１３章および１４章に目を通して予習、演習問題による復習
詳細	① 情報と合理的期待、 ② 個人投資家の行動とシステマティックな取引バイアス ③ 市場ポートフォリオの効率性 ④ マルティファクターモデル
第 8 講	
概要	負債と税 支払利息と税金控除
事前、事後学習ポイント	教科書第１５章に目を通し予習、演習問題による復習
詳細	① 支払利息節税枠の評価 ② 税の下での最適資本構成
教科書 /Textbook	「コーポレートファイナンス：入門編」バーク・ディマーゾ著、ピアソン、２０１１年、２００２年 “Corporate Finance,2nd.Ed” Berk/DeMarzo, Pearson Education,2011
指定図書 /Course Readings	「コーポレート・ファイナンス」荒井・高橋・芹田著、中央経済社、２０１６年
参考文献・参考 URL /Reference List	「パーソナルファイナンス」アルトフェスト著伊藤他訳、日本経済新聞社 「ＦＰテキスト　パーソナルファイナンス」日本ＦＰ協会
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席（３０％）、プレゼンテーション（４０％）、授業内での議論参加度（３０％）
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	経営財務、企業金融の基礎概念をよく理解し応用できる。プレゼンテーション内容も優れている。
評価：　良（79～70 点）	プレゼンテーション内容がよく、議論にも積極的に参加している。
評価：　可（69～60 点）	プレゼンテーションは普通だが、議論には積極的に参加している。
評価：不可（59 点～）	出席不良で、授業内の議論参加、プレゼンテーション内容が不十分。
留意点 /Additional Information	とくに履修の前提となる基礎知識はありませんが、秋学期の「ファイナンス基礎２」と連続して受講するのが望ましい。

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	ファイナンス基礎Ⅱ（リスクマネジメント）【ＦＰ資格必修】		
サブタイトル/Sub Title	企業金融の新しい考え方を学ぶ		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Corporate Finance Ⅱ		
教員/Instructor	宇佐美　洋	E-mail	usami@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具／ ファイナンス＆ガバナンス	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

企業金融とリスクマネジメントに関する「問題発見と解決」のアプローチを学びます。応用のケーススタディとしてはＭ＆Ａ、企業再編、コーポレートガバナンスの例を考えます。リスクマネジメントでは、保険やデリバティブを使った解決策や、金融工学や情報の経済学の新しい考え方も学びます。

到達目標/Course Goals

ディプロマポリシーでの「知の再武装」を企業金融の分野で達成するために、新しい方法を学びます。ガバナンス、企業再編、Ｍ＆Ａ、および保険、先物、スワップ、オプションなどのリスク管理手段の仕組みまで、広くファイナンスの新分野に習熟します。

授業形態 /Form of Class	講義、発見学習、グループディスカッション、プレゼンテーション、ディベート、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	取引現場フィールドワーク
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	テキスト、指定図書での予習・復習により、基礎を確認して着実に身につけることが必要です。		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	財務危機、インセンティブ、情報、シグナリング
事前、事後学習ポイント	教科書の第１６章と１７章に目を通して予習、演習問題による復習
詳細	①　財務危機と経営者のインセンティブ ②　情報の非対称性とエイジェンシー問題 ③　配当政策 ④　配当のシグナリング効果
第 2 講	
概要	資本予算と企業評価 加重平均資本コスト法（ＷＡＣＣ法）、ＡＰＶ法
事前、事後学習ポイント	教科書第１８章および１９章に目を通して予習、演習問題による復習
詳細	①　加重平均資本コスト法（ＷＡＣＣ法）の使い方 ②　ＡＰＶ法の使い方 ③　ファイナンスモデルの作成法
第 3 講	
概要	オプション 金融オプション、プット・コール・パリティ、オプション価格評価
事前、事後学習ポイント	教科書第２０章および２１章に目を通して予習、演習問題による復習
詳細	①　金融オプションの基礎 ②　プット・コール・パリティの理解 ③　オプション価格評価の基礎 ④　二項モデル、ブラック・ショールズ・モデル
第 4 講	
概要	リアルオプション、リース契約 決定樹による分析
事前、事後学習ポイント	教科書第２２章および２５章に目を通して予習、演習問題による復習
詳細	①　リアルオプションとは、決定樹による分析 ②　延期オプション、成長オプション、撤退オプション ③　リース契約のエッセンス
第 5 講	
概要	運転資本管理、短期ファイナンスプラニング 企業間信用、銀行融資

事前、事後学習ポイント	教科書第２６章および２７章に目を通して予習、演習問題による復習
詳細	① 運転資本管理 ② 企業間信用、売掛金・買掛金管理、棚卸資産・現金管理 ③ 銀行融資による短期資金調達 ④ コマーシャルペーパー
第 6 講	
概要	Ｍ＆Ａ、コーポレートガバナンス Ｍ＆Ａの歴史、買収プロセス、買収防衛策
事前、事後学習ポイント	教科書第２８章および２９章に目を通して予習、演習問題による復習
詳細	① Ｍ＆Ａの歴史 ② 買収に対する市場反応 ③ 買収プロセス、買収防衛策 ④ コーポレート・ガバーナンス
第 7 講	
概要	リスクマネジメント 保険、商品価格変動リスク、為替リスク、金利リスク情報
事前、事後学習ポイント	教科書第３０章に目を通して予習、演習問題による復習
詳細	① 保険の仕組みと保険料の算出 ② 商品価格変動リスク管理と先物 ③ 為替リスク管理と先渡しとオプション ④ 金利リスク管理とイールドカーブ
第 8 講	
概要	国際コーポレートファイナンス 国際的に統合された資本市場
事前、事後学習ポイント	教科書第３１章に目を通し予習、演習問題による復習
詳細	① 外貨建てキャッシュフローの評価 ② 価値評価と国際税制 ③ 為替リスクを伴う資本予算
教科書 /Textbook	「コーポレートファイナンス：応用編」バーク・ディマーゾ著、ピアソン、２０１１年 “Corporate Finance,2nd.Ed” Berk/DeMarzo, Pearson Education,2011
指定図書 /Course Readings	「コーポレート・ファイナンス」荒井・高橋・芹田著、中央経済社、２０１６年
参考文献・参考 URL /Reference List	「パーソナルファイナンス」アルトフェスト著伊藤他訳、日本経済新聞社 「ＦＰテキスト　リスクマネジメント」日本ＦＰ協会
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席（３０％）、プレゼンテーション（４０％）、授業内での議論参加度（３０％）
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	リスクマネジメントの理論およびファイナンスの応用ができ、プレゼンテーション内容も優れている。
評価：　良（79～70 点）	プレゼンテーション内容がよく、議論にも積極的に参加している。
評価：　可（69～60 点）	プレゼンテーションは普通だが、議論には積極的に参加している。
評価：不可（59 点～）	出席不良で、授業内の議論参加、プレゼンテーション内容が不十分。
留意点 /Additional Information	春学期の「ファイナンス基礎１」と連続して受講するのが望ましい。春学期受講してない場合は、上記指定図書にて基礎概念を学ぶこと。

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	企業会計・簿記入門【FP資格必修】		
サブタイトル/Sub Title	社会人のための会計基礎知識		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Basic and practical knowledge of accounting for business person		
教員/Instructor	井村順子	E-mail	imura-j@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具/ ファイナンス＆ガバナンス	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course			
現代の社会人にとって、企業会計及び簿記の基礎的な知識は、不可欠な要素となっている。本講義を通じて企業会計の基礎と実務上の論点を同時に学ぶ。			
到達目標/Course Goals			
財務諸表の基本的な理解に始まり、重要論点を各回に学ぶとともに、最終的にはディスクロージャー制度を理解する。これにより会計にかかる初心者が有用に財務諸表を利用するための基礎知識を身につけ、知の再武装を図る。			
授業形態 /Form of Class	講義、ディスカッションによる双方向のコミュニケーション	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	事前準備として教科書の該当箇所を通読すること、宿題について考察すること 事後的には、教科書の該当箇所に加えて毎回講義で配布されるレジュメを確認すること		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可	
第 1 講	
概要	財務諸表とは何か
事前、事後学習ポイント	教科書を通読し、基本的な財務諸表の役割を理解する 簿記一巡の仕組みを理解する
詳細	➢ 貸借対照表と損益計算書を理解する ➢ 仕訳の仕組みを理解する ➢ 勘定科目の連動を理解する ディスカッション：現時点での各自の業務における財務諸表の有用な活用方法 次回の宿題：自社の財務情報または関心のある上場会社の財務情報を入手し、それらにおける収益の認識について調査し、疑問を持った点について考えること
第 2 講	
概要	個別論点～収益認識
事前、事後学習ポイント	教科書を通読し、なぜ収益認識が重要なのかを考える
詳細	➢ 典型的な収益認識の基準を理解する ➢ 実現主義とは何か理解する ➢ 売上の計上にかかる典型的な仕訳を理解する ディスカッション：自社または関心のある上場会社における収益の認識、疑問を持った点について発表し、収益認識の重要性について考える 次回の宿題：自社または関心のある上場会社における棚卸資産の種類について調査し、どのような項目で構成されているか考えること
第 3 講	
概要	個別論点～棚卸資産、原価計算の基礎
事前、事後学習ポイント	教科書を通読し、棚卸資産にかかる論点を考える
詳細	➢ 棚卸資産の取得価額の構成と流れを理解する ➢ 購入の場合と、自社生産の場合の違いを理解する ➢ 棚卸資産の払出数量の把握方法を理解する ➢ 棚卸資産の払出単価の決定方法を理解する ディスカッション：自社または関心のある上場会社におけるまたは関心のある上場会社の棚卸資産の種類、どのような項目で構成されているか発表し、論点を把握する 次回の宿題：自社または関心のある上場会社における固定資産の種類を調査し、また、減損会計の意義について考えること
第 4 講	
概要	個別論点～固定資産にかかる会計と固定資産の減損

事前、事後学習ポイント	教科書を通読し、固定資産にかかる論点を考える
詳細	➢ 固定資産の種類を理解する ➢ 有形固定資産の減価償却方法を理解する ➢ 減損会計の概要を理解する ディスカッション：固定資産の種類及び減損会計の意義について考えたことを発表し、固定資産会計の論点を把握する 次回の宿題：自社または関心のある上場会社における引当金の種類を調査し、引当金を計上することの意義について考えること
第 5 講	
概要	個別論点～引当金， キャッシュ・フロー計算書
事前、事後学習ポイント	教科書を通読し、引当金及び金融商品会計の概要にかかる論点を考える キャッシュ・フロー計算書の役割を考える
詳細	➢ 引当金の要件を理解する ➢ キャッシュ・フロー計算書と損益計算書の違いを理解するとともにキャッシュ・フロー計算書の作成方法の基礎を理解する ディスカッション：引当金の意義について考えたことを発表し、引当金の論点について考える。キャッシュ・フロー計算書の活用方法について共有する 次回の宿題：会計上と税務上の処理がなぜ異なるかを考えることを通じて、税効果会計の意義について考えること
第 6 講	
概要	個別論点～税効果会計、タックスプランニング
事前、事後学習ポイント	教科書を通読し、税効果会計にかかる論点を考える
詳細	➢ 税効果会計の必要性を理解する ➢ 一時差異、永久差異とは何かを理解する ➢ 繰延税金資産の回収可能性について理解する ➢ タックスプラニングと会計について理解する ディスカッション：会計上と税務上の処理の相違点について考えたことを発表し、税効果会計の意義を把握する 次回の宿題：連結財務諸表と個別財務諸表の相違点を考えることを通じて、連結財務諸表の特徴とその活用法を考えること
第 7 講	
概要	連結財務諸表
事前、事後学習ポイント	教科書を通読し、連結財務諸表の役割を考える
詳細	これまで学習した個別論点を総括するとともに、自社または関心のある上場会社における連結財務諸表を活用して、以下の学習をする ➢ 連結財務諸表とは何かを理解する ➢ 連結財務諸表の特徴を理解する ➢ 連結財務諸表を利用する ディスカッション：連結財務諸表と個別財務諸表の相違点、連結財務諸表の活用法と意義について考えたことを発表し、共有する 次回の宿題：ディスクロージャー制度にはどのようなものがあるのか、ディスクロージャー制度の有効な活用方法について考える
第 8 講	
概要	ディスクロージャー制度
事前、事後学習ポイント	財務会計の意義についてディスクロージャー制度を通して考える
詳細	➢ディスクロージャー制度の体系を理解する ➢法定の制度と任意の制度の違いを理解する ➢ディスクロージャー制度を利用する ディスカッション：ディスクロージャー制度の有効な活用方法について考えたことを発表し、共有する
教科書/Textbook	財務会計講義　桜井久勝（中央経済社）
指定図書 /Course Readings	タックスプランニング（日本ＦＰ協会）

参考文献・参考 URL /Reference List	ＥＤＩＮＥＴ(金融商品取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム)　http://disclosure.edinet-fsa.go.jp/ 会社「経理・財務」入門　金児昭（日本経済新聞出版社)、実学　稲盛和夫（日本経済新聞社）
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席(40％)、授業内での議論参加(30％)、レポートの内容(30％)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	企業会計を理解し、授業内での議論参加、レポート内容が優れている
評価：　良（79～70 点）	授業内での議論参加、レポート内容が良い
評価：　可（69～60 点）	授業内での議論参加、レポート内容が普通
評価：不可（59 点～）	出席不良で、授業内での議論参加、レポート内容が不十分。
留意点 /Additional Information	レポートについてはメールでフィードバックを行う。

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	金融論		
サブタイトル/Sub Title	金融市場と世界経済の動向		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Money and banking, financial markets and economic policy		
教員/Instructor	真壁　昭夫	E-mail	amakabe@nifty.com
科目群/Course Classification	実践知考員/ ファイナンス&ガバナンス	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

お金は経済（身体）を巡る血液に例えられることがある。金利、株式、外国為替の各種金融商品の円滑な取引が実現しなければ、一般企業や個人の生活にも無視できない影響が波及する。そうしたリスクを防ぐために、政府・中央銀行が経済政策を運営し、経済と金融システムの安定が目指されている。金融市場、財政・金融政策に関する基本的な理論を学習し、ディスカッションすることを通して、今、実際に起きている経済事象の分析能力を高めることを目的とする。

到達目標/Course Goals

知の再武装、および、問題解決
世界経済、金融市場がどのような状況にあるかを把握し、企業の事業計画や投資計画の策定に活かすことを目的とする。

授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション グループワーク、ディベート、 プレゼンテーション、双方向、ゲストスピーカー	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	参考文献の熟読		

講義概要/Course Description　全 8 講　第 1 講～第 7 講は各 180 分　第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	金融市場の基本的機能（1）
事前、事後学習ポイント	金融とは何か、金融機関や証券取引所の役割、主な金融市場の参加者
詳細	金融の基本的な役割を確認する。また、銀行、証券会社などの金融機関の役割は何か、そして、金融市場ではどのような経済主体が何を目的に活動しているのかを確認し、金融市場の全体感をつかむ。テキストを基に、グループディスカッションで金融市場の役割を確認する。
第 2 講	
概要	金融市場の基本的機能（2）
事前、事後学習ポイント	企業と金融市場、直接金融と間接金融の特徴、金融市場の価格発見機能
詳細	企業と金融市場の関係を学び、直接金融と間接金融の定義、機能を確認したうえで各国の金融システムの特徴を理解する。そして、そうした金融システムがどのように価格発見や希少資源の最適な配分を達成してきたといえるか、グループディスカッションしてもらう。
第 3 講	
概要	金融市場の種類
事前、事後学習ポイント	債券市場、株式市場、外国為替市場の特徴
詳細	それぞれの金融市場の特徴、制度、実際の取引方法やリスクを理解し、個々の市場動向をどう把握するか、基本的な見方を示す。足許の各市場がどのような状況にあるか、プレゼンテーションをしてもらう。
第 4 講	
概要	金融市場と実体経済
事前、事後学習ポイント	経済と金融市場の関係、バブルの発生
詳細	実体経済（企業の業績や設備投資、家計の消費、輸出入の動向、生産活動など）の見方を確認し、経済の動きに金融市場がどう反応するかを考える。これまでに発生したバブルの膨張プロセスと崩壊後の政策対応、金融市場の展開を学び、グループディスカッションを行う。
第 5 講	
概要	株式・為替市場の動向
事前、事後学習ポイント	株式、外国為替市場の見方、考え方、主なリスク

詳細	株式市場や外国為替市場の動向を把握し、将来の展開を予想するためには何が必要なのか、基本的な手法を学ぶ。また、事前に株価データなどの取得法を教授したうえで、過去の株式市場の分析を行ってもらい、どのような特徴があったかを発表してもらう。
第 6 講	
概要	金融政策の基本機能
事前、事後学習ポイント	中央銀行の役割、伝統的な金融政策と、非伝統的な金融政策、今後の展開予想
詳細	中央銀行が何を目指して金融政策を運営しているのか。また、歴史的に金融政策がどのように運営され、それによって経済がどう影響を受けたのか。足許の金融政策を確認したうえで今後の展開をクラス全体でディスカッションする。
第 7 講	
概要	財政・金融政策の現状
事前、事後学習ポイント	財政政策の機能の確認、リーマンショック以降の財政・金融政策の潮流
詳細	財政政策の基本的な役割を確認し、わが国を中心に財政の現状を理解する。また、リーマンショック後、各国がどのように財政と金融政策を運営してきたか、その結果、今、どのような状況にあるかをディスカッションする。
第 8 講	
概要	まとめ
事前､事後学習ポイント	授業の総括、今後の経済展開と金融市場の動向
詳細	講義で学んだことを総括的に確認する。その上で、今、世界の経済状況がどうなっているか、どのようなリスク、チャンスがあるか、それを受けて金融市場がどう動くと考えられるかをディスカッションする。ディスカッションにあたっては、事前に発表者を指名し、プレゼンテーションをしてもらう。
教科書 /Textbook	特になし、その都度適宜紹介する
指定図書 /Course Readings	「現代の金融政策―理論と実際」白川 方明　日本経済新聞社 「仮想通貨で銀行が消える日 」真壁　昭夫　祥伝社新書
参考文献・参考 URL /Reference List	なし
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席率／講義議論参画度の総合評価 出席率（40％）／ディスカッションへの参加、プレゼンテーション（60％）
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	授業内でのディスカッション参加、プレゼンテーション内容が優れている。
評価：　良（79～70 点）	授業内でのディスカッション参加、プレゼンテーション内容が良い。
評価：　可（69～60 点）	授業内でのディスカッション参加、プレゼンテーション内容ができている。
評価：不可（59 点～）	出席不良で、授業内でのディスカッション参加、プレゼンテーション内容が不十分。
留意点 /Additional Information	《読む･書く＋聴く･話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので議論には積極的に参画すること。レポート、プレゼンテーションのフィードバックは各講義にて行う。

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	M&A 戦略と実践企業ファイナンス		
サブタイトル/Sub Title	企業価値創造と M&A 戦略のためのファイナンス		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Corporate Finance for Value Creation and M&A Strategy		
教員/Instructor	中岡英隆	E-mail	nakaoka@tmu.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具／ ファイナンス&ガバナンス	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

企業のグローバル化が進み，日本企業においても国内外での M&A 戦略が経営上の最重要課題となっている．こうした企業の戦略的な投資や企業価値創造に関わる意思決定には，オプション理論を取り入れた最新の企業価値評価の手法が不可欠である．本講義では，伝統的なコーポレート・ファイナンスの基礎を概観した上で，会社法や契約，ビジネスモデルに織り込まれたオプションの仕組みを解き明かして，オプション理論を活用した投資戦略や株主価値，負債価値，資産価値，信用リスクの評価の手法を学ぶ．さらに，その実践的な応用を目指して，Excel を用いた演習として，事例に基づくオプション戦略の評価を行い，さらに，ケース・ワークにより企業の財務分析を行った上で，企業価値，負債コスト,デフォルト確率などを測定する演習を行う．また，最前線の企業活動のケースを読み解きながら，ファイナンスや経営資源，コーポレート・ガバナンスの視点から，マネジメントによる企業価値創造力や M&A に対する市場の評価を理論的・実証的に分析し，M&A の戦略・経済性について洞察を深める．

到達目標/Course Goals

伝統的なコーポレート・ファイナンスとコーポレート・ガバナンスや Resource-Based View の経営戦略論などの視点を融合して，オプション理論を活用した投資戦略や株主価値，負債価値，資産価値，信用リスクの評価の手法を学ぶことにより，不確実性下における企業価値の評価や M&A 戦略，マネジメントの価値創造力についての洞察力・実践力を高め，論理的思考力，総合的問題解決力を高める．さらに，ケース・ワークによる演習を通じて情報活用能力を高めるため，実際の企業買収や買収防衛策など最前線の企業活動にフォーカスして,自身で Web データの収集や有価証券報告書の分析を行い，それらのデータとオプション評価モデルを使って投資戦略や企業価値，信用リスクの評価ができるようになることを目指す．また，マネジメントによる企業価値創造力や M&A に対する市場の評価を理論的に分析し，実際のケースを通じて M&A の戦略・経済性についての洞察を深めて，総合的問題解決力を高める．これらを通して，ディプロマポリシーでの「知の再武装」，「実践知」，「情報収集能力と分析能力」の修得に寄与する．

授業形態 /Form of Class	講義，プレゼンテーション，ディベート，財務分析・データ解析の演習	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	レジュメ・資料・文献の熟読・関連文献調査，プレゼン資料の作成，財務分析・データ解析の下調べ・準備．		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	M&A の経済性と事業価値，　資本構成と配当政策
事前、事後学習ポイント	レジュメの熟読，関連知識の予習・復習
詳細	①M&A の事例に基づく経済性評価，②事業価値の定義，③節税効果と最適資本構成，配当政策
第 2 講	
概要	企業金融とガバナンス論，　オプションと企業価値
事前、事後学習ポイント	レジュメの熟読，関連知識の予習・復習
詳細	①ファイナンスの視点から解くコーポレート・ガバナンス，②会社法に潜むオプションの仕組みと企業価値の分析（発見学習，問題解決学習）
第 3 講	
概要	M&A と買収防衛策の事例研究，　M&A 戦略と経営資源
事前、事後学習ポイント	レジュメの熟読，関連知識の予習・復習
詳細	①M&A 戦略と買収防衛策の事例研究のプレゼンとディベート,②経営資源の視点で解く成功するための M&A 戦略
第 4 講	
概要	離散時間モデルとリスク中立化法，　離散時間モデルの Excel 演習
事前、事後学習ポイント	レジュメの熟読，関連知識の予習・復習，配布された Excel プログラムの習熟
詳細	①離散時間モデルによるオプション理論の本質的方法論，②Excel を用いたオプション戦略

	事例の評価の演習（問題解決学習）
第 5 講	
概要	Merton モデルと負債・資産の市場価値・信用リスク評価，　演習「TBS の買収防衛策と株主価値・負債価値・信用リスク」
事前、事後学習ポイント	レジュメの熟読，関連知識の予習・復習，配布された Excel プログラムの習熟
詳細	①Merton モデルによる企業価値・負債価値・信用リスク評価，②TBS の買収防衛策の事例研究を通じた Merton モデルの実証分析
第 6 講	
概要	演習「買収対象企業の財務分析」，　演習「市場データに基づく負債・資産価値・信用リスクの測定」
事前、事後学習ポイント	レジュメの熟読，関連知識の予習・復習，財務分析の下調べと市場データの収集.
詳細	①事例研究を通じた企業の財務分析演習，②Excel を用いた Merton モデルの演習（問題解決学習）
第 7 講	
概要	演習「日本の優秀企業の株主価値・負債価値・q レシオ」，　事例研究「マネジメントの経営価値創造力とイベントスタディ」
事前、事後学習ポイント	レジュメの熟読，関連知識の予習・復習，財務分析・データ解析の問題点整理.
詳細	①日本の優秀企業の財務分析，②Merton モデルを用いた Excel による日本の優秀企業の企業価値・マネジメント力の分析（問題解決学習，経験学習）
第 8 講	
概要	ファイナンス理論の現状と課題
事前、事後学習ポイント	レジュメの熟読，関連知識の予習・復習，財務分析・データ解析のまとめ.
詳細	①講義のまとめ，②Excel を使った財務分析・データ解析・モデル演習のまとめ（問題解決学習，経験学習）
教科書 /Textbook	毎回配布のレジュメによる.
指定図書 /Course Readings	［1］　中岡英隆［2009］,「企業における資源開発事業の統合リスク評価」『ジャフィー・ジャーナル：ベイズ統計学とファイナンス』日本金融・証券計量・工学学会，179-205，朝倉書店. ［2］　中岡英隆［2011］,「マネジメントの価値創造力と M&A の評価」『ジャフィー・ジャーナル：バリュエーション』日本金融・証券計量・工学学会，114-133，朝倉書店. ［3］　リチャード・ブリーリー，スチュワート・マイヤーズ，藤井真理子他訳［2002］,『コーポレート・ファイナンス　上・下』日経 BP 社. ［4］　木島正明，中岡英隆，芝田隆志［2008］,『リアルオプションと投資戦略』朝倉書店. ［5］　ミシェル・クルーイ，ダン・ガライ，ロバート・マーク，三浦良造他訳[2004]，『リスクマネジメント』共立出版.
参考文献・参考 URL /Reference List	講義の中で適宜紹介する.
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席率および授業への参画姿勢（30%），プレゼンおよびレポート（70%）
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	不確実性下の実践企業ファイナンスへの洞察力・論理的思考力・問題解決力に優れている.
評価：　良（79～70 点）	不確実性下の実践企業ファイナンスへの洞察力・論理的思考力・問題解決力が良い.
評価：　可（69～60 点）	不確実性下の実践企業ファイナンスへの洞察力・論理的思考力・問題解決力が平均程度.
評価：不可（59 点～）	出席不良で，洞察力・論理的思考力・問題解決力に課題が多い.
留意点 /Additional Information	概ね文系レベルの数学と EXCEL の知見，会計の初歩的な知見（または実務経験）を前提とする．レポートに関しては，講義内またはメールでフィードバックを行う.

講義年度/Year	2018 年度	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	夢をかなえる実践リスクマネジメント		
サブタイトル/Sub Title			
英文科目名/Course Title(Eng.)	Practical Risk Management for Making Your Dreams Come True		
教員/Instructor	樋渡淳二	E-mail	
科目群/Course Classification	実践知考具/ ファイナンス&ガバナンス	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

講義では、企業・金融機関の経営理念や個人の夢を実現するためのリスクマネジメント力を各自が身につけることを目指す。学生は、講師の日銀、国際機関等での経験も踏まえ、リスクマネジメントの実践知について、双方向で学ぶほか、議論やプレゼンテーションを行なう。アクティブラーニングを通じて、各自の問題意識を掘り下げる。なお、タイムリーな話題も議論するため、講義内容・順番の柔軟な変更もありうる。初心者の方も興味を持って頂けるように、平易な解説を心がけて行きたい。

到達目標/Course Goals

リスクマネジメントの実践知を学ぶことができるほか、企業、金融機関におけるリスクマネジメントや業務継続計画の事例研究などを通じて、さまざまな問題を主体的に解決する能力や志を全うする力を高めることができる。

授業形態 /Form of Class	双方向、議論、プレゼンテーション	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	問題意識を整理し、学びたいテーマを堀下げる。		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	全体のガイダンス、リスクマネジメントの基本的な概念、意義、課題
事前、事後学習ポイント	問題意識を整理し、学びたいテーマを堀下げる（講義で学んだことと、他の講義で得た学習内容等を結びつけることで、自分の調べたいテーマとそのインプリケーションを整理する）。
詳細	講義の問題意識、進め方、準備や復習の仕方を確認するため、全体のガイダンスを行なうほか、リスク、リスクマネジメントの定義と意義、課題の全体像を理解する。
第 2 講	
概要	リスクマジメントの理論と実践的な手法
事前、事後学習ポイント	問題意識を整理し、学びたいテーマを堀下げる（趣旨は、第 1 講参照）。
詳細	企業・金融機関の経営理念を実現し、持続可能な経営を行なうため、リスクマネジメントの組織、手法等について、理解を深めて行く。
第 3 講	
概要	経営戦略とリスクマネジメント
事前、事後学習ポイント	問題意識を整理し、学びたいテーマを堀下げる（趣旨は、第 1 講参照）。
詳細	日本企業におけるリスクマネジメントを振り返り、経営戦略という視点から、リスクマネジメントに関する問題意識を深めていく。
第 4 講	
概要	企業におけるリスクマネジメントの事例研究
事前、事後学習ポイント	問題意識を整理し、学びたいテーマを堀下げる（趣旨は、第 1 講参照）。
詳細	企業におけるリスクマネジメントの事例研究を通じて、持続可能な経営を行なうためのリスクマネジメントのあり方について、問題意識を深めて行く。
第 5 講	
概要	金融機関におけるリスクマネジメントの事例研究
事前、事後学習ポイント	問題意識を整理し、学びたいテーマを堀下げる（趣旨は、第 1 講参照）。
詳細	金融機関におけるリスクマネジメントの事例研究を通じて、持続可能な経営を行なうためのリスクマネジメントのあり方について、問題意識を深めて行く。
第 6 講	
概要	企業や金融機関の業務継続計画に関する事例研究

事前、事後学習ポイント	問題意識を整理し、学びたいテーマを堀下げる（趣旨は、第 1 講参照）。
詳細	企業や金融機関における災害時等に関する事例研究を通じて、業務継続計画のあり方について、問題意識を深めて行く。
第 7 講	
概要	リスクマネジメントに関連するテーマ等の議論、課題に関する各自のプレゼンテーションと議論
事前、事後学習ポイント	問題意識を整理し、学びたいテーマを堀下げる（趣旨は、第 1 講参照）。
詳細	前半は、リスクマナジメントに関連するテーマや各自で深めたいと思ったテーマ等について議論を行なう。後半は、課題に関するレポート内容のプレゼンテーションと議論を通じて、フィードバックを行なう。
第 8 講	
概要	これまで取り上げた内容に関する総括
事前、事後学習ポイント	問題意識を整理し、学びたいテーマを堀下げる（趣旨は、第 1 講参照）。
詳細	これまで取り上げた内容を基に、各自が講義を通じて更に学びたいテーマを取り上げて議論を行なうことにより、問題意識をさらに深める。
教科書 /Textbook	仁木一彦[2016]『図解ひとめでわかるリスクマネジメント第 2 版』東洋経済新報社 企業広報戦略研究所編[2016]『戦略思考のリスクマネジメント』日経ＢＰコンサルティング
指定図書 /Course Readings	藤井健司[2016]『日本の金融リスク管理を変えた１０大事件』金融財政事情研究会
参考文献・参考 URL /Reference List	講義の際、テーマに応じて、参考文献を紹介する。
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席(30％)、議論・プレゼンテーション・レポート内容（70％）
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	議論・プレゼンテーション・レポート内容が優れている。
評価：　良（79～70 点）	議論・プレゼンテーション・レポート内容が良い。
評価：　可（69～60 点）	議論・プレゼンテーション・レポート内容から、全体として理解する力をつけていると判断される。
評価：不可（59 点～）	出席が不良であり、議論・プレゼンテーション・レポート内容に課題が少なくない。
留意点 /Additional Information	興味を持って、一緒に学びんでいきませんか。

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	法の経済分析入門【ＦＰ資格必修】		
サブタイトル/Sub Title	経営者のためのルール学習法とその基礎知識		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Law & Economics		
教員/Instructor	宇佐美　洋	E-mail	usami@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具／ ファイナンス&ガバナンス	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

経営をとりまく環境において、最近、法律・制度・組織・ガバナンスなどのビジネスの「土俵や枠組み」に対する「問題発見と解決」のための新しいアプローチが必要となってきました。経営者がこのような法律や制度などの分野の問題を理解するためには、（法律と経済は無関係に思われるかもしれませんが）新しい経済学の考え方を使って分析することがきわめて有効な武器となります。

到達目標/Course Goals

ディプロマポリシーの「知の再武装」の一環として、本講義ではまず、経営者・ビジネスマンにとっては必須であり、ＭＢＡの学習にとってもなくてはならない経済学、会計、ファイナンス、統計などの基礎知識を学びます。そのあとで、法律・制度・ルールの構造を読み解く手法である「法の経済分析」を身につけます。

授業形態 /Form of Class	講義、発見学習、グループディスカッション、プレゼンテーション、ディベート、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	取引現場のフィールドワーク予定
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	テキスト、指定図書での予習・復習により、基礎を確認して着実に身につけることが必要です。		

講義概要/Course Description　全 8 講　第 1 講～第 7 講は各 180 分　第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	「法と経済学」入門 法律や組織や制度など広い意味でのルールを理解するために、「経済学的」視点が、なぜ必要なのか？
事前、事後学習ポイント	教科書第１章に目を通して予習、下記指定図書「法と経済学入門」でポイントの復習
詳細	①経済学の「取引費用」を使った契約、不法行為、所有権、株式会社など具体事例を使った説明。 ②「決定分析」を使った経営の意思決定の方法の学習。
第 2 講	
概要	新しい経済学 ゲーム理論、取引費用の経済学、情報の経済学、契約の経済学、行動経済学
事前、事後学習ポイント	教科書第２章に目を通して予習、講義後はポイントの整理・復習
詳細	①　「囚人のジレンマ」などゲーム理論の基礎 ②　「逆選択」「モラルハザード」など情報の経済学の基礎 ③　　２０１６年ノーベル経済学賞と契約の経済学
第 3 講	
概要	契約の実際、簿記・会計・財務分析の基礎 必要最低限の簿記・会計の知識
事前、事後学習ポイント	教科書第３章および４章に目を通して予習、講義後はポイントの整理・復習
詳細	①　契約作成の基本原則など具体的契約の実際 ②　簿記・会計の基礎知識の習得 ③　財務分析の基礎
第 4 講	
概要	ファイナンスの基礎、ミクロ経済学のエッセンス 企業経営、投資分析、ファイナンス・ミクロ経済学の基本
事前、事後学習ポイント	教科書第５章および６章に目を通して予習、また講義後はポイントの整理・復習
詳細	①　投資評価や企業評価などファイナンスの基礎 ②　市場分析、価格分析などミクロ経済学のエッセンス
第 5 講	

概要	ミクロ経済とルール分析（外部性、公共財、厚生経済学)、財産法の経済分析
事前、事後学習ポイント	教科書Ｐ３２３－３６５に目を通して予習、講義後はポイントの整理・復習
詳細	①　ミクロ経済学の概念である外部性、公共財、厚生経済学などとルール分析の関係 ②　財産法（知的財産法を含む）の経済分析
第 6 講	
概要	不法行為法の経済分析、契約の経済分析 経済活動と不法行為法の経済分析、完備契約と不完備契約
事前、事後学習ポイント	教科書Ｐ３６６－４０３に目を通して予習、講義後はポイントの整理・復習
詳細	①　ビジネスおよび経済活動と不法行為法の関係の経済分析、 ②　不完備契約理論を使った契約の本質
第 7 講	
概要	民事訴訟法の経済分析、公的機関による法の実現、刑法の経済分析、統計分析その他の法律分野の経済分析、一変数の統計分析
事前、事後学習ポイント	教科書Ｐ．４０３－４７４に目を通して予習、講義後はポイントの整理・復習
詳細	①　訴訟の提起から判決まで（民事訴訟法の経済分析） ②　公的機関による法の実現（罰金刑、自由系、隔離）と刑法 ③　法の経済分析のための統計分析の基礎
第 8 講	
概要	多変数統計法 経済分析のための統計分析応用
事前、事後学習ポイント	教科書Ｐ４７５－５１７に目を通し予習、講義後はポイントの整理・復習
詳細	二変数統計、重回帰分析など統計分析応用編
教科書 /Textbook	「数理法務概論」H.ジャクソン／S.シャベル他著、有斐閣、2014 年 ”ANALYTICAL METHODS FOR LAWYERS，2ND. ED.” Jackson／Kaplow，West Academic Publication、２００３
指定図書 /Course Readings	「法律家をめざす人のための経済学」常木淳著、岩波書店、２０１５年 「法と経済学入門」神田・小林著、弘文堂、１９８７年
参考文献・参考 URL /Reference List	「ＦＰテキスト　不動産運用設計」日本ＦＰ協会
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席（３０％)、プレゼンテーション（４０％)、授業内での議論参加度（３０％）
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	法律やルールの経済学的分析をよく理解し、プレゼンテーション内容も優れている。
評価：　良（79～70 点）	プレゼンテーション内容がよく、議論にも積極的に参加している。
評価：　可（69～60 点）	プレゼンテーションは普通だが、議論には積極的に参加している。
評価：不可（59 点～）	出席不良で、授業内の議論参加、プレゼンテーション内容が不十分。
留意点 /Additional Information	とくに履修の前提となる基礎知識はありません。

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	組織と戦略の経済学【ＦＰ資格必修】		
サブタイトル/Sub Title	組織設計と戦略策定のための理論		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Economic　Concepts for Strategy & Governance		
教員/Instructor	宇佐美　洋	E-mail	usami@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具／ファイナンス＆ガバナンス	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

経営の中心的課題解決についてのその「問題発見と解決策」の新しいアプローチを学びます。そのために最新の経済学の視点から「企業」や「組織」や「戦略」や「ガバナンス」といった重要課題はどう捉えられるかを学び、経営実務・実践を経済理論の視点から見直します。

到達目標/Course Goals

ディプロマポリシーの「知の再武装」の強力な武器として、経営実践に生かすために、新しい経済学の視点を使った戦略や組織やガバナンスに対する新しい見方を習得します。

授業形態 /Form of Class	講義、発見的学習、グループディスカッション、プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	フィールドワーク予定
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	テキスト、指定図書での予習・復習により、基礎を確認して着実に身につけることが必要です。		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	経営戦略のための経済学、企業の水平境界 企業理論を経済学と結びつける
事前、事後学習ポイント	教科書まえがきおよび第１章と２章に目を通して予習、演習問題による復習
詳細	④　近代企業の発展を歴史的に振り返る。 ⑤　企業の水平境界とは何か ⑥　規模の経済性と範囲の経済性
第 2 講　企	
概要	企業の垂直境界、市場での取引費用 企業の基礎、経済学的な「取引費用」概念の準用性
事前、事後学習ポイント	教科書第３章および４章に目を通して予習、演習問題による復習
詳細	①　外部市場を使うコストと企業の垂直境界 ②　技術革新と企業の境界の進化 ③　経済学的な「取引費用」 ④　契約と市場取引
第 3 講	
概要	垂直境界の編成、多角化 技術効率、エイジェンシー効率、資産の所有権、多角化
事前、事後学習ポイント	教科書第５章および６章に目を通して予習、演習問題による復習
詳細	①　技術効率とエイジェンシー効率 ②　垂直統合と資産の所有権 ③　多角化の程度と合理性
第 4 講	
概要	市場と競争戦略 競争相手と競争、戦略的コミットメント
事前、事後学習ポイント	教科書第７章および８章に目を通して予習、演習問題による復習
詳細	①　競争相手の特定と市場の定義 ②　市場構造の測定 ③　戦略的コミットメント ④　柔軟性とオプションの価値
第 5 講	
概要	価格競争のダイナミクス、参入と撤退
事前、事後学習ポイント	教科書第９章および１０章に目を通して予習、演習問題による復習

詳細	① 動的な価格競争 ② 品質競争 ③ 参入阻止戦略 ④ 撤退促進戦略
第 6 講	
概要	業界分析、競争優位の戦略ポジショニング
事前、事後学習ポイント	教科書第１１章および１２章に目を通して予習、演習問題による復習
詳細	① ５つの競争要因分析 ② コーペティションとバリューネット ③ 競争優位の戦略ポジショニング ④ 市場セグメンテーション
第 7 講	
概要	持続的競争優位、競争優位の源泉 模倣可能性とイノベーション
事前、事後学習ポイント	教科書第１３章および１４章に目を通して予習、演習問題による復習
詳細	① 不完全な模倣可能性と業界の均衡 ② イノベーションへのインセンティブ ③ 進化経済学と動的ケイパビリティ
第 8 講	
概要	インセンティブとエイジェンシー 戦略と組織構造
事前、事後学習ポイント	教科書第１５章に目を通し予習、演習問題による復習
詳細	① 社内労働市場とエイジェンシー関係 ② 組織は戦略に従う
教科書 /Textbook	「戦略の経済学」バサンコ・ラノブ・シャンリー著、ダイヤモンド社、2002 年 “Economics of Strategy, 2nd. Ed.” Besanko/Dranove/Shsanley, John Wiley & Sons,2000
指定図書 /Course Readings	「組織の経済学」ミルグロム／ロバーツ、ＮＴＴ出版
参考文献・参考 URL /Reference List	「会社法入門」田中亘著、東京大学出版会、2016 年 「パーソナルファイナンス」アルトフェスト著伊藤他訳、日本経済新聞社 「ＦＰテキスト　相続・事業承継設計」日本ＦＰ協会
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席（３０％）、プレゼンテーション（４０％）、授業内での議論参加度（３０％）
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	経済学的に経営課題を分析することをよく理解し、プレゼンテーション内容も優れている。
評価：　良（79～70 点）	プレゼンテーション内容がよく、議論にも積極的に参加している。
評価：　可（69～60 点）	プレゼンテーションは普通だが、議論には積極的に参加している。
評価：不可（59 点～）	出席不良で、授業内の議論参加、プレゼンテーション内容が不十分。
留意点 /Additional Information	とくに履修の前提となる基礎知識はありません。

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	中小企業の価値創造と事業承継		
サブタイトル/Sub Title	事業承継について習熟し、日本を支える中小企業の価値を創造する		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Innovation and business succession of small and medium enterprises		
教員/Instructor	藤本江里子	E-mail	
科目群/Course Classification	実践的考具/ ファイナンス&ガバナンス	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

中小企業の経営は、経営者しだいである。ましてや「価値創造」ということになると、まず、経営者の「経営者力」の向上が決定的に重要になり、そのためには経営者自身の強い自覚などの内面変革が出発点になります。中小企業の事業承継も決して容易に行われるものではない。事業承継がうまく運ばす、経営を不安定にした中小企業の例は枚挙にいとまがありません。そこで本講義では、講義の前半で中小企業の「ヒト・経営資源」について学びます。たとえば、経営者の内面変革の効果的な手法、どのような変革により経営者が企業の価値創造に取組むようになり、実際に企業が破綻などの道を辿ることなく危機からのターン・アラウンド（再生）ができたかなどの事例などを、ゲストスピーカーも招いて多数取り上げます。　講義の後半では、事業承継の実践知を学び、かつ“生きた”事業承継の事例を具体的に学びます。

到達目標/Course Goals

本講義では、中小企業の価値向上に必要な経営者としての経営力向上の実践的手法を身につけます。また、中小企業の事業承継に欠かせない知識を学び、的確な事業承継計画の立案と実践力を身につけます。受講者は、総合的な経営力向上を目指す中小企業の経営者候補等を想定しています。

授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション、ディベート、双方向、フィールドワーク他	学外学習 /Off-Campus Learning	フィールドワークあり
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	講義でのプレゼンテーション資料作成。資料・図書の熟読・まとめ。		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	オリエンテーション
事前、事後学習ポイント	事後学習：講義内容の復習
詳細	受講生・教員の自己紹介とオリエンテーションを行ったあと、中小企業を取り巻く現状と課題について広く概観する。また、中小企業が生き残るための企業価値の向上と、事業承継計画の適切な設計・実行の必要性について学ぶ。
第 2 講	
概要	中小企業の経営者と経営環境・経営者の行動変革
事前、事後学習ポイント	事後学習：講義内容の復習
詳細	前半：中小企業の価値向上には、まず経営者の自己変革が先行しなければならない。そのような変革に必要となる具体的な「経営者特性」や「意識特性」の定量的手法についても学び、「経営者特性」と「経営環境」の関連について講じ、具体的な価値創造の前提を考える。 後半：「経営者特性」の実践力、すなわち「行動特性」について多数の具体例に基づいて講ずる。
第 3 講	
概要	経営者の比率分析、経営再建の成功事例①
事前、事後学習ポイント	事後学習：講義内容の復習
詳細	前半：「経営者特性」と財務指標との相関関係について、とくに中小企業の場合に “使える”比率・指標分析について学び、さらにそれらを企業のターンアラウンドに結び付けるメカニズムについて講ずる。 後半：経営の危機、すなわち“窮境”からの脱出に成功した企業はいかなる軌跡を辿ったのか、多数のケーススタディ方式により学習する。
第 4 講	
概要	経営再建の成功事例②と失敗事例
事前、事後学習ポイント	事後学習：講義内容の復習
詳細	前半：経営変革によっても企業価値向上ができずに、そのまま停滞し続けた企業について、多数の事例と具体的な定量分析を用いて学ぶ。 後半：経営変革ができずに破綻した企業の事例を取り上げ、その失敗から何が学べるかを学

	習する。
第 5 講	
概要	事業承継の法律と税務①
事前、事後学習ポイント	事後学習：講義内容の復習
詳細	前半：事業承継を計画する上で、最低限必要な、民法、会社法、業法などの基礎的法律について学ぶ。 後半：事業承継を計画する上で最低限必要な、相続税法、所得税法の基礎知識について学ぶ。
第 6 講	
概要	事業承継の税務②と事業承継の具体的手続
事前、事後学習ポイント	事後学習：講義内容の復習
詳細	前半：事業承継を計画する上で最低限必要な、事業承継税制の基礎知識について学ぶ。 後半：親族内承継を進める場合の相続などの基本的捉え方と具体的な手順について講ずる。
第 7 講	
概要	M&A など第三者への承継手続と組織再編・信託などの手続き他
事前、事後学習ポイント	事後学習：講義内容の復習
詳細	前半：中小企業を第三者へ承継する M&A などの具体的事例と手順について講ずる。 後半：事業承継と組織再編、信託や従業員持株会の活用、生命保険の利用、金融施策の紹介など、事業承継の応用についても踏み込んで講ずる。
第 8 講	
概要	本講義のまとめ
事前、事後学習ポイント	事前学習：具体的なイノベーション計画や事業承継計画書の作成準備 事後学習：講義内容の復習
詳細	本講義のまとめとして全体を振り返り、中小企業の価値創造と事業承継の難しさを整理し、具体的なイノベーション計画や事業承継計画書を作成して深く学ぶ。
教科書/Textbook	なし。適宜資料配布予定。
指定図書 /Course Readings	なし。
参考文献・参考 URL /Reference List	【参考文献】 『潰れない会社にするための１２講座』吉岡憲章、中央公論社、2002 年 『社長の器』吉岡憲章、中央公論社、2002 年 『企業再生マネジメント』安田隆二、東洋経済、2003 年 『FP6　相続・事業承継設計』日本 FP 協会、2016 年 【参考 URL】 中小企業庁「事業承継ガイドライン」（2016 年 12 月） http://www.chusho.meti.go.jp/zaimu/shoukei/2016/161205shoukei.htm
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席（50％）、授業内でのグループディスカッション・議論（40％）、イノベーション計画や事業承継計画書（10％）
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	中小企業の価値創造と事業承継について、議論・グループディスカッション内容・イノベーション計画や事業承継計画書が優れている。
評価：　良（79～70 点）	中小企業の価値創造と事業承継について、議論・グループディスカッション内容・イノベーション計画や事業承継計画書が良い。
評価：　可（69～60 点）	中小企業の価値創造と事業承継について、議論・グループディスカッション内容・イノベーション計画や事業承継計画書が平均程度。
評価：不可（59 点～）	出席不良で、議論・グループディスカッション内容・イノベーション計画や事業承継計画書に課題が多い。
留意点 /Additional Information	CFP®認定教育プログラムです。

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	データドリブンの戦略構築		
サブタイトル/Sub Title	データ技術が書き換える現代の経営戦略の思考法と実践		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Data-driven Strategy Planning		
教員/Instructor	栗山　実	E-mail	m-kuriyama@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具/デジタル経営	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

現代の企業経営を担うビジネスリーダーとして欠かせない思考技術として、経営戦略の設計や意思決定をデータ分析によって行う思考法を実践的に身につけることを目指します。

ビッグデータや機械学習・人工知能などが流行する現在、個々のデータ分析技術を熱心に勉強する人は増えていますが、企業の戦略策定・意思決定とデータ分析技術とを的確に結び付けられる人材は著しく不足しており、グローバル競争力や次世代の事業創造力を求める企業の多くがその人材育成・獲得に苦戦しています。

本講では、データ分析に立脚して経営上の戦略策定や意思決定を行うための実践的な思考法、発想の着眼点などを、ビジネスケースを踏まえた議論を交えながら深めていきます。統計学や分析手法、アンケート調査やビッグデータ解析、データ表現技術なども扱いますが、それらはあくまで道具であり、戦略的な思考を議論の中心に置いて進めます。

企業経営の具体的な課題を設定したワークショップ型の演習を行い、各自が自らの気づきを発言し議論を重ねる時間を取ります。それにより、小手先のデータいじり技術ではなく、データに基づく意思決定・戦略策定の根底にある発想を理解し、自ら考え自律的に実践する感覚を醸成し、新しい時代を創るビジネスリーダーとしての自分なりの思考法・視座を得ることを目指します。

到達目標/Course Goals

ディプロマポリシーの『イノベーターシップ』体得のために、『デジタル技術』の駆使、『情報収集能力』『分析能力』の経営戦略における重要性について理解を深めます。これは現代における『実践知・実践的教養』でもあり、『時代認識と世界認識』を深めることにもつながります。

講義での具体的な到達目標として以下を想定します。

・「経営戦略を考えること、データ技術でそれを考えること」の面白さをまず体得すること
・「新時代のビジネスリーダー」に必要な知識や視野を認識し、それを目指して自ら学び続ける基礎を得ること
・早速実際の仕事などで「実践」できる考え方や方法を演習や議論を通して身につけること

授業形態 /Form of Class	講義 グループディスカッション グループワーク　プレゼンテーション 双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	予定なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	予習：次回講義に関連する事柄の事前学習 復習；当回講義の要点の復習まとめ、自主的実践		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	導入：経営戦略策定とビジネスデータの概観
事前、事後学習ポイント	戦略／戦術、意思決定、定量情報、ビッグデータ
詳細	そもそも「戦略」とは何か、「データ」とは何か、経営の意思決定のために「戦略×データ」を語る上で必要な要素は何か、講義、グループワーク等を通じて気づきと動機づけを得て本講義全体の概観の導入とする
第 2 講	
概要	技術<1>：データの表現
事前、事後学習ポイント	グラフ、メッセージ、フレームワーク、論理思考・構造思考
詳細	戦略思考・決断のためのデータ表現を設計する（例：情報の構造、グラフ表現、戦略のための可視化）。要点の講義ののち、グループワークを通じて実践上の洋書を体感し、全体でのディスカッションを深める
第 3 講	
概要	応用<1>：手段と結果
事前、事後学習ポイント	経営の目的、打ち手、因果関係、定量化、相関、検定
詳細	経営目的達成のための行動決定を下す思考を理解する（例：4P 施策の選択、因果関係の特定、効果測定、予測と最適化）。要点の講義・グループワーク・ディスカッション。
第 4 講	
概要	技術<2>：データの取得
事前、事後学習ポイント	データベース、市場調査、インタビュー、質問票

詳細	戦略策定のためのデータ取得を設計する（例：販売履歴 DB、会員制度、ウェブサーベイ、FGI)。要点の講義・グループワーク・ディスカッション。
第 5 講	
概要	応用<2>：経営の地図
事前、事後学習ポイント	経営の方針判断、顧客の分布、クラスタリング、市場シェア、ペルソナ
詳細	戦略的な経営指針を空間的に描き出す（例：市場の可視化、顧客の特徴把握、クラスタリング)。要点の講義・グループワーク・ディスカッション。
第 6 講	
概要	総合<1>：戦略策定プロジェクト
事前、事後学習ポイント	プロジェクトマネジメント、スケジュール、タスク、目的・手段・手順
詳細	戦略策定を実際に行うまでの実務プロセスを習得する（設計・情報取得・分析・表現・戦略策定・意思決定)。要点の講義・グループワーク・ディスカッション。
第 7 講	
概要	総合<2>：組織改革プロジェクト
事前、事後学習ポイント	人材育成、組織課題、リーダーシップ、データサイエンティスト
詳細	データに基づく戦略策定が根付く組織を考える（基盤整備、能力構築、意識改革、人材育成・配置・採用)。要点の講義・グループワーク・ディスカッション。 第一講からここまでの各回での質問への回答、補足説明。
第 8 講	
概要	まとめ
事前、事後学習ポイント	発表の準備
詳細	各自より、この講義を通じて学んだこと、今後の実践、継続的な学び等を発表。発表内容へのフィードバックや今後へのアドバイスなど、ディスカッションを深める
教科書 /Textbook	講義の際にワークシート・レジュメ配布
指定図書 /Course Readings	なし
参考文献・参考 URL /Reference List	講義中に適宜提示
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席(40％)、授業内での議論参加(30％)、レポート・発表(30％)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	授業内での議論参加の貢献が大きい、レポート内容が優れている。
評価：　良（79～70 点）	授業内での議論参加、レポート内容が良い。
評価：　可（69～60 点）	授業内での議論参加、レポート内容が最低限を満たす。
評価：不可（59 点～）	出席不良で、授業内での議論参加が不十分。
留意点 /Additional Information	なし

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	クリティカルシンキング		
サブタイトル/Sub Title	ビジネスにおける「価値創造」「課題解決」に求められる論理思考、頭の使い方		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Critical Thinking		
教員/Instructor	柏木吉基	E-mail	kashiwagi@data-story.net
科目群/Course Classification	実践知考具/デジタル経営	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

実務における課題解決および企画・提案を行う際の「マインド」「思考プロセス」「手法（ツール）」などを身に着けます。単に“論理学”を学ぶのではなく、組織の中で、多くの人の納得・共感を得て、人や組織を動かすことができる人材となることを目指します。

到達目標/Course Goals

思い付きや勘と経験で方策や意見を言う思考の癖を取り払い、ロジカルな根拠に基づいて結論を述べたり、本質的な問題解決ができるスキルを身に付けること。更に、これらのスキルを活用し、チームの合意形成をリードする人材となること。

授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション　グループワーク、ディート、　プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	なし		

講義概要/Course Description　全 8 講　第 1 講～第 7 講は各 180 分　第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	**論理構築**のための論理思考 1 課題・論点の設定（定義）
事前、事後学習ポイント	なし
詳細	自分が言うべき内容、解くべき課題の具体性は、その後のプロセスや精度、結論の質に大きなインパクトを与えます。これらを防ぐための注意点や考え方、ポイントを学びます。
第 2 講	
概要	**論理構築**のための論理思考 2 演繹・帰納法、論理構造（ピラミッドストラクチャー） 1
事前、事後学習ポイント	【宿題】共通の課題（テーマ）に沿って、自らの主張を作ります
詳細	演繹法や帰納法などの論理学を”ツール“として使いながら、自分の論理性のチェックを行い、主張を適切に作り上げるスキルを身に付けます。
第 3 講	
概要	**論理構築**のための論理思考 3 演繹・帰納法、論理構造（ピラミッドストラクチャー） 2
事前、事後学習ポイント	なし
詳細	宿題のアウトプットをクラス内で共有、改善点、問題点を協議します。
第 4 講	
概要	**課題解決**のための論理思考 1
事前、事後学習ポイント	なし
詳細	課題定義～課題ポイントの特定までのプロセスについて学びます。具体的には課題を具体化した後、適切な切り口で課題分解し、具体性を高めるスキルを身に付けます。
第 5 講	
概要	**課題解決**のための論理思考 2
事前、事後学習ポイント	課題要因の特定～方策案の絞り込みまでのプロセスについて学びます。具体的には、漏れのない要因候補をどう出すか、挙がった対策案にどう優先度をつけるかなどのテクニックや思考法を身に付けます。（参加者の意向、講義の進捗などにより、ケーススタディを導入する可能性もあり）
詳細	なし
第 6 講	
概要	**組織・チーム**で論点を整理する技術 1

事前、事後学習ポイント	なし
詳細	チームでの合意を得るために必要なファシリテーションの技術を身に付けます。
第 7 講	
概要	**組織・チーム**で論点を整理する技術２
事前、事後学習ポイント	試験課題の発表
詳細	第 1 回～5 回までで個人で身に付けたスキルをチームリーディングに応用し、チームで合理的な結論を出すためのテクニックを身に付けます
第 8 講	
概要	まとめと試験
事前、事後学習ポイント	なし
詳細	プログラム全体を通したレビューと個人ワークの発表と評価。原則としてプレゼン発表時にフィードバックを予定
教科書 /Textbook	なし
指定図書 /Course Readings	なし
参考文献・参考 URL /Reference List	『人は勘定より感情で決める』柏木吉基著（技術評論社） https://www.amazon.co.jp/柏木吉基/e/B0042SL1HM
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席率(10%)／講義議論参画度(30%)／最終レポート(60%)　3 点の総合評価
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	上記総合評価による
評価：　良（79～70 点）	同上
評価：　可（69～60 点）	同上
評価：不可（59 点～）	同上
留意点 /Additional Information	特になし

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	サービスサイエンス		
サブタイトル/Sub Title	質的データ分析からの実践知考察		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Service science		
教員/Instructor	中野 未知子	E-mail	nakano-m@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具/デジタル経営	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

付加価値としてのサービスが、あらゆる産業に入り込んでいる今日「サービスをどのように変革していくか」は、セクターや業種を問わず組織における重大な経営課題のひとつである。サービス自体がコモディティ化してしまうという課題を乗り越え、消費者・生活者にとって価値ある存在であり続けるためには、サービス現場で働く人々と消費者・生活者との間に起こる相互作用をしっかり見つめ続けることが大切だ。

そこで重要になってくるのが、質的データのハンドリングスキルである。現場の傾聴や観察によって獲得した質的データから「何が起きているのか」を一定のモデルとして可視化し、量的データから得られる知見とも組み合わせながら考察することは、現状を改善したり良いところを伸ばしたりするための仕組みをつくっていく足掛かりとなってくれる。

本講義は、サービスサイエンスの実践への第一歩である。インタビューデータから実践知を導出する過程をケーススタディやフィールドワークを通じて体験的に学ぶことを目的とする。分析手法としては、質的データ分析手法のひとつである修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ（M-GTA）を用いる。限られた講義時間において理論より実践に重きを置くが、理解してもらいたい理論については参考図書や文献を積極的に紹介する。修士論文執筆で質的データ分析を予定している人にも本講義が一助になれば幸いである。尚、ケーススタディ形式の講義では、協力企業であるトランスコスモス・アナリティクス株式会社からゲスト講師の登壇を予定している。

到達目標/Course Goals

1）講義で扱う質的データ分析手法を用いて対人サービスの現状分析を行い、一定のモデルを導出・説明できること
2）1）で獲得した実践知が、自分の研究・実務にどのように活用できるかを、具体例を用いて説明できること

授業形態 /Form of Class	フィールドワーク、グループディスカッション、講義、ダイアローグ、グループワーク、プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	有
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	学期前半：学習内容整理、指定図書精読 学期後半：上記に加えフィールドワーク準備、プレゼン準備		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	【ケーススタディ】スターバックスの対人サービスをデータで語ると？　①
事前、事後学習ポイント	サービス、サービスサイエンス、質的データ 宿題：学びの振返り／スターバックスの接客や店舗の観察と得られたファクト・知見の整理。
詳細	● 形態：講義、グループディスカッション。 ● 内容：インタビュー回答やアンケートの自由回答等質的データを用いた対人サービス分析事例／サービスやサービスサイエンス等、基本用語の定義。
第 2 講	
概要	【ケーススタディ】スターバックスの対人サービスをデータで語ると？　②
事前、事後学習ポイント	顧客満足度、NPS（Net Promoter Score）、量的データ、カスタマージャーニー 宿題：学びの振返り／指定図書担当箇所の精読と要約。
詳細	● 形態：ゲスト講義（予定）、グループディスカッション。 ● 内容：宿題からの気づき／顧客満足度や NPS（Net Promoter Score）等量的データと質的データとの組み合わせ方事例。
第 3 講	
概要	【演習】対人サービスを質的データで語ろう　①　-実践に備えた予行演習-
事前、事後学習ポイント	フィールドワーク、質的分析手法、M-GTA、リサーチクエスチョン 宿題：学びの振返り／個人課題：調査対象者と RQ の考案。
詳細	● 形態：グループワーク、講義。 ● 内容：指定図書輪読と講義による、質的研究手法、M-GTA の理解。
第 4 講	
概要	【演習】対人サービスを質的データで語ろう　②　-実践に備えた予行演習-
事前、事後学習ポイント	M-GTA、半構造化インタビュー、ダイアローグ 宿題：学びの振返り／個人課題：設問項目の考案。

詳細	● 形態：グループディスカッション、講義。 ● 内容：インタビューデモンストレーションの傾聴、RQ の検討。
第 5 講	
概要	【フィールドワーク】対人サービスを質的データで語ろう　③　- 実践-
事前、事後学習ポイント	M-GTA、仮説探索、仮説検証 宿題：学びの振返り／個人課題：インタビュー実査の最終的な準備。中間成果物の作成。
詳細	● 形態：グループディスカッション、講義。 ● 内容：インタビューシミュレーション、設問項目の検討。
第 6～7 講	
概要	【フィールドワーク】対人サービスを質的データで語ろう　④　- 実践-
事前、事後学習ポイント	M-GTA、概念化 宿題：学びの振返り／第 8 講のプレゼンに向けたインタビュー結果の整理とモデルの導出。
詳細	● 形態：学外時間外でのフィールドワーク、グループディスカッション。 ● 内容： RQ、設問項目、中間成果物、最終成果物イメージの検討。インタビュー実査。（学外時間外活動）
第 8 講	
概要	【成果発表】学びの総まとめ
事前、事後学習ポイント	半年間の学びと、自分の研究・実務との紐づけ
詳細	● 形態：プレゼンテーション、グループディスカッション。 ● 内容：インタビューから導出したモデルの個別プレゼンテーション／本講義全体からの学びの振返り（フィードバックを含む）。
教科書 /Textbook	西條剛央（2007）『ライブ講義・質的研究とは何か（SCQRM ベーシック編）』新曜社 その他、適宜、資料を配布する。
指定図書 /Course Readings	西條剛央（2007）『ライブ講義・質的研究とは何か（SCQRM ベーシック編）』新曜社（教科書と同じ）
参考文献・参考 URL /Reference List	近藤隆雄（2012）『サービス・イノベーションの理論と方法』生産性出版 木下康仁（2003）『グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践―質的研究への誘い』弘文堂 佐藤郁哉（2002）『組織と経営について知るための実践フィールドワーク入門』有斐閣 その他、適宜、講義中に紹介、または資料を配布する。
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	授業出席とフィールドワーク実施(40％)、プレゼンテーション内容(40％)、ディスカッションや振返りへの参加姿勢（20％）
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	講義に出席且つ積極参加し、到達目標の 1)、2）の両方で優れた発表を行った。
評価：　良（79～70 点）	講義に出席且つ積極参加し、到達目標の 1)、2）のどちらかで優れた発表を行った。
評価：　可（69～60 点）	講義に出席且つ積極参加し、到達目標の 1)、2）について発表を行った。
評価：不可（59 点～）	講義への出席が不十分、フィールドワークを行わなかった、成果発表を行わなかった。
留意点 /Additional Information	体験から学ぶ点が大きいため、第 5～8 講の期間中に学外時間外でインタビュー実査とその結果のまとめ、第 8 講でまとめた内容のプレゼンテーションをしていただく。進め方は教員から指示する。

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	データビジネス活用（ 課題解決モデリング）		
サブタイトル/Sub Title	問題解決とデータ分析（一流の「問題解決者」となるために）		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Practice of Business Data Science III		
教員/Instructor	志賀敏宏	E-mail	
科目群/Course Classification	実践知考具/デジタル経営	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

「問題発見・定義→問題解析・解決策策定→解決策実行」が問題解決です。データ分析は主として前二段階にかかわりますが、解決策実行の支援・促進ができなければ問題解決者にはなれません。また、正しい問題（効果が大きく解決可能）を定義しなければ意味がありません。加えて、目的を明確にせずにデータ分析を行えば、モンキーオペレーションです。本講義はこれらの隘路に陥らず、一流の「問題解決者」となる方法を受講生の皆さんが体得することを目的とします。中核は、「問題解決のためのモデル作り」です。

到達目標/Course Goals

受講生自身の抱える課題（修論テーマ候補等）に関して、ディプロマポリシーでの「情報収集能力と分析能力」、「イノベーターシップ」を獲得するために、「問題解決のためのモデル作り」を実行します。加えて、適宜、一般的な事例に関しても、「モデル作り」を行います。

授業形態 /Form of Class	講義、発見学習、グループワーク、グループディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	無
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	講義でのプレゼンテーションの資料作成。資料・図書の熟読・まとめ。		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	オリエンテーション
事前、事後学習ポイント	次回への宿題：データ分析・モデル化課題のプレゼン準備
詳細	①受講生・教員の自己紹介とオリエンテーション、②問題解決とデータ解析の本質、③次回への課題提示
第 2 講	
概要	データ分析・モデル化課題のプレゼン
事前、事後学習ポイント	次回への宿題：データ解析・モデル化課題の深耕
詳細	①データ解析・モデル化課題の検討，②データ解析・モデル化課題のプレゼン、③②の検討による問題解決アプローチ、④次回への課題提示（データ解析・モデル化課題の検討の深耕）
第 3 講	
概要	データ分析・モデル化課題の深耕のプレゼン
事前、事後学習ポイント	次回への宿題：中間レポート作成
詳細	①　データ分析・モデル化課題の検討深耕のプレゼン② ①の検討による中間レポート作成について
第 4 講	
概要	中間レポートのプレゼン
事前、事後学習ポイント	次回への宿題：中間レポートの深耕
詳細	①中間レポートのプレゼンと検討、 ②中間レポートの深耕の検討
第 5 講	
概要	中間レポートの深耕のプレゼン
事前、事後学習ポイント	次回への宿題：最終レポートの構想作成
詳細	①中間レポートの深耕のプレゼン、② ①に関する検討による最終レポート作成指針、③志賀の参画したデータ分析・問題解決事例紹介［1］（受講人数・時間によっては割愛）
第 6 講	

概要	最終レポートの構想プレゼン
事前、事後学習ポイント	次回への宿題：最終レポートの作成
詳細	①最終レポート構想のプレゼン、② ①に関する検討、③志賀の参画したデータ分析・問題解決事例紹介［2］（受講人数・時間によっては割愛）
第 7 講	
概要	最終レポートのプレゼン
事前、事後学習ポイント	次回への宿題：最終レポートへの追加・修正
詳細	①最終レポートのプレゼン、 ② ①に関する検討、結果の吟味と更なる深耕に向けの検討
第 8 講	
概要	本講義のまとめ
事前、事後学習ポイント	事前準備：最終レポートへの追加・修正箇所のプレゼン準備
詳細	①本講義のまとめ、 ②更なる学びの向けての意見交換
教科書 /Textbook	なし。適宜資料配布。
指定図書 /Course Readings	伊丹敬之（2001）『創造的論文の書き方』有斐閣
参考文献・参考 URL /Reference List	G.M.ワインバーグ（1990）『コンサルタントの秘密-技術アドバイスの人間学』 ※初回に図書の概要を紹介しますので、入手される場合もそれ以降でかまいません
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席(40％)、授業内での議論（30％)、プレゼン内容(30％)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： 優（100～80 点）	問題解決モデリング能力が高く、議論・プレゼン内容が優れている。
評価： 良（79～70 点）	問題解決モデリングに取り組むことができ、議論・プレゼン内容が良い。
評価： 可（69～60 点）	問題解決モデリングに意欲があり、議論・プレゼン内容が平均程度。
評価：不可（59 点～）	出席不良で、議論・プレゼン内容に課題が多い。
留意点 /Additional Information	デジタル経営でのテクニックの前提となる科目です。

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	ビジネスデータ活用実践(事業提案)		
サブタイトル/Sub Title	データ活用を前提とした事業企画の初歩		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Business Development using Data Science		
教員/Instructor	佐藤洋行	E-mail	Sato-h@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具／デジタル経営	単位数/Credits	2

授業形態 /Form of Class	講義／グループディスカッション／プレゼンテーション／双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	無
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	毎回の授業で、次の授業でプレゼンテーションしてもらうための課題を課す		

講義目的/Aim of Course

近年、経営においてデータ活用は欠くべからざるものとなっているが、その進め方について、データ解析の手法を解説する書籍や講義は多い一方で、プロジェクト管理や組織について言及したものは少ない。本講義では、ビジネスにおけるデータ活用プロジェクトに数多く携わってきた講師の実践知を体系的に学んでもらうことで、ビジネスにおけるデータ活用事業を企画提案するために必要な知識を幅広く身につけてもらう。

到達目標/Course Goals

高いデータ活用プロジェクトの企画提案書作成に必要な実践知を身につけてもらうこと

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	イントロダクション：　データ活用方法の分類による事業企画の基礎学習
事前、事後学習ポイント	データ活用の事例とその分類、ビジネスフレームワークとの関係性
詳細	データ活用の事例を紹介しながら分類し、各種ビジネスフレームワークとの関係性について論じる。これにより、データ活用プロジェクトの発想を論理的に行うための技術を身に付ける。
第 2 講	
概要	データ活用のためのシステムインフラⅠ　データ収集
事前、事後学習ポイント	Web 上の行動データ収集、オフラインでのデータ収集、各種センサーの発達
詳細	現実をデータ化するための手法、複数のデータを結合して活用する際に利用可能なキー項目について学ぶ。また、それと各種ビジネスフレームワークとの関係性を理解することで、必要なデータの収集を効率的に行うための発想を論理的に行うための技術を身に付ける。
第 3 講	
概要	データ活用のためのシステムインフラⅡ　ツール／サービスの整理と事例紹介
事前、事後学習ポイント	クラウドサービス、オープンソースソフトウェア、フリーソフトウェア
詳細	データ活用に利用可能なクラウドサービスや、オープンソース／フリーソフトウェアを、それぞれオンプレミス環境やクローズドソースソフトウェアとの関係の中で学ぶ。それにより、データ活用事業のインフラを合理的に選択するための知識を身に付ける。
第 4 講	
概要	データ活用プロジェクト推進のためのフレームワーク
事前、事後学習ポイント	データ分析のフレームワーク、PPDAC、CRISP-DM
詳細	データ分析のフレームワークである、PPDAC や CRISP-DM を紹介しながら、それらの共通点を探り、データ分析の進め方の核心を理解する。それにより、データ活用事業のプロジェクト推進の基礎を理解する。
第 5 講	
概要	データ活用のための人材
事前、事後学習ポイント	データ活用事業におけるステークホルダー、データサイエンティストのスキル定義
詳細	第 4 講で学んだデータ活用プロジェクトのフレームワークの各ステップにおいて、どのようなステークホルダーが存在するのかを整理する。その上で、プロジェクトに重要な役割を果たすデータサイエンティストについて、どのようなスキルが必要かを、データサイエンティスト協会のまとめたスキル定義に従って論じる。それによって、データ活用に必要な人材を理解し、事業企画の実現可能性を高められるようにする

第 6 講	
概要	データ活用のための組織
事前、事後学習ポイント	プロジェクトマネージメント、アジャイル開発、スクラム
詳細	データ活用プロジェクトの大きな特徴である、不確実性をマネジメントするためのプロジェクト体制について、アジャイル開発手法のひとつであるスクラムを基礎にして学ぶ。それにより、合理的なプロジェクト体制を設計できるようにする
第 7 講	
概要	データ活用事業提案①
事前、事後学習ポイント	事業企画と提案
詳細	これまで学んだ知識を組み合わせ、実際にデータ活用事業の企画を行い、提案書にまとめる
第 8 講	
概要	データ活用事業提案②
事前、事後学習ポイント	提案のフィードバックと改善
詳細	まとめた提案書をプレゼンテーションし、フィードバックをもらう。また、そのフィードバックに基づいて改善を行ってもらう
教科書 /Textbook	無
指定図書 /Course Readings	無
参考文献・参考 URL /Reference List	道具としてのビッグデータ（高橋範光，日本実業出版社，2015）、スクラム実践入門（貝瀬岳志 他，技術評論社，2015）
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席率（30%）／講義議論参画度（20%）／最終レポート（50%）　3 点の総合評価
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	優れたデータ活用事業の企画を提案書としてまとめられた
評価：　良（79～70 点）	データ活用事業の企画を提案書としてまとめられた
評価：　可（69～60 点）	データ活用事業の企画ができた
評価：不可（59 点～）	データ活用事業の企画ができない
留意点 /Additional Information	ビジネス応用面に重点を置くため、ある程度の基礎知識は身についていることを前提に講義を進める。そのため、参考図書を始めとして、データ活用やアジャイルなプロジェクト進行に関する書籍に予め目を通しておくこと。

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	集中ゼミ（統計検定）		
サブタイトル/Sub Title	統計的データの分析入門		
英文科目名/Course Title(Eng.)			
教員/Instructor	今泉　忠	E-mail	imaizumi@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具/デジタル経営	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

ビジネスでのデータサイエンスにおいては、適切な統計的処理を必須である．そのための基礎となるデータの分析に関しての統計活用力を修得する．

到達目標/Course Goals

ディプロマポリシーでの「情報収集能力と分析能力」と「「知の再武装」を達成するために，以下の力について修得する．
(1) 基本的な用語や概念の定義に関して理解できる統計リテラシー力を修得する
(2) 用語の基礎的な解釈や２つ以上の用語や概念の関連性を理解できる統計的推論力を修得する
(3) 具体的な文脈に基づいて統計の活用ができる統計的思考力を修得する
統計検定３級に合格する

授業形態 /Form of Class	講義	学外学習 /Off-Campus Learning	無し
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	事前にテキストを読んでおくこと		

講義概要/Course Description　全 8 講　第 1 講～第 7 講は各 180 分　第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	データの変数
事前、事後学習ポイント	データ
詳細	データ行列を扱える力を修得するために，データで扱う変数について理解する
第 2 講	
概要	データのグラフ表現
事前、事後学習ポイント	EXCEL を利用する
詳細	データの図的表現力を修得するために，データの散らばりのグラフ表現（ヒストグラム，箱ひげ図，折れ線グラフ，幹葉図）について学ぶ
第 3 講	
概要	データの要約
事前、事後学習ポイント	分布の代表値による把握
詳細	データで要因を比較できる力を修得するために，特徴量の違いを理解するデータの特徴量（中央値，平均値，最頻値）について学ぶ
第 4 講	
概要	散らばり
事前、事後学習ポイント	特徴量との関係を理解する
詳細	リスクを評価できる力を修得するために，データの散らばりの指標（四分位数，四分位範囲（四分位偏差））について学ぶ
第 5 講	
概要	相関関係
事前、事後学習ポイント	相関係数
詳細	変数間の関係を量的に理解できる力を修得するために，データの標準化と 2 変数の相関（相関，散布図（相関図），相関係数）について学ぶ
第 6 講	
概要	確率基礎
事前、事後学習ポイント	ベン図
詳細	事象の生起について，確率分布を通じて理解する力を修得するために，確率（独立な試行）について学ぶ

第 7 講	
概要	確率
事前、事後学習ポイント	確率の独立性
詳細	複数の事象の同時生起について理解するために確率（条件付き確率）やベイズの定理について学ぶ
第 8 講	
概要	まとめ
事前、事後学習ポイント	なし
詳細	なし
教科書 /Textbook	日本統計学会編　統計検定 3 級対応「データの分析」東京図書、その他
指定図書 /Course Readings	なし
参考文献・参考 URL /Reference List	なし
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席：分析レポート=50：50
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	統計検定３級に合格か，統計リテラシー力・統計的推論力・統計的思考力を修得
評価：　良（79～70 点）	統計検定３級に合格に近い点数を得たか，統計リテラシー力・統計的推論力・統計的思考力のいづれか２つの力を修得
評価：　可（69～60 点）	統計検定３級で一定の評価を得たか，統計リテラシー力・統計的推論力・統計的思考力のいづれか１つの力を修得
評価：不可（59 点～）	いずれも修得できない
留意点 /Additional Information	PC により演習も行う

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	データサイエンスマインド		
サブタイトル/Sub Title	データサイエンスを用いた企業変革力を身にまとう		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Data Science Mind		
教員/Instructor	前田英志	E-mail	
科目群/Course Classification	実践知考具/デジタル経営	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

本講義は、データサイエンスを用いた企業変革を行うために必要な知識と能力を習得することを目的とします。知識については、①変革プロジェクト、②組織設計(CDO: Chief Data Office)、③データサイエンスに関わる人材定義・確保、④システムアーキテクチャー設計・構築　の 4 つにわけ、受講生の皆さんが自社もしくは他企業に具体的にこれらの要素を含んだ企業変革を提言するプロセスを通じて、実践知として習得することを狙いとしています。また、基礎能力として、A 論理力 B 発想力 C 統計活用力 D 表現力の 4 つを獲得することで、これらの提言をより効果的に行えるようにします。

到達目標/Course Goals

データサイエンスを用いた企業変革をご自身で提言できるようになることを目標とします。
また、その提言を論理的に、広い発想で、データを用い、わかりやすく表現できる能力が身についていることを期待します。ディプロマポリシーとの関連では、『実践知』『情報収集能力と分析能力』『志を全うする戦略性と突破力』の 3 つの力の強化を狙っております。

授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション、プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	無
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	プレゼンテーション資料作成		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	データサイエンスを武器とする企業とは?
事前、事後学習ポイント	事前：なし 事後：自社もしくは他企業が、データサイエンスを武器とする企業の成熟度マップでいうとどのセグメントにいるのかを調査する（調査結果を次講で議論する）
詳細	到達目標：A.データサイエンスを武器とする企業の成熟度による違いが説明できるようになる。B.データサイエンスを武器とする企業に変革するために必要な要素が理解できる。 内容：①受講生、教員の自己紹介　②講義「データサイエンスを武器とする企業とは？」③データ思考力（論理、発想、基礎統計、グラフ）に関わる現状の能力把握のためのテスト（結果は、各受講生の成績に反映するものではなく、この先の講義でどこを重点的に実施すべきかを判断するために活用する）
第 2 講	
概要	データサイエンスを用いた変革プロジェクトの理解
事前、事後学習ポイント	事前：なし 事後：データサイエンスを用いた変革プロジェクトで自社もしくは他企業に適用できるものを体系的に洗い出す　（調査結果を次講で議論する）
詳細	到達目標：A. データサイエンスを用いた変革プロジェクトの概要を理解できる　B. 論理思考の 3 要素、水平思考の 3 要素が説明できるようになる 内容：①「データサイエンスを武器とする企業とは？」のディスカッション　②データサイエンスを用いた変革プロジェクトの講義　③論理思考の 3 要素に関する講義（場合により演習あり）　④水平思考の 3 要素に関する講義（場合により演習あり）
第 3 講	
概要	データサイエンスを支える組織(CDO: Chief Data Office)の理解
事前、事後学習ポイント	事前：なし 事後：データサイエンスを支える組織が、自社もしくは他企業において、具体的にどの部門が担っているかを調査する（調査結果を次講で議論する)、
詳細	到達目標：A. データサイエンスを支える組織(CDO: Chief Data Office)を理解できる　B. 統計知識のうちビジネス応用で重要な概念が理解できる　C. グラフ活用の原理原則が理解できる 内容：①データサイエンスを用いた変革プロジェクトの議論　②データサイエンスを支える組織(CDO: Chief Data Office)の講義　③ビジネス応用観点で重要な統計知識の講義　④グラフ活用の原理原則の講義
第 4 講	

概要	データサイエンスを活用するために必要な人材の理解
事前、事後学習ポイント	事前：データサイエンスを用いた企業変革のシナリオを自社もしくは他企業を対象に具体的に考えてくる。フォーマットは講師より提供する。 事後：データサイエンスを活用するために必要な人材が、自社もしくは他企業において、具体的にどこにいるかを調査する（調査結果を次講で議論する）
詳細	到達目標：A. データサイエンスを活用するために必要な人材を理解できる　B. データサイエンスを用いた企業変革のシナリオを自分の意見として言える 内容：①データサイエンスを支える組織(CDO: Chief Data Office)の議論　②データサイエンスを活用するために必要な人材の講義　③データサイエンスを用いた企業変革のシナリオ骨子のプレゼンと議論（5 名づつのグループに別れて実施）
第 5 講	
概要	データサイエンスを支えるシステムアーキテクチャーの理解
事前、事後学習ポイント	事前：データサイエンスを用いた企業変革のシナリオを自社もしくは他企業を対象に具体的に考えてくる。フォーマットは講師より提供する。 事後：データサイエンスを支えるシステムアーキテクチャーのが、自社もしくは他企業において、具体的にどうなっているかを調査する（調査結果を次講で議論する）
詳細	到達目標：A. データサイエンスを支えるシステムアーキテクチャーを理解できる　B. データサイエンスを用いた企業変革のシナリオを自分の意見として言える 内容：①データサイエンスを活用するために必要な人材の理解の議論　②データサイエンスを支えるシステムアーキテクチャーの講義　③データサイエンスを用いた企業変革のシナリオの骨子のプレゼンと議論（5 名づつのグループに別れて実施）
第 6 講	
概要	データサイエンスを用いた企業変革のプレゼンテーション
事前、事後学習ポイント	事前：データサイエンスを用いた企業変革をプレゼンテーションとしてまとめてくる 事後：
詳細	到達目標： A. データサイエンスを用いた企業変革をプレゼンテーションできる 内容：①データサイエンスを支えるシステムアーキテクチャーの議論　②データサイエンスを用いた企業変革のプレゼンと議論（5 名づつのグループに別れて実施）
第 7 講	
概要	データサイエンスを用いた企業変革の最終プレゼンテーション to ゲスト（IBM の戦略コンサルタントを想定）
事前、事後学習ポイント	事前：データサイエンスを用いた企業変革をプレゼンテーションとしてまとめてくる 事後：
詳細	到達目標： A. データサイエンスを用いた企業変革を説得力を持ってプレゼンできる。 内容：①データサイエンスを用いた企業変革のプレゼン to ゲスト
第 8 講	
概要	ふりかえりと明日への一歩
事前、事後学習ポイント	事後：今後ご自身が実施するとコミットした内容を実務の中で意識する
詳細	到達目標： A. この講義を通じた明日への一歩が明確になる。 内容：①受講生のふりかえり　②今後に向けたディスカッション
教科書/Textbook	なし。適宜資料配布。
指定図書/Course Readings	なし。
参考文献・参考 URL/Reference List	なし。
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席(30%)、授業内での議論参加(40%)、プレゼン内容(30%)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	データサイエンスを用いた企業変革に関わる議論、プレゼン内容が優れている。
評価：　良（79～70 点）	データサイエンスを用いた企業変革に関わる議論、プレゼン内容が良い。
評価：　可（69～60 点）	データサイエンスを用いた企業変革に関わる議論、プレゼン内容が平均程度。
評価：不可（59 点～）	出席不良で、議論、プレゼン内容に問題が多い。
留意点 /Additional Information	なし

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	デジタル・トランスフォーメーションの実践知		
サブタイトル/Sub Title	ビジネスと IT が真に一体となった変革アプローチ		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Digital Transformation		
教員/Instructor	森祐之	E-mail	
科目群/Course Classification	実践知考具／デジタル経営	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course			
AI (Augmented Intelligence) をはじめとする、デジタル技術とも呼ばれる先進技術は、破壊的イノベーションをもたらすと言われている一方で、そのポテンシャルを引き出すことは容易ではありません。本講義では、企業や社会において、デジタル・トランスフォーメーションを企画、推進できるための実践知を身につけることを目指します。			
到達目標/Course Goals			
ディプロマポリシーでの「デジタル技術」「知の再武装」「実践知」を達成するために、上記目的に資するデジタル・トランスフォーメーションの企画、推進の実践を通じて、その要諦を学びます。			
授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	プレゼンテーション資料作成。講義に向けての個々人での情報収集、検討。		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可	
第 1 講	
概要	オリエンテーション
事前、事後学習ポイント	事前：デジタル・トランスフォーメーション事例、先進技術
詳細	①受講生・教員の自己紹介とオリエンテーション、②デジタル・トランスフォーメーションとは、③次回への課題提示（テーマ案事前検討）
第 2 講	
概要	デジタル・トランスフォーメーションのケーススタディ
事前、事後学習ポイント	事前：テーマ案と関連するデジタル・トランスフォーメーション事例
詳細	①グループワークによるデジタル・トランスフォーメーションの成功要因分析とプレゼン、②デジタル・トランスフォーメーション検討テーマの選定、③次回への課題提示（フィールド調査）
第 3 講	
概要	課題（ペインポイント）の深耕
事前、事後学習ポイント	事前：解決すべき課題に関する情報収集
詳細	①グループディスカッションによる解決すべき課題の特定と深耕、②課題解決後の姿の定義、③次回への課題提示（中間プレゼン準備）
第 4 講	
概要	デジタル・トランスフォーメーション企画中間プレゼン
事前、事後学習ポイント	事前：課題解決による効果
詳細	①グループごとの中間プレゼンと相互評価、②ペインポイントと解決後の姿の深耕、③次回への課題提示（先進技術動向調査）
第 5 講	
概要	先進技術の探索
事前、事後学習ポイント	事前：先進技術のポテンシャルと限界
詳細	①先進技術の紹介、②グループディスカッションによる課題解決アイディアの検討、③次回への課題提示（実現に向けたリスクの検討）
第 6 講	
概要	検証アプローチ
事前、事後学習ポイント	事前：実現に向けたリスクの検討
詳細	①グループディスカッションによるリスクの検討、②デジタル・トランスフォーメーション実施アプローチの検討、③次回への課題提示（最終プレゼン準備）
第 7 講	

概要	最終プレゼン
事前、事後学習ポイント	事前：プレゼンにおける役割分担
詳細	①最終プレゼンと相互評価、②企画の洗練
第 8 講	
概要	本講義のまとめ
事前、事後学習ポイント	事前：デジタル・トランスフォーメーション実践にあたっての壁
詳細	①本講義のまとめ、②デジタル・トランスフォーメーション実践に向けての意見交換
教科書 /Textbook	なし。適宜資料配布。
指定図書 /Course Readings	なし。
参考文献・参考 URL /Reference List	なし。
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席(40%)、グループワーク参加(30%)、プレゼン(30%)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： 優（100～80 点）	解決すべき課題、先進技術を活用した解決策の内容が高度で優れている。
評価： 良（79～70 点）	解決すべき課題、先進技術を活用した解決策の内容が良い。
評価： 可（69～60 点）	解決すべき課題、先進技術を活用した解決策が定義できている。
評価：不可（59 点～）	出席不良で、課題及び解決策の定義に貢献できていない。
留意点 /Additional Information	企業や社会を成長させるための課題意識を日頃から持っていると、本講義によって得られる実践知がより磨かれます。

講義年/Year	2018	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	暗黙知として理解する AI		
サブタイトル/Sub Title	実践 Watson で学ぶ		
英文科目名/Course Title(Eng.)			
教員/Instructor	鈴木　至	E-mail	
科目群/Course Classification	実践知考具/デジタル経営	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

AI によるデータ活用による競争力向上を目指すために必要となるケーパビリティである AI の理解とデータ評価と整備について IBM Watson を通じて学習する。

到達目標/Course Goals

ディプロマポリシーでの「情報収集能力と分析能力」と「知の再武装」を達成するために、上記に資する「暗黙知の可視化と活用」を実践します。

授業形態 /Form of Class	講義、グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	講義でのプレゼンテーション資料作成。資料・図書・文献の熟読とまとめ。データアセスメントのまとめ。		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	オリエンテーション
事前、事後学習ポイント	事前学習：
詳細	①受講生・教員の自己紹介とオリエンテーション、②人工知能の事例紹介と企業のケーパビリティ(講義)、③人口知能の活用アイディア出し、④次回への課題提示（ユースケースとシナリオ作成）
第 2 講	
概要	ユースケース詳細化ワークショップ
事前、事後学習ポイント	事前学習：デザインワークショップの学習
詳細	グループディスションによる①活用アイディアからユースケースを導出、②ユースケースの評価とシナリオ作り、④対象データ候補の検討、⑤次回の課題提示(ユースケース詳細化)
第 3 講	
概要	価値を最大化するシナリオの詳細化
事前、事後学習ポイント	事前準備：ユースケースの準備
詳細	①人工知能活用のシナリオ詳細化(講義)、②シナリオ詳細化の実践、③必要となるデータ検討、④次回の課題提示(データの評価と整備)
第 4 講	
概要	データアセスメント(評価と整備)の実践
事前、事後学習ポイント	-
詳細	①データアセスメント手法(講義)、②設定シナリオに基づきデータアセスメントの実践と結果プレゼン、③次回の課題提示(中間レポート作成の指針)
第 5 講	
概要	中間レポートのプレゼン
事前、事後学習ポイント	事前準備：中間レポート
詳細	①人工知能活用のユースケースのプレゼンと相互評価、③次回の課題提示(学習モデル設計)
第 6 講	
概要	学習モデルの設計と人工知能の性能評価
事前、事後学習ポイント	-
詳細	①学習モデル設計(講義)、②人工知能の性能評価(講義)、③学習モデル設計と性能評価の実践、④最終レポートの作成指針
第 7 講	

概要	最終レポートのプレゼン
事前、事後学習ポイント	事前学習：最終レポート、プレゼン準備
詳細	①最終レポートのプレゼン、②活用モデル実践における課題・提言の検討
第 8 講	
概要	本講義のまとめ
事前、事後学習ポイント	事前学習：最終レポートの追加・修正
詳細	①本講義のまとめ、②人工知能、データ活用における課題・提言の意見交換
教科書 /Textbook	なし、適宜資料配布
指定図書 /Course Readings	なし
参考文献・参考 URL /Reference List	なし
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席(40%)、グループワーク(20%)、プレゼン内容(40%)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	人工知能によるデータ活用を実践する能力が高く、プレゼン内容が優れている
評価：　良（79～70 点）	人工知能によるデータ活用による解決策のプレゼン内容がよい
評価：　可（69～60 点）	人工知能を活用した解決策を定義できる
評価：不可（59 点～）	出席不良で、議論・プレゼン内容に課題が多い
留意点 /Additional Information	なし

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	データ活用入門		
サブタイトル/Sub Title	ビジネスための統計学入門		
英文科目名/Course Title(Eng.)			
教員/Instructor	今泉　忠	E-mail	imaizumi@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具/デジタル経営	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

ビジネスではデータをもとに提案する場合には、統計学の考え方や知識が必須である。この講義では、統計的思考をもとに実際のビジネス現場で統計学を利活用できるようになることを目指す。

到達目標/Course Goals

ディプロマポリシーでの「情報収集能力と分析能力」と「「知の再武装」を達成するために，「デジタル技術」をもとに上記目的に資する「問題解決のためのモデル」と「データ分析」で統計学を利活用できるようになる．そのために、調査設計，データ収集，データモニタリング，データ分析，分析結果の発表を行える力を修得する．

授業形態 /Form of Class	グループワーク，グループディスカッション，プレゼンテーション	学外学習 /Off-Campus Learning	無し
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	毎授業後にチーム毎のレポートを提出すること		

講義概要/Course Description　全 8 講　第 1 講～第 7 講は各 180 分　第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	データの要約と分布
事前、事後学習ポイント	EXCEL の操作を復習しておくこと
詳細	分析のフレームを活用できる力を修得するために，PDSA と統計で扱う変数の型について学ぶ．分布に関しても学修する。
第 2 講	
概要	仮説構築と分析入門
事前、事後学習ポイント	データについて調べておく
詳細	討議力や仮説構築力を修得するために，実データについて，チームで仮説を構築し，基礎分析で検討する．箱ひげ図などについても講義する
第 3 講	
概要	相関関係からに構造発見
事前、事後学習ポイント	相関係数について整理しておく
詳細	レポートへのフィードバックを行う． 因果関係を類推できるようになるために，相関関係から因果関係を検討する．
第 4 講	
概要	区間推定と仮説検定
事前、事後学習ポイント	推測について理解しておく
詳細	仮説検証力を修得するために，仮説の検証や区間推定について学修する．中心極限定理についての知識も学修する
第 5 講	
概要	主効果と交互作用
事前、事後学習ポイント	説明変数と目的変数について整理しておく
詳細	要因効果を評価できる力を修得するために，重回帰モデルや分散分析などの活用について学修する
第 6 講	
概要	残差分析
事前、事後学習ポイント	仮説の表現とその評価
詳細	モデルを比較検討する力を修得するために，モデルの適合度や残差の分析の重要性について学修する．

第 7 講	
概要	発表資料作成
事前、事後学習ポイント	なし
詳細	データプレゼンテーション力を修得するために実際のデータについてPDSAをもとに分析レポートを作成する
第 8 講	
概要	発表
事前、事後学習ポイント	なし
詳細	チーム別の分析結果発表を行う レポートへのフィードバックを行う.
教科書 /Textbook	講義資料は用意する.
指定図書 /Course Readings	なし
参考文献・参考 URL /Reference List	なし
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	出席：分析レポート=50：50
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： 優（100～80 点）	課題設定―データ収集―分析―仮説の検証を行える
評価： 良（79～70 点）	課題設定―データ収集―分析を行える
評価： 可（69～60 点）	課題設定―データ収集を行える
評価：不可（59 点～）	課題設定か調査設計かデータ収集のいずれかしかできない
留意点 /Additional Information	チーム学習となるので，積極的に参加すること．有料のソフト（約 6,000 円）を購入する必要があるかもしれない

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	マーケティングリサーチ		
サブタイトル/Sub Title	データドリブンマーケティング		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Marketing Research		
教員/Instructor	豊田裕貴	E-mail	toyoda@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具／デジタル経営	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

マーケティングを考える際、顧客ないし自社および競合を含めた環境の現状把握は必須である。本講義では、データを活用し現状把握をする方法とマーケティングへの活用方法を学ぶ。なお、データと言っても量的なものだけではなく、ヒアリングなどによる質的なデータについても活用する基礎を学ぶ。

到達目標/Course Goals

学んだ手法を各自のテーマに関連づけて活用できるようになることを目指す。
具体的には、マーケティング課題をデータで検討するための基本視点とその分析方法について理解し、情報収集能力と分析能力の向上を目指す。

授業形態 /Form of Class	講義、グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	学んだ手法を自分のテーマに関連づけることに重きを置く。		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	マーケティングリサーチの基礎
事前、事後学習ポイント	各回、復習を中心にし、学んだ内容を各自のテーマに関連づけることを行う。
詳細	マーケティングリサーチの全体像と必要なデータ分析スキルの概要について説明する。とくに、マーケティングゴールの設定について事例と共に学習する。
第 2 講	
概要	顧客ニーズと満足度の把握
事前、事後学習ポイント	各回、復習を中心にし、学んだ内容を各自のテーマに関連づけることを行う。
詳細	顧客満足度調査データを用いて、フォーカスすべき戦術ポイントを評価する方法を学ぶ。また、データの入力から分析についてもＥｘｃｅｌを用いて行う方法を学習する（ＰＣ演習）。
第 3 講	
概要	顧客ニーズの階層性の把握
事前、事後学習ポイント	各回、復習を中心にし、学んだ内容を各自のテーマに関連づけることを行う。
詳細	ニーズの背後にあるより上位のニーズあるいは具体化された下位のニーズについて、定性調査によって調査、検討する方法を学ぶ。
第 4 講	
概要	ブランドイメージ調査演習
事前、事後学習ポイント	各回、復習を中心にし、学んだ内容を各自のテーマに関連づけることを行う。
詳細	顧客満足度ならびにニーズについての学習の成果を元に、グループごとにアンケート票を作成する演習を行う。そのことで、アンケート作成の基礎とブランド評価基準について学習する。
第 5 講	
概要	コンジョイント分析による戦術評価（1）
事前、事後学習ポイント	各回、復習を中心にし、学んだ内容を各自のテーマに関連づけることを行う。
詳細	コンジョイント分析による戦術評価を行うために用いる回帰分析について、学習する。その後に、直交計画表を用いて戦術案を作成し、調査を行う（ＰＣ演習）。※レポート対象回
第 6 講	

概要	コンジョイント分析による戦術評価（2）
事前、事後学習ポイント	各回、復習を中心にし、学んだ内容を各自のテーマに関連づけることを行う。
詳細	設計した調査によって得られたデータを分析し、戦術評価行う（ＰＣ演習）。※レポート対象回
第 7 講	
概要	顧客セグメンテーションとターゲティング
事前、事後学習ポイント	各回、復習を中心にし、学んだ内容を各自のテーマに関連づけることを行う。
詳細	顧客セグメンテーションの基本的な考え方、そしてクラスター分析など主要な分析方法を学び、その上で、ターゲッティングをするための評価方法について学ぶ。
第 8 講	
概要	本講義のまとめ
事前、事後学習ポイント	各回、復習を中心にし、学んだ内容を各自のテーマに関連づけることを行う。
詳細	まとめ
教科書 /Textbook	なし。適宜資料を配布する。
指定図書 /Course Readings	なし。適宜紹介する。
参考文献・参考 URL /Reference List	なし。適宜紹介する。
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席 30％、講義への参加 30%、プレゼンテーションおよびレポート 40%
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	手法を使い、各自のマーケティングテーマにデータを活用できる。
評価：　良（79～70 点）	手法を理解し、各自のマーケティングテーマにデータを活用する方法が考えられる。
評価：　可（69～60 点）	データを用いたマーケティングの方法を考えられる。
評価：不可（59 点～）	出席状況が悪い場合、もしくは、レポートなどの状況から内容理解が至っていないと考えられる。
留意点 /Additional Information	・PC 演習があるため、各自 PC（Excel がインストールされている）を持参すること。基本的な PC スキルがあること。 ・講義内容に連続性があるため、遅刻、欠席をしないこと。

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	統計的データ分析入門		
サブタイトル/Sub Title			
英文科目名/Course Title(Eng.)	Introduction to Statistical Data Analysis		
教員/Instructor	久保田　貴文	E-mail	kubota@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具／デジタル経営	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

ビジネスデータ分析するための最低限のスキルを身につける。統計ソフトウエアの中でも特にRを用いて入門的な内容と、それをデータ分析に活かす為の準備、そして実際の場面で必要な考え方を学ぶ。

到達目標/Course Goals

R 言語を用いて、データのハンドリング、グラフの作成、レポートやプレゼンテーションの作成のスキルを修得する。。さらに、後半では入門的な統計学の内容を特にビジネスに結びつける考え方を習得する。

授業形態 /Form of Class	講義・グループディスカッション	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	主に事後学習として 1 講義につき，3 時間程度。授業内での R 等の実施を実践してみる。		

講義概要/Course Description　全 8 講　第 1 講～第 7 講は各 180 分　第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	イントロ
事前、事後学習ポイント	事後学修として授業の中で実行した R のコードを実際に実施し，演習として実際のデータに応用すること。
詳細	R 入門，パッケージのインストール，radiant によるデータのインポート，1 変数データの記述統計，さらにベクトルや行列の演算、並べ替え、データの読み込み・書き出し、さらに繰り返し処理等を学ぶ
第 2 講	
概要	データハンドリング
事前、事後学習ポイント	事後学修として授業の中で実行した R のコードを実際に実施し，演習として実際のデータに応用すること。
詳細	radiant による 2 変数データの記述統計。さらにデータハンドリングやデータクレンジングの方法を学ぶ。
第 3 講	
概要	独立性の検定
事前、事後学習ポイント	事後学修として授業の中で実行した R のコードを実際に実施し，演習として実際のデータに応用すること。
詳細	クロス集計，質的データの適合度検定，カテゴリー間の関連性の検定
第 4 講	
概要	平均の検定，平均の差の検定
事前、事後学習ポイント	事後学修として，平均の差の検定を行うこと。
詳細	平均の検定，平均の差の検定
第 5 講	
概要	分散分析
事前、事後学習ポイント	事後学修として授業の中で実行した R のコードを実際に実施し，演習として実際のデータに応用すること。
詳細	効果を検証する：検定（平均値の差の検定、比率の差の検定）や分散分析を R を用いて実行する。
第 6 講	
概要	分散分析
事前、事後学習ポイント	事後学修として授業の中で実行した R のコードを実際に実施し，演習として実際のデータに応用すること。
詳細	効果を検証する：検定（平均値の差の検定、比率の差の検定）や分散分析を R を用いて実行する。

第 7 講	
概要	回帰分析
事前、事後学習ポイント	事後学修として授業の中で実行した R のコードを実際に実施し，演習として実際のデータに応用すること。
詳細	市場反応を分析する：R により相関分析や回帰分析などを行い関連性を分析する。
第 8 講	
概要	総合演習・最終課題
事前、事後学習ポイント	事後学修として授業の中で実行した R のコードを実際に実施し，演習として実際のデータに応用すること。
詳細	演習：第 1 講～第 7 講までの内容をふまえて、課題を課す。
教科書 /Textbook	特に指定しない。毎回資料を配布する。
指定図書 /Course Readings	特に指定しない。毎回資料を配布する。
参考文献・参考 URL /Reference List	特に指定しない。毎回資料を配布する。
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席率／講義議論参画度／最終レポート　3 点の総合評価
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	出席点＋講義議論参点＋最終レポートの合計点が 80 点以上
評価：　良（79～70 点）	出席点＋講義議論参点＋最終レポートの合計点が 70 点以上 79 点以下
評価：　可（69～60 点）	出席点＋講義議論参点＋最終レポートの合計点が 60 点以上 69 点以下
評価：不可（59 点～）	出席点＋講義議論参点＋最終レポートの合計点が 59 点以下
留意点 /Additional Information	講義の中では radiant を用いて解析する。最終レポートについては，メール等でフィードバックを行う。

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	医療介護業界の未来		
サブタイトル/Sub Title	毎年 2 兆円弱成長する分野とは		
英文科目名/Course Title(Eng.)	The future perspective of healthcare and long term care		
教員/Instructor	真野俊樹	メールアドレス	mano@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知 ／ヘルスケア	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

医療はコアの国民医療費の部分のみで 40 兆円超、周辺を入れればその 2 倍にもなろうかという巨大な産業分野になっている。介護ももはや 10 兆円産業である。
本講座では、医療/介護のコア部分、医療/介護周辺産業について経営学の視点で論じる。 その時々の環境変化・政策変化に応じてトピックスは柔軟に対応する。並行される医療介護オムニバス講座の補完の意味もあり、そちらで議論しきれなかった点を深めることも可能である。
秋学期に開講される医療介護オムニバス講座の補完の意味もあり、そちらで議論しきれない点を深めることも目的としている。

到達目標/Course Goals

最近の医療/介護の状況を展望し今後を考える
各自 1 回のプレゼンテーションにおいて、知の再武装のひとつとして、この業界についての問題意識をまとめ、問題解決をはかることができるようになること。

授業形態 /Form of Class	講義、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	自身の担当部分について発表準備するだけでなく、メンバーの発表についても理解し、アドバイスできるようにすること。		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	自己紹介、医療介護制度概要
事前、事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する
詳細	自分の持つ問題点を明らかにする
第 2 講	
概要	海外の医療
事前、事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する
詳細	国際比較を行う。
第 3 講	
概要	外部講師の講義と議論
事前、事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する
詳細	最新のトピックスについて講義を行い、ディスカッション及び教員や外部講師との対話（双方向）により理解を深める
第 4 講	
概要	受講生の選択トピックスによる演習
事前、事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する
詳細	アクティビティ（プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート）を通じてメンバー相互を理解する。パワーポイントでまとめてくること。第 8 講までに全員が発表する
第 5 講	
概要	外部講師の講義と議論
事前、事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する
詳細	最新のトピックスについて外部講師が講義を行い、ディスカッション及び教員や外部講師との対話（双方向）により理解を深める
第 6 講	

概要	受講生の選択トピックスによる演習
事前、事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する
詳細	アクティビティ（プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート）を通じてメンバー相互を理解する。パワーポイントでまとめてくること。第 8 講までに全員が発表する
第 7 講	
概要	受講生の選択トピックスによる演習
事前、事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する
詳細	アクティビティ（プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート）を通じてメンバー相互を理解する。パワーポイントでまとめてくること。第8講までに全員が発表する
第 8 講	
概要	受講生の選択トピックスによる演習
事前、事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する
詳細	アクティビティ（プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート）を通じてメンバー相互を理解する。パワーポイントでまとめてくること。第 8 講までに全員が発表する
教科書 /Textbook	なし
指定図書 /Course Readings	真野俊樹著「こんな医者ならかかりたい」(朝日新書)、「入門医療経済学」(中公新書)、「入門医療政策」(中公新書)、「医療が日本の主力商品になる」(ディスカバー携書)、「命の値段はいくらなのか？」(角川新書)、「医療危機」(中公新書)
参考文献・参考 URL /Reference List	なし
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	授業参加(50%)、個人の発表(50％)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： 優（100～80 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が優れている。
評価： 良（79～70 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が良い。
評価： 可（69～60 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が普通。
評価：不可（59 点～）	出席不良で、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が不十分。
留意点 /Additional Information	《読む･書く＋聴く･話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので、議論には積極的に参画すること

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	医療介護領域のマネジメント		
サブタイトル/Sub Title	新たなチャンスを求めて		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Healthcare and long term care management		
教員/Instructor	真野俊樹	メールアドレス	mano@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知／ヘルスケア	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

年々の医療介護費用の増加は 2 兆円を超す。これをコストとみればマイナスであるが、市場の広がりとみれば大きなチャンスともいえる。一方、倫理的な部分や規制が多い業種であるがゆえに、その中で生きていくにはかなりの修練が必要になる。当該講座では、医療や介護事業者あるいはその分野に外部から関心を持つ者を対象にし、複雑な業界を解きほぐして現業や新たなチャンスを探る機会とする。議論を多く行い、また外部講師も以前とは異なるために、前期後期の連続履修が理解を深めることになると考える。

到達目標/Course Goals

知の再武装のひとつとして医療介護業界を解きほぐして現業や新たなチャンスを探る機会とする。
各自 1 回のプレゼンテーションにおいて、この業界についての問題意識をまとめ問題解決を図ることができるようになること。

授業形態 /Form of Class	講義、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	自身の担当部分について発表準備するだけでなく、メンバーの発表についても理解し、アドバイスできるようにすること。		

講義概要/Course Description　全 8 講　第 1 講～第 7 講は各 180 分　第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	自己紹介、医療介護制度概要
事前、事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する
詳細	自分の持つ問題点を明らかにする
第 2 講	
概要	海外の医療
事前、事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する
詳細	国際比較を行う。
第 3 講	
概要	外部講師の講義と議論
事前、事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する
詳細	最新のトピックスについて講義を行い、ディスカッション及び教員や外部講師との対話（双方向）により理解を深める
第 4 講	
概要	受講生の選択トピックスによる演習
事前、事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する
詳細	アクティビティ（プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート）を通じてメンバー相互を理解する。パワーポイントでまとめてくること。第 8 講までに全員が発表する
第 5 講	
概要	外部講師の講義と議論
事前、事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する
詳細	最新のトピックスについて講義を行い、ディスカッション及び教員や外部講師との対話（双方向）により理解を深める
第 6 講	
概要	受講生の選択トピックスによる演習

事前、事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する
詳細	アクティビティ（プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート）を通じてメンバー相互を理解する。パワーポイントでまとめてくること。第 8 講までに全員が発表する
第 7 講	
概要	受講生の選択トピックスによる演習
事前、事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する
詳細	アクティビティ（プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート）を通じてメンバー相互を理解する。パワーポイントでまとめてくること。第8講までに全員が発表する
第 8 講	
概要	受講生の選択トピックスによる演習
事前、事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する
詳細	アクティビティ（プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート）を通じてメンバー相互を理解する。パワーポイントでまとめてくること。第 8 講までに全員が発表する
教科書 /Textbook	なし
指定図書 /Course Readings	真野俊樹著「こんな医者ならかかりたい」(朝日新書)、「医療危機」(中公新書)、「入門医療政策」(中公新書)、「医療が日本の主力商品になる」(ディスカバー携書)、「日本の医療　比べてみたら 10 勝 5 敗 3 分けで日本の勝ち」(講談社新書)
参考文献・参考 URL /Reference List	なし
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	授業参加(50%)、個人の発表(50％)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が優れている。
評価：　良（79～70 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が良い。
評価：　可（69～60 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が普通。
評価：不可（59 点～）	出席不良で、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が不十分。
留意点 /Additional Information	《読む･書く＋聴く･話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので、議論には積極的に参画すること

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	医療介護マネジメントの実践知を学ぶ		
サブタイトル/Sub Title	事例から積み上げよう		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Inovation for the healthcare		
教員/Instructor	真野俊樹	メールアドレス	mano@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知／ヘルスケア	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course
医療介護分野は、もはや制度の変更だけではなく、民間からの新しいイノベーションがなければ解決できない問題を多く抱えているのではないか。このオムニバス講義では、多摩大学大学院の OB/OG あるいは現場で実践知を持っている方にプレゼンテーションをしていただき、それに対しての議論を行うことで、深めていきたい。
到達目標/Course Goals
医療介護分野での様々な取り組みを知ることで、自らの問題解決や特定課題論文の作成に役立てることを目標とする。

授業形態 /Form of Class	講義、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	最新の情報について毎回資料が配られるので、十分な復習が望まれる。		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分	
第 1 講	
概要	外部講師の講義と議論
事前、事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する
詳細	最新のトピックスについて理解し議論する 最新のトピックスについて講義を行い、ディスカッション及び教員や外部講師との対話（双方向）、ディベートにより理解を深める
第 2 講	
概要	外部講師の講義と議論
事前、事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する
詳細	最新のトピックスについて講義を行い、ディスカッション及び教員や外部講師との対話（双方向）、ディベートにより理解を深める
第 3 講	
概要	外部講師の講義と議論
事前、事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する
詳細	最新のトピックスについて講義を行い、ディスカッション及び教員や外部講師との対話（双方向）、ディベートにより理解を深める
第 4 講	
概要	外部講師の講義と議論
事前、事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する
詳細	最新のトピックスについて講義を行い、ディスカッション及び教員や外部講師との対話（双方向）、ディベートにより理解を深める
第 5 講	
概要	外部講師の講義と議論
事前、事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する
詳細	最新のトピックスについて講義を行い、ディスカッション及び教員や外部講師との対話（双方向）、ディベートにより理解を深める
第 6 講	
概要	外部講師の講義と議論
事前、事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する
詳細	最新のトピックスについて講義を行い、ディスカッション及び教員や外部講師との対話（双方向）、ディベートにより理解を深める

第 7 講	
概要	外部講師の講義と議論
事前、事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する
詳細	最新のトピックスについて講義を行い、ディスカッション及び教員や外部講師との対話（双方向）、ディベートにより理解を深める
第 8 講	
概要	外部講師の講義と議論
事前、事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する
詳細	最新のトピックスについて講義を行い、ディスカッション及び教員や外部講師との対話（双方向）、ディベートにより理解を深める
教科書 /Textbook	なし
指定図書 /Course Readings	真野俊樹著「こんな医者ならかかりたい」(朝日新書)、「入門医療経済学」(中公新書)、「入門医療政策」(中公新書)、「医療が日本の主力商品になる」(ディスカバー携書)、「命の値段はいくらなのか？」(角川新書)「日本の医療　比べてみたら 10 勝 5 敗 3 分けで日本の勝ち」(講談社新書)
参考文献・参考 URL /Reference List	なし
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	授業参加(50%)、レポート(50％)：メールでフィードバックを行う
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が優れている。
評価：　良（79～70 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が良い。
評価：　可（69～60 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が普通。
評価：不可（59 点～）	出席不良で、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が不十分。
留意点 /Additional Information	《読む･書く＋聴く･話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので、議論には積極的に参画すること

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	異業種間のコミュニケーション術		
サブタイトル/Sub Title	これからのイノベーションを起こすために		
英文科目名/Course Title(Eng.)	The Art of Communication among different departments		
教員/Instructor	白井　雅弓	E-mail	
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知/ヘルスケア	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

近年、医療業界を始めとした多くの業界において、急速な技術革新に伴い、様々な分野の最先端の知識を有した人々が協力して仕事をする機会が増えている。こうした機会では、知識の共有が困難な中での情報を共有する技術が必要とされている。本講義では、仕事で異分野の人々と円滑な討論をする。①自分の考えの構成の仕方、②サポートアイディアのまとめ方、③考えの根拠となる論文の妥当性の判断の仕方等を、特にこうした問題が顕著な医学業界を主な例として学ぶ。また、技術革新は、制度や環境の大きな変化を伴う可能性も高い。本講義では、マーケティング・システム思考の概説を用いて、④自己や仕事を取り巻く状況の分析などに基づく仕事の改善へのアプロ―チ方法を学ぶ。

到達目標/Course Goals

ディプロマポリシーでの「イノベーターシップ」を実現するために、受講生自身の企画・課題を円滑に意見交換できるよう、「情報収集能力と分析力」、「実践的教養」を身につける。

授業形態 /Form of Class	講義、発見学習、グループワーク、グループディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	講義でのプレゼンテーションの資料作成、 資料・図書の熟読・まとめ		

講義概要/Course Description　全 8 講　第 1 講～第 7 講は各 180 分　第 8 講は 90 分

第 1 講	
概要	オリエンテーション、ブレのない企画の作成法 Ⅰ
事前、事後学習ポイント	次回への宿題：企画に対する分析方法の理解
詳細	①自己紹介、②個々の業界を取り巻く現状と今後予測される変革について広く概観、 ③企画作成法の基礎、④SWOT 分析等、企画の妥当性の分析方法について紹介
第 2 講	
概要	ブレのない企画の作成 Ⅱ、 企画のための論理思考に基づく学術論文の読み方
事前、事後学習ポイント	次回への宿題：第 4 講でプレゼンテーションする論文について提出
詳細	①企画の作成法を用いて、個々のポジショニングについて検討、②GMAT Critical Reasoning の問題を用いて論理構成の際に陥りやすい論理の落とし穴について検討、 ③方針を決めるうえでの論文検索の意義について
第 3 講	
概要	学術論文を検討する際の落とし穴
事前、事後学習ポイント	次回への宿題：第 4 講でのプレゼンテーションの準備
詳細	①比較の質を落とす因子(交絡因子 etc.)・高める要因について講義、②第 5 講での発表についてのガイダンス、③企画作成の観点からシステム思考について学習、④個々の仕事についてシステム・効率性の観点から検討
第 4 講	
概要	方針を決めるうえでの論文検討(プレゼンテーション)、現場での問題定義の考え方
事前、事後学習ポイント	次回への宿題：
詳細	①グループまたは個々が第 3 講までに選択した論文について発表・討論、 ②第 6 講で発表する個々の現場でのシステムの是正案について検討
第 5 講	
概要	組織でのイノベーションの考え方、現行システムの是正法 Ⅰ
事前、事後学習ポイント	次回への宿題：最終レポートの構想作成
詳細	①企画作成の観点からシステム思考について学ぶ、②既存のシステムを変更する際の

	留意点、システムの是正すべき点・改善の妨げを特定するための評価法について学ぶ、 ③現場での問題定義の構造化について講義・演習
第 6 講	
概要	現行システムの是正法 II、制度についての考え方
事前、事後学習ポイント	次回への宿題：最終レポートの作成
詳細	①現行システムの是正法についてプレゼンテーションを踏まえた実例検討 ②制度に対する分析、制度変化から起こりうるイノベーションについて検討
第 7 講	
概要	プレゼンテーション II、個々の業界におけるイノベーション
事前、事後学習ポイント	次回への宿題：最終レポートへの追加・修正
詳細	これまで本講義で学んだ分析方法・考え方を利用して今後起こりうる個々の業界でのイノベーションについて概観・検討
第 8 講	
概要	本講義のまとめ
事前、事後学習ポイント	事前準備：最終レポートへの追加・修正箇所のプレゼン準備
詳細	本講義全体を振り返り、講義で題材となった業界の特徴、業界で働く際の留意点について検討、意見交換
教科書 /Textbook	なし、適宜資料配布
指定図書 /Course Readings	なし
参考文献・参考 URL /Reference List	真野俊樹（2006）『入門　医療経済学』 Marc Roberts 他（2010）『実践ガイド　医療改革をどう実現すべきか』 Clayton M. Christensen　他（2015） 『医療イノベーションの本質破壊的創造の処方箋』 福原俊一（2013）『臨床研究の道標－７つのステップで学ぶ研究デザイン』 Peter M. Senge（2011）『学習する組織　システム思考で未来を創造する』 Trisha Greenhalgh（2016）『読む技術　論文の価値を見抜くための基礎知識』 末吉孝生（2014）『コレが欲しかった！と言われる「商品開発」のきほん』 ※初回に図書の概要を紹介しますので、入手される場合もそれ以降でかまいません
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席(40％)、授業内での議論・グループワーク参加(30％)、プレゼン内容(30％)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	論点の指摘が鋭く、議論・プレゼン内容が優れている
評価：　良（79～70 点）	指摘すべき論点に考慮することができ、議論・プレゼン内容が良い
評価：　可（69～60 点）	論点を考慮する意欲があり、議論・プレゼン内容が平均程度
評価：不可（59 点～）	出席不良で、議論・プレゼン内容に課題が多い
留意点 /Additional Information	本講義では医療業界を主に取り上げますが、他業界における異業種間の連携についても役立つように授業を構成しています

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	高齢社会のまちづくり		
サブタイトル/Sub Title	21 世紀の産業連関と地域の内発的発展モデルの創造		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Community planning of the aged society		
教員/Instructor	川井　真	E-mail	kawai-m@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知／ヘルスケア	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

さらなるグローバル化の進展が予想される 21 世紀であるが、日本は国際社会において「高齢社会先進国」としての責務も負っている。人口減少を伴う高齢社会では人々の行動範囲・経済活動は、すくなからず縮小するであろうし、加齢とともに身体は虚弱になり、リタイアすれば収入も減る。したがって、これからは GDP 成長率に代わる新たな豊かさの指標が必要となってくるだろう。本講義においては、このような新時代における産業連関の仕組みと地域経済の内発的発展モデルを提示することのできる人材の養成、すなわち 21 世紀の「まちづくり」を担うソーシャルアントレプレナーやイントラプレナーの育成を目指す。

到達目標/Course Goals

日本の 21 世紀は生活の内実を豊かにする「まちづくり」の世紀であると仮定し、ディプロマポリシーでの「情報収集能力と分析能力」を高め、「知の再武装」を試みながら、文化を再創造していく能力を身につける。「イノベーターシップ」に基づき、経済のフレーム・オブ・レファレンスを再考しながら、上記目的に資する「問題解決のためのモデル」作りを実践していく。

授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション、グループワーク、ディベート、プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	講義内容の整理および参考図書から数冊を選択し、熟読し、理解することに努める。		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	導入・要点整理（社会的想像と創発へのアプローチ）
事前、事後学習ポイント	わたしたちはどこから来て、どこへ向かうのか。時代認識を共有する。
詳細	世界の動き、日本の現状を、文明論や歴史人口学的な観点から分析し、固定観念を取り払いながら、来るべき経済、来るべき未来の姿をイメージする。 宿題：講義内容を整理し、自身の見解をまとめる。参考文献一覧から関連する書籍を選択し、内容を整理し、報告する。
第 2 講	
概要	まちづくりの思想（サスティナビリティという視点）
事前、事後学習ポイント	政治・経済・社会という多角的観点から「まちづくり」の意義と意味を検証する。
詳細	さらなるグローバル化の進展が予想される 21 世紀にあって、なにゆえ「まちづくり」に着目するのか、その意義と意味について、ディスカッションを通して理解を深めていく。 第 1 講で得た情報と知識を報告し、くわえて第 2 講の「まちづくり」との関連性についての私見を述べる。選択した参考文献によって得られた知識を報告する。
第 3 講	
概要	近代経済思想と福祉レジーム（社会保障と雇用保障を再考する）
事前、事後学習ポイント	福祉レジームの一角に地域包括ケアという概念が登場した時代背景を知る。
詳細	福祉国家の成立から今日までの推移を確認し、それを踏まえて、死生学や老年学あるいは社会学や文化人類学などから発信される知見をもとに、超少子高齢人口減少時代に求められる保健・医療・介護・福祉の構造を考えていく。 中央集権システムと地域政策を対比し、グループディスカッションによって議論を深め、地域のあるべき政策について、それぞれ見解を述べる。
第 4 講	
概要	ローカリズムと内発的発展論（来るべき経済と働き方の革新）
事前、事後学習ポイント	21 世紀の地域主義とグローバル化した世界における内発的発展論について考察する。
詳細	地球資源の有限性に着目したローマクラブによる「成長の限界」や、「地域主義」ならびに「内発的発展論」といった生命系の思想的潮流が過去に存在したことを確認し、持続可能性というテーマを織り込みながら、これからの「まち・ひと・しごと」について考えていく。 グループディスカッションで理解を深め、これからの「まち・ひと・しごと」に関する意見

	を発表する。
第 5 講	
概要	論理的思考とプラグマティズム（近代科学と人間の学～高齢社会のアクションリサーチ）
事前、事後学習ポイント	課題解決に必要な思考力と行動力を養う。
詳細	固定観念から意識を解き放ち柔軟な発想へと思考を導くために、プラグマティズムを手掛かりに「ゆらぎ」の科学について考察し、新たなビジネス構想や社会イノベーションをデザインするために役立つ、論理的思考やアブダクションについて理解を深める。 具体的な事例をもとにグループディスカッションを行い、発表する。
第 6 講	
概要	社会システム理論・貨幣論（コミュニケーションと共通善）
事前、事後学習ポイント	構造主義の理解と社会的行動主義心理学ならびに認知科学を手掛かりに社会を検証する。
詳細	G.H ミードの自我論やニクラス・ルーマンの社会システム理論（オートポイエーシス的システム理論）を手掛かりに社会の構造を分析し、社会学的想像力と柔軟な思考を養いながら、新たな事業を創造し、展開するための具体的な戦略を検討する。 グループディスカッションで理解を深め、発表し、さらに具体的な事業展開の方法について討議する。
第 7 講	
概要	地域デザイン（食・エネルギー・ケアを基盤にネットワーク化する地域内産業連関の仕組み）
事前、事後学習ポイント	事例検討
詳細	人間活動の基盤を支える「食」、「エネルギー」、「ケア」を事業の中心に据えて、新たな地域内産業連関を構成しようとしている地域を紹介する。このような事例を参考にしながら、ディスカッションを通して、地域における社会的意義や本質的価値について考える。 第 5 講、第 6 講の知見を織り込みながら自身の見解を整理し、発表する。
第 8 講	
概要	まとめ（インテグレーテッド・ソーシャルビジネス・ネットワークの構造とデザイン）
事前、事後学習ポイント	パブリックとプライベートをシームレスに連結する、来るべきソーシャル・ビジネス、コミュニティ・ビジネスの可能性について考える。
詳細	ソーシャル・ビジネスやコミュニティ・ビジネスと呼ばれるものは、多くの場合、市場の論理に従って、単独で、事業を発展させていくことは難しい。そこで共有価値を創造し、新たな関係性を構築し、社会的課題を解決しながら、地域とともに発展する新たなソーシャル・ビジネス、コミュニティ・ビジネスの可能性について、いくつかの仮説をもとに検証する。 グループワークにより意見を集約し、とりまとめ、発表する。
教科書 /Textbook	必要な資料を毎回（テーマごとに）作成し配布する。
指定図書 /Course Readings	なし（参考文献の中から自ら選択し、熟読する）
参考文献・参考 URL /Reference List	参考文献一覧を別途作成し配布する。
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席率 30％／講義議論参画度 30％／最終レポート 40％（最終講義でフィードバックを行う）による総合評価
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： 優（100～80 点）	バランスのとれた理解、授業内での議論参加、レポートの内容が優れている。
評価： 良（79～70 点）	理解力、授業内での議論参加、レポートの内容が良い。
評価： 可（69～60 点）	理解力、授業内での議論参加、レポートの内容が期待したレベルに到達している。
評価：不可（59 点～）	評価項目すべてにおいて不十分である。
留意点 /Additional Information	本授業は思考の柔軟性を求めています。したがって、経営学・経済学・政治学のような社会科学に属する学問のみならず、人文科学や自然科学、あるいは死生学や認知科学など新しい学問領域から発信される情報にも耳を傾け、常識にとらわれず、思考を飛躍させることを心がけてください。

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	医療介護経営と会計		
サブタイトル/Sub Title	診療介護報酬改定、医療制度、患者視点をふまえた数値マネジメント		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Healthcare nursing management		
教員/Instructor	長　英一郎	E-mail	eiichiro49@higashinihon.ne.jp
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知/ヘルスケア	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

医師を中心とした組織構造である病院では、経営的視点のみでのマネジメントは難しい。経営だけでなく医学をふまえた患者視点での組織管理が必要とされる。本講では、「医学経営」を意識し、診療報酬や介護報酬、財務だけでなく、診療ガイドラインなども議論していく。得た知識を実行するためには、表現力、説得力が重要になる。学会や院内等で実践的なプレゼンをするためのノウハウを学ぶ。

到達目標/Course Goals

・医療経営士 3 級～1 級、介護福祉経営士 2 級～ 1 級のいずれかの資格取得をする
・医学国家模擬試験を受験できる基礎知識を得る
・「情報収集能力と分析能力」と「知の再武装」を達成するために「問題解決のためのモデル」を実践する

授業形態 /Form of Class	講義、グループワーク、ディベート プレゼンテーション、模擬寸劇	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	講義でのプレゼンテーションの資料作成		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	オリエンテーション、30 年度同時改定 1
事前、事後学習ポイント	「なるほど、なっとく医療経営 Q&A50」の読書
詳細	自己紹介とオリエンテーション、医療経営士 1 級過去問論文演習、医療介護テーマによるグループワーク・ディベート、教員による講演
第 2 講	
概要	30 年度同時改定 2
事前、事後学習ポイント	10 分プレゼン資料作成
詳細	医療経営士 1 級過去問論文演習、院生による 10 分プレゼン、病院現場の模擬寸劇、教員による講演
第 3 講	
概要	財務諸表の読み方
事前、事後学習ポイント	10 分プレゼン資料作成
詳細	医療経営士 1 級過去問論文演習、院生による 10 分プレゼン、介護現場の模擬寸劇、教員による講演
第 4 講	
概要	財務分析
事前、事後学習ポイント	10 分プレゼン資料作成
詳細	医療経営士 1 級過去問論文演習、院生による 10 分プレゼン、融資交渉現場の模擬寸劇、教員による講演
第 5 講	
概要	病棟数字分析
事前、事後学習ポイント	10 分プレゼン資料作成
詳細	医学国試過去問演習、院生による 10 分プレゼン、融資交渉現場の模擬寸劇、教員による講演
第 6 講	
概要	医療法人制度

事前、事後学習ポイント	10 分プレゼン資料作成
詳細	医学国試過去問演習、院生による 10 分プレゼン、都道府県担当者との交渉の模擬寸劇、教員による講演
第 7 講	
概要	医療法、医師法、療養担当規則
事前、事後学習ポイント	10 分プレゼン資料作成
詳細	医学国試過去問演習、院生による 10 分プレゼン、教員による講演
第 8 講	
概要	院生によるプレゼン大会
事前、事後学習ポイント	10 分プレゼン資料作成
詳細	院生による 10 分プレゼン
教科書 /Textbook	なし。適宜資料配布。
指定図書 /Course Readings	長英一郎（2016）「なるほど、なっとく医療経営 Q&A50」（日本医療企画）
参考文献・参考 URL /Reference List	医療経営 メールマガジン http://www.mag2.com/m/0001192812.html
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席（30％）、授業内での議論・グループワーク・寸劇参加（20％）、論文演習（20％）、プレゼン内容（30％）
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： 優（100～80 点）	全ての講義に出席し、議論等に積極的に参加。プレゼン内容、論文内容が優れている。
評価： 良（79～70 点）	ほぼ全ての講義に出席し、議論等に積極的に参加。プレゼン内容、論文内容が良い。
評価： 可（69～60 点）	ほぼ全ての講義に出席し、議論等に参加。プレゼン内容、論文内容が平均程度。
評価：不可（59 点～）	出席不良で、議論・プレゼン内容に課題が多い。
留意点 /Additional Information	特になし

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	アジアビジネス戦略とグローバル共創		
サブタイトル/Sub Title	“アジアの世紀”に勝ち抜く経営を探る		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Business Strategy in Asia and Global Knowledge Synthesizing		
教員/Instructor	佐藤勝彦	E-mail	satou-k@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知/アジアビジネス戦略	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

2015 年 ASEAN 経済共同体が発足し、中国の発展の共に 21 世紀は“アジアの世紀”といわれている。
日本企業が経済のグローバル化の進展の中、アジア（とりわけ ASEAN）でどう知の共創を進めてきたか real story を丹念に掘り下げながらその歴史、現状・課題を探る。

到達目標/Course Goals

日本企業のグローバル経営がどのように展開されてきたか、製造業・小売業のアジアでの実践知を整理しながら、経営のグローバル化とは何かの本質に迫り、時代認識と世界認識を深め、グローバルビジネスリーダーとしての戦略性と突破力を学ぶ。

授業形態 /Form of Class	講義、発見学習、グループワーク、グループディスカッション、ゲストスピーカー、プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	課題図書・推薦図書研究 関心ある産業のアジアでのグローバル経営の歴史と現状整理		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	経済活動のグローバル化と企業経営
事前、事後学習ポイント	18 世紀―20 世紀のグローバル産業史（日本・自国）の整理
詳細	18 世紀産業革命以降現在までのグローバル経済の流れと現状について学ぶ 1990 年初頭から進展した経営のグローバル化とは何か？を整理する 『グローバル経済史入門』を読んでおくこと
第 2 講	
概要	アジア経済のグローバル化と日本企業
事前、事後学習ポイント	関心ある産業・企業（日本企業）のアジア進出を整理しておくこと
詳細	アジアの諸国は経済のグローバル化進展の中で？ また日本企業はどのように関わってきたのか？ 『アジア力の世紀』を読んでおくこと
第 3 講	
概要	日本企業のグローバル化（自動車産業）とアジア進出
事前、事後学習ポイント	『世界の知で創る』を読んでおくこと
詳細	日本の自動車産業は何故グローバル展開に成功したか？ また何故アジア（ASEAN）で圧倒的なシェアを確保できているか？
第 4 講	
概要	日本小売業のアジア進出
事前、事後学習ポイント	日本に進出した海外小売業の研究 『消費するアジア』を読んでおくこと
詳細	日本の小売業のアジア進出にはどのような背景があったのか？ また欧米小売業と比べその経営戦略は成功しているだろうか？ 元イオン専務（元イオンマレーシア社長）田中秋人氏をゲストスピーカーに迎える
第 5 講	
概要	グローバル組織運営と知の共創、人材育成
事前、事後学習ポイント	『知識創造経営』を読んでおくこと
詳細	グローバル経営の中心となる組織運営と人材育成について実践知を学ぶ

	“知識”がどのように役割を果たしたかを整理する
第 6 講	
概要	グローバルビジネスリーダーシップ
事前、事後学習ポイント	気になる一人のグローバルビジネスリーダー“について事前調査しておくこと
詳細	グローバル経営の中でのリーダーの役割、資質、育成、評価、コミュニケーションなど Real story をもとに
第 7 講	
概要	受講者レポート発表とディスカッション 1
事前、事後学習ポイント	本講義に関するレポートの作成
詳細	受講者 5 名（チーム）程度の発表とグループディスカッション
第 8 講	
概要	本講義のまとめ
事前、事後学習ポイント	これまでの講義での疑問の整理
詳細	第 1 講から 6 講までの講義・ディスカッションでの内容の整理
教科書 /Textbook	なし
指定図書 /Course Readings	『世界の知で創る』徳岡晃一郎、野中郁次郎著
参考文献・参考 URL /Reference List	『小売国際化プロセス』矢作敏行著　『アジアの世紀』進藤榮一著 『消費するアジア』大泉啓一郎著
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席(40％)、授業内での議論・グループワーク参加(30％)、プレゼン内容(30％)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	出席率が高く、授業への参画が積極的でプレゼンテーションの内容が優れている
評価：　良（79～70 点）	出席率が高く、授業への参画もあり、プレゼンテーションの内容が良い
評価：　可（69～60 点）	出席率がやや低く、授業への参画が限定的で、プレゼンテーションの内容が普通
評価：不可（59 点～）	出席率が低く、授業への参画が見られず、プレゼンテーションの内容が不十分
留意点 /Additional Information	講義内容は、履修者数及び毎回の進捗に応じ、柔軟に構成を変えることがあります。

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	Business Communication for Global Leaders		
サブタイトル/Sub Title	Business Communication for Global Leaders		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Business Communication for Global Leaders		
教員/Instructor	Mark Austin	E-mail	austin@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知/アジアビジネス戦略	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

The rise to ubiquity of the internet has had a revolutionary effect on the production and consumption of media. With the emergence of social media, the traditional, vertical, top-down dissemination of content has been replaced by a horizontal "two-way electronic conversation." In digital news production, two or more of the "five plus one" elements of multimedia (text, video, photography, audio and graphics plus social media) are combined to tell stories more effectively than was possible before the internet. It is essential for businesses and managers to learn how to communicate effectively in this new media environment.

到達目標/Course Goals

Through my sessions, I aim to apply the principles of good journalism, especially business journalism, and, to a lesser extent, of marketing, to help the students express themselves effectively in speech and writing in business contexts in English.

授業形態 /Form of Class	講義、 グループディスカッション グループワーク、ディベート、 プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	あり
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	なし		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	Introduction: The 21st-century media environment.
事前、事後学習ポイント	READING: PowerPoint. Speech by Guardian editor Katherine Viner on the media industry revolution. Daily Yomiuri business article on telecommuting by Mark Austin.
詳細	Quiz on communications and technology. Overview of the history of news media. Effective storytelling using media. CLASS GOAL: To introduce key concepts approached in the course. MATERIALS: Handout for fill-in-the-blanks activity on media history.
第 2 講	
概要	Journalism 101: the 7 key news values; news judgment.
事前、事後学習ポイント	READING: PowerPoint. Asian Age article on finding bugs in Facebook, Economic Times article on internet companies changing prices according to demand in real time.
詳細	An explanation of the seven key news values governing how to assess the importance of a news story. CLASS GOAL: To have the students think about the end user of messages they send. MATERIALS: Handout for activity on assessing newsworthiness.
第 3 講	
概要	Plain English: Orwell's Six Rules; writing press releases.
事前、事後学習ポイント	READING: PowerPoint. George Orwell's "Six Rules."
詳細	An explanation of George Orwell's "Six Rules" for effective communication. CLASS GOAL: To get students thinking about the way they write. Editing activity. Lede-writing activity. MATERIALS: Handout for editing activity. Proofreaders' marks handout.
第 4 講	
概要	Story structure: inverted pyramid and the Wall Street Journal formula.
事前、事後学習ポイント	READING: PowerPoint. OneIndia news story on a murder. Example news story about a fire.
詳細	An explanation of inverted pyramid news storytelling, in which information is expressed in

	order of importance, and the Wall Street Journal storytelling formula. Newswriting activity to practice inverted pyramid storytelling. Lede-writing activity. CLASS GOAL: To have students practice effective communication. MATERIALS: None.
第 5 講	
概要	Multimedia journalism: nonlinear storytelling.
事前、事後学習ポイント	READING: PowerPoint.
詳細	An introduction to multimedia and nonlinear storytelling. CLASS GOAL: To have the students think about the strengths and weaknesses of the “five plus one” media elements—text, video, still photography, audio, graphics and social media, and how they can be combined for effective communication. Students watch two documentary videos, by the BBC and SBS, featuring multimedia content and look at an interactive graphic by La Stampa. MATERIALS: Handout for multimedia storytelling activity.
第 6 講	
概要	Social media: brand-building and crisis management.
事前、事後学習ポイント	READING: PowerPoint. History of Adidas, Coca-Cola, Burberry and Jägermeister.
詳細	An introduction to social media and brand-building. CLASS GOAL: To have the students think about the importance of social media presence in brand-building. The history of four famous brands—Adidas, Coca-Cola, Burberry and Jägermeister. Mistakes they made and how they rehabilitated their brand. MATERIALS: Handout questionnaire on students’ social media presence. Three interactive web quizzes on social media.
第 7 講	
概要	Talk by outside speaker/attendance at outside event.
事前、事後学習ポイント	READING: Bloomberg articles published from the Tokyo bureau.
詳細	A visit to Bloomberg’s Tokyo bureau and lunch at the Foreign Correspondents’ Club of Japan. CLASS GOAL: To show the students how an innovative business news provider gathers and publishes its content. Interaction with Bloomberg’s Japan/Koreas political editor. MATERIALS: None.
第 8 講	
概要	Wrap-up: three graded quizzes covering key points in the course.
事前、事後学習ポイント	READING: PowerPoint. Review of course content.
詳細	Quiz on business journalism and media in general. Quiz on punctuation. Quiz on three TV and internet video commercials—what their messages are and how they communicate them. CLASS GOAL: To assess students’ absorption of course content. MATERIALS: Answer sheets for three quizzes.
教科書 /Textbook	なし。適宜、講義資料を配布する。
指定図書 /Course Readings	なし。
参考文献・参考 URL /Reference List	なし。
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席(40%)、授業内での議論参加(30%)、プレゼンテーション内容(30%)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： 優（100～80 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が優れている。
評価： 良（79～70 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が良い。
評価： 可（69～60 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が普通。
評価：不可（59 点～）	出席不良で、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が不十分。
留意点 /Additional Information	なし。

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	世界潮流と企業戦略		
サブタイトル/Sub Title	-時代認識とグローバル戦略・組織-		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Global Trends and Corporate Strategy		
教員/Instructor	金　美徳	E-mail	kim-m@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知/ アジアビジネス戦略	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

寺島実郎学長は、「経営とは、時代認識だ」と述べている。成功した多くの経営者は、「時代が良かった」「時代が味方した」「時代が追い風となった」「時代に欠落したことを補っただけ」などと要因分析している。したがって「新しい時代を創る志を持つ」「時代と向き合う」「時代と戦う」ことが、大切である。

本講義は、時代認識を深めるため世界潮流、世界経済、グローバルヒストリーを考察する。また、時代認識に基づいて今後の日本企業の組織・人事の在り方、経営・戦略の考え方を考察する。

到達目標/Course Goals

21 世紀のアジアは、巨大な市場規模や豊富な天然資源など高い経済的潜在性を背景に、世界経済を牽引する。アジア開発銀行(ADB)によるとアジア GDP は、世界 GDP に占める割合が 2030 年代には 50%を超えると予測されている。まさしく「アジア経済＝世界経済」、「リバース・イノベーション(先進国でなく、アジア新興国の製品やビジネスモデルがグローバルビジネスを牽引)」の時代である。日本は、すでに対アジア貿易が総貿易の 50%、対アジア・ユーラシア貿易は 74%にも達する。したがって日本企業は、①いかにアジア・ユーラシアダイナミズムを中心とした世界経済の構造変化に対応するか、②いかにアジア新興国市場で販路を開拓するか、③いかにアジアのヒト・モノ・カネ・情報を取り込むかが、切迫した経営課題となっている。本講義では、世界潮流やアジア・ユーラシアダイナミズムを俯瞰してグランドデザインを構想し、グローバル戦略を描く地政学的知恵を養う。また、日本企業の課題や履修者の職場の課題を組織イノベーション、グローバル人材育成、インバウンド戦略、アジア・新興国ビジネスモデルなどの観点からその解決策を考える、すなわち課題解決力を身に付ける。この教育目標を実現することにより、ディプロマポリシー(学位授与方針)「深い時代認識と世界認識に基づいて、高い志を育み、新しい時代での事業機会、社会構想機会を見極める実践的教養を習得して、イノベーションを提起できる」の実質化を図る。

授業形態 /Form of Class	講義、双方向、プレゼンテーション、	学外学習 /Off-Campus Learning	無
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	教科書を通読すること。		

講義概要/Course Description　全 8 講　第 1 講～第 7 講は各 180 分　第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	世界潮流とアジア・ユーラシアダイナミズム
事前、事後学習ポイント	『これからの日中韓経済学』を通読する。
詳細	ガイダンス。各講義の最初にアジアに関するビジネス・時事・問題意識を簡単に報告して頂くため事前調査を行うこと。報告内容をもってディスカッションも行う。
第 2 講	
概要	アジアパラドックスとグローバルビジネス
事前、事後学習ポイント	『これからの日中韓経済学』を通読する。
詳細	アジア・ユーラシアダイナミズムとは何か、その実態を解説する。 また、アジア・ユーラシアダイナミズム時代といかに向き合うかをディスカッションする。
第 3 講	
概要	日本企業の現状と課題
事前、事後学習ポイント	『これからの日中韓経済学』を通読する。
詳細	アジア企業を鏡にして、日本企業の等身大の姿を映し出す。そして日本企業の強みと弱みを再検討する。 日本企業の今後の経営課題や経営戦略についてディスカッションする。
第 4 講	
概要	地政学的知を活かしたグローバル戦略①
事前、事後学習ポイント	『これからの日中韓経済学』を通読する。
詳細	ビジネスパーソンや経営者が平和に敏感でなければならい理由について解説する。 また、ビジネス教養やグローバル組織・人材育成について考える。

	日本の立ち位置や平和についてディスカッションする。
第 5 講	
概要	地政学的知を活かしたグローバル戦略②
事前、事後学習ポイント	『これからの日中韓経済学』を通読する。
詳細	豊富なエネルギー資源やユーラシア大陸を繋ぐ国際物流拠点など北東アジア経済圏の地政学的優位性について解説する。 日本企業の地政学的戦略についてディスカッションする。
第 6 講	
概要	アジア・新興国ビジネスモデル
事前、事後学習ポイント	『これからの日中韓経済学』を通読する。
詳細	日本・中国・韓国・台湾企業の強みや知恵を生かしたビジネスモデルを考える。 今後のアジアビジネスやインバウンド戦略についてディスカッションする。
第 7 講	
概要	戦略レポートのプレゼンテーション①
事前、事後学習ポイント	戦略レポートのプレゼンテーションの準備をする。
詳細	戦略レポートのテーマは、自社もしくは関心企業のアジア・新興国戦略や独自のグローバルビジネスモデルとする。または、履修者の職場の問題・課題をグローバル組織・人材育成やインバウンド戦略などの観点からその解決策を提案すること。具体的に問題や課題を発見し、解決策(改善・改革・革新・事業構想)を提案すること。
第 8 講	
概要	戦略レポートのプレゼンテーション②および総括
事前、事後学習ポイント	戦略レポートのプレゼンテーションの準備をする。
詳細	戦略レポートのテーマは、自社もしくは関心企業のアジア・新興国戦略や独自のグローバルビジネスモデルとする。または、履修者の職場の問題・課題をグローバル組織・人材育成やインバウンド戦略などの観点からその解決策を提案すること。具体的に問題や課題を発見し、解決策(改善・改革・革新・事業構想)を提案すること。
教科書 /Textbook	『これからの日中韓経済学』(編著：岡山大/田口雅弘、多摩大/金美徳、えにし書房、2017 年 3 月刊行予定)
指定図書 /Course Readings	①『なぜ韓国企業は世界で勝てるのか-新興国ビジネス最前線-』(金美徳、PHP 新書、2012 年) ②『日本企業没落の真実-日本再浮上 27 核心-』(金美徳、中経出版、2013 年) ③『図解 韓国四大財閥早わかり』(金美徳、中経出版、2012 年) ④『中東・エネルギー・地政学』(寺島実郎、東洋経済新報社、2016 年) ⑤『ユニオンジャックの矢-大英帝国のネットワーク戦略-』(寺島実郎、NHK 出版、2017)
参考文献・参考 URL /Reference List	①『世界を知る力』(寺島実郎、PHP 新書、2010 年) ②『世界を知る力 日本創生編』(寺島実郎、PHP 新書、2011 年) ③『何のために働くのか 自分を創る生き方』(寺島実郎、文藝春秋、2013 年)
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席率 40%、議論参画度 30%、最終発表(戦略レポート)30%
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： 優（100～80 点）	出席率と議論参画度と最終発表(相互評価)の合算点が、80 点以上の場合は、優。
評価： 良（79～70 点）	出席率と議論参画度と最終発表(相互評価)の合算点が、70～79 点の場合は、良。
評価： 可（69～60 点）	出席率と議論参画度と最終発表(相互評価)の合算点が、60～69 点の場合は、可。
評価：不可（59 点～）	出席率と議論参画度と最終発表(相互評価)の合算点が、59 点以下の場合は、不可。
留意点 /Additional Information	① 戦略レポートの最終発表は、5 つの項目に沿って相互評価を行う。 ② 戦略レポートは、最終発表後に担当教員にメールで提出すること。

講義年度/Year	2018 年	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	日本企業の中国ビジネス		
サブタイトル/Sub Title	“爆買い”の仕掛け人が語る「中国人消費パワー」を取り囲む方策		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Case Study of Japanese business in China		
教員/Instructor	徐向東	E-mail	xu@cm-rc.com
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知/アジアビジネス戦略	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course			
ビジネスマンとしてこれからの時代をサバイバルするには、まず新興市場代表格の中国市場で勝ち抜くための力を身につける必要がある。この授業では、現場の最新情報をもとにインバウンドや越境 EC も含む中国ビジネスの戦略と実践を学習する。			
到達目標/Course Goals			
中国ビジネスの基礎を身に付けながら、具体的な最新事例を通して、新興市場に対する知の再武装、そして新興市場を取り囲むイノベーターシップや問題解決能力を養う			
授業形態/Form of Class	講義、グループディスカッション、学生の発表(プレゼンテーション)、グループワーク、外部視察など	学外学習/Off-Campus Learning	あり
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	講義内容の整理、関係資料の検索と整理、必要に応じて現地視察		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可	
第 1 講	
概要	「正しいポジション」をつかむ～中国など新興市場の基礎を理解する
事前、事後学習ポイント	人口規模、行政区分、収入水準などの基礎知識
詳細	日本と大きく異なる中国など新興国の基本事情を理解するうえで、海外市場でのポジショニング戦略の基本知識を学ぶ
第 2 講	
概要	ターゲットのニーズをきちんと押さえる～中国など新興国の「ニーズ」を理解する
事前、事後学習ポイント	日本とは文化も生活習慣も社会事情も違う国や地域の消費者ニーズのつかめ方を学ぶ
詳細	消費者ニーズをつかむための定量、定性分析や観察のノウハウを学ぶ
第 3 講	
概要	正しいチャネルの展開～中国など新興国の流通を理解する
事前、事後学習ポイント	伝統チャネルから EC チャネルへの進行の激しい中国の事例から、海外の新しい流通の使い方を学ぶ。
詳細	日本の先に進んだスマホ決済や越境 EC など中国の新しい金融や流通事情を学ぶ
第 4 講	
概要	新興国への正しい情報発信やコミュニケーション手法
事前、事後学習ポイント	ネット時代における口コミなどの情報拡散の施策を学ぶ、特に日本とは文化やメディア事情が大きく違う外国の情報拡散のコツを理解する
詳細	フェイスブックや Twitter ではなく、微博、微信など中国の SNS 事情を学ぶ
第 5 講	
概要	体験など販促活動の展開
事前、事後学習ポイント	日本商品を理解するための消費者体験、W11 など中国の重要な販促事情を理解する
詳細	消費者体験、W11 など
第 6 講	
概要	ビジネスモデルの構築～日本と海外の相違を理解する
事前、事後学習ポイント	花王、資生堂、ヤクルト、ダイキン等々、インバウンドや越境 EC あるいは中国現地販売の成功企業のビジネスモデルを検証
詳細	海外消費者に適応する新しいビジネスモデルの構築を学ぶ

第 7 講	
概要	4 倍速のスピードの行動力を身に着ける
事前、事後学習ポイント	海外市場に勝つためのスピード感、素早く正しい判断を下すための肌感覚の培い方を学ぶ
詳細	企業の成功事例から正しい肌感覚、スピード化の育て方を学ぶ
第 8 講	
概要	総括
事前、事後学習ポイント	これまでの授業を総括
詳細	総括
教科書 /Textbook	『「爆買い」中国人に売る方法』（日本経済新聞出版社 2015
指定図書 /Course Readings	なし
参考文献・参考 URL /Reference List	『中国人にネットで売る～2 つの“ネット”の正しい使い方、つくり方』（東洋経済新報社 2011）、『中国人に売る時代！巨大市場開拓の成功の法則』（日本経済新聞出版社 2009）。
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席率　／講義議論参画度　／最終レポート　3 点の総合評価。そのうち、出席(40％)、授業内での議論・グループワーク参加(30％)、プレゼン内容(30％)の構成で評価を行う。
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	授業に積極的に参加し、議論・プレゼン内容が優れていて、かつ具体的なソリューションを提示できる。
評価：　良（79～70 点）	授業に積極的に参加し、議論・プレゼン内容が比較的に良い、かつ具体的なソリューションを提示できる。
評価：　可（69～60 点）	議論・プレゼン内容が平均レベル、ソリューションを提示できる意欲を見せている。
評価：不可（59 点～）	授業参加に積極的でなく、議論・プレゼン内容は平均以下、具体的なソリューションを提出できない。
留意点 /Additional Information	講義内でフィードバックやメールでフィードバックを行う

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	Business in Globalized India		
サブタイトル/Sub Title	The Japan Perspective		
英文科目名/Course Title(Eng.)	A young, vibrant and economically strong India provides a lot to learn from in the contexts of global business, leadership and innovation.		
教員/Instructor	Aniruddha Mallik	E-mail	aniruddha@ageraconsulting.com
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知/ アジアビジネス戦略	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course			
Through my sessions, I aim to present various aspects of global business, leadership, innovation and management in India and the lessons that we can learn from globally successful Indian leaders.			
到達目標/Course Goals			
India is an excellent example of a rapidly globalizing world, where traditional super powers are being pushed back and emerging economies are becoming more and more powerful. There's a lot to learn from how Indian business leaders have evolved new and more globally successful business models and management strategies to ensure that their companies stay ahead of the competition. In this course, we shall explore various aspects of global business, management, leadership and innovation, keeping a focus on India and the global perspective.			
授業形態 /Form of Class	Interactive classroom sessions	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	なし		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可	
第 1 講	
概要	Introduction to the Fundamentals of India
事前、事後学習ポイント	事前：なし 事後学習ポイント：Country profile, common misconceptions, advantage India
詳細	Introduction to the Fundamentals of India: Country profile, common misconceptions, advantage India
第 2 講	
概要	Advantage India (Part 1)
事前、事後学習ポイント	事前：なし 事後学習ポイント：What makes Indian business leaders globally successful? What gives them the edge over others as they expand beyond India and go global?
詳細	Advantage India (Part 1): What makes Indian business leaders globally successful? What gives them the edge over others as they expand beyond India and go global?
第 3 講	
概要	Advantage India (Part 2)
事前、事後学習ポイント	事前：なし 事後学習ポイント：Showcase of successful Indian professionals who have become global business leaders. A look at their profiles, careers and accomplishments and what we can learn from them.
詳細	Advantage India (Part 2): Showcase of successful Indian professionals who have become global business leaders. A look at their profiles, careers and accomplishments and what we can learn from them.
第 4 講	
概要	Corporate India
事前、事後学習ポイント	事前：なし 事後学習ポイント：The modern corporate world in India and what are the expectations of companies from their employees; the keys to success in a rapidly growing and extremely competitive environment
詳細	Corporate India: Exploring the modern corporate world in India and what are the expectations of companies from their employees; the keys to success in a rapidly growing and extremely competitive environment
第 5 講	

概要	Innovation in India: “JUGAAD”
事前、事後学習ポイント	事前：なし 事後学習ポイント：“Frugal Innovation” is a concept that India has mastered and it’s commonly called as “JUGAAD”. From space to daily life, innovation in India is happening everywhere.
詳細	“Frugal Innovation” is a concept that India has mastered and it’s commonly called as “JUGAAD”. From space to daily life, innovation in India is happening everywhere.
第 6 講	
概要	Entrepreneurship in India
事前、事後学習ポイント	事前：なし 事後学習ポイント：Various topics related to entrepreneurship in India, covering business both small and big, looking at both traditional and modern entrepreneurial case studies and success stories.
詳細	Entrepreneurship in India: Exploring various topics related to entrepreneurship in India, covering business both small and big, looking at both traditional and modern entrepreneurial case studies and success stories.
第 7 講	
概要	Think, Organize, Present… Make an Impact
事前、事後学習ポイント	事前：なし 事後学習ポイント：Develop your thought process, compile and consolidate key points, develop the skills to present your points of view with confidence and high impact
詳細	Think, Organize, Present… Make an Impact: Develop your thought process, compile and consolidate key points, develop the skills to present your points of view with confidence and high impact
第 8 講	
概要	Presentation of Assignment by Students
事前、事後学習ポイント	なし
詳細	Students make a presentation based on the assignment given earlier. Also, we do a wrap-up of our course with key points and discussions.
教科書 /Textbook	なし
指定図書 /Course Readings	なし
参考文献・参考 URL /Reference List	なし
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	Attendance, Class Participation, Presentation Assignments
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： 優（100～80 点）	Attendance: 100-80 Class Participation: 100-80 Presentation Assignments: 100-80
評価： 良（79～70 点）	Attendance: 79-70 Class Participation: 79-70 Presentation Assignments: 79-70
評価： 可（69～60 点）	Attendance: 69-60 Class Participation: 69-60 Presentation Assignments: 69-60
評価：不可（59 点～）	Attendance: <60 Class Participation: <60 Presentation Assignments: <60
留意点 /Additional Information	なし

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	非営利法人のファイナンス		
サブタイトル/Sub Title	株式会社以外の非営利法人（NPO、学校法人、財団法人、医療法人等）の資金調達手法の研究		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Finance for Not-for-Profit Organizations		
教員/Instructor	堀内勉	E-mail	t-horiuchi@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知/ ソーシャルインパクトビジネス	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

営利法人である株式会社のコーポレートファイナンスは、既に確立された学問分野であり、世界的に共通の物差しがある。他方、NPO に代表される非営利法人のファイナンス（資金調達）手法についてはいまだ発展途上で、寄付金や公的補助金やクラウドファンディングなども含めて、今後、体系立てて研究していく必要がある。
開講 3 年目である本講義では、こうした新しいファイナンス分野である、「非営利法人のファイナンス」について、受講生自らがまず問題意識を持ち、その上で体系立てて理解し、実際の資金調達ができるようなレベルにまで到達することを目的とする。

到達目標/Course Goals

非営利法人の資金調達手段の特徴を理解し、自らが NPO などの非営利法人を立ち上げた時に、実際の資金調達ができるようになることに加え、「問題解決のためのモデル」作りができる「実践知」のレベルにまで到達することを目標とする。

授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	無し
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	講義内容の整理と指定図書の熟読。		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	非営利法人の資金調達の概要
事前、事後学習ポイント	非営利法人の資金調達の枠組みについての、ソーシャルファイナンスの観点からの概観
詳細	1. 受講生の自己紹介と本講義受講に当たっての問題意識の説明、教員の自己紹介とオリエンテーション 2. 本講座講師によるソーシャルファイナンスの講義（資料は当日配布） 3. 二回目以降の講義の進め方、受講生のプレゼンテーション、提出レポートの作成方法などについてのすり合わせ 宿題：指定図書を熟読してくること。
第 2 講	
概要	公的支援制度（政策金融）①
事前、事後学習ポイント	非営利法人の資金調達の公的支援の枠組みの理解
詳細	1. 受講生の自己紹介と本講義受講に当たっての問題意識の説明、教員の自己紹介とオリエンテーション 2. ゲストスピーカー： 日本政策金融公庫（仮） 宿題：前回の講義内容をよく復習してくること。
第 3 講	
概要	公的支援制度（財団助成）②
事前、事後学習ポイント	非営利法人の資金調達の公的支援の枠組みの理解
詳細	1. 前回の講義内容のまとめを担当者がプレゼンテーション 2. ゲストスピーカー： 日本財団/社会的投資推進財団（仮） 宿題：前回の講義内容をよく復習してくること。
第 4 講	
概要	資金調達の手法①（寄附）
事前、事後学習ポイント	非営利法人の資金調達（寄附）の手法の理解
詳細	1. 前回の講義内容のまとめを担当者がプレゼンテーション 2. ゲストスピーカー： ファンドレイジング協会（仮） 宿題：前回の講義内容をよく復習してくること。
第 5 講	
概要	資金調達の手法②（クラウドファンディング）

事前、事後学習ポイント	非営利法人の資金調達（クラウドファンディング）の手法の理解
詳細	1. 前回の講義内容のまとめを担当者がプレゼンテーション 2. ゲストスピーカー： ジャパンギビング（仮） 宿題：前回の講義内容をよく復習してくること。
第 6 講	
概要	資金調達の手法③（ソーシャルベンチャーフィランソロピー）
事前、事後学習ポイント	非営利法人の資金調達（ソーシャルベンチャーフィランソロピー）の手法の理解
詳細	1. 前回の講義内容のまとめを担当者がプレゼンテーション 2. ゲストスピーカー： ソーシャル・ベンチャー・フィランソロピー（仮） 宿題：前回の講義内容をよく復習してくること。
第 7 講	
概要	資金調達の方法④（社会投資ファンド）
事前、事後学習ポイント	非営利法人の資金調達（社会投資ファンド）の手法の理解
詳細	1. 前回の講義内容のまとめを担当者がプレゼンテーション 2. ゲストスピーカー： KIBOW 社会投資（仮） 宿題：前回の講義内容をよく復習してくること。
第 8 講	
概要	総括
事前、事後学習ポイント	講義全体を通したディスカッション
詳細	1. 前回の講義内容のまとめを担当者がプレゼンテーション 2. 本講に関する提出レポートの概要を各人から説明 宿題：前回の講義内容をよく復習してくること。
教科書 /Textbook	無し
指定図書 /Course Readings	『日本における社会的インパクト投資の現状 2016』(G8 社会的インパクト投資タスクフォース国内諮問委員会) 『社会的投資市場形成に向けたロードマップ』(日本ファンドレイジング協会 伊藤健)
参考文献・参考 URL /Reference List	『ソーシャルファイナンスの教科書』(生産性出版 河口真理子) 『非営利団体の資金調達ハンドブック』(時事通信社 徳永洋子) 『ファイナンスの哲学』(ダイヤモンド社 堀内勉)
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	出席(40%)、授業内での議論参加(30%)、プレゼンテーション内容(30%)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： 優（100～80 点）	講義内容を理解し、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が優れている。
評価： 良（79～70 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が良い。
評価： 可（69～60 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が普通。
評価：不可（59 点～）	出席不良で、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が不十分。
留意点 /Additional Information	なし

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	トライセクターリーダー論		
サブタイトル/Sub Title	ポスト・マネー資本主義時代のリーダーシップ		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Tri-Sector Leaders		
教員/Instructor	金野索一	E-mail	skonno212@gmail.com
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知/ ソーシャルインパクトビジネス	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

トライセクターリーダーとは、政治行政・企業ビジネス・NPO の３つのセクターのすべてに通用するリーダー、あるいは、３つのセクターの枠を越えてより良き社会を実現していくリーダーである。この講義は、より多くのトライセクター・リーダーが輩出されることを目的とする。

到達目標/Course Goals

受講生自身の抱える課題に関して、ディプロマポリシーでの『イノベーターシップ』『時代認識と世界認識』『知の再武装』『志を全うする戦略性と突破力』を達成するために，上記目的に資する下記２つを到達目標とする。
１）未だ日本社会で稀有なトライセクター・リーダーシップの発揮こそが、自身の目前の仕事、キャリア、会社、そして社会のイノベーション実現への最適な差別化要因であることを実行レベルで認識する。
・人類は、公共・企業・NPO の３つのセクターの水平ボーダレス化に直面している。言い換えれば、少子高齢化と多国籍企業台頭、IT/AI 革命に伴う国家の影響力低下・相対化である。このポスト・マネー資本主義＝国民国家と利益至上企業の影響力低下社会において、もはやトライセクターリーダーこそが、企業、政治、NPO 他あらゆる組織で必然であることについての熟議する。
２）トライセクター・リーダーとしての実践の開始。
・トライセクター・リーダーへの具体的プランを各自作成し、実践につなげる。
・国内外の先輩トライセクターリーダーのケースをベンチマーク・指針とし、実践につなげる。

授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション グループワーク、プレゼンテーション 双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	講義内容の整理と指定文献の熟読		

講義概要/Course Description　全 8 講　第 1 講～第 7 講は各 180 分　第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	トライセクターリーダーの必然１：３つのセクターの水平ボーダレス化
事前、事後学習ポイント	・ポスト・マネー資本主義とは　・３つのセクターボーダレス化の根本原因は少子高齢化
詳細	・全ての消費社会が進んだ国において、少子高齢化を逃れられないことから到来しているポスト・マネー資本主義社会への理解と、公共・企業・NPO の３つのセクターの水平ボーダレス化を学ぶとともに、ディスカッションで熟議を進める。
第 2 講	
概要	トライセクター・リーダーの必然 2：IT 革命と AI 革命
事前、事後学習ポイント	・IT・AI は社会や組織の透明化・双方向化推進ツールである
詳細	・次の点について、講義とディスカッションを進める。 １）IT/AI 革命によって、中央集権的大組織（国家、伝統的大企業）は弱体化し、DAO （Decentralized Autonomous Organization、分散型自律組織）が必然となる ２）IT・AI こそ、トライセクター・リーダーに相応しいイノベーション・ツールである
第 3 講	
概要	トライセクターリーダーの必然 3：国民国家と多国籍企業
事前、事後学習ポイント	・国民国家の影響力低下によるグローバル組織とローカル組織の２極化
詳細	・次の点について、講義とディスカッションを進める。 １）無限責任・国家と有限責任・企業とのギャップ。２）国民国家の規模をしのぐ多国籍・無国籍大企業が数多く台頭した社会における社会機能のギャップ。３）ギャップこそ新規事業、ベンチャーの起業、社会起業の好機である
第 4 講	
概要	実在のトライセクターリーダーをロースモデルとする

事前、事後学習ポイント	実際のトライセクターリーダーから学び、自分の現在地点と目指すべき到達地点を我究する
詳細	・　下記について、講義、ディスカッション、グループワークを進める。 1）実在するトライセクターリーダーをリサーチし、ベンチマークする 2）第 3 講までの理解を元に、自身の解決すべき問題、目指すべきテーマの明確化への仮説・検証の取り組み方を習得する ・未来がどうなるかではなく、自分たちが未来を創る。Cross-Disciplinary こそトライセクターリーダー ・グループワークによりあぶりだされた、自身の解決すべき問題への取り組み ・自身の抱える問題とその真因、解決策の策定、他メンバーへの共有とフィードバック
第 5 講	
概要	ジャパニーズ・トライセクターリーダーの必然 4：戦略的日本人
事前、事後学習ポイント	・唯一無二の日本人 4 つの中立ポジションは、最強の戦略を可能にする
詳細	・次の点について、講義とディスカッションを進める。 1）日本人の 4 つの中立ポジション「宗教、人種、軍事、経済」と最適戦略とは 2）日本人は唯一無二のポジションを活かせば、世界のトライセクターリーダーに相応しい
第 6 講	
概要	トライセクター・リーダー実践計画　中間プレゼンテーション
事前、事後学習ポイント	自身の実践計画の教員・他メンバーへの共有とフィードバック、自身の検証
詳細	各自作成した実践計画レビューのための中間プレゼンとディカッション・グループワーク
第 7 講	
概要	ゲスト講師・先輩トライセクター・リーダーの実践を講義・討論で学ぶ
事前、事後学習ポイント	社会・ビジネスの新たな地平を拓く、先輩トライセクター・リーダー“仕事の流儀“
詳細	先輩トライセクター・リーダーの「原体験」「力の源泉」「実践の現場」「未来への戦略」等を講義とディスカッションで学ぶ
第 8 講	
概要	トライセクター・リーダー実践計画　最終プレゼンテーション
事前、事後学習ポイント	実践計画の教員・他メンバーへの共有とフィードバック、自身の振り返り
詳細	各自作成した実践計画最終プレゼンテーションとディカッション・グループワーク トライセクター・リーダーシップ・ジャーニー出発への決意表明
教科書 /Textbook	なし。適宜、講義資料を配布する。
指定図書 /Course Readings	指定図書:『未来の選択～僕らの将来は、政策でどう変わる？』(金野索一 著 /ディスカヴァー21 社)
参考文献・参考 URL /Reference List	WEB 日経ビジネス・カンパネラ連載『トライセクター・リーダーの時代』(金野索一著/日経 BP 社/2015 年 7 月～) http://business.nikkeibp.co.jp/atclcmp/15/071700001/
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	評価方法 出席 40 点（5 点× 8 回）／講義議論参画 30 点／最終実践計画内容 30 点　3 分野で 100 点満点で評価
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	トライセクター・リーダーを理解し、授業内での議論参加、実践計画内容が優れている。
評価：　良（79～70 点）	授業内での議論参加、実践計画内容が良い。
評価：　可（69～60 点）	授業内での議論参加、実践計画内容が普通。
評価：不可（59 点～）	出席不良で、授業内での議論参加、実践計画内容が不十分。
留意点 /Additional Information	・《読む･書く＋聴く･話す》コミュニケーションスキルがリーダー/イノベーターのキーであるので議論には積極的に参画すること ・実際の先輩トライセクターリーダーの誰を、自分自身のロールモデルにするかを探究する

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	実践を通して学ぶソーシャルビジネス ～次代を拓くソーシャルリーダーに学ぶ in 東北～		
サブタイトル/Sub Title	東北復興の最前線で挑むソーシャルリーダーとともに学び、未来を創り出す集中講義		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Learn from social leaders to pioneer the next generation in TOHOKU		
教員/Instructor	宮城 治男	E-mail	miyagi@etic.or.jp
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知 ／ソーシャルインパクトビジネス	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

東北で活躍するソーシャルリーダーに学び、ともにその事業を磨く。学生自らもそれぞれの立場でソーシャルリーダーとしてのキャリアを歩んでいくためのマイプラン、戦略を策定する。

到達目標/Course Goals

震災後 7 年を経た東北復興の最前線で、多様な領域、スタイルで活躍しているソーシャルリーダーに東北現地の石巻・女川に集合頂き、そのビジョンや想い、取り組みの具体的なケースを講義頂くとともに、学生とも協働でその事業プランのブラッシュアップを行う。またそのプロセスを通して学生自身が自らのテーマに向き合い、今後のキャリアや事業計画を描いていく契機としたい。2 月中旬の 2 泊 3 日の集中講義の予定。

授業形態 /Form of Class	講義、ケーススタディ、グループワーク、グループディスカッション、ディベート、プレゼンテーション	学外学習 /Off-Campus Learning	ソーシャルリーダーの現場訪問等
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	東北震災復興の現状のリサーチ 講義を通してブラッシュアップしていくための自らの今後のキャリア、事業計画の準備		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	東北復興の現状 ソーシャルビジネスの取組み、成功事例に学ぶ
事前、事後学習ポイント	東北復興の現状へリサーチ、理解
詳細	
第 2 講	
概要	ケーススタディ＆事業プランブラッシュアップ　テーマ①「一次産業のイノベーション」前半
事前、事後学習ポイント	参考図書含め、東北における農業、漁業の現状の理解。将来の一次産業の可能性等のリサーチ
詳細	
第 3 講	
概要	ケーススタディ＆事業プランブラッシュアップ　テーマ①「一次産業のイノベーション」後半
事前、事後学習ポイント	参考図書含め、東北における農業、漁業の現状の理解。将来の一次産業の可能性等のリサーチ
詳細	
第 4 講	
概要	ケーススタディ＆事業プランブラッシュアップ　テーマ②「まちづくり　新産業育成」前半
事前、事後学習ポイント	日本の地方創生、まちづくり、創業支援の現状、論点等のリサーチ、確認
詳細	
第 5 講	
概要	ケーススタディ＆事業プランブラッシュアップ　テーマ②「まちづくり 新産業育成」後半
事前、事後学習ポイント	日本の地方創生、まちづくり、創業支援の現状、論点等のリサーチ、確認

詳細	
第 6 講	
概要	ケーススタディ＆事業プランブラッシュアップ　テーマ③「教育 福祉のイノベーション」前半
事前、事後学習ポイント	日本及び世界の教育、福祉領域の課題の認識、現状のリサーチ
詳細	
第 7 講	
概要	ケーススタディ＆事業プランブラッシュアップ　テーマ③「教育 福祉イノベーション」後半
事前、事後学習ポイント	日本及び世界の教育、福祉領域の課題の認識、現状のリサーチ
詳細	
第 8 講	
概要	自らのキャリアデザイン、事業プランの策定ワークショップ
事前、事後学習ポイント	自分自身のキャリア観、展望の棚卸、事業計画等、具体的な設計を一旦現状の自分なりに描き切っておくこと
詳細	
教科書 /Textbook	特になし
指定図書 /Course Readings	3years 復興の現場から、希望と愛をこめて
参考文献・参考 URL /Reference List	都市と地方をかきまぜる 「食べる通信」の奇跡（光文社新書）
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席 35％／講義議論参画度 35％／最終レポート 30％　3 点の総合評価
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	講義・ワークショップへの参画の熱意が高く、議論・プレゼン内容が優れている。
評価：　良（79～70 点）	講義・ワークショップへの参画の熱意が高く、議論・プレゼン内容が良い。
評価：　可（69～60 点）	講義・ワークショップへの参画の熱意が高く、議論・プレゼン内容が平均程度。
評価：不可（59 点～）	講義・ワークショップへの参画の熱意が高く、議論・プレゼン内容に課題が多い。
留意点 /Additional Information	実際に東北・石巻の現地に来て頂き、集中講義の形式となる関係で、石巻までの交通費に加え宿泊・食費等（２泊３日で３万円程度）の実費が必要になります。 日程は 2019 年 2 月 22 日（金）～24 日（日）を予定 履修者（参加者）が 5 名未満の場合は、非開講となります。

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	実践事業創造		
サブタイトル/Sub Title	不確実性時代の事業デザイン		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Practice of Business Creation：Business Design in the Age of Uncertainty		
教員/Instructor	亀井 省吾	E-mail	kamei@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知/ ソーシャルインパクトビジネス	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

不確実性の時代における事業創造とは何かを、事業デザインという枠組みの中で、実践的に理解することを目的とする。本授業のスタイルは主として講義形式のほかケースメソッドを採用し、そのスタティック（静態的）な側面を補う形で、フィールドワーク、ゲスト講演を実施する。講義では、理解を促す概念や理論として、情報学からアーキテクチャ概念や紐帯理論のほか、経営学における「活用」と「探索」理論などを学ぶ。受講生は、教員作成の３ケース教材に取り組み、フィールドワーク等によるダイナミック（動態的）な疑似体験を基に、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを通じて、講義で学んだ理論と具象を往還する省察思考を身に付けていく。

到達目標/Course Goals

アーキテクチャ概念、紐帯理論、「活用」と「探索」理論など学際的知識を、ダイナミックなケース検討プロセスの中で活用する事で、ディプロマポリシーでの「絶えざる変化の中でイノベーションを想起できる」「情報収集能力と分析能力」と「「知の再武装」の達成を目指す。

授業形態 /Form of Class	講義、ケースメソッド、フィールドワーク、ゲスト講演、グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	有り
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	事前配布３ケース教材の読み込みとグループワークによる課題への回答作成		

講義概要/Course Description　全８講 第１講～第７講は各 180 分 第８講は 90 分でも可

第１講	
概要	前半：不確実性の時代と事業デザイン 後半：事業創造と工程アーキテクチャ１
事前、事後学習ポイント	不確実性とは何か、事業デザインとは何か、アーキテクチャ概念の理解
詳細	前半（講義）：不確実性時代と事業デザインについての問題意識を持ち、課題を学ぶ。 後半（講義）：事業創造における工程構築の記述概念として工程アーキテクチャを学ぶ。 宿題（グループワーク）：授業配布するケース教材１の読み込みと課題への回答作成。
第２講	
概要	事業創造と工程アーキテクチャ２
事前、事後学習ポイント	教材１事例企業の誕生経緯、プロセスイノベーションとコラボレーションの関係性
詳細	前後半（フィールドワーク）：ケース教材１事例企業について現地調査を実施する。 宿題（グループワーク）： ケース教材１の課題につき、継続グループワークを実施する。
第３講	
概要	前半：事業創造と工程アーキテクチャ３ 後半：事業成長とアーキテクチャ・ダイナミクス１
事前、事後学習ポイント	組織における「探索」と「活用」、紐帯理論、アーキテクチャ・ダイナミクスとは何か
詳細	前半（プレゼンテーションとディスカッション）：ケース教材１につき、グループワーク、フィールドワークに基づいたプレゼンテーションとディスカッションを実施する。 後半（講義）：事業の持続的成長に必要な「探索」につき、紐帯理論などから考察する。 宿題（グループワーク）：授業配布するケース教材２の読み込みと課題への回答作成。
第４講	
概要	事業成長とアーキテクチャ・ダイナミクス２
事前、事後学習ポイント	ケース教材２事例企業の事業経緯、現在取り組んでいる新規事業は何か
詳細	前半（ゲスト講演）：ケース教材２事例企業より経営幹部をゲスト招聘し、講演を実施する。

	後半（ディスカッション）：ディスカッションを実施し、課題についての認識を深める。 宿題（グループワーク）： ケース教材２の課題につき、継続グループワークを実施する。
第 5 講	
概要	事業成長とアーキテクチャ・ダイナミクス３
事前、事後学習ポイント	ケース教材２につき、真の課題は何か、その解決策はどのようなものか
詳細	前後半（プレゼンテーションとディスカッション）：ケース教材２につき、グループワーク、ゲスト講演を基にしたプレゼンテーションとディスカッションを実施する。 宿題（グループワーク）：授業にて配布するケース教材３の読み込みと課題への回答作成。
第 6 講	
概要	イノベーション誘因としてのソーシャル・インパクト１
事前、事後学習ポイント	ソーシャル・インパクトとは何か、何故イノベーション誘因となり得るのか
詳細	前後半（講義）：ソーシャル・インパクト関連の取り組みがイノベーションに繋がるパスと成り得るのかを事例から読み解く。 宿題（グループワーク）： ケース教材３の課題につき、継続グループワークを実施する。
第 7 講	
概要	イノベーション誘因としてのソーシャル・インパクト２
事前、事後学習ポイント	ケース教材３事例企業のこれまでの取り組みと今後の方向性
詳細	前半（ゲスト講演）：ケース教材３事例企業よりマネージャーをゲスト招聘し講演実施する。 後半（ディスカッション）：ディスカッションを実施し、課題についての認識を深める。 宿題（グループワーク）： ケース教材３の課題につき、継続グループワークを実施する。
第 8 講	
概要	前半：イノベーション誘因としてのソーシャル・インパクト３ 後半：不確実性時代の事業デザインとは何か
事前、事後学習ポイント	ケース教材３につき、真の課題は何か、その解決策はどのようなものか
詳細	前半（プレゼンテーションとディスカッション）：ケース教材３につき、グループワーク、ゲスト講演を基にしたプレゼンテーションとディスカッションを実施する。 後半（講義）：不確実性時代における事業デザインについて、授業で取り上げてきた３つの事業創造事例を「活用」と「探索」理論から考察し、総括する。
教科書/Textbook	なし。ケース教材を配布する。
指定図書 /Course Readings	亀井省吾(2016)『障碍者雇用と企業の接続的成長―事業における「活用」と「探索」の考察―』学文社
参考文献・参考 URL /Reference List	亀井省吾(2013)「知的障碍者活躍現場の工程アーキテクチャ」情報社会学会誌、Vol.8,No.1、pp.5-22. http://infosocio.org/vol8no1-01.pdf 亀井省吾、大橋正和(2014)「中小企業における紐帯活用とアーキテクチャ・ダイナミクス―中堅テントメーカーに見る新規事業創出事例からの考察―」情報社会学会誌、Vol.8,No.2、pp.45-62. http://infosocio.org/vol8no2-03.pdf 亀井省吾、大橋正和(2016)「組織における分化促進要因としてのソーシャル情報ハブ行動の考察―NTTドコモ復興プロジェクトの考察を通じて―」情報文化学会誌、Vol.23,No.2、pp.5-11.他
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席(40%)、授業内外での議論参加(30%)、プレゼンテーション内容(30%)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： 優（100～80 点）	講義内容を理解し、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が優れている。
評価： 良（79～70 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が良い。
評価： 可（69～60 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が普通。
評価：不可（59 点～）	出席不良で、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が不十分。
留意点 /Additional Information	授業外における教員、学生相互間の双方向的なリモートディスカッションツールとして、フェイスブックを活用する。

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	ベンチャーCFO 養成講座		
サブタイトル/Sub Title	経営者としてのベンチャーCFO を目指すための入門講義		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Startup CFO Training Program		
教員/Instructor	新村　和大	E-mail	kazuhiro@startupleadership.com
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知/ ソーシャルインパクトビジネス	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

近年、ベンチャー企業に注目が集まっており、IPO 市場も活況を呈していますが、一方で日本のベンチャー業界では財務経理・経営管理の責任者である CFO が不足しており、ベンチャー企業の成長ネックになっています。本講では、ベンチャー企業の成長を加速させる CFO 人材の養成のため、各回に実務家・専門家を招き、ベンチャーにおける機関設計、事業計画の策定、資本政策などを体系的に学びます。創業期から急成長期までの起業ステージ、初期ラウンドの資金調達から売却までを対象とします（上場に係る準備・審査対応や、上場後の IR などは本講の対象としません）。本講は一般社団法人日本 CFO 協会による寄付講座であり、同協会との共同開催になります。多摩大学大学院 MBA の大学院生に加え、同協会の個人会員も受講可能です。多様なバックグラウンドを持つ受講生による積極的なディスカッションを期待します。なお、実務家・専門家の都合により、講義の順番が入れ替わる可能性がありますので、留意して下さい。

到達目標/Course Goals

受講生自身の抱える課題に対して、ディプロマポリシーでの「イノベーターシップ」、「実践知」、「実践的教養」を達成するために、上記目的に資するベンチャービジネスにおける CFO の実務に必要となる基本的な知識を学習します。

授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション、プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし

準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	各回での出席レポート（A4 で 1 枚程度） 最終レポート（A4 で 10 枚まで）

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	ベンチャーと CFO
事前、事後学習ポイント	出席レポートとして、「本講に期待すること」（A4 で 1 枚程度）を提出。
詳細	ベンチャーという特殊な経営環境での CFO の役割を知り、CFO の基本知識である株式会社の機関設計、整備すべき書類、決算や納税について理解します。外部講師を招きます。
第 2 講	
概要	事業計画の策定
事前、事後学習ポイント	出席レポートとして、「前回の授業の振り返りと学んだこと」（A4 で 1 枚程度）を提出。
詳細	CFO の主要業務である事業計画の作成を理解します。損益計算書、貸借対照表、キャッシュフロー計算書の内容と関係性を知り、ベンチャーの戦略や事業構造に則した事業計画を策定する方法を学びます。外部講師を招きます。
第 3 講	
概要	ファイナンスと企業価値算定
事前、事後学習ポイント	出席レポートとして、「前回の授業の振り返りと学んだこと」（A4 で 1 枚程度）を提出。
詳細	ベンチャーが実施できるファイナンスの種類と、それぞれの特徴を学びます。また、ベンチャーの株式発行による資金調達で必要になる企業価値の算定方法を理解します。外部講師を招きます。
第 4 講	
概要	資本政策
事前、事後学習ポイント	出席レポートとして、「前回の授業の振り返りと学んだこと」（A4 で 1 枚程度）を提出。
詳細	ベンチャーのファイナンスで特に重要であり、かつ難度が高い株式発行による資金調達について、長期計画である資本政策のあり方を学びます。外部講師を招きます。
第 5 講	
概要	企業法務と重要契約
事前、事後学習ポイント	出席レポートとして、「前回の授業の振り返りと学んだこと」（A4 で 1 枚程度）を提出。
詳細	株式発行や M&A による売却時には関係者の権利義務関係を規定する契約書の作成と締結が必要となります。企業ステージごとの企業法務と重要契約を学びます。外部講師を招きます。

第 6 講	
概要	その他の重要な論点
事前、事後学習ポイント	出席レポートとして、「前回の授業の振り返りと学んだこと」（A4 で 1 枚程度）を提出。
詳細	第 1 講から第 6 講でカバーできなかった項目や、補足が必要な項目について学習します。また最終講義のプレゼンテーションについて詳細を確認します。必要に応じ、外部講師を招きます。
第 7 講	
概要	CFO の経営実務
事前、事後学習ポイント	出席レポートとして、「前回の授業の振り返りと学んだこと」（A4 で 1 枚程度）を提出。
詳細	ベンチャーを経営する局面で CFO が直面する様々な経営課題について理解します。また、実際にベンチャーの CFO として活躍する講師を招き、実務的な観点から講演を実施し、議論します。外部講師を招きます。
第 8 講	
概要	プレゼンテーション
事前、事後学習ポイント	出席レポートとして、「前回の授業の振り返りと学んだこと」（A4 で 1 枚程度）を提出。 最終レポート（A4 で 10 枚まで）を提出。
詳細	第 8 講までに最終レポートを提出しますが、希望者を募り、レポートのプレゼンテーションを実施します。発表者は成績に加点します。レポートのテーマは、①自社の経営計画　②起業のための事業プラン　②任意のベンチャーの経営の分析　などを想定しています。
教科書 /Textbook	なし。適宜、資料を配布します。
指定図書 /Course Readings	なし。
参考文献・参考 URL /Reference List	参考文献については、適宜、授業中に紹介します。 過去に一般社団法人日本 CFO 協会で実施された講座の内容は、以下をご参考下さい。 ベンチャーCFO 育成講座（第 1 期）　http://www.cfo.jp/event/9657/ ベンチャーCFO 育成講座（第 2 期）　http://www.cfo.jp/seminar/venture_cfo/
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	出席レポート 40%・授業内での議論 20%・最終レポート 25%・発表 15%
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	CFO の実務に必要な知識を深く理解し、議論・レポート内容が優れている。
評価：　良（79～70 点）	CFO の実務に必要な知識を良く理解し、議論・レポート内容が良い。
評価：　可（69～60 点）	CFO の実務に必要な知識を十分に理解し、議論・レポート内容が平均程度。
評価：不可（59 点～）	出席不良で、議論・レポート内容に課題が多い。
留意点 /Additional Information	一般社団法人日本 CFO 協会による寄付講座で、同協会との共同開催です。 実務家・専門家の都合により、講義の順番が入れ替わる可能性があります。

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	社会的インパクト投資		
サブタイトル/Sub Title	社会的課題解決のための新たなファイナンス手法		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Social Impact Investment		
教員/Instructor	小林立明	E-mail	Tatsuaki.kobayashi@gmail.com
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知/ ソーシャルインパクトビジネス	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

近年、多様化する社会的課題の解決にビジネスの手法を活用して取り組もうという動きが発展しています。ソーシャル・ベンチャーやソーシャル・エンタープライズと呼ばれるこのような取り組みは、少子高齢化や地域の衰退が進展し、財政赤字が深刻化する日本では強く求められます。言うまでもなく、こうした取り組みに対するファイナンスには、通常の企業ファイナンスとは異なるアプローチが求められます。本講義では、欧米で発展を遂げてきた「社会的インパクト投資」に焦点を当て、その手法、市場および発展のための施策を概観することを通じて、受講生の皆さんに社会的インパクト投資とは何か理解してもらい、さらに日本において社会的インパクト投資を発展させる方策を検討します。

到達目標/Course Goals

社会的インパクト投資における、案件探索から審査、組成、モニタリング、評価、エグジットまでの一連のプロセスについての実践知を獲得する。また、欧米を中心に、社会的インパクト投資の市場規模、分野、投資手法、投資団体を概観し、先進的事例を検討することを通じてイノベーターシップを涵養する。さらに、受講生が関心を持つ課題の解決のために必要なファイナンス・モデル構築演習を通じて、志を全うする戦略性と突破力の強化を図る。

授業形態 /Form of Class	講義、グループ討論、プレゼンテーション	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	講義プレゼンテーションの資料作成、資料・図書の熟読・まとめ		

講義概要/Course Description　全 8 講　第 1 講～第 7 講は各 180 分　第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	オリエンテーション
事前、事後学習ポイント	事前課題：指定図書に目を通しておく
詳細	①　受講生・教員の自己紹介とオリエンテーション ②　社会的インパクト投資とは何か、グローバルなマーケットの動向と主要分野の概観 ③　次回への課題提示
第 2 講	
概要	社会的インパクト投資プロセスの実際Ⅰ
事前、事後学習ポイント	事前課題：プレゼンテーションにおいて取り上げる課題と解決手法の選定
詳細	①　受講生による課題の紹介とグループ・ディスカッション ②　社会的インパクト投資プロセスの実際Ⅰ（案件探索、審査、組成、モニタリング） ③　ケース・スタディ：海外における社会的インパクト投資の具体例分析
第 3 講	
概要	社会的インパクト投資プロセスの実際Ⅱ
事前、事後学習ポイント	事前課題：プレゼンテーションにおいて取り上げる課題解決戦略の紹介
詳細	①　受講生による課題解決戦略の紹介とグループ・ディスカッション ②　社会的インパクト投資プロセスの実際Ⅱ（インパクト評価、エグジット戦略） ③　ケース・スタディ：日本における社会的インパクト評価の具体例分析
第 4 講	
概要	社会的インパクト投資の諸類型Ⅰ
事前、事後学習ポイント	事前課題：中間報告
詳細	①　受講生による中間報告とグループ・ディスカッション ②　社会的インパクト投資の諸類型（投資先の法人格や成長段階、投資機関それぞれの特性に応じた多様な投資手法） ③　ケース・スタディ：日本における社会的インパクト投資の具体例分析
第 5 講	
概要	社会的インパクト投資における革新的手法

事前、事後学習ポイント	事前課題：中間報告での指摘を踏まえた手法と戦略の練り直し
詳細	①　受講生による報告とグループ・ディスカッション ②　社会的インパクト投資の革新的手法（社会的インパクト債や準株式、チャリティ債など、内外で発展しつつある革新的なファイナンス手法） ③　ケース・スタディ：日本における社会的インパクインパクト債の具体例分析
第 6 講	
概要	社会的インパクト投資市場の発展に向けた諸施策
事前、事後学習ポイント	事前課題：参考文献に目を通しておく
詳細	①　最終報告準備に向けたグループ・ディスカッション ②　社会的インパクト投資市場の発展に向けた諸施策（公的金融の活用、市場制度の整備、公共調達の活用、評価・格付け制度の整備、新たな法人格の創出等） ③　ケース・スタディ：休眠預金活用制度の分析
第 7 講	
概要	最終報告のプレゼンテーション
事前、事後学習ポイント	最終報告準備
詳細	①　受講生による最終報告のプレゼン ②　講師による講評 ③　グループ・ディスカッション
第 8 講	
概要	本講義のまとめ
事前、事後学習ポイント	最終報告への追加・修正箇所の準備
詳細	①　本講義のまとめ ②　さらなる学びに向けての意見交換
教科書 /Textbook	なし。適宜資料配布。
指定図書 /Course Readings	L.M.サラモン（2014）「フィランソロピーのニューフロンティア」（ミネルヴァ書房）
参考文献・参考 URL /Reference List	紫牟田伸子他編（2016）「日本のシビックエコノミー」（フィルムアート社） 金子郁容他編（2016）「ソーシャル・インパクト・ボンドとは何か」（ミネルヴァ書房） マーク・J・エプスタイン他（2015）「社会的インパクトとは何か」（英治出版） G8 社会的インパクト投資タスクフォース国内指紋委員会（2016）「日本における社会的インパクト投資の現状 2016」」（http://impactinvestment.jp/2016/09/sii.html ）
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席（30%）、グループ・ディスカッション参加（30%）、プレゼン内容（40%）
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	講義内容の理解度と実践に向けての意欲が高く、議論・プレゼン内容がすぐれている。
評価：　良（79～70 点）	講義内容を理解し、実践に向けての意欲があり、議論・プレゼン内容が良い。
評価：　可（69～60 点）	講義内容についての関心があり、議論・プレゼン内容が平均程度。
評価：不可（59 点～）	出席不良で、議論・プレゼン内容に課題がある。
留意点 /Additional Information	**ケース・スタディの際には、外部講師を招く予定である。**

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	最新テクノロジーと AI の世界		
サブタイトル/Sub Title	文系知（人間）が、理系知(最新テクノロジー)を活かす		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Advanced Technology and Artificial Intelligence		
教員/Instructor	金野索一	E-mail	skonno212@gmail.com
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知/ テクノロジーイノベーション	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

この講義は最新技術を学ぶのではなく、AI（人工知能）革命、IT 革命によって、多くの仕事が消失するといわれる中、目的・価値そのものを創り出す文系知により、理系知＝最新技術（AI、ロボテックス等）を、自分のビジネス、企業、そして社会や人間のためにどう活かすかを探究し、実践する。

到達目標/Course Goals

「技術」と「既存の知見」の「新しい組み合わせ」によりイノベーションは生まれる。イノベーションの源泉は、テクノロジーとリベラルアーツの交差点にある。受講生自身の抱える課題に関して、ディプロマポリシーでの『情報収集能力と分析能力』『時代認識と世界認識』『知の再武装』『デジタル技術』を達成するために，上記目的に資するビジネスセクター全体を俯瞰した最新技術とそのビジネス実践の知見を得ることで、技術を活かした仕事を通じてイノベーションを実現し得るビジネスパーソンとなることを目標とします。

授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション グループワーク、プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	講義内容のリサーチ・整理と指定文献の熟読		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	最新テクノロジーと AI 総論
事前、事後学習ポイント	未来や技術がどうなるかではなく、自分自身が技術を活かし未来を創るために何を為すか。
詳細	下記テーマについての講義とディスカッションを進めます ・最新テクノロジーの基本フレームワーク ・文系知（＝人間）によって、理系知（＝最新技術）を活かすとは ・「技術」と「既存の知見」の「新しい組み合わせ」によりイノベーションは生まれる
第 2 講	
概要	AI とは何か
事前、事後学習ポイント	AI の基本フレームワークの理解
詳細	AI の沿革、基本技術、活用パターンを講義とディスカッションで学習する。 必要に応じてゲスト講師を招く
第 3 講	
概要	AI 革命で変わる社会
事前、事後学習ポイント	AI 革命の本質、AI と人間の関係について、自分の頭で考える
詳細	下記のテーマについて講義とディスカッション。必要に応じてゲスト講師を招く ・AI 革命で社会と企業、ビジネスがどう変わるのか ・社会や企業が AI をどう活かすのか
第 4 講	
概要	ブロックチェーン
事前、事後学習ポイント	ブロックチェーン技術が、なぜフラット・自立型組織を必然とさせるのか
詳細	下記のテーマについて講義とディスカッション。必要に応じてゲスト講師を招く ・ブロックチェーン技術のフレームワーク　・あらゆるものを分散化させる ・社会や企業がブロックチェーン技術をどう活かすのか
第 5 講	
概要	ロボティクス
事前、事後学習ポイント	ロボティクスが、AI、IoT やビッグデータ活用と連動する意味
詳細	下記のテーマについて講義とディスカッション。必要に応じてゲスト講師を招く ・ロボティクスのフレームワーク

	・社会や企業がロボティクスをどう活かすのか
第 6 講	
概要	AR/VR
事前、事後学習ポイント	AR/VR が、なぜ社会を変え、科学技術の透明化を加速させるのか
詳細	下記のテーマについて講義とディスカッション。必要に応じてゲスト講師を招く ・AR/VR のフレームワーク ・社会や企業が AR/VR をどう活かすのか
第 7 講	
概要	最新テクノロジーケーススタディ
事前、事後学習ポイント	既知の企業における最新テクノロジーの活用をベンチマークし、自身・自社へ活かす
詳細	最新テクノロジー活用の具体的ケースをリサーチし、プレゼンとグループディスカッションを進める
第 8 講	
概要	最新テクノロジー：自身・自社への応用計画プレゼンテーション
事前、事後学習ポイント	自身・自社の課題は何か？その課題の中で、テクノロジーで解決できるものは何か？
詳細	自身・自社への最新テクノロジーの応用計画を各自プレゼンテーションし、 ディカッション・グループワークを通じて教員・他メンバーへの共有とフィードバック、自身の振り返りを進める
教科書 /Textbook	なし。適宜、講義資料を配布する。
指定図書 /Course Readings	なし
参考文献・参考 URL /Reference List	WEB 日経 IT プロ連載『Peace Tech イノベーター』（金野索一著/日経 BP 社/2017 年 1 月～）
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	評価方法 出席 40 点（5 点× 8 回）／講義議論参画 30 点／応用計画内容 30 点　3 分野で 100 点満点で評価
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	授業内でのプレゼン、議論等への参加、応用計画内容が優れている。
評価：　良（79～70 点）	授業内でのプレゼン、議論等への参加、応用計画内容が良い。
評価：　可（69～60 点）	授業内でのプレゼン、議論等への参加、応用計画内容が普通。
評価：不可（59 点～）	出席不良で、授業内での議論参加、応用計画内容が不十分。
留意点 /Additional Information	・秋学期に開講する「IT・AI ビジネス創出演習」「IT ビジネス原理と先端戦略」をあわせて履修すると学びの効果が大きい。 ・《読む･書く＋聴く･話す》コミュニケーションスキルがリーダー/イノベーターのキーであるのでプレゼンテーションや議論には積極的に参画すること

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	IT ビジネス原理と先端戦略		
サブタイトル/Sub Title	その理論と実践に学ぶ		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Theory and Advanced Strategy of IT business		
教員/Instructor	金野索一	E-mail	skonno212@gmail.com
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知/ テクノロジーイノベーション	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

パーソナルコンピューターが登場して約 30 年、インターネットが普及を始めて約 20 年、IT というツールを的確に使いこなさずして、ビジネスの隆盛は成し得ません。クラウドやビッグデータ等のキーワードを知っていても、起業や経営にどのように活かすかの知見なくして、企業の発展や自身のビジネス・キャリアは深化しません。IT 分野は、最近までの常識が、すぐに陳腐化してしまう高速変化が常ですので、本科目は、現代のビジネスパーソンに不可欠な、業種、職種の枠を超えて、ビジネスセクター全体の“最新の IT ビジネス原理と先端戦略の視点・ノウハウを俯瞰し、体系化したものを学ぶことで、自身の目前の仕事やキャリア、所属企業の創造や戦略の明確化を図り、IT を駆使した仕事によりイノベーションを実現できる理論と実践の知見を獲得します。

到達目標/Course Goals

“イノベーションの源泉は、テクノロジーとリベラルアーツの交差点にある。”受講生自身の抱える課題に関して、ディプロマポリシーでの『実践知』『イノベーターシップ』『知の再武装』『デジタル技術』を達成するために，上記目的に資するビジネスセクター全体を俯瞰した“最新の IT ビジネス原理と先端戦略の理論と実践の知見”を得ることで、ICT を駆使した仕事によりイノベーションを実現し得るビジネスパーソンとなることを目標とします。

授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション グループワーク、プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	講義内容関してのリサーチ・整理と指定文献の熟読		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	IT ビジネス原理と先端戦略　総論
事前、事後学習ポイント	あらゆる業種、職種、個人キャリア、組織に活かせるツールとしての IT を理解
詳細	下記テーマについての講義とディスカション 1）IT 革命とは、IT 産業だけではなく、「××産業と IT」＝「X-Tech」のことである。 2）IT は、業種、職種を越えて、ビジネスモデルと仕事の仕方を変えている 3）IT 革命によって、中央集権的大組織（固定、伝統的大企業）は弱体化し、DAO（Decentralized Autonomous Organization、分散型自律組織）が必然となる
第 2 講	
概要	インターネットソリューション基本類型・原理
事前、事後学習ポイント	「既存の知見」と「既存の知見」の「新しい組み合わせ」によりイノベーションは生まれる
詳細	下記についての講義とプレゼンテーション、ディスカッションを進める ・インターネットソリューション基本類型・原理 ①API　②CGM　③フリー戦略　④決済最適化　⑤P2P　⑥O2O　⑦SNS 戦略 ⑧ロングテール　⑨モバイル最適化　⑩VUI　11 プラットフォーム戦略他
第 3 講	
概要	インターネットソリューション基本類型・原理のケーススタディ演習
事前、事後学習ポイント	自社や既知の企業を想定し、基本類型を設定してみる
詳細	下記についての企業、事業ケースをリサーチし、プレゼンとグループディスカッション ・インターネットソリューション基本類型・原理 ①API　②CGM　③フリー戦略　④決済最適化　⑤P2P　⑥O2O　⑦SNS 戦略 ⑧プラットフォーム戦略　⑨モバイル最適化　⑩VUI　11 ロングテール　他
第 4 講	
概要	IT が変えた職種・仕事の最新原理
事前、事後学習ポイント	既知の仕事×ICT=新たな仕事の原理
詳細	下記についての講義とプレゼンテーション、ディスカッションを進める ・IT が変えた職種・仕事の最新原理 1）経営戦略：システム・デザイン・ストーリー思考へ

	2）マーケティング：マーケッターからグロースハッカーへ 3）人事・組織：野球型からサッカー型へ、コーディネーターからファシリテーターへ 4）財務：フィンテック、決済システム、暗号通貨、クラウドファンディング他 5）製造・モノ造り：3D プリンター革命で、集中メインフレーム型から分散ネットワーク型へ
第 5 講	
概要	ICT が変えた職種・仕事の最新原理ケーススタディ演習
事前、事後学習ポイント	自身の仕事や、職種を想定し、基本類型を設定してみる
詳細	下記についての具体的ケースをリサーチし、プレゼンとグループディスカッションを進める ・ICT が変えた職種・仕事の最新原理 1）経営戦略：システム・デザイン・ストーリー思考へ 2）マーケティング：マーケッターからグロースハッカーへ 3）人事・組織：野球型からサッカー型へ、コーディネーターからファシリテーターへ 4）財務：フィンテック、決済システム、暗号通貨、クラウドファンディング他 5）製造・モノ造り：3D プリンター革命で、集中メインフレーム型から分散ネットワーク型へ
第 6 講	
概要	実在する先端企業の IT ビジネス原理と戦略ケーススタディ
事前、事後学習ポイント	実際の企業のトータル IT 戦略の現場を知る
詳細	実在企業の IT ビジネス原理と先端戦略についての講義とプレゼンテーション、ディスカッション
第 7 講	
概要	先端技術トレンド
事前、事後学習ポイント	先端技術トレンドの理解と自身/自社への応用想定
詳細	下記についての講義とプレゼンテーション、ディスカッションを進める ①AI　②Robotics/ドローン ④分散技術（ブロックチェーン）　⑤AR/VR
第 8 講	
概要	IT ビジネス原理と先端戦略の自身・自社への応用計画プレゼンテーション
事前、事後学習ポイント	自身・自社が特化すべき原理・戦略を明確化する
詳細	自身・自社への IT ビジネス原理と先端戦略の応用計画を各自プレゼンテーションし、　ディカッション・グループワークを通じて教員・他メンバーへの共有とフィードバック、自身の振り返りを進める
教科書 /Textbook	なし。適宜、講義資料を配布する。
指定図書 /Course Readings	なし
参考文献・参考 URL /Reference List	WEB 日経 IT プロ連載『Peace Tech イノベーター』（金野索一著/日経 BP 社/2017 年 1 月～）
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	評価方法 出席 40 点（5 点×8 回）／講義議論参画 30 点／最終計画内容 30 点　3 分野で 100 点満点で評価
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	授業内でのプレゼン、議論等への参加、最終計画内容が優れている。
評価：　良（79～70 点）	授業内でのプレゼン、議論等への参加、最終計画内容が良い。
評価：　可（69～60 点）	授業内でのプレゼン、議論等への参加、最終計画内容が普通。
評価：不可（59 点～）	出席不良で、授業内での議論参加、実践計画内容が不十分。
留意点 /Additional Information	・春学期に開講する「最新テクノロジーと AI の世界」、秋学期に開講する「IT・AI ビジネス創出演習」をあわせて履修すると学びの効果が大きい。 ・《読む･書く＋聴く･話す》コミュニケーションスキルがリーダー/イノベーターのキーであるのでプレゼンテーションや議論には積極的に参画すること

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	IT・AI ビジネス創出演習		
サブタイトル/Sub Title			
英文科目名/Course Title(Eng.)	IT・AI Business Planning		
教員/Instructor	金野 索一	E-mail	skonno212@gmail.com
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知/ テクノロジーイノベーション	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

IT/ AI ビジネス創出で拓く企業と自己キャリアの新たな地平～IT/AI を活用した現実の新規事業をプランニングし、日本を代表する現役の起業家・経営者と投資家へ提案を行い、その結果によっては、実際の起業あるいは社内起業に繋げる。まさに、日本の IT/AI ビジネスにおける最先端の理論と実践を往来し、企業と自分自身のイノベーションを推進する場とする。

到達目標/Course Goals

受講生自身の抱える課題に関して、ディプロマポリシーでの『情報収集能力と分析能力』『実践知』『志を全うする戦略性と突破力』『デジタル技術』を達成するために，上記目的に資する IT/AI を活用した新規事業を構想、計画し、実践・推進できるイノベーターシップを持ったビジネスパーソンとなることを目標とします。

授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション グループワーク、プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	講義内容に関するリサーチ・計画作成と指定文献の熟読		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	新規事業、ベンチャービジネス　その本質
事前、事後学習ポイント	自分自身は何のビジネスをやりたいのか？
詳細	新規事業、ベンチャービジネスとは何か、その本質をケースを交えながら、講義とディスカッション、グループワークを通じて学ぶ
第 2 講	
概要	IT/AI を活用した新規ビジネス事業計画をつくる
事前、事後学習ポイント	何のための、誰に対する計画か
詳細	新規事業計画書の作成について、講義とディスカッションにより学ぶ
第 3 講	
概要	ゲスト講師：現役 IT/AI ベンチャー経営者の講義
事前、事後学習ポイント	自分の現在地点（構想）と、目指すべき自分の到達地点（実践）の乖離を実践者から学ぶ
詳細	現役 IT/AI ベンチャー経営者のノウハウ戦略とその実践を講義とディスカッションから学ぶ
第 4 講	
概要	ゲスト講師：現役投資家（投資分野：ベンチャーIT/AI 企業専門）の講義
事前、事後学習ポイント	自分の現在地点（構想）と、目指すべき自分の到達地点（実践）の乖離を専門家から学ぶ
詳細	現役 IT/AI ベンチャー投資家のノウハウ戦略とその現場を講義とディスカッションから学ぶ
第 5 講	
概要	事業計画案中間指導
事前、事後学習ポイント	事業計画の教員・他メンバーへの共有とフィードバック、自身の検証
詳細	各自作成した事業計画ブラッシュアップのための中間プレゼンとディカッション・グループワーク・指導を行う
第 6 講	
概要	ゲスト講師：現役 IT/AI ベンチャー経営者への提案
事前、事後学習ポイント	自分の現在地点（計画）と、目指すべき自分の到達地点（実践）の乖離を実践者から学ぶ
詳細	現役 IT/AI ベンチャー経営者へ自身の事業計画をプレゼンテーションを行い、実践者からフィードバックと検証を進める

第 7 講	
概要	ゲスト講師：現役投資家（投資分野：ベンチャーIT/AI 企業専門）への提案
事前、事後学習ポイント	自分の現在地点（計画）と、目指すべき自分の到達地点（実践）の乖離を専門家から学ぶ
詳細	現役 IT/AI ベンチャー投資家へ自身の事業計画をプレゼンテーションを行い、専門家からフィードバックと検証を進める
第 8 講	
概要	IT/AI ビジネス創出総括
事前、事後学習ポイント	ビジネス創出とは「既存の知見」と「既存の知見」の「新しい組み合わせ」である
詳細	下記について、講義、ディスカッション、グループワークを通じて学ぶ ・自身の事業計画を最終総括し、教員・他メンバーへの共有とフィードバック、自身の振り返りを進め、今後の特化すべき課題、事業戦略、実践を明確化する
教科書 /Textbook	普通の君でも起業できる（大前研一、金野索一、他 著　ダイヤモンド社）
指定図書 /Course Readings	なし
参考文献・参考 URL /Reference List	WEB 日経 IT プロ連載『Peace Tech イノベーター』（金野索一著/日経 BP 社/2017 年 1 月～）
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	評価方法 出席 40 点（5 点×８回）／講義議論参画 30 点／事業計画内容 30 点　３分野で 100 点満点で評価
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	授業内でのプレゼン、議論等への参加、事業計画内容が優れている。
評価：　良（79～70 点）	授業内でのプレゼン、議論等への参加、事業計画内容が良い。
評価：　可（69～60 点）	授業内でのプレゼン、議論等への参加、事業計画内容が普通。
評価：不可（59 点～）	出席不良で、授業内での議論参加、事業計画内容が不十分。
留意点 /Additional Information	・春学期に開講する「最新テクノロジーと AI の世界」、秋学期に開講する「IT ビジネス原理と先端戦略」をあわせて履修すると学びの効果が大きい。 ・《読む･書く＋聴く･話す》コミュニケーションスキルがリーダー/イノベーターのキーであるのでプレゼンテーションや議論には積極的に参画すること

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	プロジェクト・マネジメントの基本と応用		
サブタイトル/Sub Title	適応型（adaptive）プロジェクト・マネジメントを目指して		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Elements of Project Management		
教員/Instructor	中分毅	E-mail	nakawake@nikken.jp
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知/ テクノロジーイノベーション	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

プロジェクトもマネジメントも人によって担われるという原点に立ち返り、品質・コスト・納期という三大古典的マネジメント要素に加え、目標設定、コミュニケーション・マネジメント、モティベーションの保持・強化、リーダーシップ等の人間的側面にも焦点を当てる。欧米では伝統的プロジェクト・マネジメントの不充分性を指摘する論調が強まっており、RPM（Rethinking Project Management）が提唱されている。これを踏まえ、事業戦略との関連性、複雑性・曖昧性を考慮した適応型プロジェクト・マネジメントの骨格を提案する。

到達目標/Course Goals

プロジェクト・マネジメントの目的は、領域に関わらない体系だったマネジメント手法を使用し、効率的・効果的なプロジェクト運営を図ることにある。他方、この一般性が障害となって、その有効性を理解することが容易ではない。体験事例を交えた講義によって、受講者が活用における基本的視点を確立することを目標とする。
知の再武装にとって枢要と考える「企業や組織の活動がプロジェクトの集合体である」という基本認識と、プロジェクト・マネジメントとは種々の問題解決モデルの適用であるという実践的認識を醸成する。

授業形態 /Form of Class	講義主体とする。院生の専門領域、職能が多岐にわたるため、双方向では基本的概念や知識を伝えることが困難と考えるためである。	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	・毎回配布するテキストによる復習（各 50 ページ程度） ・適宜配布する主要参考文献の読解		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講も 180 分とする

第 1 講	
概要	プロジェクト的企業観の抬頭
事前、事後学習ポイント	オペレーション・マネジメントとプロジェクト・マネジメントの相違や事業戦略との関係を理解し、トータルな企業活動の中での位置付けを認識する。
詳細	今日、組織にとって自己変革や革新は日常的なテーマとなった。プロジェクトは変革や革新を具体化する行為であり、企業活動とはプロジェクトの集合に他ならないとのプロジェクト的企業観が抬頭し、プロジェクト・マネジメントの重要性への認識やその役割への期待が高まる一方で、知識体系や有効性への疑問が増大し、プロジェクト・マネジメントはその過渡期にある。この点を認識しておくことは重要である。
第 2 講	
概要	プロジェクト・マネジメントの源流と伝統的プロジェクト・マネジメントの構成
事前、事後学習ポイント	伝統的プロジェクト・マネジメントが対応した課題の性格と方法論の特徴を理解し、その有効性と限界性を認識する。
詳細	プロジェクト・マネジメントは、国家レベルの建設プロジェクトや、冷戦時代の宇宙・軍事開発への対応として、手法の開発体系化がなされた。ここでは以下を紹介する。 ・Gantt Chart、PERT、WBS（作業分割構成）、EVM（Earned Value Management） ・伝統的プロジェクト・マネジメントの全体構成
第 3 講	
概要	プロジェクトの成功/失敗とプロジェクト・マネジメント
事前、事後学習ポイント	プロジェクトの成功/失敗とマネジメントの成功/失敗の相違を認識し、自身の業務の分析を行う。
詳細	プロジェクト・マネジメントが普及する一方、プロジェクトの失敗率に改善が見られないことが問題視されている。実践面での功罪を理解するため、以下について講述する。 ・プロジェクトの成功をどう評価するのか、について代表的な提案 ・プロジェクトを成功や失敗に導く要因に関する調査研究 ・両者に関する筆者提案
第 4 講	

概要	プロジェクトの目標や要求事項の設定
事前、事後学習ポイント	自らの業務をプロジェクトと見立てて、プロジェクト憲章のフレームを用いて記述する。
詳細	プロジェクト・マネジメントの出発点として本質的に重要な、プロジェクト目標や要求事項の設定について述べる。 · Goals, Requirements の定義と相違、LFM（Logical Framework Method）の適用 · Goals, Requirements のマネジメント手法としてのブリーフィングやプロジェクト憲章 · 事例分析
第 5 講	
概要	品質マネジメント
事前、事後学習ポイント	コストと品質、複数の品質属性間のトレード・オフへの対応方法を理解し、自らの業務をこの視点から分析する。
詳細	品質マネジメントは目標の具体化という点で極めて重要であり、品質マネジメントという観点に立脚し、品質マネジメントの根本問題について述べる。 · 品質に関する目標、要求事項の設定にまつわる問題群：品質とコストのトレード・オフ、品質を構成する属性の複数性、短期的側面・長期的側面 · 品質をどのように作りこむのか、に関する問題群：プロジェクトの各段階に応じた固有のテーマ、初期段階の重要性
第 6 講	
概要	コスト・マネジメント
事前、事後学習ポイント	自身の業務における、立場駆け引き型交渉以外の原則立脚型交渉など、信頼構築につながるコスト・マネジメントの在り方を考える。
詳細	現実の世界では、何といってもお金が勝負である。TCM（Total Cost Management）や計画の誤謬という論理的枠組みから、タイトな予算制約の中でのプロジェクト・マネージャーの極めて実践的な対応まで、本領域の立体的な把握が可能な構成とする。
第 7 講	
概要	コミュニケーション・マネジメントとプロジェクト・マネジメントにおける人間的側面
事前、事後学習ポイント	自身の業務におけるコミュニケーション改善について検討する。
詳細	コミュニケーション、モティベーション、リーダーシップ等のプロジェクト・マネジメントの人間的な側面を対象とする。伝統的には、科学的方法論を適用してプロジェクトを管理すればプロジェクトは成功するとのテーラー主義の残滓とでもいうべき考えが色濃いが、これは有効性を欠く。ケース・スタディを交えてこの歪みの補正を試みる。
第 8 講	
概要	プロジェクト・マネジメント再考：適応型のプロジェクト・マネジメントの骨格
事前、事後学習ポイント	ケースワークを通じて MBA に相応しいプロジェクト・マネジメントの認識枠組みを自身の中に構築する。
詳細	近年欧米で大きな動きとなっているプロジェクト・マネジメント再考の動きを踏まえ、適応型のプロジェクト・マネジメントの骨格を提案する。 · プロジェクト・マネジメントのパラダイム・シフトは必要か？ · 事業戦略とプロジェクト・マネジメント · 複雑性、曖昧性とプロジェクト・マネジメント · 困難度に着目したプロジェクトの類型化と困難度の高いプロジェクトのプロセス · 適応志向のプロジェクト・マネジメントの骨格の提案
教科書/Textbook	MBA 向けの適用なテキストがないことから、本講義のために独自に作成したテキストを使用する。
指定図書/Course Readings	上記の理由により指定図書はない。
参考文献・参考 URL /Reference List	重要な参考文献を講義の進行と合わせて、電子的に配布する。

評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	出席率（75%）、最終レポート（25%）　の 2 点の総合評価 最終レポートについてはメールで評価をフィードバックする
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	出席率が良好である and 最終レポートに問題意識とそれを解決しようとする能動性が感じられる。
評価：　良（79～70 点）	出席率が良好である　or　最終レポートに問題意識とそれを解決しようとする能動性が感じられる。
評価：　可（69～60 点）	良にも不可にも該当しない場合で、最終レポートの内容から最低限の知識習得が認められる。
評価：不可（59 点～）	学習意欲が感じられない（出席不良 and/or 最終レポート未提出）。
留意点 /Additional Information	ファイナンスと企業会計に関し、プロジェクト・マネジメントの理解において必要最低限の知識については講義でも触れるが、出来ればこれらの科目を履修して頂きたい。

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	社会課題起点のルール形成戦略論		
サブタイトル/Sub Title	社会課題を成長市場へと転じるルール形成とビジネスモデル		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Rule Making Strategy by utilizing social issue		
教員/Instructor	國分俊史	E-mail	kokubun@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知 /ルール形成戦略	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

政府ではもはや解決できない様々な社会課題に対し、民間企業の力が求められている。しかし、日本企業は政府の補助金以外に市場化する構想力が無く、政府機能が不十分な新興国では完全に出遅れている。一方、欧米企業は社会課題解決に繋がる製品、サービスが市場から支持されるルールを自ら創造して成長を勝ち取っている。社会課題をルール形成によって市場化するアプローチを実例から研究する。

到達目標/Course Goals

社会課題を解決するイシューエコシステム設計とグローバル市場へのルール形成アプローチを理解し、事業成長に応じて社会課題解決力も高まるビジネスモデルが構想できるようになる。

授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション グループワーク、ディベート、 プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	講義内容の整理と指定図書の熟読		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	社会課題を市場化するルール形成戦略
事前、事後学習ポイント	欧米企業はどのようにして社会課題を事業成長の機会に転じているのか？
詳細	社会課題の解決を、ルール形成を梃にリードする欧米企業と、そうした企業の取り組みの一翼を担うポジションに止まる日本の大手企業の経営戦略の違いを把握する。
第 2 講	
概要	思想力とイノベーションとルール経営の関係
事前、事後学習ポイント	ルールを創り出す意識はどのようにして育まれるのか？
詳細	ルールに囚われないイノベーションを実現するために必要なマインドセット、長期経営姿勢、ビジョンによって他者を巻き込む力の本質を理解する。
第 3 講	
概要	SDGs と ESG 投資のルール形成との関係
事前、事後学習ポイント	国連が定めた SDGs の社会課題に対して求められる取り組みは何か？ESG 投資とはどのような投資行動なのか？
詳細	ESG 投資を行う投資家に求められる経営への関与の仕方、リターンを高めるために投資先だけでなく社会に対して行うべき活動は何かという新たな投資家像を把握し、SDGs への取り組みを梃に戦略的な資金調達の方法を学ぶ。
第 4 講	
概要	イシューエコシステムと社会課題解決型経営モデル
事前、事後学習ポイント	エコシステムとビジネスモデルの違いは何か？
詳細	先進的と言われている日本企業のリサイクル率の高さや環境配慮型製品と欧米企業が取り組んでいるイシューエコシステム開発の違いと、ビジネスモデル構築に求められる視座および時間軸、デザインのポイントを理解する。
第 5 講	
概要	ケーススタディ（1）
事前、事後学習ポイント	3.11 後の日本のエネルギー政策の変化、サイバーセキュリティ政策の今日までの動き
詳細	水素政策のアジェンダセッティングから政策形成および COP への展開、日本のインフラ輸出力を強化する国際ルール形成の動向、米国主導で進むサイバーセキュリティの国際ルール形成を実例とした社会課題解決型ルール形成戦略を解説し、着想から実行までのプロセスを、実例を通して理解する。
第 6 講	

概要	ケーススタディ（2）
事前、事後学習ポイント	自分が関心を有する社会課題の解決と市場創造を促せるルール形成の切り口は何か？
詳細	各自が関心を有する社会課題を取り上げてルール形成戦略を構想し、自社のビジネスモデルをどのように変革すべきかという改革案を策定してプレゼンテーションを実施。それぞれの構想に対してクラス全員で討議する。
第 7 講	
概要	ケーススタディ（3）
事前、事後学習ポイント	自らが構想したルール形成戦略の課題は何であったのか？を深堀する
詳細	ケーススタディ 2 で指摘された課題や追加調査をすることが有効な視点を反映した改善案をプレゼンし、全員で討議。
第 8 講	
概要	政産官学それぞれに求められる改革案とアクション
事前、事後学習ポイント	アメリカおよび欧州の政策立案プロセスと日本の違いは？
詳細	世界でルール形成を実現するために重要なファンクションとステークホルダーのかかわりを理解し、日本のルール形成力を高めるために、政産官学それぞれがどのような行動改革に取り組む必要があり、自身が所属する組織や立場からはどのような働きかけができるのかを議論する。
教科書 /Textbook	「世界市場で勝つルールメイキング戦略　技術で勝る日本企業がなぜ負けるのか」編著者 國分俊史、福田峰之、角南篤　朝日新聞出版
指定図書 /Course Readings	「持続可能な未来へ」ピーターセンゲ 日本経済新聞出版社、「チェンジ・ザ・ワールドの経営論」DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー　March 2012 ダイヤモンド社、「未来を拓く国際標準」 産業技術総合研究所、「WIDE LENS ワイドレンズ」 ロン・アドナー 東洋経済新報社
参考文献・参考 URL /Reference List	なし
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	授業内での議論参加(40％)、出席(30％)、プレゼンテーション内容(30％)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	社会課題に対する理解が深くルール形成の切り口を多面的な角度から構想でき、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が優れている。
評価：　良（79～70 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が良い。
評価：　可（69～60 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が普通。
評価：不可（59 点～）	出席不良で、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が不十分
留意点 /Additional Information	なし

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	経済連携協定（FTA・EPA）と経営戦略		
サブタイトル/Sub Title	通商ルールを活用した短期利益創出と中長期競争優位獲得		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Business Strategy Leveraging FTAs		
教員/Instructor	羽生田 慶介	E-mail	khanyuda@tohmatsu.co.jp
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知 /ルール形成戦略	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course			
経済連携協定・自由貿易協定がビジネスに与える影響を詳細に理解し、効果的な対応により企業収益を即座に上げる手法を身につける。米国・欧米の政策変化（保護主義化）についても分析を行う （序盤の講義では戦略思考の基礎となるロジカルシンキング等の戦略コンサルティングスキルも学ぶ）			
到達目標/Course Goals			
FTA・EPA で交渉される「関税」の 3%は法人税の 30%に相当する利益インパクトを持つ。本講義では「最も利益に直結させやすいルール」としての FTA・EPA への企業対応力を上げる方法論を習得する。同時に、2018 以降に大きく変化が予想される通商動向に対するインテリジェンスも身につける			
授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション、	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	講義内容の整理と指定図書の熟読		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可	
第 1 講	
概要	（序論）戦略思考の基礎／ルール形成戦略概論（1）：ロジカルシンキング
事前、事後学習ポイント	事前：課題図書の読了によるロジカルシンキング基礎（ピラミッドストラクチャー／MECE 等）の理解
詳細	ルール形成戦略は「戦略思考」（何をして／何をしないか）が極めて重要となる（「オペレーション改善」とは思考が異なる）。第 1 講では、戦略コンサルタントの研修方法に倣い、ロジカルシンキングの基礎トレーニングを行う
第 2 講	
概要	（序論）戦略思考の基礎／ルール形成戦略概論（2）：ドキュメンテーションスキル
事前、事後学習ポイント	事前：課題図書の読了によるロジカルシンキング基礎（ピラミッドストラクチャー／MECE 等）の理解
詳細	第 1 講に同じ
第 3 講	
概要	なぜ国際通商ルールが経営課題とされるのか
事前、事後学習ポイント	事前：「国際通商ルール（本講では FTA・EPA の意）対応の巧拙の差」について、第 1 講・第 2 講で学んだ手法（ピラミッドストラクチャー等）で個人検討・発表（簡易プレゼン）
詳細	国際通商ルールが経営に与えるインパクトについて定性的・定量的に理解する。また、なぜ企業によって対応の巧拙に差が出る（結果、収益性に差が出る）のかを構造的に理解する
第 4 講	
概要	国際通商動向インテリジェンス（1）
事前、事後学習ポイント	事前：近年の通商動向についての基礎的理解を各自で進める。そのうえで日系企業に与える影響（各自の関心事項で可）について簡易に発表・討議
詳細	近年の通商動向（WTO 体制～FTA 加速～英国 EU 離脱・トランプショック）についての理解を進めるとともに、企業がとり得る対応策について討議を行う（特に、企業が所与とすべき前提と、ルール形成によって可変な要素について深い討議を行う）
第 5 講	
概要	国際通商動向インテリジェンス（2）
事前、事後学習ポイント	第 4 講に同じ
詳細	第 4 講に同じ
第 6 講	
概要	FTA を活用した企業競争力強化（1）

事前、事後学習ポイント	事前：FTA 活用の中心である関税分野（関税譲許表／原産地規則）について参考図書を通じて事前学習
詳細	「FTA 使い漏れ」解消による当期利益の創出方法について詳細を学ぶ。まずは協定原文の読解による FTA 活用の試行を行い、その後 IT ツールの活用等も学ぶ
第 7 講	
概要	FTA を活用した企業競争力強化（２）
事前、事後学習ポイント	事前：今後の通商動向のうち、特定企業（各自の想定）に優位なシナリオ／不利なシナリオを描写。優位なシナリオに向かわせるために官民がとるべき方策について発表
詳細	各社の戦略市場毎に関連する通商動向を特定し、想定されるシナリオを討議。日本政府の関与／企業の関与等の方策別にルール形成の取り得る手段を議論する
第 8 講	
概要	通商ルールを活用した短期利益創出と中長期競争優位獲得（まとめ講義）
事前、事後学習ポイント	事前：第 1 講～第 7 講での学び・疑問点の整理
詳細	第 1 講～第 7 講を踏まえて、最新の通商動向（特に欧米の新政権の通商政策など）について討議を行う
教科書 /Textbook	なし。適宜講義資料を配布する
指定図書 /Course Readings	「考える技術・書く技術―問題解決力を伸ばすピラミッド原則」（バーバラミント，ダイヤモンド社），「FTA ガイドブック」（JETRO），「世界市場で勝つルールメイキング戦略」（國分俊史、福田峰之、角南 篤 編著， 朝日新聞出版社）
参考文献・参考 URL /Reference List	「ペリーの対日交渉記」（藤田忠，日本能率協会マネジメントセンター）
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	授業内での議論参加(40％)、出席(30％)、プレゼンテーション内容(30％)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： 優（100～80 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が優れている。
評価： 良（79～70 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が良い。
評価： 可（69～60 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が普通。
評価：不可（59 点～）	出席不良で、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が不十分。
留意点 /Additional Information	本論の通商論点のみならず、序論の戦略思考／戦略コンサルティングスキルについても鋭意学ぶことが必要。ルール形成は（オペレーション改善と異なり）極めて戦略的な思考が求められることを理解すべし

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	ルール形成産業構造論		
サブタイトル/Sub Title	ルール形成でマネタイズする方策を深化する		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Introduction of Rule-making Businesses		
教員/Instructor	羽生田 慶介	E-mail	khanyuda@tohmatsu.co.jp
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知 /ルール形成戦略	単位数/Credits	2

授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション、	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	講義内容の整理と指定図書の熟読		

講義目的/Aim of Course

ルール形成と企業収益・産業競争力の関係を網羅的に紐解く。企業が経営ツールに「ルール形成」を根付かせるために、ルール形成のプロセス全体を通じてマネタイズ（収益化）する方策を理解する。出来上がったルールによって市場拡大や競争力強化することは勿論、ルール形成の過程においてもマネタイズするビジネスモデルを論じる
（序盤の講義では戦略思考の基礎となるロジカルシンキング等の戦略コンサルティングスキルも学ぶ）

到達目標/Course Goals

企業経営者に対し、「収益」を結語にした論調でルール形成の必要性・有効性を説明できるようになる。
ルール形成バリューチェーン全体像と日本の課題を理解し、提言すべき政策を考えられる。

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	（序論）戦略思考の基礎／ルール形成戦略概論（1）：ロジカルシンキング
事前、事後学習ポイント	事前：課題図書の読了によるロジカルシンキング基礎（ピラミッドストラクチャー／MECE 等）の理解
詳細	ルール形成戦略は「戦略思考」（何をして／何をしないか）が極めて重要となる（「オペレーション改善」とは思考が異なる）。第 1 講では、戦略コンサルタントの研修方法に倣い、ロジカルシンキングの基礎トレーニングを行う
第 2 講	
概要	（序論）戦略思考の基礎／ルール形成戦略概論（2）：ドキュメンテーションスキル
事前、事後学習ポイント	事前：課題図書の読了によるロジカルシンキング基礎（ピラミッドストラクチャー／MECE 等）の理解
詳細	第 1 講に同じ
第 3 講	
概要	ルール形成の基本戦略「Standards×Regulations 戦略」
事前、事後学習ポイント	事前：課題図書の読了によるルール形成戦略の基礎理解
詳細	企業戦略としてのルール形成は、「ビジネスの構造理解」と「ルール構造の理解」の双方が必要。「ルール」という総称での捉え方から脱し、「規制」「基準」「標準」「規格」「ガイドライン」等の区別を理解する
第 4 講	
概要	企業によるルール形成事例／ルール形成体制
事前、事後学習ポイント	事前：自身が関心ある分野でのルール形成事例を探し、構造を整理（簡易な発表）
詳細	国内企業／海外企業のルール形成事例を学び、成功要因が成り立った背景としての企業体制や社会基盤（官民体制ほか）を討議する
第 5 講	
概要	ルール形成産業とは／ルール形成でのマネタイズ方法
事前、事後学習ポイント	事前：企業視点を超えたルール形成の全体像の課題を検討
詳細	ルール形成のバリューチェーン全体像を理解し、日本の課題を討議する（特に、企業が関与し得る範囲を広範に捉える）。ルール形成の結果としての市場拡大や競争力強化だけでなく、ルール形成のプロセスにおけるマネタイズこそがルール形成戦略コース終了生の活躍機会のカギと心得る
第 6 講	

概要	ルール形成産業の重要プレーヤー（1）：認証機関
事前、事後学習ポイント	事前：「Standards×Regulations」の考え方のうち、Standards の「標準化」「認証」についての基礎予習
詳細	日本の構造的課題のひとつ「認証機関の弱さ」「国際標準化への取り組み弱さ」について深く論じる。「ルールづくり」の後工程こそがマネタイズの機会多いことを理解する
第 7 講	
概要	ルール形成産業の重要プレーヤー（2）：業界団体
事前、事後学習ポイント	事前:自身の関心ある業界の業界団体がルール形成にどう関与しているかについて簡易に調査・発表
詳細	日本の構造的課題のひとつ「業界団体がグローバル市場で機能弱い」ことについて深く論じる。今後の業界団体のあるべき姿について討議する
第 8 講	
概要	ルール形成戦略を経営ツールに昇華させるための方策
事前、事後学習ポイント	特になし
詳細	ルール形成戦略によるマネタイズ全体像を再整理。企業にとっての市場拡大・競争力強化に加え、ルール形成戦略コース終了生のビジネス機会についても討議する
教科書 /Textbook	なし。適宜講義資料を配布する
指定図書 /Course Readings	「考える技術・書く技術―問題解決力を伸ばすピラミッド原則」（バーバラミント，ダイヤモンド社），「FTA ガイドブック」（JETRO），「世界市場で勝つルールメイキング戦略」（國分俊史、福田峰之、角南 篤 編著， 朝日新聞出版社）
参考文献・参考 URL /Reference List	経済産業省ルール形成戦略室資料 （http://www.meti.go.jp/policy/external_economy/trade/rules.html）
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	授業内での議論参加(40％)、出席(30％)、プレゼンテーション内容(30％)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： 優（100～80 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が優れている。
評価： 良（79～70 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が良い。
評価： 可（69～60 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が普通。
評価：不可（59 点～）	出席不良で、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が不十分。
留意点 /Additional Information	本論の通商論点のみならず、序論の戦略思考／戦略コンサルティングスキルについても鋭意学ぶことが必要。ルール形成は（オペレーション改善と異なり）極めて戦略的な思考が求められることを理解すべし

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	安全保障経済政策論 1		
サブタイトル/Sub Title	経済政策による地政学リスクへの能動的関与が生み出すルールと経営戦略への応用		
英文科目名/Course Title(Eng.)	National security and economic statecraft 1		
教員/Instructor	井形彬	E-mail	akira.igata@gmail.com
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知/ ルール形成戦略	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

日本を巡る国際環境が日々目まぐるしく変化している。戦後日本の安全保障経済政策にとり最重要国家であった米国では、政策の方向性が極めて不透明なドナルド・トランプ政権が二年目を迎えている。また、習近平体制の中国は、一帯一路・AIIB を通じて戦略的な安全保障経済政策を進めている。さらに、朝鮮半島有事の際には協力が不可欠でありながらも歴史問題の軋轢が残る韓国では、文在寅大統領のもとで融和的な対北朝鮮政である「太陽政策 2.0」が取られ始めている。長らく「受け身外交」と揶揄されてきた日本。「インド太平洋」地域がこのような激動の渦中にある中で、日本は国家・企業・個人とそれぞれのレベルにおいて単なる傍観者になるのではなく、どのように世界に対して戦略的・能動的に関与していき、機会と転じていくことができるのか。現在日本が直面する様々な課題を概観し、具体的な事例研究を通じてその方策について考える。

到達目標/Course Goals

世界の主要国は軍事産業以外の企業であっても、安全保障経済政策を経営戦略に活かす視座を有している。安全保障経済政策という視点から各国の戦略的意図とそれを体現している民間企業への投資誘発策を特定し、事業機会に転じているのだ。本講義では、このような時代認識と世界認識を正確に捉え、見えにくい安全保障経済政策を捉える情報収集能力と分析能力を培い、ルール化の切り口を研究し、経営戦略に活かしていく実践的教養を習得する。春学期は事例研究として、特定の問題領域に焦点を当てる。

授業形態 /Form of Class	講義、双方向、グループディスカッション	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	講義配布資料と参考文献の熟読		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	安全保障経済政策とは何か
事前、事後学習ポイント	国際政治における「パワー」、分析レベル、ウェストファリア体制、トゥキディデスの罠
詳細	安全保障経済政策を理解する上で必要となる主要な理論・分析枠組・論者・キーワードを解説する。また、国際政治学・国際関係論・安全保障研究といった既存の学問分野で、安全保障政策と経済政策のリンケージがどのように位置づけられてきたかを概観する。
第 2 講	
概要	国際政治経済の進展
事前、事後学習ポイント	重商主義、自由貿易、ブロック経済、ブレトンウッズ体制、パックス・アメリカーナ
詳細	15 世紀末から現在に至る国際政治経済の歴史を概観する。また、「パックス・アメリカーナ後」の国際政治経済体制の行方がどこに行くのか、トランプ政権のアメリカ・ファースト政策やイギリスのブレグジット等は「保護主義」への回帰なのかを検討する。
第 3 講	
概要	ユーラシア大陸を巡る地政学
事前、事後学習ポイント	地政学、ネットワーク、一帯一路、EAEU、アクト・イースト、「ビジョン 2023」
詳細	ユーラシア大陸における秩序発展の歴史を概観する。その上で、現在中国・ロシア・インド・オーストラリア・イラン・トルコ・EU 等各国がどのような思惑でユーラシア大陸における戦略構想を行っているかを検討する。
第 4 講	
概要	日本の安全保障政策と米国
事前、事後学習ポイント	湾岸戦争、「継続」か「変化」か、日米同盟、「トランプ現象」
詳細	第二次世界大戦後、特に冷戦後日本の安全保障政策の歴史を概観する。また日本にとり最重要国家である米国の歴史と政治制度を理解することで、日米関係についての理解を深める。
第 5 講	

概要	事例研究１：人道支援・災害救援活動
事前、事後学習ポイント	「非伝統的」安全保障、軍民関係、HA/DR
詳細	冷戦終結後、従来軍事団体の役割とは見做されていなかった「非伝統的」安全保障分野における活動が増加している。この一部をなす「人道支援・災害救援（HA/DR）活動」の歴史を概観し、各国の HA/DR 活動の現状を把握する。また、軍と非政府組織のとるべき役割、日本のとるべき戦略、企業レベルにおける関与の是非と方法について議論する。
第 6 講	
概要	事例研究２：宇宙空間
事前、事後学習ポイント	「第二の宇宙時代」、一帯一路と人工衛星網、デュアルユース、ニュースペース
詳細	科学技術の発展により、「グローバル・コモンズ（国際公共空間）」の中で今まで問題となることが少なかった「サイバー空間」や「宇宙空間」が注目を浴びるようになってきた。本講義では、アジア太平洋諸国の宇宙政策を概観し、日本がとるべき戦略、企業レベルにおける関与の是非と方法について議論する。
第 7 講	
概要	事例研究 3：サイバー・セキュリティー
事前、事後学習ポイント	サイバー・セキュリティー、セキュリティー・クリアランス
詳細	本講義では「グローバル・コモンズ」のサイバー空間についてとりあげる。アジア太平洋諸国のサイバー・セキュリティー政策を概観し、新たに浮上してきた安全保障経済政策の課題をとりあげ、日本がとるべき戦略、企業レベルにおける関与の是非と方法について議論する。
第 8 講	
概要	安全保障経済政策を梃にした経営戦略の立案アプローチ
事前、事後学習ポイント	企業レベルでの能動的関与の在り方とは
詳細	本講義を踏まえて、企業レベルで果たすこと可能となる能動的な役割に何があるか、新たな「民間外交」の在り方はどうあるべきかについて、グループディスカッションする。
教科書 /Textbook	特になし。適宜講義資料を紹介・配布する。
指定図書 /Course Readings	特になし。適宜講義資料を紹介・配布する。
参考文献・参考 URL /Reference List	なし
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席（40%）、授業内での議論参加（30%）、レポート提出（30%、メールでフィードバックを行う）
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	授業内での議論への貢献度が極めて高く、レポート内容が優れている。
評価：　良（79～70 点）	授業内での議論へと積極的に関与し、レポート内容が良い。
評価：　可（69～60 点）	授業内での議論に関与し、レポート内容が普通。
評価：不可（59 点～）	出席不良、授業内での議論貢献度が極めて低く、レポートが不十分。
留意点 /Additional Information	・「安全保障経済政策」は日本で体系化された書籍化無いことから、各講義に関係すると思われる書籍やレポートを事前に能動的に読み込んで議論に参加すること。 ・本講義では各回冒頭に時事問題を取り上げてディスカッションを行う。よって、日頃より日本のメディアに加え、海外の主要メディア（NYT，Washington Post，BBC，Guardian，Le Monde 等）に目を通しておくことを推奨する。

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	安全保障経済政策論 2		
サブタイトル/Sub Title	経済政策による地政学リスクへの能動的関与が生み出すルールと経営戦略への応用		
英文科目名/Course Title(Eng.)	National security and economic statecraft 2		
教員/Instructor	井形彬	E-mail	akira.igata@gmail.com
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知/ ルール形成戦略	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

日本を巡る国際環境が日々目まぐるしく変化している。戦後日本の安全保障経済政策にとり最重要国家であった米国では、政策の方向性が極めて不透明なドナルド・トランプ政権が二年目を迎えている。また、習近平体制の中国は、一帯一路・AIIB を通じて戦略的な安全保障経済政策を進めている。さらに、朝鮮半島有事の際には協力が不可欠でありながらも歴史問題の軋轢が残る韓国では、文在寅大統領のもとで融和的な対北朝鮮政である「太陽政策 2.0」が取られ始めている。長らく「受け身外交」と揶揄されてきた日本。「インド太平洋」地域がこのような激動の渦中にある中で、日本は国家・企業・個人とそれぞれのレベルにおいて単なる傍観者になるのではなく、どのように世界に対して戦略的・能動的に関与していき、機会と転じていくことができるのか。現在日本が直面する様々な課題を概観し、具体的な地域研究を通じてその方策について考える。

到達目標/Course Goals

世界の主要国は軍事産業以外の企業であっても、安全保障経済政策を経営戦略に活かす視座を有している。安全保障経済政策という視点から各国の戦略的意図とそれを体現している民間企業への投資誘発策を特定し、事業機会に転じているのだ。本講義では、このような時代認識と世界認識を正確に捉え、見えにくい安全保障経済政策を捉える情報収集能力と分析能力を培い、ルール化の切り口を研究し、経営戦略に活かしていく実践的教養を習得する。秋学期は地域研究として、毎回異なる特定地域に焦点を当てる。

授業形態 /Form of Class	講義、双方向、グループディスカッション	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	講義配布資料と参考文献の熟読		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	国際関係理論から見る国家間関係
事前、事後学習ポイント	社会科学の方法論、独立・従属変数、攻撃防御理論、安全保障のジレンマ
詳細	国家間関係を説明しようと試みる欧米の国際関係理論を概観する。また、その理解の手助けとなる、社会科学の基礎的な方法論や因果関係の捉え方を理解する。
第 2 講	
概要	「インド太平洋」の国際関係
事前、事後学習ポイント	軍縮・核不拡散、テロリズムと国際犯罪、PKO、地域協力と国際組織
詳細	「インド太平洋」概念について概観した上で、当該地域において春学期の事例研究で取り上げることのできなかった重要な政策分野を概観する。（軍縮・核不拡散、テロリズムと国際犯罪、PKO、地域協力と国際組織等。）
第 3 講	
概要	地域研究１：アフリカ
事前、事後学習ポイント	サブサハラ・アフリカ、テロリズム、海賊対策、難民問題、格差の拡大、援助疲れ
詳細	アフリカの地理的特徴・民族・宗教等を概観する。また、日本がアフリカへと進出する場合にはどのような機会とリスクがあるかを総合的に検討する。最後に、米中といった主要国がどのような対アフリカ政策をとっているかを理解した上で、今後日本がどのようにアフリカに関与して行くべきかのディスカッションを行う。
第 4 講	
概要	地域研究２： 中東
事前、事後学習ポイント	イスラーム、オイルショック、アラブの春、イラン核合意、越境的脅威
詳細	中東の地理的特徴・民族・宗教等を概観する。また、中東の不安定要因を伝統的なものから新たに浮上してきたものまで解説する。さらに、中東諸国のエネルギー政策を詳細に検討する。最後に、米中といった主要国がどのような対中東政策をとっているかを理解した上で、今後日本がどのように中東に関与して行くべきかのディスカッションを行う。

第 5 講	
概要	地域研究３：東アジア（日中韓関係）
事前、事後学習ポイント	日中韓のパワーバランス、北朝鮮問題、ロシアファクター、北極海航路
詳細	日中韓を始めとする、現代の東アジア情勢を概観する。特に、北朝鮮の核・ミサイル開発問題と、東シナ海・南シナ海を巡る動向を詳細に検討する。最後に、主要国がどのような対東アジア政策をとっているかを理解した上で、今後日本がどのように東アジアに関与して行くべきかのディスカッションを行う。
第 6 講	
概要	地域研究４：ロシア
事前、事後学習ポイント	ソ連崩壊、日露関係、米露関係、フェイクニュース、
詳細	ロシアの安全保障経済政策に関与する主要なアクターと国内制度、インド太平洋地域における国家・非国家主体の活動、および、日露関係の歴史を理解する。最後に、主要国がどのような対ロ政策をとっているかを理解した上で、今後日本がどのようにロシアに関与して行くべきかのディスカッションを行う。
第 7 講	
概要	地域研究５：欧州
事前、事後学習ポイント	欧州統合の歴史、欧州軍事産業基盤、EU とブレグジット、日欧関係
詳細	欧州統合の歴史、特に、当初存在していた明確な「外交・安全保障問題」と「経済問題」の区別ができなくなっていった過程を検討する。また、欧州における軍事産業を詳細に検討する。最後に、米中といった主要国がどのような対欧州政策をとっているかを理解した上で、今後日本がどのように欧州に関与して行くべきかのディスカッションを行う。
第 8 講	
概要	総括
事前、事後学習ポイント	企業レベルでの能動的関与の在り方とは
詳細	春学期に焦点を当てた個別問題領域の分析視覚と、秋学期に焦点を当てた特定地域を詳細に見る分析視覚の双方を踏まえて、企業レベルで果たすこと可能となる能動的な役割に何があるか、新たな「民間外交」の在り方はどうあるべきかについて、グループディスカッションする。
教科書 /Textbook	特になし。適宜講義資料を紹介・配布する。
指定図書 /Course Readings	特になし。適宜講義資料を紹介・配布する。
参考文献・参考 URL /Reference List	なし
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席（40%）、授業内での議論参加（30%）、レポート（30%、メールでフィードバックを行う）
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： 優（100～80 点）	授業内での議論への貢献度が極めて高く、レポート内容が優れている。
評価： 良（79～70 点）	授業内での議論へと積極的に関与し、レポート内容が良い。
評価： 可（69～60 点）	授業内での議論に関与し、レポート内容が普通。
評価：不可（59 点～）	出席不良、授業内での議論貢献度が極めて低く、レポートが不十分。
留意点 /Additional Information	・春学期同様、適宜講義資料を紹介・配布する。引き続き、各講義に関係すると思われる書籍・レポート・ニュースを事前に能動的に読み込んで議論に参加すること。 **・地域研究に関しては、当該地域における新進気鋭の若手研究者をゲストレクチャーとして招聘する。よって、外部講師とのスケジュール調整が必要となるため、第 3-7 講の講義内容は多少前後・変更する可能性があることをご了承ください。**

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	ルール形成戦略研究所特別講義		
サブタイトル/Sub Title	日本のルール形成力を国家レベルで高めていくための改革シナリオ		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Special program by professor of Center for Rule-making Strategy		
教員/Instructor	ルール形成戦略研究所	E-mail	kokubun@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知 /ルール形成戦略	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

政治家、官僚、研究者、民間企業が現在どのような形でルール形成に関わっており、それぞれはどのような連携関係にあるのかを理解する。ルール形成力を高めるにはこれらの関係者が全てが、より機動的かつ能動的に動いていく必要があるのだが、現在直面している障壁が一体何かを各ポジションで最前線を切り開いているルール形成戦略研究所の教授陣が実例をもとに解説する。

到達目標/Course Goals

ルール形成力を国家レベルで高めるために政治、官庁、学会、民間企業の立場で取り組まれている最先端の活動とより発展させていくために必要な日本の構造改革のポイントを理解する。

授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	講義内容の整理と指定図書の熟読		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	社会課題起点のルール形成戦略（國分教授）
事前、事後学習ポイント	
詳細	社会課題起点のルール形成戦略
第 2 講	
概要	ルール形成戦略研究所の教授陣による講義
事前、事後学習ポイント	
詳細	担当講師・講義内容は調整中
第 3 講	
概要	ルール形成戦略研究所の教授陣による講義
事前、事後学習ポイント	
詳細	担当講師・講義内容は調整中
第 4 講	
概要	ルール形成戦略研究所の教授陣による講義
事前、事後学習ポイント	
詳細	担当講師・講義内容は調整中
第 5 講	
概要	ルール形成戦略研究所の教授陣による講義
事前、事後学習ポイント	
詳細	担当講師・講義内容は調整中
第 6 講	
概要	ルール形成戦略研究所の教授陣による講義
事前、事後学習ポイント	
詳細	担当講師・講義内容は調整中
第 7 講	
概要	ルール形成戦略研究所の教授陣による講義

事前、事後学習ポイント	
詳細	担当講師・講義内容は調整中
第 8 講	
概要	ルール形成戦略研究所の教授陣による講義
事前、事後学習ポイント	
詳細	担当講師・講義内容は調整中
教科書 /Textbook	なし
指定図書 /Course Readings	「世界市場で勝つルールメイキング戦略　技術で勝る日本企業がなぜ負けるのか」編著者 國分俊史、福田峰之、角南篤　朝日新聞出版、「水素たちよ、電気になーあれ！」福田峰之 アートデイズ、「グローバルルールと競争戦略」藤井敏彦 東洋経済新報社、「FTA ガイドブック」（JETRO）、「ペリーの対日交渉記」藤田忠 日本能率協会マネジメントセンター、「新たな規制をビジネスチャンスに変える環境経営戦略」市川芳明、中央法規出版、『「新しい安全保障」論の視座』赤根谷達雄・落合浩太郎・中西寛・栗栖薫子・中沢力 亜紀書房、「未来を拓く国際標準」 産業技術総合研究所、「WIDE LENS ワイドレンズ」ロン・アドナー 東洋経済新報社
参考文献・参考 URL /Reference List	なし
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	授業内での議論参加度と出席状況による。
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	授業内での議論参加、発言内容が優れている。
評価：　良（79～70 点）	授業内での議論参加、発言内容が良い。
評価：　可（69～60 点）	授業内での議論参加、発言内容が普通。
評価：不可（59 点～）	出席不良で、授業内での議論参加、発言内容が不十分。
留意点 /Additional Information	講師の講義を踏まえたディスカッションが中心になることから、各授業での討議への積極参加を重視する。

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	ルール形成のためのメディア戦略		
サブタイトル/Sub Title	メディアから見た国家・社会制度の形成過程と今後の課題		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Media strategy for rule-making strategy professional		
教員/Instructor	岡田宏記	E-mail	okada12031@tbz.t-com.ne.jp
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知/ ルール形成戦略	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

現下の国際情勢は大きな転換点を迎えており、米国の大統領選出や英国の EU 離脱等のプロセスでは、グローバリズムと民主政治といった戦後秩序を牽引した仕組みの間に非調和性が現れ始めている。そこでは、SNS などのメディアが媒介した新たな民意の台頭や情報操作といった問題も顕在化した。メディアは近代以降の国家・社会のルールを形成する上で、大きな役割を果たしたが、様々な課題も残している。本講義では、メディアが近・現代で達成した事跡を学び、媒体の機能を踏まえた上で、来るべき時代の多くの社会課題の解決に向け、メディアがどうあるべきか考える。

到達目標/Course Goals

メディアの機能の本質を理解し、「時代認識」や「世界認識」を深める。また、メディア・リテラシーを向上させ、「情報収集能力と分析能力」を高めると同時に、「知の再武装」も図り、今後の社会課題解決に向けてメディアが為すべきことを構想できる。

授業形態 /Form of Class	講義、映像ソフト鑑賞、プレゼンテーション、グループディスカッション	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	講義でのプレゼンテーションの資料作成。関連メディアの視聴、資料・図書の熟読。		

講義概要/Course Description　全 8 講　第 1 講～第 7 講は各 180 分　第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	オリエンテーション
事前、事後学習ポイント	時事的な問題についてメディア視聴　プレゼンテーションのテーマ、方法等について
詳細	自己紹介とオリエンテーション。今の国際情勢・国内政治とメディアの関係を包括的な視座から分析する。また、新旧メディア間の興亡や記者クラブを中心とする取材ヒエラルキーの功罪等、現在のメディアが抱える課題について検証する。 宿題；ある問題、テーマについて各メディアはどのように報じたか調べること。第 8 講までにその調査結果と自分の意見を全員が順次発表する。
第 2 講	
概要	世論形成のツールとしてのメディア　①今、ヒトラーの時代から学ぶ
事前、事後学習ポイント	20 世紀前半の世界情勢、特に欧州の動向と今日の類似点
詳細	世界各地で民族間の問題が過熱し、排外主義も台頭している。そして、この稀代の煽動政治家への言及も増している。不安定性が高まる世界情勢を読み解く意味で、ヒトラーの時代を再検証する。特に、政治と大衆を結びつけるメディア戦略上、様々な実験がなされ、問題が残った。その時代と背景を探ることで、現代への教訓を得る。 第 1 講で出された宿題のプレゼンテーション①
第 3 講	
概要	世論形成のツールとしてのメディア　②トランプ政権とメディア戦略
事前、事後学習ポイント	米国を巡る内外の政治状況　既存メディアと SNS の問題
詳細	戦後、国際公共財を提供してきた米国のプレゼンスが低下している。その主要因であるトランプ大統領誕生に大きく作用した SNS。しかし、その問題点が次第に露わになりつつあり、各国で規制の論議が起こっている。今後の政権維持に向けて、トランプ政権はどのような政策を採るのか、その行方に大きく影響するメディア戦略を中心に最新情勢を検証する。 第 1 講で出された宿題のプレゼンテーション②
第 4 講	
概要	世論形成のツールとしてのメディア　③新聞と近代制度
事前、事後学習ポイント	19 世紀以降のイギリスを中心とした政治過程と新聞の役割
詳細	現在、自由と民主主義、人権、福祉といった価値が揺らいでいる。これら近代社会を支えるルールはかつて英国等で新聞が世論を形成し、権力との壮絶な闘いを経て、獲得したものと言える。今尚、強い影響力を有するこのメディアが歴史的に果たした功罪を学び、メディア本来の使命を再確認すると共に、今後の課題解決についてもディスカッションする。

	第 1 講で出された宿題のプレゼンテーション③
第 5 講	
概要	世論形成のツールとしてのメディア　④ラジオ・テレビと国家戦略
事前、事後学習ポイント	20 世紀の欧米、日本の歩みとメディアの興亡　今後の課題
詳細	SNS の浸透で、既存のメディアの退潮が指摘されるが、ラジオ・テレビは国民国家の形成過程で、国民を統合し、国家目標を完遂するために大きな役割を担った。反面、二度の大戦を経て、メディアが本来為すべき機能を果たしえなかった歴史的教訓も踏まえ、メディアの今後のあり方について洞察する。 第 1 講で出された宿題のプレゼンテーション④
第 6 講	
概要	世論形成のツールとしてのメディア　⑤天皇制とメディア
事前、事後学習ポイント	明治維新以降の日本の政治と天皇の存在　今後のメディアと天皇制の行方
詳細	天皇制という仕組みが誕生したのは、明治維新以降であることは余り知られていない。そして、国民統合のシンボルとして憲法にうたわれているこの稀有の存在は、メディアの機能と密接につながっている。生前退位の真意を学び、メディアとの連関で天皇制と国家統治のあり方を検証する。 第 1 講で出された宿題のプレゼンテーション⑤
第 7 講	
概要	世論形成のツールとしてのメディア　⑥外交とメディア
事前、事後学習ポイント	近・現代の日本外交の歩み　今後の外交のあり方
詳細	近隣諸国との関係は不安定性が付きまとい、戦争の負の遺産も依然清算されない。また、同盟国アメリカはその国際的な役割について消極的な姿勢が顕著な中、日本の果たすべき役割は大きい。自由・民主主義といった普遍的価値を守るためにも、今後日本の外交はどうあるべきか？メディアを軸にして、その在り方について展望する。 第 1 講で出された宿題のプレゼンテーション⑥
第 8 講	
概要	世論形成のツールとしてのメディア　⑦防衛とメディア
事前、事後学習ポイント	戦前の軍事体制から今日の防衛力整備と課題
詳細	近隣の軍事的脅威が増す中で、日本の安全保障体制は岐路に立っている。米軍のプレゼンス、自衛隊のあり方など、数多の課題についてメディアとの関連から考察する。遡って、近代国家における軍事組織はメディアと不可分の関係にあった。それら歴史も踏まえ、今後の国家防衛・安全保障の課題を検証する。 第 1 講で出された宿題のプレゼンテーション⑦
教科書 /Textbook	なし。適宜、講義資料を配布する。
指定図書 /Course Readings	「現代メディア史」佐藤卓巳著　岩波書店 「政治を動かすメディア」佐々木毅・芹川洋一著　東京大学出版会
参考文献・参考 URL /Reference List	「近代ジャーナリズムの誕生」村上直之著　岩波書店
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席（40％）、プレゼンテーション（30％）、授業での議論参加（30％）
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	メディアの機能や戦略をよく理解し、プレゼン・議論内容が優れている。
評価：　良（79～70 点）	メディアの機能や戦略を理解でき、プレゼン・議論内容が良い。
評価：　可（69～60 点）	メディアの機能や戦略を理解し、プレゼン・議論内容が普通。
評価：不可（59 点～）	出席不良で、プレゼン・議論内容が不十分。
留意点 /Additional Information	日頃から様々なメディアに多く接して、自らの問題意識を高めること。

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	春学期/秋学期
科目名/Course Title	議員事務所でのインターンシップ		
サブタイトル/Sub Title	議員および議員秘書のサポートを通じた政治家の活動を理解		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Internship in office of politician		
教員/Instructor	國分俊史/ ルール形成戦略研究所	E-mail	kokubun@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知/ ルール形成戦略	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course
国会議員または地方議員の事務所で議員および議員秘書と一緒に地盤創り、政策を構想していくための視察や地域での意見交換、部会での討議などを一定期間同行およびサポートすることで、政治家の活動を深く理解し、政治家との関係作りや連携方法を理解する
到達目標/Course Goals
国会議員や地方議員の地盤創り、政策立案のためのインプット方法、政策立案活動を包括的に理解する

授業形態 /Form of Class	計 100 時間のインターンシップ活動	学外学習 /Off-Campus Learning	有
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	適宜インプットすべき資料や情報を指示		

講義概要/Course Description	
概　要	ルール形成戦略研究所の活動に協力してくれる国会議員や地方議員の事務所で、議員や秘書の活動に同行しつつサポート業務を行うことで、政治家が政策を作るために実施している日々のオペレーションを理解する。インターンシップを通じて企業や一個人として政治家と連携していくことが有効な切り口を発見する。また、国会議員と地方議員がどのように連携しているのか、党の活動とはどのようなものかを理解し、国際ルール形成をしていこうとした時の、現在の政治家を取り巻く課題を把握する。
下記は時間配分の目安（あくまでも目安であり事務所によって時間配分に差が生じる）	
15 時間	議員選挙区での地盤創りへの同行
60 時間	視察、意見交換会、部会への同席
25 時間	政策立案のための資料作成支援

教科書 /Textbook	なし
指定図書 /Course Readings	なし
参考文献・参考 URL /Reference List	「水素たちよ、電気になーれ」著者 福田峰之　アートデイズ、
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	①100 時間の出席状況と各業務への集中度（80%） ②感想レポート 3,000 字（40%）
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	議員事務所の多様な活動に能動的に参画し、議員の活動を包括的に理解
評価：　良（79～70 点）	議員事務所の活動に選択的に参画し、議員の活動を断片的に理解
評価：　可（69～60 点）	議員事務所の特定の活動にのみ参画し、議員の活動の一側面を理解
評価：不可（59 点～）	出席不良で、議員の活動に対する理解が不十分。
留意点 /Additional Information	新卒院生は 100 時間。社会人は土日を中心に 40 時間を最低時間とする。なお、100 時間以上を希望する場合は事務所と調整できた場合に限り、延長を認める

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	春学期/秋学期
科目名/Course Title	ルール形成戦略研究所でのインターンシップ		
サブタイトル/Sub Title	ルール形成のアジェンダセッティングアプローチの習得		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Internship in Center for Rule Making Strategy		
教員/Instructor	國分俊史	E-mail	kokubun@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知/ ルール形成戦略	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

日本が取り組むべきルール形成アジェンダの発掘から、日本がルール作りを仕掛けていくに当たって有効な切り口をデザインする。そのうえでポリシーメーカーに対してルール形成に取り組むことの必要性、有効性を説得するロジックを開発し、説明資料に落とし込んでルール形成戦略研究所メンバーにプレゼンを実施。

到達目標/Course Goals

日本企業の競争力を向上させ、日本の製品・サービスが必要とされる世界市場の創造に繋がるルール形成の立案の視点およびそれに向けた民間企業と政府の連携を促す行動原理の体得

授業形態 /Form of Class	4 週間の研究活動	学外学習 /Off-Campus Learning	有
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	テーマに応じて教授陣から適宜インプットすべき資料や情報を指示		

講義概要/Course Description
レビューの時間を適宜教授と設定し拘束時間は設けずに 4 週間のワークを実施

概　要	第 1 週はルール形成戦略研究所の教授陣からの指導に基づき、日本がルール形成に加わるべき既に生じているルール形成の流れの発見、もしくは新たに日本がルール形成を仕掛けていける空白地帯を発見し、アジェンダセッティングすべきテーマを決定する。第 2 週はルール形成に際して、どのような枠組みのルールを形成していくべきか、またどのようなディスカッションの場がルール形成に向けて有効なのかという切り口をデザインする。第 3 週は企業、政治家、官僚に対してルール形成に取り組んでいくことの必要性、有効性を説明する資料を適切なファクトファインディングを行ってロジックを資料化。第 4 週はルール形成戦略研究所の教授陣に対してプレゼンを実施してディスカッション。 ※実行性が高い優れた提言が出てきた場合は正式にルール形成戦略研究所の取り組みアジェンダにする
第 1 週	ルール形成に取り組むべきアジェンダセッティング
第 2 週	ルール形成を仕掛けていく（または対応していく）切り口のデザイン
第 3 週	ステークホルダー向け説明資料作成
第 4 週	ルール形成戦略研究所への提言

教科書 /Textbook	なし
指定図書 /Course Readings	なし
参考文献・参考 URL /Reference List	「ルール形成戦略概論」　編著者 國分俊史・福田峰之・角南篤　朝日新聞出版社、 「競争戦略としてのグローバルルール」著者 藤井敏彦　東洋経済新報社

評価方法/Method of Evaluation

配分（合計 100％）	① アジェンダ構想、資料化、プレゼンにおける論理性（60%） ② レビューに基づく修正力（40%）

評価基準/Evaluation Criteria

評価：　優（100～80 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が優れている。
評価：　良（79～70 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が良い。
評価：　可（69～60 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が普通。
評価：不可（59 点～）	出席不良で、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が不十分。
留意点 /Additional Information	学卒で入学している大学院生は 4 週間とするが、社会人の場合は検討時間を確保するために最大 8 週間までプレゼンのタイミングを延長することを認める

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	ビジネス実践知探究		
サブタイトル/Sub Title	“編集工学”で教養力を磨く		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Business Practical Wisdom Study		
教員/Instructor	佐藤勝彦	E-mail	satou-k@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	教養基盤/本質思考力	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

松岡正剛が塾長を務める日本の次世代リーダー育成塾「ハイパーコーポレートユニバーシティ［AIDA］」では、複雑さを増す社会を捉えなおす方法として、ものごとの「間（あいだ）」に着目してきた。古今東西の知の世界に触れ、「間」を捉える視点を獲得した塾生は、その知見をビジネスの現場でどのように活かしているのか。当塾の卒業生であり各界で活躍するビジネスリーダーたちが、「間」をテーマにビジネスにおける「教養」の力を語る。講義とディスカッションによる実践的教養講座。物事の関係性を取り扱う知の技法「編集工学」をワークショップで習得し、学びを補強する。

到達目標/Course Goals

「知の再武装」のベースとなる、広く深い教養力を「編集工学」技法を演習・ディスカッションなどを通じ習得し、更に、「編集工学」を使いこなしているビジネス最前線のリーダーとのディスカッションを通じ、イノベータ^シップ実践知を体得する。

授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション グループワーク、ディベート、 プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	編集工学研究所本楼
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	講義内容の整理と指定図書の熟読		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	**［AIDA］の編集工学：導入授業**
事前、事後学習ポイント	「編集工学」の基本的・論理的理解
詳細	◎講師：編集工学研究所　安藤昭子 ◎講義＋ディスカッション：編集工学基礎
第 2 講	
概要	**［AIDA］の編集工学ワークショップ：編集術篇**
事前、事後学習ポイント	「編集工学」の実践的体感
詳細	◎講師：編集工学研究所　安藤昭子 ◎講義＋ワークショップ：編集スキルトレーニング
第 3 講	
概要	**知と教育の AIDA（1）**
事前、事後学習ポイント	人材教育にまつわる考察
詳細	◎講師： 未定Ａ氏（HCU 修了生・現役ビジネスリーダー） ◎講義＋ディスカッション
第 4 講	
概要	**知と教育の AIDA（2）**
事前、事後学習ポイント	人材教育について編集工学を通して考える
詳細	◎講師： 未定Ａ氏（HCU 修了生・現役ビジネスリーダー） ◎講義＋ディスカッション
第 5 講	
概要	**テクノロジーと身体の AIDA（1）**
事前、事後学習ポイント	組織改革にまつわる考察
詳細	◎講師： 未定Ｂ氏（HCU 修了生・現役ビジネスリーダー） ◎講義＋ディスカッション
第 6 講	
概要	**テクノロジーと身体の AIDA（2）**

事前、事後学習ポイント	組織改革について編集工学を通して考える
詳細	◎講師： 未定Ｂ氏（HCU 修了生・現役ビジネスリーダー） ◎講義＋ディスカッション
第 7 講	
概要	**［AIDA］の編集工学ワークショップ：日本流イノベーション篇**
事前、事後学習ポイント	日本流イノベーションにまつわる考察
詳細	◎講師：編集工学研究所　安藤昭子 ◎講義＋ワークショップ：JapanKeyConcept イノベーションワーク
第 8 講	
概要	**［AIDA］の編集工学：講義振り返り**
事前、事後学習ポイント	教養・編集工学の総合振り返り
詳細	◎講師：編集工学研究所　安藤昭子 ◎講義＋ディスカッション：
教科書 /Textbook	なし。適宜、講義資料を配布する。
指定図書 /Course Readings	『知の編集工学』松岡正剛　朝日文庫
参考文献・参考 URL /Reference List	**『擬 MODOKI：「世」あるいは別様の可能性』**松岡正剛　春秋社
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席率 40%、参画度 30%、レポート 30%
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	出席率が高く、授業への参画が積極的で、課題レポートの内容が優れている
評価：　良（79～70 点）	出席率が良く、授業への参画があり、課題レポートの内容が良い
評価：　可（69～60 点）	出席率がやや低く、授業への参画が限定的で、レポートの内容が普通
評価：不可（59 点～）	出席率が低く、授業への参画が見られず、レポートの内容が不良
留意点 /Additional Information	留学生ももちろん歓迎しますが、かなり高い日本語能力が必要です。 受講希望者は事前に申し出て下さい。個別面談いたします。 毎回小レポートの作成を課しますが、その内容については講義の中でディスカッション、フィードバックを行います。

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	問題解決学 Ⅰ		
サブタイトル/Sub Title	問題の発見と解決の本質に迫る		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Practical Science for How to Solve Problems Ⅰ		
教員/Instructor	下井 直毅	E-mail	shimoi@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	教養基盤/本質思考力	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

実学志向の多摩大学大学院では、問題解決の最前線に立つ力の育成を重視している。また、社会とは「問題」の塊そのものであって、社会で役割を担うことは、「問題を解決する」ことだと考える。そのためには、様々な問題にどう挑み、どのように解決するのかを修得する必要がある。この講義では、その修得を目指す。

到達目標/Course Goals

学修の到達目標としては、様々なテーマの問題解決事例を学んで、①それぞれのテーマに自分ならばどのようなアプローチをするか、②その事例の問題解決に用いられた方法が、いかに応用出来るかを考えられることを目指す。

授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション、グループワーク、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	講義内容の整理		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	問題解決の「前提」について
事前、事後学習ポイント	問題解決の体系的な理解
詳細	浜田正幸教授（多摩大学経営情報学部）による講義及びグループワーク。問題解決をするための体系的な理解を目指す。
第 2 講	
概要	問題解決の「前提」について－実践編
事前、事後学習ポイント	問題解決の体系的な理解
詳細	第 1 講に引き続き、浜田正幸教授（多摩大学経営情報学部）による講義。また、その理解を深めるために、グループワークやグループディスカッションを行う。
第 3 講	
概要	問題解決の「発見」の技法について
事前、事後学習ポイント	問題解決の「発見」の仕方
詳細	松本祐一准教授（多摩大学経営情報学部）による講義及びグループワーク。問題解決をする上で、問題をいかに「発見」したら良いのかということについて、ケーススタディを中心に学んでいく。
第 4 講	
概要	問題解決の「発見」の技法について－実践編
事前、事後学習ポイント	問題解決の「発見」の仕方
詳細	第 3 講に引き続き、松本祐一准教授（多摩大学経営情報学部）による講義。また、その理解を深めるために、グループワークやグループディスカッションを行う。
第 5 講	
概要	問題解決の「分析」の技法について
事前、事後学習ポイント	問題解決の「分析」の仕方
詳細	大森拓哉教授（多摩大学経営情報学部）による講義及びグループワーク。問題解決をする上で、問題をいかに「発見」したら良いのかということについて、ケーススタディを中心に学んでいく。
第 6 講	
概要	問題解決の「分析」の技法について－実践編
事前、事後学習ポイント	問題解決の「分析」の仕方
詳細	第 5 講に引き続き、大森拓哉教授（多摩大学経営情報学部）による講義。また、その理解を深めるために、グループワークやグループディスカッションを行う。
第 7 講	

概要	問題解決の「解決」の技法について
事前、事後学習ポイント	問題解決の「解決」の仕方
詳細	志賀敏宏教授（多摩大学経営情報学部）による講義及びグループワーク。問題解決をする上で、問題をいかに「発見」したら良いのかということについて、ケーススタディを中心に学んでいく。
第 8 講	
概要	問題解決の「解決」の技法について－実践編
事前、事後学習ポイント	問題解決の「解決」の仕方
詳細	第 7 講に引き続き、志賀敏宏教授（多摩大学経営情報学部）による講義。また、その理解を深めるために、グループワークやグループディスカッションを行う。
教科書 /Textbook	なし
指定図書 /Course Readings	なし
参考文献・参考 URL /Reference List	各教員が随時、紹介・指定する。
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席(60％)、授業内での議論参加(40％)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： 優（100～80 点）	講義に出席し、積極的に発言し、内容を十分に理解している。
評価： 良（79～70 点）	講義に出席し、積極的に発言している。
評価： 可（69～60 点）	講義に出席している。
評価：不可（59 点～）	講義への欠席が多く、積極的な発言が認められない。
留意点 /Additional Information	全教員は、豊富な教育・研究業績、実践・実務経験、最高の学位・資格を持ち、日本や海外の産・官・学の分野にて、活躍されている。詳しいプロフィールについては、多摩大学ホームページを参照（http://www.tama.ac.jp/guide/teacher/list01.html）。また、講義時間は、第 8 講も含めて、13 時から 15 時 30 分までとなる。また、登壇教員が変更する場合もある。

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	問題解決学 Ⅱ		
サブタイトル/Sub Title	問題の発見と解決の本質に迫る		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Practical Science for How to Solve Problems Ⅱ		
教員/Instructor	下井 直毅	E-mail	shimoi@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	教養基盤/本質思考力	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

実学志向の多摩大学大学院では、問題解決の最前線に立つ力の育成を重視している。また、社会とは「問題」の塊そのものであって、社会で役割を担うことは、「問題を解決する」ことだと考える。そのためには、様々な問題にどう挑み、どのように解決するのかを修得する必要がある。この講義では、その修得を目指す。

到達目標/Course Goals

学修の到達目標としては、様々なテーマの問題解決事例を学んで、①それぞれのテーマに自分ならばどのようなアプローチをするか、②その事例の問題解決に用いられた方法が、いかに応用出来るかを考えられることを目指す。

授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション、グループワーク、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	講義内容の整理		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	問題解決の「前提」について
事前、事後学習ポイント	問題解決の体系的な理解
詳細	小林英夫教授（多摩大学経営情報学部）による講義及びグループワーク。問題解決をするための体系的な理解を目指す。
第 2 講	
概要	問題解決の「前提」について－実践編
事前、事後学習ポイント	問題解決の体系的な理解
詳細	第 1 講に引き続き、小林英夫教授（多摩大学経営情報学部）による講義。また、その理解を深めるために、グループワークやグループディスカッションを行う。
第 3 講	
概要	問題解決の「発見」の技法について
事前、事後学習ポイント	問題解決の「発見」の仕方
詳細	中村その子教授（多摩大学経営情報学部）による講義及びグループワーク。問題解決をする上で、問題をいかに「発見」したら良いのかということについて、ケーススタディを中心に学んでいく。
第 4 講	
概要	問題解決の「発見」の技法について－実践編
事前、事後学習ポイント	問題解決の「発見」の仕方
詳細	第 3 講に引き続き、中村その子教授（多摩大学経営情報学部）による講義。また、その理解を深めるために、グループワークやグループディスカッションを行う。
第 5 講	
概要	問題解決の「分析」の技法について
事前、事後学習ポイント	問題解決の「分析」の仕方
詳細	久保田貴文准教授（多摩大学経営情報学部）による講義及びグループワーク。問題解決をする上で、問題をいかに「発見」したら良いのかということについて、ケーススタディを中心に学んでいく。
第 6 講	
概要	問題解決の「分析」の技法について－実践編
事前、事後学習ポイント	問題解決の「分析」の仕方
詳細	第 5 講に引き続き、久保田貴文准教授（多摩大学経営情報学部）による講義。また、その理解を深めるために、グループワークやグループディスカッションを行う。
第 7 講	

概要	問題解決の「解決」の技法について
事前、事後学習ポイント	問題解決の「解決」の仕方
詳細	中庭光彦教授（多摩大学経営情報学部）による講義及びグループワーク。問題解決をする上で、問題をいかに「発見」したら良いのかということについて、ケーススタディを中心に学んでいく。
第 8 講	
概要	問題解決の「解決」の技法について－実践編
事前、事後学習ポイント	問題解決の「解決」の仕方
詳細	第 7 講に引き続き、中庭光彦教授（多摩大学経営情報学部）による講義。また、その理解を深めるために、グループワークやグループディスカッションを行う。
教科書 /Textbook	なし
指定図書 /Course Readings	なし
参考文献・参考 URL /Reference List	各教員が随時、紹介・指定する。
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席(60％)、授業内での議論参加(40％)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： 優（100～80 点）	講義に出席し、積極的に発言し、内容を十分に理解している。
評価： 良（79～70 点）	講義に出席し、積極的に発言している。
評価： 可（69～60 点）	講義に出席している。
評価：不可（59 点～）	講義への欠席が多く、積極的な発言が認められない。
留意点 /Additional Information	全教員は、豊富な教育・研究業績、実践・実務経験、最高の学位・資格を持ち、日本や海外の産・官・学の分野にて、活躍されている。詳しいプロフィールについては、多摩大学ホームページを参照（http://www.tama.ac.jp/guide/teacher/list01.html）。また、講義時間は、第 8 講も含めて、13 時から 15 時 30 分までとなる。また、登壇教員が変更する場合もある。

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	1年次春と秋、2年次春と秋
科目名/Course Title	「インターゼミⅠ～Ⅳ」		
サブタイトル/Sub Title	-社会工学研究会(寺島実郎学長ゼミ)-		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Inter Seminars Ⅰ～Ⅳ		
教員/Instructor	金　美徳	E-mail	kim-m@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	教養基盤／本質思考力	単位数/Credits	各2

講義目的/Aim of Course

インターゼミ(寺島学長ゼミ)の目的は、学部生・院生・ゼミOB/OGなど約40名と寺島学長をはじめとする本学2学部と大学院の教員15名が、現代社会の抱える課題について、塾形式で切磋琢磨しながら多様な要素や手法を組み合わせた柔らかい発想で、体系的・総合的な答を志向する総合設計力を身に付けることである。

院生・学生自身による課題の発掘・発見から仮説の提示、そして多様な要素の組み合わせによる問題解決へ至るプロセスの中で、寺島学長以下、学内の教員や社会で活躍する学外の専門家による付加価値を高め、創造的問題解決策を志向する。10年目を迎えるインターゼミは、9年間で41論文を完成させた。

テーマは、下記から希望する分野・グループから選ぶこと。
①多摩学、②アジアダイナミズム、③サービス・エンターテインメント、④AI、⑤環境・エネルギー。

到達目標/Course Goals

①産業社会の持つ課題を発見し、解決へのアプローチを目指す論文を作成する。
②選択したテーマについて、文献研究とフィールドワーク、考察と執筆を行い、1年間で論文を完成させる。
③この教育目標を実現することにより、ディプロマポリシー(学位授与方針)「深い時代認識と世界認識に基づいて、高い志を育み、新しい時代での事業機会、社会構想機会を見極める実践的教養を習得して、イノベーションを提起できる」の実質化を図る。

授業形態/Form of Class	講義、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション	学外学習/Off-Campus Learning	有
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	各テーマに関する文献や教科書・指定図書などを通読する。		

講義概要/Course Description　全15講は、各90分である。
毎週土曜日16時20分～17時50分に九段サテライトキャンパスで開講される。

第1講～第2講	
概要	オリエンテーション。学長講話と自己紹介。
事前、事後学習ポイント	インターゼミは、どのようなゼミで、どのような課題解決や研究活動をするのかを知る。
詳細	春学期は、①多摩学、②アジアダイナミズム、③サービス・エンターテインメント、④AI、⑤環境・エネルギーの各班のこれまでの論文を通読する。 秋学期は、論文を作成する。
第3講～第4講	
概要	グループの決定と詳細テーマの検討。
事前、事後学習ポイント	今年度のテーマを決める。
詳細	春学期は、①多摩学、②アジアダイナミズム、③サービス・エンターテインメント、④AI、⑤環境・エネルギーの各班のこれまでの論文を踏まえて、テーマについて各グループ毎にディスカッションする。 秋学期は、論文を作成する。
第5講～第6講	
概要	学長講話とグループワーク。
事前、事後学習ポイント	文献調査を行う。 寺島学長の講話内容を深く理解する。
詳細	春学期は、各テーマに沿って文献一覧を作成すると共に文献を通読する。 秋学期は、論文を作成する。
第7講～第8講	
概要	研究計画の発表と学長のアドバイス。
事前、事後学習ポイント	研究計画を完成させる。
詳細	春学期は、各分野・テーマ毎にグループワークとディスカッションを行い、研究計画を立てる。研究計画の内容は、先行研究(文献一覧)、問題意識、フィールドワークやインタビュー、年間スケジュールなど。

	秋学期は、論文を作成する。
第 9 講～第 10 講	
概要	学長講話と各グループの担当教員と学生からの進捗報告。
事前、事後学習ポイント	学長のアドバイスに従って研究の方向性を調整する。
詳細	春学期は、各分野・テーマ毎にグループワークとディスカッションを行い、学長の論考なども参照し、研究計画を練り直す。 秋学期は、論文を作成する。
第 11 講～第 12 講	
概要	グループワークおよびフィールドワーク。
事前、事後学習ポイント	フィールドワークの具体的な計画を立てる。
詳細	春学期は、各分野・テーマ毎にグループワークとディスカッションを行い、現地調査、研究者や関係者のインタビュー、アンケート調査、シンポジウムやセミナーへの参加などフィールドワークの内容を決定し、実施する。 秋学期は、論文を作成する。
第 13 講～第 14 講	
概要	学長講話と学長のグループ別指導。
事前、事後学習ポイント	春学期は、院生と教員が共に文献研究とフィールドワークを積み重ねる。 秋学期は、分担して論文を作成する。
詳細	春学期は、文献研究により問題意識を高く持つほど、フィールドワークでのギャップが大きくなり、このギャップの大きさが気付きとなる。この気付きが、問題意識を研ぎ澄ませ、視点を先鋭化させる。また、論文の独創性や質を大きく左右する。 秋学期は、論文を作成する。
第 15 講	
概要	春学期は、中間発表。 秋学期は、最終発表と完成論文の提出。
事前、事後学習ポイント	春学期は、中間発表の準備をする。 秋学期は、論文の編集し、レイアウトを整える。
詳細	春学期: 8 月中旬箱根合宿(1 泊 2 日)。 秋学期:12 月初旬最終発表、12 月下旬論文提出、1 月初旬教員によるフィードバック、1 月下旬完成論文の提出。
教科書 /Textbook	①『中東・エネルギー・地政学』(寺島実郎、東洋経済新報社、2016 年) ②『シルバー・デモクラシー-戦後世代の覚悟と責任-』(寺島実郎、岩波新書、2017 年) ③『ユニオンジャックの矢-大英帝国のネットワーク戦略-』(寺島実郎、NHK 出版、2017 年)
指定図書 /Course Readings	①『世界を知る力』(寺島実郎、PHP 新書、2010 年) ②『世界を知る力 日本創生編』(寺島実郎、PHP 新書、2011 年) ③『何のために働くのか-自分を創る生き方-』(寺島実郎、文春新書、2013 年) ④『脳力のレッスンⅠ-正気の時代のために-』(寺島実郎、岩波書店、2004 年) ⑤『脳力のレッスンⅡ-脱 9.11 への視座-』(寺島実郎、岩波書店、2007 年) ⑥『脳力のレッスンⅢ-問いかけとしての戦後日本と日米同盟-』(寺島実郎、岩波書店、2010 年) ⑦『脳力のレッスンⅣ-リベラル再生の基軸-』(寺島実郎、岩波書店、2014 年)
参考文献・参考 URL /Reference List	①『若き日本の肖像-1900 年、欧州への旅-』(寺島実郎、新潮文庫、2014 年) ②『二十世紀から何を学ぶか(上)(下)』(寺島実郎、新潮選書、2007 年) ③『時代との対話 寺島実郎対談集』(寺島実郎、ぎょうせい、2010 年)

	④『新しい世界観を求めて』(寺島実郎、毎日新聞社、2010 年) ⑤『大中華圏-ネットワーク型世界観から中国の本質に迫る-』(寺島実郎、NHK 出版、2012 年) ⑥『時代を見つめる「目」』(寺島実郎、潮出版社、2013 年)
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席(25%)、グループワーク貢献度(25%)、中間および最終発表(50%)の割合で評価。
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： 優（100～80 点）	出席率とグループワーク貢献度と中間・最終発表の合算点が、80 点以上の場合は、優とする。
評価： 良（79～70 点）	出席率とグループワーク貢献度と中間・最終発表の合算点が、70～79 点の場合は、良とする。
評価： 可（69～60 点）	出席率とグループワーク貢献度と中間・最終発表の合算点が、60～69 点の場合は、可とする。
評価：不可（59 点～）	出席率とグループワーク貢献度と中間・最終発表の合算点が、59 点以下の場合は、不可とする。
留意点 /Additional Information	講義の開始時間は、16 時 20 分であるが、原則 16 時に集合すること。

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	1年次春と秋、2年次春と秋
科目名/Course Title	フィールドスタディⅠ～Ⅳ		
サブタイトル/Sub Title	アクティブラーニング		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Field Study Ⅰ～Ⅳ		
教員/Instructor	金　美徳	E-mail	kim-m@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	教養基盤/本質思考力	単位数/Credits	各2

講義目的/Aim of Course

文科省は現在、大学教育の質的転換を図るために「生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学」を政策的に要請しており、これをアクティブラーニングによって実現しようとしている。そのためには、「従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修(アクティブラーニン)への転換が必要である」と中央教育審議会が提言している。

また、世界ビジネススクール・ランキングでは、フィールドワークやワークショップ(ファシリテーター)が評価を左右する重要な指標となっている。因みに世界のビジネススクール数は1,000大学院、世界の大学数は18,000大学である。

このような要請を受けて、大学のみならず、企業の研修においてもアクティブラーニングが積極的に導入されている。特に大学院ビジネススクール(MBA)では、フィールドワーク、ケースメソッド(院生がケースを事前に学習し分析結果や意思決定の理由を教員の指導の下で発表・議論する授業形式で学習者自身が主体的に学ぶ方法)、アジア新興国市場開拓のイノベーションなどが注目されている。

本学では、2016年度より「アクティブラーニング支援センター」を設立し、本格的にアクティブラーニングを導入する。本学が目指すアクティブラーニングとは、上記提言にもあるように「教員と学生の意思疎通、切磋琢磨、相互の知的成長により新たな知識と知恵を創造し、問題や課題を解決すること」と考えている。

したがって「フィールドスタディ」では、フィールドワークやアクティブラーニングを積極的に評価する。本来、研究活動や論文作成において「文献研究とフィールドワーク」が基本であり、車の両輪のようなものである。フィールドワークとは、現地・現物・現人の調査(インタビュー、ヒアリング、体験)や定性・定量的手法を用いた実証的検証(アンケート、データ分析、実験)などである。また、学内外のプログラム・セミナー・地方実習・海外研修などへの参加も奨励し、評価する。

「フィールドスタディ」では、院生の「気付き」、「理論と経験の繋がり」、「行動力・現場力・実践力の向上」、「視野拡大」、「問題・課題の発見力と解決力の向上」などの機会を提供する。

評価方法/Method of Evaluation

1.「フィールドスタディ」は、院生の研究活動、修士論文や特定課題作成に資するフィールドワーク、学内外のプログラム・セミナー・地方実習・海外研修への参加などに対して、各学期毎に2単位を認定する。これまで研究活動やフィールドワークは、「研究実習」として単位認定していたが、今年度より「フィールドスタディ」科目で単位認定する。また、本学の学部で開講する寺島学長監修リレー講座、アクティブラーニング・プログラム、地方実習、海外研修なども対象とする。2017年度実績は、学部で開講している飛騨高山プログラム、韓国研修、寺島学長監修リレー講座などに参加した。

2.単位の認定は、大学設定基準により30時間～45時間の学修・活動時間を確保することを条件とする。

3.エビデンス(証憑書類)は、必要に応じて添付や提出をすること。エビデンスは、プログラム・セミナー・実習・研修の案内(コピーやメール)、写真、旅程表・領収書、渡航証明など実施したことが証明できるもの。

4.「フィールドスタディ」の申請および報告方法は、以下の通り。

(1)事前申請

①「フィールドスタディ事前申請書」と「フィールドスタディ結果報告書」の用紙は、事務局で入手する。

②「フィールドスタディ事前申請書」には、目的と30時間以上の学修・活動時間を確保できるエビデンスを記入すること。関連資料を添付することも可能である。

③作成した「フィールドスタディ事前申請書」は、事務局に提出すること。

④提出された「フィールドスタディ事前申請書」は、担当教員(金美徳教授)が、内容確認を行い、署名・捺印する。署名・捺印後に実施が可能となる。

(2)事後報告

①「フィールドスタディ結果報告書」には、研究・活動の成果と30時間～45時間の学修・活動時間を確保したエビデンスを記入すること。関連資料を添付することも可能である。

②作成した「フィールドスタディ結果報告書」は、事務局に提出すること。

③提出された「フィールドスタディ結果報告書」は、担当教員(金美徳教授)が、内容確認を行い、合否を判定する。合格すれば2単位を認定する。

(3)単位認定の時期と単位数

①単位認定は、2月～7月末までに提出した場合は春学期、8月～1月末までに提出した場合は秋学期の単位として認定する。

②事前申請されずに事後報告だけの場合は、認めない。また、実施時期(最終日)が、1年を過ぎたものは認めない。

①　単位数は、各学期毎に2単位を限度とする。また、2年間で認定される最大単位数は、8単位とする。

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	春学期/秋学期
科目名/Course Title	論文演習		
サブタイトル/Sub Title	テーマ選択から論文執筆まで		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Thesis Seminar		
教員/Instructor	宇佐美　洋	E-mail	usami@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	教養基盤／本質思考力	単位数/Credits	各 2

講義目的/Aim of Course

修士の学位を取得するためには、論文もしくは実践知研究を提出しなければなりません。その基本は、理論と実践を「行ったり、来たり」しながら、仮説と論証を育成する作業になります。まず先行研究で、自分の抱えている問題に「重ね書き」や「見立て」ができそうな枠組みはないかを探してみることが必要です。そこで探求のための「プラットフォーム」が見つかればしめたものです。場合により、未知の学問分野を習得する必要があるかもしれませんが、問題意識を抱えたうえでの未知分野の学習は容易です。そのうえで「思考実験」や「比較検討（横軸・縦軸）」を繰り返してアウトラインを改訂していく作業をするのですが、それが本演習科目の目的です。

到達目標/Course Goals

論文のアウトライン図（設計図）を作ることと、実際に文章にすること間には大きなギャップがあります。設計図では、平面図（二次元）でも立体図（三次元）でも見る人の感覚的理解に頼ることができますが、それを文章に書くことは全く違っていて、線状（一次元）に言葉を並べていく綱渡りの作業に似ています。ですからすでに頭のなかにある考えを単に技術的に文に直せばいい、と思うのは大間違いです。本演習では実際のこの論文の執筆が到達目標です。

授業形態 /Form of Class	講義、プレゼンテーション、ディベート、グループディスカッション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	フィールドワーク予定
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	自分の論文のアウトラインを作成し、演習でプレゼンテーションとディスカッションができる準備をすることが必要です。		

講義概要/Course Description　全 8 講　第 1 講～第 7 講は各 180 分　第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	論文の対象・主題・テーマ 修論のテーマは卒業後も「雪だるま」のように大きく育ちます。「小さく生んで大きく育つ」の方針でのぞむのが大事です。
事前、事後学習ポイント	教科書 1 に沿って説明するので、事前に読んでおくことが望まれます。
詳細	● ぶらぶら歩きで「探索したくなる場」としての対象選び ● 「棲みたい街」を探したり、「住みたい家」を選んだりと同様の主題選び ● 「土地勘」のある領域でのテーマ選び ● 「入り口は狭いが、奥行きは深そうにみえる」対象が理想。 ● 分岐路での道の選択のために、自分の勘のはたらく主題・分野が有利。 ● 「面白そうで、不思議なところがある」テーマは好奇心を刺激。 ● タイトルは、読み手が「これを読むと何が分かるか」という視点で決める
第 2 講	
概要	先行研究 探求のための「プラットフォーム」の見つけ方
事前、事後学習ポイント	自分のテーマに沿った先行研究探索を開始してください。
詳細	● 問題に「重ね書き」や、問題の「見立て」ができそうな枠組みはないか？ ● 未知の学問分野に踏み込むことを畏れない。 ● 複眼思考による組み合わせ
第 3 講	
概要	仮説のつくり方 問題を詰め込んで、疲れ果て、散歩にでたり、寝たりすると、何かの拍子に「ひらめく」ことがあります。
事前、事後学習ポイント	自分の仮説をいろいろと考えて試行錯誤を始めてください。
詳細	● 「発見的探索（Ｈｅｕｒｉｓｔｉｃｓ）」 ● 「裏も表もご案内」の分野で生まれる直観 ● 「切り貼り細工（Ｂｒｉｃｏｌａｇｅ）」 ● 間違い・失敗（根本的な軌道修正） ● 「ひらめき（Serendipity）」 ● ネットワーク展開のように視野・地平線が拡大していく（ドアの向こうに、またドアが）

第 4 講	
概要	論証（考えを導く方法） まず結論や「ひらめき」があり、それから逆順で論証方法（テーマによりさまざまです）を考える方が楽な場合があります。
事前、事後学習ポイント	教科書１，２などを参照しながら、自分なりの論証方法を思考実験してください。
詳細	● **試行錯誤により問題の結論がある程度見えていることが大切です。** ● 演繹（Deduction）：トップダウンの論証で（真か偽か）、新しい視界を開いていく力はない。結論は正しいけど、新しいことは何も言っていない。 ● 帰納（Induction）：観察や事例の収集による規則性（飛躍がともなう）。結論は正しくないけど新しいことを言っている。 ● 仮説形成（Abduction）：名探偵の推理のように、想像力と仮説で推理する
第 5 講	
概要	仮説形成（abduction） 「演繹」とは異なり、「観察」から「推理」する方法
事前、事後学習ポイント	教科書１，２などを参照しながら、自分なりの論証（とくに仮説形成法）を思考実験してください。
詳細	● 最終的に選ばれたもの以外の候補を消去する。 ● 消去法（ＡまたはＢである。しかしＢではない。よってＡである。） ● 結論は必然ではないが、手持ちの材料から判断するかぎり、もっとも蓋然性の高い仮説である。
第 6 講	
概要	論文書き方の留意点 読む人に分かりやすい文
事前、事後学習ポイント	教科書２、３、４で文章の書きかたの基本を確認してください。
詳細	● **論理的で「一文一義」の文** ● パラグラフ・節・章の構成 ● パラグラフは段落（息継ぎ）ではない ● 接続詞の上手な使い方
第 7 講	
概要	日本語との付き合い方 論理的な文を書くには、「外国語」のように日本語の構造をとらえる知識が必要です。
事前、事後学習ポイント	教科書２，４で文章を書く訓練をしてください。
詳細	● 事実と意見は峻別する（論文は「説明文」）。 ● 主観的な論述は避ける。 ● 文体は「である」「だ」で統一し、言い切る。 ● 「は」、「が」、「の」などの助詞の使い方に気をつける。 ● 分かりやすく論理的な文の鍵は、接続詞でのつながりの付け方 ● 内容語は漢字に。機能語は平仮名。
第 8 講	
概要	全体的な留意点 論文は内容だけではなく、「形式（裄の付け方）」も大事です。
事前、事後学習ポイント	教科書全部を参照して「抜け」や形式の「間違い」がないかをチェックしてください。
詳細	● 構成（アブストラクトは本体ときちんと対応しているか。まとめは本体ときちんと対応しているか。） ● 文章の質（文頭と文末の対応はとれているか。長すぎる文は含まれていないか。漢字・かな・カタカナの使い分けは一貫しているか。） ● 論文の形式（注の番号に重複や脱落はないか。引用のしかたが一貫しているか。参考文献表に記載漏れや過剰記載はないか。）
教科書 /Textbook	１．『新版論文の教室』戸田山和久、NHK 出版 ２．『日本語リテラシー』滝浦真人著、放送大学出版会（ＴＶ番組もお薦め） ３．『日本語アカデミックライティング』滝浦真人著、放送大学（ラジオ番組もお薦め） ４．『理科系の作文技術』木下是雄、中公新書
指定図書 /Course Readings	各人のテーマに合わせて指示します。

参考文献・参考 URL /Reference List	各人のテーマに合わせて指示します。
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	プレゼンテーションの内容（５０％）出席（３０％）議論参加度（２０％）
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	プレゼンテーションおよび議論に積極的に参加し、かつ内容も優れている。
評価：　良（79～70 点）	プレゼンテーションおよび議論に参加し、かつ内容が良い。
評価：　可（69～60 点）	プレゼンテーションおよび議論に参加し、かつ内容が普通。
評価：不可（59 点～）	出席不良で、プレゼンテーション内容が不十分で、議論参加度も消極的。
留意点 /Additional Information	**書くことに慣れていない者は、できるだけ早い機会に、教科書を読み、かつ教科書２のＴＶ番組や３のラジオ番組を聴き、書く力を身につける努力をしてください。**

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	春学期/秋学期
科目名/Course Title	論文演習		
サブタイトル/Sub Title			
英文科目名/Course Title(Eng.)	Thesis Seminar		
教員/Instructor	河野　龍太	E-mail	kono-r@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	教養基盤/本質思考力	単位数/Credits	各 2

講義目的/Aim of Course

ゼミでは、論文のテーマの設定の仕方や探索方法、論文の論理構成、仮説の構築方法、調査の進め方、実際の論文の書き方、そして論文の内容そのものについて、各自が実際の研究テーマをもとに個人発表とグループディスカッションを行う中で立体的、インタラクティブに実践を通じて理解を深める。個別相談と全体演習（サークル）との組み合わせで進行する。当大学院のディプロマポリシーとも呼応し、以下の 7 項目について，評価できる論文作成を行えることを目標とする．(1) 問題意識と課題設定，(2) 先行研究，(3) 事実調査，(4) 切り口と論理展開，(5) オリジナリティ，(6) 説得性，(7) 未解明なことへの貢献、ビジネスに対する有用性

到達目標/Course Goals

多摩大学大学院にふさわしいレベルの修士論文、実践知論文の完成。

授業形態 /Form of Class	グループディスカッション、プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	自分の論文について準備発表するだけでなく、他のメンバーの発表についても理解しアドバイスできるようにすること。		

講義概要/Course Description　全 8 講　第 1 講～第 7 講は各 180 分　第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	論文演習の概要説明とメンバーの相互理解
事前、事後学習ポイント	論文のテーマ設定や進め方など基本と全体像を理解する。
詳細	当論文ゼミの方針や進行を理解する。メンバー相互について、個人のバックグラウンド、研究テーマ、問題意識、ゼミを通じた抱負などを理解する。
第 2 講	
概要	各自の研究テーマに基づいた個別指導及び全体発表
事前、事後学習ポイント	教員やクラスメンバーからのコメントやアドバイスを整理し、論文作成に適宜取り入れる
詳細	各自の論文テーマに基づいたプレゼンテーション、教員による課題指摘等のフィードバック、ゼミ生によるコメントやアドバイス、クラス全体でのディスカッション。
第 3 講	
概要	各自の研究テーマに基づいた個別指導及び全体発表
事前、事後学習ポイント	教員やクラスメンバーからのコメントやアドバイスを整理し、論文作成に適宜取り入れる
詳細	各自の論文テーマに基づいたプレゼンテーション、教員による課題指摘等のフィードバック、ゼミ生によるコメントやアドバイス、クラス全体でのディスカッション。
第 4 講	
概要	各自の研究テーマに基づいた個別指導及び全体発表
事前、事後学習ポイント	教員やクラスメンバーからのコメントやアドバイスを整理し、論文作成に適宜取り入れる
詳細	各自の論文テーマに基づいたプレゼンテーション、教員による課題指摘等のフィードバック、ゼミ生によるコメントやアドバイス、クラス全体でのディスカッション。
第 5 講	
概要	各自の研究テーマに基づいた個別指導及び全体発表、ディスカッション
事前、事後学習ポイント	教員やクラスメンバーからのコメントやアドバイスを整理し、論文作成に適宜取り入れる
詳細	各自の論文テーマに基づいたプレゼンテーション、教員による課題指摘等のフィードバック、ゼミ生によるコメントやアドバイス、クラス全体でのディスカッション。
第 6 講	

概要	各自の研究テーマに基づいた個別指導及び全体発表、ディスカッション
事前、事後学習ポイント	教員やクラスメンバーからのコメントやアドバイスを整理し、論文作成に適宜取り入れる
詳細	各自の論文テーマに基づいたプレゼンテーション、教員による課題指摘等のフィードバック、ゼミ生によるコメントやアドバイス、クラス全体でのディスカッション。
第 7 講	
概要	各自の研究テーマに基づいた個別指導及び全体発表、ディスカッション
事前、事後学習ポイント	教員やクラスメンバーからのコメントやアドバイスを整理し、論文作成に適宜取り入れる
詳細	各自の論文テーマに基づいたプレゼンテーション、教員による課題指摘等のフィードバック、ゼミ生によるコメントやアドバイス、クラス全体でのディスカッション。
第 8 講	
概要	各自の研究テーマに基づいた個別指導及び全体発表、ディスカッション
事前、事後学習ポイント	教員やクラスメンバーからのコメントやアドバイスを整理し、論文作成に適宜取り入れる
詳細	各自の論文テーマに基づいたプレゼンテーション、教員による課題指摘等のフィードバック、ゼミ生によるコメントやアドバイス、クラス全体でのディスカッション。
教科書 /Textbook	指定なし。
指定図書 /Course Readings	指定なし
参考文献・参考 URL /Reference List	「論文のレトリック」澤田昭夫、講談社学術文庫、
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	ゼミの出席（40%）、発表（30%）、講義内の議論に参加（30%）
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： 優（100～80 点）	ゼミの出席回数、講義内の発表やディスカッションへの貢献が優れている。ゼミの合間で行う講義外での自身の論文作成に関連する各種の実践活動が質量ともに活発で優れている。上記 7 項目の達成度が優れていると評価できる。
評価： 良（79～70 点）	上記同様のポイントについて良いと評価できる。
評価： 可（69～60 点）	上記同様のポイントについて普通と評価できる。
評価：不可（59 点～）	ゼミの出席が不十分。発表や講義内でのディスカッションへ参加が消極的で不十分。
留意点 /Additional Information	クラスでの個人発表やディスカッションなどに積極的に参加しクラス全体の学びの向上に貢献すること。

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	春学期/秋学期
科目名/Course Title	論文演習		
サブタイトル/Sub Title			
英文科目名/Course Title(Eng.)	Thesis Seminar		
教員/Instructor	紺野　登	E-mail	konno-n@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	教養基盤／本質思考力	単位数/Credits	各 2

講義目的/Aim of Course			
論文は、仮説から理論、さらに一般的な知識への可能性を持った知識である。本講では、修士論文とは何か、から始まり、個人指導の場と、相互発表・コメントの場をそれぞれ用意しながら進め、論文を作成していくことを目的とする。			
到達目標/Course Goals			
多摩大学大学院にふさわしい修士論文、実践知論文（特定課題研究論文）の完成を目指す。			
授業形態 /Form of Class	グループディスカッション､ディベート、プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	あり
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	自身の論文や必読書の担当部分について発表準備するだけでなく、メンバーの発表についても理解し、アドバイスできるようにすること。		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可	
第 1 講	
概要	修士論文とは何か。メンバーの理解
事前、事後学習ポイント	論文の作成：問題の設定から書き方までの基本を理解する
詳細	論文演習の進行を理解するとともに、アクティビティを通じてメンバー相互を理解する。
第 2 講	
概要	テーマ設定
事前、事後学習ポイント	論文テーマの整理
詳細	論文作成者と対話し、論文テーマの方向性を確認する。
第 3 講	
概要	論文作成者による発表と全体討議
事前、事後学習ポイント	授業内で教員及びメンバーから貰ったコメントやアドバイスを整理し、論文作成に役立てる。
詳細	論文作成者による作成論文のプレゼンテーション、教員及びメンバーによる問題点の指摘、アドバイス、ディスカッション。（双方向）
第 4 講	
概要	論文構成の確認
事前、事後学習ポイント	教員からのアドバイスの整理
詳細	論文作成者による論文構成の説明を受け、教員が進捗を確認し、適宜、アドバイスを行う。
第 5 講	
概要	論文作成者による発表と全体討議
事前、事後学習ポイント	授業内で教員及びメンバーから貰ったコメントやアドバイスを整理し、論文作成に役立てる。
詳細	論文作成者による作成論文のプレゼンテーション、教員及びメンバーによる問題点の指摘、アドバイス、ディスカッション。（双方向）
第 6 講	
概要	論文構成の確認
事前、事後学習ポイント	教員からのアドバイスの整理
詳細	論文作成者による論文構成の説明を受け、教員が進捗を確認し、適宜、アドバイスを行う。
第 7 講	

概要	論文作成者による発表と全体討議
事前、事後学習ポイント	授業内で教員及びメンバーから貰ったコメントやアドバイスを整理し、論文作成に役立てる。
詳細	論文作成者による作成論文のプレゼンテーション、教員及びメンバーによる問題点の指摘、アドバイス、ディスカッション。（双方向）
第 8 講	
概要	論文構成の確認
事前、事後学習ポイント	教員からのアドバイスの整理
詳細	論文作成者による論文構成の説明を受け、教員が進捗を確認し、適宜、アドバイスを行う。
教科書 /Textbook	なし。
指定図書 /Course Readings	なし。
参考文献・参考 URL /Reference List	説明資料にて示す。
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	授業内での議論参加(40％)、出席(30％)、プレゼンテーション内容(30％)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： 優（100～80 点）	論文の意味合いを理解し、知的チャレンジに溢れ、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が優れている。
評価： 良（79～70 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が良い。
評価： 可（69～60 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が普通。
評価：不可（59 点～）	出席不良で、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が不十分。
留意点 /Additional Information	各自の研究活動と論文作成の支援が目的なので、授業には毎回出席し、全体発表、クラスディスカッション、論文の個別指導など、積極的に取り組むこと。また、クラスメンバーへの貢献も心がけること。

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	春学期/秋学期
科目名/Course Title	論文演習		
サブタイトル/Sub Title	実践知論文を通じて行うビジネス経験の棚卸し		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Thesis Seminar		
教員/Instructor	田坂広志	E-mail	tasaka@hiroshitasaka.jp
科目群/Course Classification	教養基盤／本質思考力	単位数/Credits	各 2

講義目的/Aim of Course
多摩大学大学院の「実践知論文」について、テーマ設定、研究方法、論文作成方針、プレゼン技術の指導を行う
到達目標/Course Goals
自身の過去のビジネス経験から得た「暗黙知」を棚卸しし、今後のビジネスとキャリア戦略の役に立つ論文を作成する

授業形態 /Form of Class	グループによる集中ゼミと個別指導	学外学習 /Off-Campus Learning	無し
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	集中ゼミでの発表と、相互のコメント・アドバイス 個別指導による、論文作成方針の修正		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可	
第 1 講	
概要	グループによる集中ゼミと個別指導
事前、事後学習ポイント	研究論文の作成、集中ゼミでのプレゼン、相互コメント、個別指導による論文修正
詳細	研究テーマに基づいた相互発表とグループ討議、個別相談と個別指導
第 2 講	
概要	前講に同じ
事前、事後学習ポイント	前講に同じ
詳細	前講に同じ
第 3 講	
概要	前講に同じ
事前、事後学習ポイント	前講に同じ
詳細	前講に同じ
第 4 講	
概要	前講に同じ
事前、事後学習ポイント	前講に同じ
詳細	前講に同じ
第 5 講	
概要	前講に同じ
事前、事後学習ポイント	前講に同じ
詳細	前講に同じ
第 6 講	
概要	前講に同じ
事前、事後学習ポイント	前講に同じ
詳細	前講に同じ
第 7 講	
概要	前講に同じ
事前、事後学習ポイント	前講に同じ
詳細	前講に同じ

第 8 講	
概要	前講に同じ
事前、事後学習ポイント	前講に同じ
詳細	前講に同じ
教科書 /Textbook	『知性を磨く － 「スーパージェネラリスト」の時代』（田坂広志著：光文社新書）
指定図書 /Course Readings	『企画力』（田坂広志著：ＰＨＰ文庫）
参考文献・参考 URL /Reference List	ダイヤモンド・オンライン「７つの知性を磨く田坂塾」連載記事
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	論文内容（50％）、グループ討議（20％）、プレゼン（30％）
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： 優（100～80 点）	論文内容良し＋グループ討議良し＋プレゼン良し
評価： 良（79～70 点）	論文内容良し＋グループ討議普通＋プレゼン普通
評価： 可（69～60 点）	論文内容普通＋グループ討議普通＋プレゼン普通
評価：不可（59 点～）	論文内容悪し＋グループ討議普通＋プレゼン普通
留意点 /Additional Information	春学期は「スーパー・ジェネラリスト論」「ソーシャル・イノベーション論」の受講、秋学期は「ソーシャル・アントレプレナー論」「ネオ・リベラルアーツ論」の受講が条件

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	春学期/秋学期
科目名/Course Title	論文演習		
サブタイトル/Sub Title			
英文科目名/Course Title(Eng.)	Thesis Seminar		
教員/Instructor	徳岡 晃一郎	E-mail	tokuoka@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	教養基盤／本質思考力	単位数/Credits	各 2

講義目的/Aim of Course

ある程度まとまった文章を書いた経験のない者にとり、論文作成の作業は一人では容易ではない。そこで、問題の設定の仕方、関連する先行文献の探索方法、自身の問題関心の深堀の仕方、仮説の設定、推論・考察の進め方、実証の方法、実際の論文作成の作法など、発表と実践の演習を通して学ぶ。

到達目標/Course Goals

ディプロマポリシーにある「時代認識と世界認識」を磨き、「実践的教養」に基づく「イノベーターシップ」にあふれた挑戦的なテーマをまとめる底力をつける。多摩大学大学院にふさわしい修士論文、実践知論文（特定課題研究論文）の完成を目指すために、以下の 7 項目について，評価できる論文作成を行えること．(1) 問題意識と課題設定，(2) 先行研究，(3) 事実調査，(4) 切り口と論理展開，(5) オリジナリティ，(6) 説得性，(7) 未解明なことへの貢献、ビジネスに対する有用性

授業形態 /Form of Class	グループディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	あり
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	自身の論文や必読書の担当部分について発表準備するだけでなく、メンバーの発表についても理解し、アドバイスできるようにすること。		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	論文演習の進行説明とメンバーの相互理解
事前、事後学習ポイント	論文の作成：問題の設定から書き方までの基本を理解する
詳細	論文演習の進行を理解するとともに、アクティビティを通じてメンバー相互を理解する。 宿題：必読書を担当し、パワーポイントでまとめてくること。第 8 講までに全員が発表する。
第 2 講	
概要	研究テーマに基づいた個別指導及び全体発表によるサークル形式指導。
事前、事後学習ポイント	授業内で教員及びメンバーから貰ったコメントやアドバイスを整理し、論文作成に役立てる。
詳細	論文作成者による作成論文のプレゼンテーション、教員及びメンバーによる問題点の指摘、アドバイス、ディスカッション。(双方向) 第 1 講で出された宿題のプレゼンテーション。
第 3 講	
概要	前講に同じ。
事前、事後学習ポイント	前講に同じ。
詳細	前講に同じ。
第 4 講	
概要	前講に同じ。
事前、事後学習ポイント	前講に同じ。
詳細	前講に同じ。
第 5 講	
概要	前講に同じ。
事前、事後学習ポイント	前講に同じ。
詳細	前講に同じ。
第 6 講	
概要	前講に同じ。

事前、事後学習ポイント	前講に同じ。
詳細	前講に同じ。
第 7 講	
概要	前講に同じ。
事前、事後学習ポイント	前講に同じ。
詳細	前講に同じ。
第 8 講	
概要	前講に同じ。
事前、事後学習ポイント	前講に同じ。
詳細	前講に同じ。
教科書 /Textbook	「知性を磨く」田坂広志、光文社新書
指定図書 /Course Readings	なし。
参考文献・参考 URL /Reference List	「論文の教室（新版）」戸田山和久、ＮＨＫブックス、「論文マニュアル」山内志朗、平凡社新書、「調査のためのインターネット」アリアドネ著、「アイデアのちから」チップ・ハース、ダアン・ハース、日経 BP 社
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	授業内での議論参加(40％)、出席(30％)、プレゼンテーション内容(30％)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が優れている。
評価：　良（79～70 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が良い。
評価：　可（69～60 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が普通。
評価：不可（59 点～）	出席不良で、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が不十分。
留意点 /Additional Information	各自の研究活動と論文作成の支援が目的なので、授業には毎回出席し、全体発表、クラスディスカッション、論文の個別指導など、積極的に取り組むこと。また、クラスメンバーへの貢献も心がけること。

講義年度/Year	2018 年度	開講学期/Semester	春学期/秋学期
科目名/Course Title	論文演習		
サブタイトル/Sub Title	留学生修士論文・実践知論文指導ゼミ		
英文科目名/Course Title(Eng.)	How to write the master thesis		
教員/Instructor	巴特尔（バートル）	E-mail	baatar@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	教養基盤/本質思考力	単位数/Credits	各 2

講義目的/Aim of Course

経営実学に基づいた修士論文・実践知論文が持つべき要件・内容・レベルを理解した上で、外国人留学生ならではの視点に立った切り口とオリジナリティを追及した研究論文の作成指導を行い、質の高い研究成果を目指す。

到達目標/Course Goals

多摩大学大学院の教育理念（「知の再武装」と「情報収集能力と分析能力」）に沿って論理的構造が明確な修士論文、実践知論文の作成（仮説を立て、文献調査とフィールドワーク調査をもとに検証、分析し考察）に当たり、以下の 7 項目について、評価できる論文作成を行えることを求める。
（1）問題意識と課題設定（2）先行研究（3）事実調査（4）切り口と論理展開（5）オリジナリティ（6）説得性（7）未解明なことへの貢献、ビジネスに対する有用性。

授業形態 /Form of Class	講義、受講生による研究発表、グループディスカッション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	研究テーマに関連した先行研究と時事問題及びビジネスの最前線事例についての情報収集・分析・調査を行うこと。また、ゼミでの発表準備だけでなく、ゼミメンバーの発表についても理解し、意見を述べる共にアドバイスができること。学習時間は 1 講義につき 4 時間程度		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	論文演習に関するガイダンスを行う。
事前、事後学習ポイント	問題設定から論文作成に至る基本的な知識を再確認する。
詳細	① 教員による問題意識・課題設定、先行研究、文献とフィールド調査、切り口と論理展開、オリジナリティ、未解明な事柄や学問研究等についての解説。 ② 教員による個人面談を行い、研究テーマの設定状況を確認し適宜アドバイスを行う。
第 2 講	
概要	サークル形式による全体の発表と研究テーマに関する個別指導を行う。
事前、事後学習ポイント	研究テーマに関連する参考資料やデータ、情報の収集、分析に基づいた発表資料の作成。
詳細	受講生による研究発表に対し、教員とメンバーからコメントやアドバイスを行う。発表者は、それを整理し、次回以降の発表に活かし論文作成に役立てる。
第 3 講	
概要	サークル形式による全体の発表と研究テーマに関する個別指導を行う。
事前、事後学習ポイント	研究テーマに関連する参考資料やデータ、情報の収集、分析に基づいた発表資料の作成。
詳細	受講生による研究発表に対し、教員とメンバーからコメントやアドバイスを行う。発表者は、それを整理し、次回以降の発表に活かし論文作成に役立てる。
第 4 講	
概要	サークル形式による全体の発表と研究テーマに関する個別指導を行う。
事前、事後学習ポイント	研究テーマに関連する参考資料やデータ、情報の収集、分析に基づいた発表資料の作成。
詳細	受講生による研究発表に対し、教員とメンバーからコメントやアドバイスを行う。発表者は、それを整理し、次回以降の発表に活かし論文作成に役立てる。
第 5 講	
概要	サークル形式による全体の発表と研究テーマに関する個別指導を行う。
事前、事後学習ポイント	研究テーマに関連する参考資料やデータ、情報の収集、分析に基づいた発表資料の作成。
詳細	受講生による研究発表に対し、教員とメンバーからコメントやアドバイスを行う。発表者は、それを整理し、次回以降の発表に活かし論文作成に役立てる。

第 6 講	
概要	総括
事前、事後学習ポイント	事前学習として、受講生は論文の進捗状況をまとめ、授業の中で報告できるように準備すると共に、事後の学習としてレポートにまとめ、提出する準備をする。更に、論文のドラフトの構成を検討しＰＰＴ形式で資料を作成する。
詳細	受講生による研究発表に対し、教員とメンバーからコメントやアドバイスを行う。発表者は、それを整理し、次回以降の発表に活かし論文作成に役立てる。
第 7 講	
概要	総括
事前、事後学習ポイント	事前学習として、受講生は論文の進捗状況をまとめ、授業の中で報告できるように準備すると共に、事後の学習としてレポートにまとめ、提出する準備をする。更に、論文のドラフトの構成を検討しＰＰＴ形式で資料を作成する。
詳細	受講生による研究発表に対し、教員とメンバーからコメントやアドバイスを行う。発表者は、それを整理し、次回の発表に活かし論文作成に役立てる。
第 8 講	
概要	総括
事前、事後学習ポイント	事前学習として、受講生は論文の進捗状況をまとめ、授業の中で報告できるように準備すると共に、事後の学習としてレポートにまとめ、提出する準備をする。更に、論文のドラフトの構成を検討しＰＰＴ形式で資料を作成する。
詳細	受講生による研究発表に対し、教員とメンバーからコメントやアドバイスを行う。発表者は、それを整理し、論文作成に役立てる。
教科書 /Textbook	教科書や図書は特に定めないが、随時紹介する。
指定図書 /Course Readings	寺島実郎『大中華圏』（NHK 出版、2012 年） 深沢淳一他著『ASEAN 大市場統合と日本』（文眞堂） ポール・クルーグマン他著『2020 年世界経済の勝者と敗者』（2016 年、講談社）
参考文献・参考 URL /Reference List	日本貿易振興機構ＨＰ：http://www.jetro.go.jp/world/asia/cn/ 日本財務省貿易統計 HP：http://www.customs.go.jp/toukei/info/ 日本政府観光局ＨＰ：https://www.jnto.go.jp/jpn/ 「日本経済新聞」「東洋経済」「エコノミスト」「日経ＢＰオンライン」、CNN、BBC,WSJ 等新聞、雑誌メディア類
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席率（30％）、授業内での議論参加（30％）、演習成果および報告（40％）
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	授業内での議論参加、発表内容が優れている。
評価：　良（79～70 点）	授業内での議論参加、発表内容が良い。
評価：　可（69～60 点）	授業内での議論参加、発表内容が普通。
評価：不可（59 点～）	出席不良で、授業内での議論参加、発表内容が不十分。
留意点 /Additional Information	授業内は原則日本語を共通言語とする。基本的にペーパーレスで行うため、PC 持参は必須。研究活動と修士論文作成の支援がゼミの目的であるため、原則欠席することなく、研究発表やディスカッションに積極的に参加すること。

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	春学期/秋学期
科目名/Course Title	論文演習		
サブタイトル/Sub Title			
英文科目名/Course Title(Eng.)	Thesis Seminar		
教員/Instructor	真野俊樹	メールアドレス	mano@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	教養基盤／本質思考力	単位数/Credits	各 2

講義目的/Aim of Course
多摩大学大学院にふさわしい修士論文を書けるように演習する
到達目標/Course Goals
以下の 7 項目について，評価できる論文作成を行えること． （1）問題意識と課題設定，（2）先行研究，（3）事実調査，（4）切り口と論理展開，（5）オリジナリティ，（6）説得性，（7）未解明なことへの貢献、ビジネスに対する有用性

授業形態 /Form of Class	グループディスカッション､ディベート、プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	自身の論文や必読書の担当部分について発表準備するだけでなく、メンバーの発表についても理解し、アドバイスできるようにすること。		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可	
第 1 講	
概要	院生による発表と討議
事前、事後学習ポイント	論文の作成：問題の設定から書き方までの基本を理解する
詳細	アクティビティ（プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート）を通じてメンバー相互を理解する。パワーポイントでまとめてくること。第8講までに全員が発表する
第 2 講	
概要	院生による発表と討議
事前、事後学習ポイント	論文の作成：問題の設定から書き方までの基本を理解する
詳細	アクティビティ（プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート）を通じてメンバー相互を理解する。パワーポイントでまとめてくること。第8講までに全員が発表する
第 3 講	
概要	院生による発表と討議
事前、事後学習ポイント	論文の作成：問題の設定から書き方までの基本を理解する
詳細	アクティビティ（プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート）を通じてメンバー相互を理解する。パワーポイントでまとめてくること。第8講までに全員が発表する
第 4 講	
概要	院生による発表と討議
事前、事後学習ポイント	論文の作成：問題の設定から書き方までの基本を理解する
詳細	アクティビティ（プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート）を通じてメンバー相互を理解する。パワーポイントでまとめてくること。第8講までに全員が発表する
第 5 講	
概要	院生による発表と討議
事前、事後学習ポイント	論文の作成：問題の設定から書き方までの基本を理解する
詳細	アクティビティ（プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート）を通じてメンバー相互を理解する。パワーポイントでまとめてくること。第8講までに全員が発表する
第 6 講	
概要	院生による発表と討議

事前、事後学習ポイント	論文の作成：問題の設定から書き方までの基本を理解する
詳細	アクティビティ（プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート）を通じてメンバー相互を理解する。パワーポイントでまとめてくること。第8講までに全員が発表する
第 7 講	
概要	院生による発表と討議
事前、事後学習ポイント	論文の作成：問題の設定から書き方までの基本を理解する
詳細	アクティビティ（プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート）を通じてメンバー相互を理解する。パワーポイントでまとめてくること。第8講までに全員が発表する
第 8 講	
概要	院生による発表と討議
事前、事後学習ポイント	論文の作成：問題の設定から書き方までの基本を理解する
詳細	アクティビティ（プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート）を通じてメンバー相互を理解する。パワーポイントでまとめてくること。第8講までに全員が発表する
教科書 /Textbook	なし
指定図書 /Course Readings	なし
参考文献・参考 URL /Reference List	なし
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	授業参加(50%)、個人の発表(50％)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： 優（100～80 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が優れている。
評価： 良（79～70 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が良い。
評価： 可（69～60 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が普通。
評価：不可（59 点～）	出席不良で、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が不十分。
留意点 /Additional Information	《読む･書く＋聴く･話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので、議論には積極的に参画すること

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	春学期/秋学期
科目名/Course Title	論文演習		
サブタイトル/Sub Title			
英文科目名/Course Title(Eng.)	Thesis Seminar		
教員/Instructor	國分俊史	E-mail	kokubun@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	教養基盤／本質思考力	単位数/Credits	各 2

講義目的/Aim of Course

MBA ルール形成戦略フィールドにおいてはルール形成戦略のアプローチ自体がまだまだ研究の余地があることから主に以下の２つの形態のどちらかで論文を提出することとします。
①ルール形成戦略手法の研究
ルール形成戦略のアプローチの深堀や他国における国家レベルまたは業界レベルでのルール形成への取り組み、特定企業における事例研究などを通じたルール形成戦略の研究

②特定テーマに対するルール形成戦略構想
自身が関心を有するテーマにおけるルール形成の動向を分析し、能動的にルール形成に関与していくためのルール案やポリシーメーカーへのアドボカシー案からなるルール形成戦略計画及びアクションプランの作成

※①についてはルール形成戦略を日本で発展させていくために一般への公開を前提としますが、②は本人からの開示希望が無い限り極めて戦略性が高い内容となるため原則非公開扱いとします。

到達目標/Course Goals

多摩大学大学院にふさわしい修士論文、実践知論文（特定課題研究論文）の完成を目指す。

授業形態 /Form of Class	グループディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	あり
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	自身の論文や必読書の担当部分について発表準備するだけでなく、メンバーの発表についても理解し、アドバイスできるようにすること。		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	論文演習の進行説明とメンバーの相互理解
事前、事後学習ポイント	論文の作成：問題の設定から書き方までの基本を理解する
詳細	論文演習の進行を理解するとともに、アクティビティを通じてメンバー相互を理解する。 宿題：必読書を担当し、パワーポイントでまとめてくること。第 8 講までに全員が発表する。
第 2 講	
概要	研究テーマに基づいた個別指導及び全体発表によるサークル形式指導。
事前、事後学習ポイント	授業内で教員及びメンバーから貰ったコメントやアドバイスを整理し、論文作成に役立てる。
詳細	論文作成者による作成論文のプレゼンテーション、教員及びメンバーによる問題点の指摘、アドバイス、ディスカッション。（双方向） 第 1 講で出された宿題のプレゼンテーション。
第 3 講	
概要	前講に同じ。
事前、事後学習ポイント	前講に同じ。
詳細	前講に同じ。
第 4 講	
概要	前講に同じ。
事前、事後学習ポイント	前講に同じ。
詳細	前講に同じ。
第 5 講	
概要	前講に同じ。

事前、事後学習ポイント	前講に同じ。
詳細	前講に同じ。
第 6 講	
概要	前講に同じ。
事前、事後学習ポイント	前講に同じ。
詳細	前講に同じ。
第 7 講	
概要	前講に同じ。
事前、事後学習ポイント	前講に同じ。
詳細	前講に同じ。
第 8 講	
概要	前講に同じ。
事前、事後学習ポイント	前講に同じ。
詳細	前講に同じ。
教科書 /Textbook	なし
指定図書 /Course Readings	なし
参考文献・参考 URL /Reference List	なし
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	授業内での議論参加(40％)、出席(30％)、プレゼンテーション内容(30％)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： 優（100～80 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が優れている。
評価： 良（79～70 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が良い。
評価： 可（69～60 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が普通。
評価：不可（59 点～）	出席不良で、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が不十分。
留意点 /Additional Information	各自の研究活動と論文作成の支援が目的なので、授業には毎回出席し、全体発表、クラスディスカッション、論文の個別指導など、積極的に取り組んでください。また、クラスメンバーへの貢献も心がけてください。

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	論文演習Ⅰ		
サブタイトル/Sub Title	修士論文・実践知論文入門		
英文科目名/Course Title(Eng.)	How to write the master thesis		
教員/Instructor	今泉忠・久保田貴文	E-mail	imaizumi@tama.ac.jp kubota@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	教養基盤/本質思考力	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

ビジネスの現場での課題を発見し，データをもとに，解決のためのモデル（方法論）とその実施案を論文としてまとめられるようになる．

到達目標/Course Goals

ビジネスでの課題を扱った論文として，論理構造が明確になること．「知の再武装」と「情報収集能力と分析能力」の点に関して，特に，仮説を立て，実際のデータをもとに検証できるようになること．
以下の 7 項目について，評価できる論文作成を行えること．
（1）問題意識と課題設定，（2）先行研究，（3）事実調査，（4）切り口と論理展開，（5）オリジナリティ，（6）説得性，（7）未解明なことへの貢献、ビジネスに対する有用性

授業形態/Form of Class	講義・グループディスカッション	学外学習/Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	授業の中での指摘を研究に反映して論文執筆をすすめる 1 講義につき 4 時間程度		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	論文テーマ
事前、事後学習ポイント	これまでの授業・自身の研究を踏まえて，論文テーマの方向性を検討し決定する
詳細	ビジネスに関する課題としての論文テーマなどについて情報を共有する
第 2 講	
概要	課題からの仮説構築（２～３名の院生）
事前、事後学習ポイント	事前学習として，論文進捗状況をまとめ，授業の中で報告出来るように準備する。また，事後学修として，授業の中で出された意見を研究・レポートに反映させる。必要であれば文献をあたり，研究を進める。
詳細	仮説構築と分析についてグループでディスカッションを行う。
第 3 講	
概要	課題からの仮説構築とモデル構築（２～３名の院生）
事前、事後学習ポイント	事前学習として，論文進捗状況をまとめ，授業の中で報告出来るように準備する。また，事後学修として，授業の中で出された意見を研究・レポートに反映させる。必要であれば文献をあたり，研究を進める。
詳細	課題からの仮説構築とモデル構築と分析について２～３名の院生より進捗状況を報告してもらい，研究の方向性や分析の手法などについて学修します。
第 4 講	
概要	課題からの仮説構築とモデル構築（２～３名の院生）
事前、事後学習ポイント	事前学習として，論文進捗状況をまとめ，授業の中で報告出来るように準備する。また，事後学修として，授業の中で出された意見を研究・レポートに反映させる。
詳細	分析結果をもとにした提案ついてグループでディスカッションを行う。

第 5 講	
概要	課題からの仮説構築とモデル構築と分析（２～３名の院生）
事前、事後学習ポイント	事前学習として，論文進捗状況をまとめ，授業の中で報告出来るように準備する。また，事後学修として，授業の中で出された意見を研究・レポートに反映させる。さらに，分析結果をもとにした提案へとすすめ，論文の Draft を作成する。
詳細	分析結果をもとにした提案について２～３名の院生より進捗状況を報告してもらい,研究の方向性や分析の手法などについて学修します。また,作成した Draft についても確認します。
第 6 講	
概要	課題からの仮説構築とモデル構築と分析 II（２～３名の院生）
事前、事後学習ポイント	事前学習として，論文進捗状況をまとめ，授業の中で報告出来るように準備する。また，事後学修として，授業の中で出された意見を研究・レポートに反映させる。さらに，論文の Draft の構成を検討する。
詳細	レポートと論文の違いを確認し，論文の構成検討を行います。
第 7 講	
概要	論文の構成検討
事前、事後学習ポイント	事前学習として，論文進捗状況をまとめ，授業の中で報告出来るように準備する。また，事後学修として，授業の中で出された意見を研究・レポートに反映させる。さらに，論文の Draft への記述を図る
詳細	論文の Draft を確認し，論文の構成検討を行います。
第 8 講	
概要	整理
事前、事後学習ポイント	これまでの指摘を論文の Draft に落とし込み，レポートを完成させる。
詳細	これまでの指摘をレポートに落とし込み，レポートを完成させます。また，論文の Draft への記述を図ります.
教科書 /Textbook	指定なし
指定図書 /Course Readings	指定なし
参考文献・参考 URL /Reference List	指定なし
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	出席率：講義議論参加：演習成果および報告＝30:30:40
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： 優（100～80 点）	7 項目 6 項目以上について論理的に展開できる
評価： 良（79～70 点）	7 項目中 5 項目にしか論理的に展開できない
評価： 可（69～60 点）	7 項目中 3 項目にしか論理的に展開できない
評価：不可（59 点～）	7 項目中 1 項目以下にしか論理的に展開できない
留意点 /Additional Information	各回 1 人 40～60 分程度の時間を用いて，課題について提案，質疑する。なお，参加者の進捗に応じて内容を適宜変更する可能性があります。

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	論文演習 II		
サブタイトル/Sub Title	修士論文・実践知論文入門		
英文科目名/Course Title(Eng.)	How to write the master thesis		
教員/Instructor	久保田貴文・今泉忠	E-mail	imaizumi@tama.ac.jp kubota@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	教養基盤/本質思考力	単位数/Credits	2

講義目的/Aim of Course

ビジネスの現場での課題を発見し，データをもとに，解決のためのモデル（方法論）とその実施案を論文としてまとめられるようになる．

到達目標/Course Goals

ビジネスでの課題を扱った論文として，論理構造が明確になること．「知の再武装」と「情報収集能力と分析能力」の点に関して，特に，仮説を立て，実際のデータをもとに検証できるようになること．
以下の 7 項目について，評価できる論文作成を行えること．
（1）問題意識と課題設定，（2）先行研究，（3）事実調査，（4）切り口と論理展開，（5）オリジナリティ，（6）説得性，（7）未解明なことへの貢献、ビジネスに対する有用性

授業形態/Form of Class	講義・グループディスカッション	学外学習/Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	授業の中での指摘を研究に反映して論文執筆をすすめる 1 講義につき 4 時間程度		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可

第 1 講	
概要	論文テーマ
事前、事後学習ポイント	これまでの授業・自身の研究を踏まえて，論文テーマの方向性を検討し決定する
詳細	ビジネスに関する課題としての論文テーマなどについて情報を共有する
第 2 講	
概要	課題からの仮説構築（２～３名の院生）
事前、事後学習ポイント	事前学習として，論文進捗状況をまとめ，授業の中で報告出来るように準備する。また，事後学修として，授業の中で出された意見を研究・レポートに反映させる。必要であれば文献をあたり，研究を進める。
詳細	仮説構築と分析についてグループでディスカッションを行う。
第 3 講	
概要	課題からの仮説構築とモデル構築（２～３名の院生）
事前、事後学習ポイント	事前学習として，論文進捗状況をまとめ，授業の中で報告出来るように準備する。また，事後学修として，授業の中で出された意見を研究・レポートに反映させる。必要であれば文献をあたり，研究を進める。
詳細	課題からの仮説構築とモデル構築と分析について２～３名の院生より進捗状況を報告してもらい，研究の方向性や分析の手法などについて学修します。
第 4 講	
概要	課題からの仮説構築とモデル構築（２～３名の院生）
事前、事後学習ポイント	事前学習として，論文進捗状況をまとめ，授業の中で報告出来るように準備する。また，事後学修として，授業の中で出された意見を研究・レポートに反映させる。
詳細	分析結果をもとにした提案ついてグループでディスカッションを行う。

第 5 講	
概要	課題からの仮説構築とモデル構築と分析（２～３名の院生）
事前、事後学習ポイント	事前学習として，論文進捗状況をまとめ，授業の中で報告出来るように準備する。また，事後学修として，授業の中で出された意見を研究・レポートに反映させる。さらに，分析結果をもとにした提案へとすすめ，論文の Draft を作成する。
詳細	分析結果をもとにした提案について２～３名の院生より進捗状況を報告してもらい,研究の方向性や分析の手法などについて学修します。また,作成した Draft についても確認します。
第 6 講	
概要	課題からの仮説構築とモデル構築と分析 II（２～３名の院生）
事前、事後学習ポイント	事前学習として，論文進捗状況をまとめ，授業の中で報告出来るように準備する。また，事後学修として，授業の中で出された意見を研究・レポートに反映させる。さらに，論文の Draft の構成を検討する。
詳細	レポートと論文の違いを確認し，論文の構成検討を行います。
第 7 講	
概要	論文の構成検討
事前、事後学習ポイント	事前学習として，論文進捗状況をまとめ，授業の中で報告出来るように準備する。また，事後学修として，授業の中で出された意見を研究・レポートに反映させる。さらに，論文の Draft への記述を図る
詳細	論文の Draft を確認し，論文の構成検討を行います。
第 8 講	
概要	整理
事前、事後学習ポイント	これまでの指摘を論文に落とし込み，修士論文を完成させる。
詳細	
教科書 /Textbook	指定なし
指定図書 /Course Readings	指定なし
参考文献・参考 URL /Reference List	指定なし
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	出席率：講義議論参加：演習成果および報告＝30:30:40
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： 優（100～80 点）	7 項目 6 項目以上について論理的に展開できる
評価： 良（79～70 点）	7 項目中 5 項目にしか論理的に展開できない
評価： 可（69～60 点）	7 項目中 3 項目にしか論理的に展開できない
評価：不可（59 点～）	7 項目中 1 項目以下にしか論理的に展開できない
留意点 /Additional Information	各回 1 人 40～60 分程度の時間を用いて，課題について提案，質疑する。なお，参加者の進捗に応じて内容を適宜変更する可能性があります。

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	春学期/秋学期
科目名/Course Title	留学生対象　留学生のための日本経済・経営基礎		
サブタイトル/Sub Title	大学院での学びの基礎作り		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Introduction of Japanese Economy and Management		
教員/Instructor	佐藤勝彦	E-mail	satou-k@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	教養基盤/本質思考力	単位数/Credits	各 1

講義目的/Aim of Course
日本・日本企業での実務経験が少ない留学生を対象として、日本経済・経営の歴史、現状に関する基礎・常識を取得することで大学院での学びを支援する
到達目標/Course Goals
日本の経済・経営に関する講義、書籍、新聞等参考資料などの理解のベースを作り、実践的教養力を高める

授業形態 /Form of Class	講義、グループワーク、グループディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	当回及び次回のテーマに関する疑問・質問をそれぞれ 5 つ以上用意すること		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 8 講は各 90 分	
第 1 講	
概要	日本の国土、人口、文化、歴史、政治
事前、事後学習ポイント	当回及び次回のテーマに関する疑問・質問をそれぞれ 5 つ以上用意すること
詳細	日本の国土、人口、文化、歴史、政治などの概要の把握と自国との比較 宿題：日本の経済・経営に関するテーマを一つ選び、15 分程度のプレゼンテーションを行うこと（第 8 講までに順次実施）
第 2 講	
概要	日本経済史
事前、事後学習ポイント	当回及び次回のテーマに関する疑問・質問をそれぞれ 5 つ以上用意すること
詳細	戦後の日本経済の歴史を振り返り、その特徴を把握し、現状を理解すること。 同時に自国の経済成長がどのような発展段階にあるのかの理解も深める 受講生によるプレゼンテーションとグループディスカッション
第 3 講	
概要	産業構造、企業形態、ガバナンス
事前、事後学習ポイント	当回及び次回のテーマに関する疑問・質問をそれぞれ 5 つ以上用意すること
詳細	経済成長と共に産業構造・企業形態・ガバナンスがどう変化してきたか？ 同時に自国との違いも認識する 受講生によるプレゼンテーションとグループディスカッション
第 4 講	
概要	教育・労働・雇用
事前、事後学習ポイント	当回及び次回のテーマに関する疑問・質問をそれぞれ 5 つ以上用意すること
詳細	教育制度、労働事情、雇用慣行など現状と課題について学ぶ 同時に自国との違いも認識する 受講生によるプレゼンテーションとグループディスカッション
第 5 講	
概要	“日本的経営”
事前、事後学習ポイント	当回及び次回のテーマに関する疑問・質問をそれぞれ 5 つ以上用意すること
詳細	いわゆる日本的経営とは何か？現在も機能しているのか？その歴史、背景、現状を学ぶ。同時に自国との違いも認識する 受講生によるプレゼンテーションとグループディスカッション
第 6 講	

概要	グローバル化と日本の経済・経営
事前、事後学習ポイント	当回及び次回のテーマに関する疑問・質問をそれぞれ５つ以上用意すること
詳細	グローバリゼーションのなかで日本の経済・経営はどのように対応してきたのか？ その歴史と現状を学ぶ。同時に自国との違いも認識する
第 7 講	
概要	日本と自国との比較
事前、事後学習ポイント	当回及び次回のテーマに関する疑問・質問をそれぞれ５つ以上用意すること
詳細	第 6 講までに学んできた日本の経済・経営と自国のそれと比較し、 自国の経営に活かす制度、慣行などについてグループディスカッション 受講生によるプレゼンテーションとグループディスカッション
第 8 講	
概要	本講義のまとめ
事前、事後学習ポイント	当回及び次回のテーマに関する疑問・質問をそれぞれ５つ以上用意すること
詳細	第 1 講から第 7 講までの内容を整理し、現在取得している他の講義での 疑問点について議論し、今後の学習の一助にする
教科書 /Textbook	なし。毎回、最新の新聞記事などのコピーを配布。解説します。
指定図書 /Course Readings	なし
参考文献・参考 URL /Reference List	なし
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席(40％)、授業内での議論・グループワーク参加(30％)、プレゼン内容(30％)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	出席率が高く、クラスへの参加が積極的で、プレゼンテーションの内容が優れている
評価：　良（79～70 点）	出席率が高く、クラスへの参加があり、プレゼンテーションの内容が良である
評価：　可（69～60 点）	出席率がやや低く、クラスへの参加が限定的で、プレゼンテーションの内容が普通である
評価：不可（59 点～）	出席率が低く、クラスへの参加も低く、プレゼンテーションの内容が不十分である
留意点 /Additional Information	新入留学生の必修科目。在校生の再受講もお薦めします。

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	ビジネスジャパニーズⅠ		
サブタイトル/Sub Title	日本語の口頭発表		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Business Japanese Ⅰ		
教員/Instructor	藏夛　礼佳	E-mail	kurata-r@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	教養基盤/本質思考力	単位数/Credits	1

講義目的/Aim of Course			
日本語での口頭発表の表現とその手法を学び、聞く力、話す力を向上させ、ビジネスパーソンとしての基礎教養を身につけることを目的とします。			
到達目標/Course Goals			
人前で発表することに慣れ、自分の意見を論理的に述べることができる。グループ内でのコミュニケーションを取り、自分の意見のみならず、メンバーの意見も聞き、最善なアウトプットにたどり着くプロセスを習得する。			
授業形態 /Form of Class	講義、グループワーク、グループディスカッション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	グループディスカッションに備え、データ収集を含む事前準備を行うこと		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 8 講は各 90 分	
第 1 講	
概要	オリエンテーション
事前、事後学習ポイント	主観を述べる文法形式を復習する
詳細	オリエンテーション及び自己紹介、主観を述べる文法形式を学ぶ
第 2 講	
概要	スピーチについて学ぶ
事前、事後学習ポイント	事前に今回のスピーチテーマを考えておく
詳細	スピーチのポイント、準備、原稿の書き方を学ぶ
第 3 講	
概要	スピーチを実践する
事前、事後学習ポイント	①　事前に今回のスピーチテーマを考えておく ②　授業後スピーチの基本ポイントを復習する
詳細	第２講で学んだことを踏まえて自分が興味を持つデーマを決めて、スピーチの原稿を書き、クラスで発表、それについて講師からフィードバックする
第 4 講	
概要	ディスカッションについて学ぶⅠ
事前、事後学習ポイント	グループ内で意見の違うメンバーにどのように自分の考えを伝えればいいのかを考えること
詳細	①　ディスカッションのポイント、ディスカッションの流れ、ディスカッションの形式 ②　グループディスカッションの練習
第 5 講	
概要	ディスカッションについて学ぶⅡ
事前、事後学習ポイント	ブレーンストーミングのルールを理解し、ディスカッションに臨むこと
詳細	ブレーンストーミングとしてのディスカッションを学ぶ
第 6 講	
概要	ディスカッションについて学ぶⅢ
事前、事後学習ポイント	自分の意見を他人に伝え、他のメンバーの意見をうまく引き出し、グループの意見をまとめることを心がける
詳細	第４講、第５講の内容を踏まえてディスカッションをし、グループごと発表
第 7 講	
概要	ディベートについて学ぶⅠ

事前、事後学習ポイント	立論・反論組み立てる
詳細	ディベートの目的、方法と技術について学ぶ
第 8 講	
概要	ディベートについて学ぶⅡ
事前、事後学習ポイント	ディスカッションの手法を用いてグループ内での立論、反対尋問、最終弁論をまとめることを心がける
詳細	グループ A と B に分かれて、ディベートを行い、講師からフィードバック
教科書 /Textbook	なし
指定図書 /Course Readings	なし
参考文献・参考 URL /Reference List	なし
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席率 40%　講義・議論参加度 30%　各セッションの発表 30％
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	上記評価方法配分合計の到達点、80％以上を原則とする
評価：　良（79～70 点）	上記評価方法配分合計の到達点、70％以上を原則とする
評価：　可（69～60 点）	上記評価方法配分合計の到達点、60％以上を原則とする
評価：不可（59 点～）	上記評価方法配分合計の到達点、60％未満を原則とする
留意点 /Additional Information	なし

講義年度/Year	2018	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	ビジネスジャパニーズⅡ		
サブタイトル/Sub Title	アカデミック・プレゼンテーション		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Business JapaneseⅡ		
教員/Instructor	藏夛　礼佳	E-mail	kurata-r@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	教養基盤/本質思考力	単位数/Credits	1

講義目的/Aim of Course
日本語でアカデミック・プレゼンテーション・スキルを身に着けることを目的とする。
到達目標/Course Goals
アカデミック・プレゼンテーションに必要な基本的語彙表現を学び、発表スライドの作成やプレゼンテーションにおいて論理的な話し方ができる。

授業形態 /Form of Class	講義、グループワーク、プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	プレゼンテーション に備え、データ収集を含む事前準備を行うこと		

講義概要/Course Description　全 8 講 第 1 講～第 8 講は各 90 分	
第 1 講	
概要	プレゼンテーションの基礎知識
事前、事後学習ポイント	何のために、誰に向かってプレゼンテーションするかを心がける
詳細	①　プレゼンテーションのポイント、準備 ②　伝わる資料作成の基本知識及び分かりやすい資料作成のコツ
第 2 講	
概要	プレゼンテーション実践①「私の専門」「私がこれから学ぶ専門」
事前、事後学習ポイント	専門用語の学習
詳細	前回のプレゼンテーション学習を踏まえて、資料を作成し、発表する
第 3 講	
概要	目的に応じた図形活用テクニック
事前、事後学習ポイント	図形効果的な使い方
詳細	図形の種類と使う目的、多角形、矢印・線、カッコ吹き出しなどの使い方及び注意すべきポイント
第 4 講	
概要	チャートで関連性を表現
事前、事後学習ポイント	チャートの効果的な使い方
詳細	チャートの種類と使う目的、象限図、階層図、集合図などの使い方及び注意すべきポイント
第 5 講	
概要	統計データをグラフ化する
事前、事後学習ポイント	グラフの効果的な使い方
詳細	グラフの種類と使う目的、棒グラフ、円グラフなどの使い方と注意すべきポイント
第 6 講	
概要	プレゼンテーション実践②スライド作成
事前、事後学習ポイント	スライドのデザイン、構成、作り方
詳細	図形、チャート、グラフを用いて、スライドを作成する
第 7 講	
概要	プレゼンテーション実践③最終発表の準備
事前、事後学習ポイント	プレゼンテーションの事前準備

詳細	グループに分かれて、それぞれテーマを決めて、プレゼンテーションの資料を作成する。
第 8 講	
概要	プレゼンテーション実践③最終発表
事前、事後学習ポイント	プレゼンテーションの事前準備
詳細	グループごとテーマに沿ってプレゼンテーションを行い、発表内容についてアドバイスや発表者からの質問について回答を行う
教科書 /Textbook	なし
指定図書 /Course Readings	なし
参考文献・参考 URL /Reference List	なし
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席率 40%　講義・議論参加度 30%　各セッションの発表 30％
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：　優（100～80 点）	上記評価方法配分合計の到達点、80％以上を原則とする
評価：　良（79～70 点）	上記評価方法配分合計の到達点、70％以上を原則とする
評価：　可（69～60 点）	上記評価方法配分合計の到達点、60％以上を原則とする
評価：不可（59 点～）	上記評価方法配分合計の到達点、60％未満を原則とする
留意点 /Additional Information	なし